錨鎖孔管ハ釘徑ノ7倍ヲ超エサル心距ニ配置シタル鋲釘ヲ以テ外板及甲板ニ固著スヘシ但シ外板及甲板ノ厚不十分ナルトキハ二重張ト爲スヘシ

錨鎖孔管ハ之ヲ取附ケタル後成ルヘク布管内ノ壓力一平方吋ニ付 30 封度以上ノ水ヲ注射シ其ノ水密ヲ試驗スヘシ

無錨用錨鎖孔管ハ錨ノ出入ニ差支ナキ樣其ノ内徑ヲ十分大ト爲シ檢査員立會ノ上錨ノ揚卸試驗ヲ行フヘシ

第七條 操舵機具

航洋船ニ在リテハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外船尾ニ於ケル操舵機具ヲ蔽圍シタル場所ニ置クヘシ

汽力ニ依ル操舵機具ヲ備フル船ニ在リテハ之ト全ク獨立シタル手用又ハ他ノ動力ニ依ル操舵機具及事故ノ爲メ操舵機具ノ聯結換ヲ爲ス際舵ヲ一定ノ位置ニ保チ得ル制動裝置竝舵柄又ハ舵柄弧ノ運動カ回轉止ニ依リテ停止セラルル以前ニ操舵機具ノ動作ヲ止ムルニ適當ナル裝置ヲ設クヘシ

舵柄又ハ舵柄弧ノ半徑ハ成ルヘク舵幹材ノ徑ノ7倍以上ト爲シ舵頭孔部ノ深及腕ノ幅ハ成ルヘク舵幹材ノ徑ニ等シクシ腕ノ厚ハ成ルヘク其ノ幅ノ$\frac{1}{2}$以上ト爲スヘシ

二箇ノ腕ヲ有スル舵柄弧ニ在リテハ腕ノ幅及厚ヲ前項ニ揭クルモノノ 85%、三箇ノ腕ヲ有スル舵柄弧ニ在リテハ 77%、四箇ノ腕ヲ有スル舵柄弧ニ在リテハ 70% ト爲スコトヲ得

舵柄弧ノ半徑ヲ舵幹材ノ徑ノ7倍ト爲ストキハ操舵鎖及操舵圓材ノ徑ヲ成ルヘク夫々舵幹材ノ徑ノ 0·145 倍以上及 0·175 倍以上ト爲スヘシ

導鎖滑車ハ成ルヘク操舵鎖ヲ小角度ニ屈折セシメサル樣之ヲ配置シ其ノ徑ハ舵幹材ノ徑ノ約2倍、車針ノ截面積ハ操舵鎖ノ截面積ノ約3倍ト爲スヘシ

操舵鎖ハ良質ノ材料ヲ以テ作リ遞信省令錨鎖索試驗規程ニ依ル試驗ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

第三十二章

油 艙 船

第一條 總則

油ヲ直接ニ船艙ニ搭載シ其ノ用途ニ應スル船級登錄ヲ受ケントスル船ノ構造ハ船内ノ區劃適當ニシテ油ノ積入及取出作業中及其ノ他一切ノ載貨狀態ニ於テ船體ノ復原性ニ十分ナル餘裕ヲ保ツニ足リ且ツ船艙ノ長、膨脹室及縱隔壁ノ位置モ亦適當ニシテ油ノ動搖又ハ打擊ニ因リテ生スル異常ナル内力ヲ防止シ得ヘキ樣設計セラレタルモノナルコトヲ條件トシテ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ適合セシムル必要上縱隔壁ヲ設クル場合ニ於テハ之ヲ油密ニ構造スヘシ

第二條 油運搬船

引火點カ華氏 150 度（攝氏 65·5 度）未滿ナル油ヲ直接ニ船艙ニ搭載シ油艙船（Bulk Oil Carrier） ノ登錄ヲ受ケントスル船ノ構造ニ付テハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三條 「コツフアーダム」

油ヲ搭載スル部分ノ兩端ニハ幅3呎以上ニシテ完全ニ油密構造ト爲シタル「コツフアーダム」ヲ設ケ油ヲ搭載スル部分ト貨物艙及機關室トヲ完全ニ隔離シ之ニ十分ナル通風裝置ヲ設クヘシ

一切ノ機關及廚房ハ油ヲ搭載スル場所及油喞筒室ヨリ完全ニ隔離スルコトヲ要ス

第四條 通風裝置

油ヲ搭載スル場所ニハ瓦斯ノ停滯スル虞アル箇所ニ通氣孔ヲ設ケテ其ノ脫出ヲ容易ナラシムヘシ（第三章第八條參照）

「コツフアーダム」、喞筒室及其ノ他ノ場所ニモ亦有效ナル通風裝置ヲ設クヘシ

油ヲ搭載スル場所ニハ人工通風又ハ蒸氣ヲ以テ有害瓦斯ヲ排除スルニ必要ナル

設備ヲ爲スヘシ

油艙ノ底部ニハ出入及通氣ヲ容易ナラシムル爲メ堅牢ナル蓋板ヲ有スル人孔ヲ設クルヲ可トス

第五條 排 水 裝 置

油ヲ搭載セサル場所ニ對スル喞筒裝置ハ油喞筒裝置ト全ク之ヲ區別シ吸水管ハ成ルヘク油ヲ搭載スル場所ヲ通過スルコトナカラシメ油喞筒裝置ニ屬スル管ハ水艙ヲ通過スルコトナカラシムルヲ要ス

油艙ノ「クラウン」ヲ構造スル甲板上ニハ十分ナル排水裝置ヲ設クヘシ

第六條 船底「セメント」

專ラ油ヲ搭載スル場所ノ底部ニハ「セメント」ヲ施スコトヲ要セス

第七條 電 燈 裝 置

電燈裝置ハ複線式構造ト爲スヘシ

「スウイツチ」及「カツトアウト」ハ瓦斯ノ蓄積スル虞アル箇所ニ設クルコトヲ得ス

瓦斯ノ蓄積スル虞アル箇所ニ取附クル電燈ハ硝子製氣密球内ニ密閉スヘシ

電線ノ絶緣物カ油ノ爲メ障害ヲ受ケ易キモノナルトキハ之ヲ鉛ヲ以テ被覆スヘシ（第四十三章第十八條參照）

第八條 工 事 及 構 造

油艙船ノ安全及效率ハ工事ノ良否ニ依ルモノナルヲ以テ委員會ハ檢査員及造船者ニ對シ最良ノ工事ニ非サレハ之ヲ拒否スルノ必要ナルコトヲ勸告ス

油ヲ搭載スル場所、船樓等ノ末端ニ於ケル局部的補强及船體ノ各部ヲ通シ鋲釘ノ心距小ナル爲メニ必要ナル補强ハ特ニ十分ニ行フヘシ

油艙船ニハ成ルヘク單材ヲ用ヰ組合材ノ使用ヲ避クヘシ

肋骨及防撓材ヲ支持スル特設桁材ハ以下各號ニ示スカ如ク之ヲ同一平面ニ設ケ内緣形材ノ交叉部ニハ覆板ヲ附シ之ヲ接續スヘシ

一、船側横肋骨ヲ支持スル水平特設桁材ハ之ヲ隔壁ノ竪防撓材ヲ支持スル水平特設桁材ト同一水平面ニ設クヘシ

二、船側縱肋骨ヲ支持スル直立特設桁材ハ船底縱肋骨、縱梁及縱隔壁ノ防撓材ヲ支持スル桁材ト共ニ船體横强力主要材ヲ構成スルコトヲ要ス

三、横隔壁ニ附シタル横防撓材ヲ支持スル直立特設桁材ハ成ルヘク頂部及底部ニ設クル有效ナル縱通桁材ト同一平面内ニ在ルコトヲ要ス

四、底部ニ於ケル普通肋骨ヲ支持スル縱特設桁材ハ隔壁防撓桁材ト同一平面内ニ在リ且ツ隔壁ノ前後ニ於テ同一線内ニ在ルコトヲ要ス

肋骨、梁及防撓材ヲ支フル水平及直立ノ特設桁材及縱肋骨ヲ支フル肋板ハ其ノ間隔ヲ成ルヘク 10 呎以下ト爲スヘシ

膨脹室ノ下部ニハ堅牢ナル水平特設桁材ヲ設クヘシ

第九條 構造材料ノ寸法

構造材料ノ寸法ハ普通ノ船ニ要スルモノ以上ト爲シ又油ヲ搭載スル場所ニ於ケル構造材料ノ寸法ハ深水艙ニ於テ h ヲ滿載狀態ニ於テ油ノ達スル最高面迄ノ距離、指定試驗水高ノ $\frac{2}{3}$ 及 5·5 呎ノ中大ナルモノトシテ計算シタルモノヨリモ小ナルヘカラス（第十六章參照）

油ヲ搭載スル場所ニ於ケル水平及直立ノ特設桁材、肋骨、梁及防撓材ノ寸法ハ兩端ヲ短山形材固著ト爲ス場合ノ規定ニ依リ之ヲ定ムヘシ

同一平面ニ於テ交叉スル特設桁材ニ在リテハ表ニ用ウル長(l)ハ交叉スル内緣形材間ノ距離ニ 6 吋ヲ加ヘタルモノ(呎ニテ)トス

水平及直立ノ特設桁材ハ 10 呎以下ノ間隔ニ於テ其ノ内緣ニ相互ノ結合材ヲ附スルカ其ノ他有效ナル方法ニ依リ屈曲ヲ防止スヘシ

「スロツト」ヲ有セサル水平及直立ノ特設桁材ノ寸法ハ第八號表又ハ第九號表ニ依リ、「スロツト」ヲ有スル是等特設桁材ノ寸法ハ第八號補表又ハ第九號補表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

底部横桁材ノ上緣ハ「ライズ オブ フローア」ニ竝行ナラシムヘシ

肋骨毎ニ設クル肋板ハ曲部ヲ除キタル水平邊ノ截面積ヲ表ニ揭クル副肋材ノ截

面積以上ナラシムルトキハ其ノ上緣ヲ曲緣ト爲スコトヲ得

第十條 龍骨板

龍骨板ハ之ヲ中心線竪龍骨板ニ固著スル山形材ノ部分ニ於テハ屈曲セシムルコトヲ得ス

龍骨板ハ單板ト爲シ其ノ厚ハ第三號表ニ依リ之ヲ定メ其ノ幅ハ縱緣ヲ除キタル部分ニ於テ二箇ノ鋲釘ヲ以テ肋骨ヲ固著スルニ必要ナル幅（例ヘハ肋骨ヲ固著スル鋲釘ノ徑$\frac{7}{8}$吋ナルトキハ 48 吋）及第三號表ニ揭クルモノ以上ト爲スヘシ

第十一條 中心線竪龍骨板

油密中心線隔壁ノ下部ヲ構造スル中心線竪龍骨板ノ厚ハ横隔壁板ニ要スル厚ト爲シ其ノ高ハ成ルヘク肋板トノ固著部ノ上端以上ニ達セシムヘシ

中心線竪龍骨板ト龍骨板トヲ固著スル山形材ハ二重ト爲シ其ノ邊ノ幅ハ釘徑カ$\frac{5}{8}$吋ナルトキハ3吋、$\frac{3}{4}$吋ナルトキハ$3\frac{1}{2}$吋、$\frac{7}{8}$吋又ハ1吋ナルトキハ4吋、$1\frac{1}{8}$吋ナルトキハ $4\frac{1}{2}$吋ト爲シ其ノ厚ハ第三號表ニ揭クル中心線桁板ノ底部山形材ノ厚ニ等シカラシムヘシ

第十二條 梁

油艙ノ「クラウン」ヲ構造スル甲板ニハ梁ヲ肋骨每ニ取附クヘシ

半梁ハ膨脹室ノ側部ニ附スル防撓材ヲ其ノ端ニ堅牢ニ固著スル爲メ之ヲ該室ノ內部ニ延長スヘシ

特設肋骨ノ頂部及長大ナル油艙ニ於テ必要アルトキハ特設肋骨以外ノ箇所ニモ適當ナル寸法ヲ有スル全通梁ヲ設クヘシ

乾舷甲板ノ上部ニ於ケル膨脹室ノ頂部ニ設クル梁ノ寸法ハ第十六條ノ規定ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三條 特設梁柱

膨脹室ヲ堅牢ニ船底ニ結合シ且ツ適當ニ之ヲ支持スル爲メ必要ニ應シ膨脹室ノ側壁線ニ溝形其ノ他適當ナル形狀ノ特設梁柱ヲ配置シ大ナル肘板ヲ以テ其ノ兩端ヲ固著スヘシ

第十四條 隔壁

隔壁ニ取附クル防撓材及之ヲ支持スル特設桁材等ハ成ルヘク區劃室一箇置ニ同一區劃室內ニ設ケ是等ノ構造材料ヲ有スル區劃室ト之ヲ有セサル區劃室トヲ交互ニ配列スヘシ

防撓材ト該材ヲ支持スル直立又ハ水平ノ特設桁材トハ短山形材固著ト爲シ又防撓材ノ上下兩端ハ山形材固著又ハ肘板固著ト爲シ短山形材固著ト同等以上ノ效力ヲ有セシムヘシ

周圍山形材ハ二重ト爲シ其ノ邊ノ幅ハ釘徑カ$\frac{5}{8}$吋ナルトキハ3吋、$\frac{3}{4}$吋ナルトキハ $3\frac{1}{2}$吋、$\frac{7}{8}$吋又ハ1吋ナルトキハ4吋ト爲シ其ノ厚ハ隔壁板ノ厚以上ト爲スヘシ

滿載中常ニ片面ノミニ壓力ヲ受ケサル中心線隔壁ニシテ適當ナル裝置ノ設ケアル爲メ膨脹室ノ頂部迄ノ距離ニ相當スル高以上ノ水高壓力ヲ受クルコトナキモノニ在リテハ第九條ニ規定スルhノ$\frac{2}{3}$ヲ用ヰ其ノ寸法ヲ定ムルコトヲ得

中心線隔壁ノ上半部ニ於ケル隔壁板ノ厚ハ第十九號表ニ揭クル強力甲板ノ鋼甲板ノ厚以上ト爲スヘシ

第十五條 強力甲板下ニ於テ油艙ノ頂部ヲ構造スル甲板ノ梁上側板

強力甲板下ニ於テ油艙ノ頂部ヲ構造スル甲板ノ梁上側板ヲ外板ニ固著スル山形材ノ厚ハ梁上側板ノ厚ニ 0·08吋ヲ增シタルモノト爲スヘシ

船側ニハ「タムブル　ホーム」ヲ附スルコトナク油艙ノ頂部ノ梁ニハ梁矢ヲ附セサルヲ可トス之ヲ附スル場合ト雖モ適當ノ方法ニ依リ前項ニ揭クル山形材ノ邊ノ間ノ角度ヲ鋭角ナラシメザルコトヲ要ス

第十六條 膨脹室

膨脹室ノ側圍壁及頂部ニ用ウル板ノ厚ハ第十九號表ニ揭クル強力甲板ノ鋼甲板ノ厚以上ト爲スヘシ

膨脹室ノ部分ニハ該室ノ上下及水平ノ撓動ヲ防止スル爲メ有效ナル支持構造ヲ爲スヘシ

油艙ノ通風ヲ完全ナラシムル爲メ膨脹室ノ頂部ニ十分ナル大サノ艙口ヲ設ケ且ツ承認ヲ得タル型ノ鋼製油密蓋ヲ備ヘ之ニ適當ナル螺込栓及「エーアコツク」ヲ設クヘシ

油艙ノ頂部ヨリ上方ニ在ル甲板ノ梁ハ膨脹室ノ側部ニ於テ切斷シ肘板ヲ以テ膨脹室側壁ニ堅牢ニ固著スヘシ

第十七條　外　　板

中心線縱隔壁ヲ設クル船ニ在リテハ外板ノ厚ハ第十四號表ニ依ルヘシ

二箇以上ノ縱隔壁ヲ設クル船ニ在リテハ船側外板ノ厚ハ表ニ揭クルモノヨリモ減スルコトヲ得

第十八條　鋼　甲　板

船尾部ニ機關室ヲ有スル船ニシテ油艙ノ配置宜シキヲ得タルモノニ在リテハ强力甲板ノ有效截面積ハ表ニ揭クルモノヨリモ20%ヲ增スヘシ但シ0·06Lナル吃水ニ對シ必要ナル截面積ヨリ小ナルヘカラス

船內ニ於ケル重量ノ分布カ一層不良ナル船ニ在リテハ强力甲板ノ有效截面積ヲ更ニ增スヘシ

油艙ノ頂部ヲ構造スル鋼甲板ノ厚ハ隔壁板ニ要スル厚ニ 0·04 吋ヲ增シタルモノ及第十九號表ニ揭クル鋼甲板ノ厚、前二項ノ規定竝第十五號表乃至第十七號表及第十九章ノ規定ニ適合セシムル爲メ必要ナル厚ノ中最大ナルモノヨリ小ナルヘカラス

第十九條　機　關　室

船尾部ニ設クル機關室ニ於テハ船體ノ橫防撓性ヲ特ニ十分ナラシムヘシ

機關室端ニ於テハ縱通諸材ノ構造及配置ヲ特ニ有效ナラシメ該部分ニ內力ノ局部的增加ヲ生スルコトナカラシムヘシ

膨脹室ノ側部ハ成ルヘク之ヲ機關室口圍壁ニ連續セシメ中心線隔壁ノ連續セサル爲メニ生スル防撓性ノ急激ナル變化ヲ防クヘシ

二重底構造ヨリ單底構造ニ移ル部分ニ於テハ船底外板ノ厚及內龍骨ノ截面積ヲ增スカ其ノ他適當ノ補强構造ヲ爲スヘシ

第二十條　隧　　道

油ヲ搭載スル場所ヲ貫通シテ車軸隧道ヲ設クルトキハ汽機室又ハ發動機室ト隔離シ、圍壁ニ依リ甲板上ヨリ之ヲ出入シ得ル構造ト爲シ且ツ其ノ兩端ニ大形ノ通風筒ヲ設クヘシ

圓形隧道ヲ構造スル板ノ厚ハ次ノ算式ニ依リ計算シタルモノヨリ小ナルヘカラス

$$t=\frac{d\times h\times 0{\cdot}41}{10{,}000}+0{\cdot}36$$

t ハ隧道ヲ構造スル板ノ厚（吋ニテ）

d ハ隧道ノ直徑（吋ニテ）

h ハ隧道ノ底部迄測リタル水高（呎ニテ）（第九條參照）

第二十一條　直立筩形油艙

直立筩形油艙ノ胴板ノ厚ハ次ノ算式ニ依リ計算シタルモノヨリ小ナルヘカラス

$$t=\frac{d\times h\times 0{\cdot}41}{22{,}000}+0{\cdot}12$$

t ハ胴板ノ厚（吋ニテ）

d ハ油槽ノ直徑（吋ニテ）

h ハ胴板ノ下端迄測リタル水高（呎ニテ）（第九條參照）

第二十二條　水　密　試　驗

油ヲ搭載スル場所及「コツフアーダム」ハ進水前又ハ入渠シタル際艙、艙口又ハ其ノ他ノ場所ニ於ケル最高油面上２呎以上ノ箇所ニ達スル水高壓力ヲ以テ水密試驗ヲ行フヘシ但シ水高ハ膨脹室頂板上８呎ヲ下ルヘカラス

第三十八章ニ規定スル油槽ハ前項ニ揭ケタル水高壓力ヲ以テ之ヲ試驗スヘシ

試驗水高壓力ハ承認ヲ受クル爲メ差出ス圖面ニ之ヲ明記スヘシ

第二十三條　燃料油ヲ搭載スル船（第三十八章參照）

「エーベル」式密閉試驗ニ依リ定メタル引火點カ華氏 150 度（攝氏65·5 度）以

上ナル燃料油ヲ搭載シ**燃料油搭載船**（Fuel Oil Carrier）ノ登錄ヲ受ケントスル船ハ第一條ノ規定ニ適合スル構造ト爲スヘシ

船體ノ構造配置ニ付テハ原則トシテ前數條ノ規定ヲ準用ス但シ鋲釘ノ心距等ハ普通ノ水密工事ニ依ルコトヲ得

第二十四條　燃料油ヲ搭載スル二重底

燃料油ヲ搭載スル二重底ニ於テハ船首尾部ニ於ケル容量大ナラサル二重底ヲ除クノ外中心線桁板ニハ孔ヲ設ケサルヲ可トス但シ中心線桁板ハ「コーキング」ヲ施シ或ハ水密試驗ヲ行フコトヲ要セス

前項ノ場合ニ於テハ排氣管ノ徑ヲ4吋以上ト爲シ且ツ排氣管ノ截面積ノ和ヲ注油管ノ截面積ノ和以上ト爲スヘシ

二重底內ノ燃料油及潤滑油ヲ搭載スル區劃室ト養罐水及飮料水ヲ搭載スル區劃室トノ間ニハ「コツフアーダム」ヲ設クヘシ

漏油カ石炭又ハ貨物ニ接觸スルヲ防キ且ツ容易ニ之ヲ「リムバー」及「ウエル」ニ流入セシムル爲メ必要ナル裝置ヲ設クヘシ（第四十四章第一條ヲモ參照）

內底板上ニ張ル內張板ノ下部ニハ横木ヲ設クルコトヲ要ス

內底板上ニ內張板ヲ張ラサル場合ニ於テハ頂板ノ縱横緣ノ鋲釘ノ心距ハ之ヲ釘徑ノ4倍ト爲シ且ツ漏油ヲ容易ニ「リムバー」及「ウエル」ニ流入セシムル樣適當ニ敷板ヲ敷クヘシ

第二十五條　燃料油ヲ搭載スル二重底以外ノ場所

二重底以外ノ場所ニ燃料油ヲ搭載スル場合ニ於テハ油ノ遊動及油高ノ變動ノ影響ヲ緩和スル爲メ委員會ノ適當ト認ムル處ニ從ヒ縱横ニ之ヲ區劃シ且ツ局部的補强ヲ爲スヘシ

第二十六條　喞筒裝置

油喞筒裝置ハ他ノ喞筒裝置ト全ク之ヲ區別シ喞筒管ノ系統カ錯雜スル危險ヲ防ク爲メ有效ナル防止裝置ヲ設クヘシ

「ストーク　ホールド」ヘノ送油ヲ遮斷スル裝置ハ「ストーク　ホールド」及甲板ノ何レヨリモ動作シ得ヘカラシムルコトヲ要ス

機關室內ノ燃料油喞筒裝置ハ成ルヘク常ニ見易キ場所ニ之ヲ据附クヘシ（第三十八章ヲモ參照）

油ヲ搭載スル場所ニ在ル蒸氣「コイル」ヨリノ復水ハ成ルヘク直接ニ冷汽器ニ導クコトナク上部開放セル水槽ヲ通過セシメタル後冷汽器ニ導クヘシ

第二十七條　「ストーク　ホールド」

燃料油ヲ用ウル「ストーク　ホールド」內ニハ木製ノ器具及梁ヲ備フヘカラス

汽罐側ニ油庫ヲ設クル場合ニ於テハ通氣ノ爲メ十分ナル空所ヲ設ケ且ツ有效ナル絕緣裝置ヲ施スヘシ

失火ニ備フル爲メ蒸氣、水及砂ヲ用ウル有效ナル消防裝置ヲ施スヘシ

第三十三章

對 氷 構 造

本章ニ於テ規定スル特別構造ト同等以上ノ效力ヲ有スル特別ノ構造ヲ設ケタル船ニ對シテハ「對氷構造ヲ有ス」(Ice strengthening) ノ登錄ヲ爲ス

氷中ヲ航行スル爲メ設クル特別構造ハ次ニ揭クル船體部分ニ施スコトヲ要ス

一、船首端ヨリ測リ船ノ長ノ$\frac{1}{5}$以上ノ間

二、滿載吃水線上3呎以上ノ箇所ヨリ輕吃水線下3呎以上ノ箇所迄ノ間

前項ノ船體部分ニハ第九章ノ規定ニ依リ設ケタル肋骨ノ中間ニ成ルヘク第九章及第七號表ノ規定ニ依リ船首艙ニ設クヘキ「正肋材及副肋材ヲ以テ構造シタル肋骨」ノ副肋材ノ寸法以上ノ寸法ヲ有スル補强肋骨ヲ取附クルコトヲ要ス

前項ノ補强肋骨ハ成ルヘク之ヲ特別構造ヲ施ス部分ノ直上ノ甲板ヨリ艙內肋骨ノ下端ニ附スル肘板又ハ單底肋板ノ頂部線ノ稍下方ニ迄達セシムヘシ

中央部船ノ長ノ$\frac{1}{2}$間ト特別構造ヲ施ス部分トノ間ニ於ケル船側外板ノ厚ハ之ヲ中央部ニ於ケル厚以上トシ又特別構造ヲ施ス部分ニ於ケル船側外板ノ厚ハ長250 呎以下ノ船ニ在リテハ 0·60 吋以上、長500呎以上ノ船ニ在リテハ1·00吋トシ船ノ長カ 250 呎ト 500 呎トノ間ナルトキハ 0·60 吋ト 1·00 吋トノ間ニ挿間法ニ依リ計算シタルモノ以上ト爲スヘシ

舵幹材其ノ他ノ舵材ノ寸法、操舵鎖ノ徑等ハ夫々ノ章ニ於テ規定シタルモノヨリモ成ルヘク 10% 以上大ナラシムヘシ

螺旋軸ノ徑ハ當該章ニ於テ規定シタルモノヨリモ成ルヘク5% 以上大ナラシムヘシ

螺旋推進器翅ハ鑄鐵製ト爲サス鑄鋼又ハ他ノ承認ヲ得タル材料ヲ以テ作ルヘシ

海水ニ通スル瓣其ノ他ハ氷ノ爲メ外板トノ取附部分ヲ毀損セラレサル樣又低溫度ノ爲メ破損セサル樣裝置スルヲ可トス

機關部規則

第 三 十 四 章

總 則

第一條 委員會ノ承認ヲ經タル圖面及仕樣書ニ依リ製造シ製造中特別檢査ヲ受ケタル機關ニシテ試運轉ノ結果良好ナルトキハ船舶原簿ニ符號 **M.N.S.*** ヲ附記シテ登錄シ機關證書ヲ發行ス

第二條 本會ノ製造中特別檢査ヲ受ケサル機關ニ對シ機關登錄ノ申込アリタルトキハ特別船級檢査ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ機關ノ構造及現狀良好ト認メタルトキハ委員會ノ承認ヲ經テ船舶原簿ニ符號 **M.N.S.** ヲ附記シテ登錄シ機關證書ヲ發行ス

第三條 製造中特別檢査ヲ受ケントスルトキハ次ニ揭クル圖面及仕樣書ヲ差出シ工事著手前承認ヲ受クルコトヲ要ス

一、汽罐及過熱器ノ圖面

二、汽罐及過熱器ノ材料ニ關スル仕樣書

三、汽機及軸ノ圖面

次ニ揭クル圖面其ノ他ハ夫々工事著手前承認ヲ受クルコトヲ要ス

一、汽機臺、推力受臺及各取附螺釘配置ノ圖面

二、軸受臺及汽罐臺ノ圖面

三、「ビルジ」、「バラスト」及燃料油ニ關スル喞筒配置ノ圖面

四、蒸化器、給水濾過器及給水加熱器ニ關スル構造ノ要目

五、主汽管及給水管ノ配置圖

圖面ニハ機關要部ノ寸法、鋲釘ノ配置其ノ他審査ニ必要ナル事項ニ付出來得ル限リ漏レナク明瞭ニ記載スルコトヲ要ス

檢査員ニ於テ必要トスルトキハ圖面ノ副本ヲ請求スルコトアルヘシ

第四條 機關ハ据附工事ヲ完了シ汽罐ノ安全瓣ヲ調整シ其ノ他ノ附屬品ヲ航海中ト同様ノ狀態ニ取附ケタル後檢査員立會ノ上試運轉ヲ行フコトヲ要ス

第五條 日本船舶ノ機關部屬具ハ本則ノ規定ニ依ルノ外遞信省船舶檢査規程ニ適合セシムルコトヲ要ス

第六條 本則ニ依リ製造シ本會ノ船級登錄ヲ受ケタル外國船舶ノ機關ニシテ當該船舶ノ所屬國政府ノ規定ニ適合セサル場合ナキヲ保シ難キニ依リ船主及製造者ハ此ノ點ニ付特ニ注意セラルヘシ（第一章第八條及第九條參照）

第三十五章

材　　料

材料ノ試驗及檢査ニ付テハ造船規程及同規程取扱方ニ關スル遞信省內規ノ範圍內ニ於テ斟酌ヲ爲スヲ得

第一條 汽罐用鋼材

汽罐ノ製造ニ用ウル鋼材ハ平爐ニ依リ製造シタル最良ノ軟鋼ニシテ鎚飾、裂疵又ハ有害ナル表面疵ナクH.ツ以下ニ規定スル試驗ニ合格スルコトヲ要ス

第二條 試驗材ハ檢査員之ヲ採擇スルモノトス

試驗材ハ之ニ識別シ得ヘキ樣適當ナル符號ヲ刻印シ鋼材發送前其ノ製造所ニ於テ檢査員立會ノ上之ヲ試驗スルコトヲ要ス

抗張力及柔靱性ハ第四章ノ規定ニ依リ壓延鋼材ヨリ壓延ノ方向ニ沿ヒ又ハ之ヲ横キリテ切取リタル試驗材ニ付之ヲ定ムルモノトス

第三條 鋼板ニ在リテハ壓延シタル儘ノ板毎ニ抗張試驗及燒入又ハ常溫屈曲試驗ヲ行フコトヲ要ス

重量 2500 kg ($2\frac{1}{2}$tons) ヲ超ユル板ニ在リテハ其ノ兩端ヨリ採リタル各試驗材ニ付前項ノ試驗ヲ行フコトヲ要ス

胴板、覆板及其ノ他ノ板ニシテ曲緣工事ヲ施ササルモノ、加熱シテ加工ヲ要セサルモノ又ハ使用ノ際火焔ニ接觸セサルモノニ在リテハ常溫屈曲試驗ヲ行フコトヲ要ス

曲緣工事ヲ施スヘキ板、加熱シテ加工ヲ要スル板又ハ使用ノ際火焔ニ接觸スヘキ板ニ在リテハ燒入屈曲試驗ヲ行フコトヲ要ス

山形材、鋲釘用丸棒及支柱用丸棒ニ在リテハ同一鎔解ヨリ壓延シタル同一寸法又ハ同一徑ノモノ毎ニ次表ニ揭クル數ノ試驗材ヲ採リ抗張試驗ヲ行フコトヲ要ス

鋼材ノ種類	試驗材ノ數
山形材及徑 45 mm ($1\frac{3}{4}$ in) ヲ超ユル丸棒	十五箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇
徑 45 mm ($1\frac{3}{4}$ in) 以下ノ丸棒	五十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇

前項ノ試驗材ハ同一鎔解ヨリ壓延シタル同一寸法又ハ同一徑ノ鋼材毎ニ二箇ヲ下ルコトヲ得ス但シ次表中其ノ何レカニ該當スルトキハ之ヲ一箇ト爲スコトヲ得

鋼材ノ種類	鋼材ノ數
山形材及徑 45 mm ($1\frac{3}{4}$ in) ヲ超ユル丸棒	八箇以下ナルトキ
徑 45 mm ($1\frac{3}{4}$ in) 以下ノ丸棒	二十箇以下ナルトキ

山形材ニ在リテハ壓延シタル儘ノモノ毎ニ燒入又ハ常溫屈曲試驗ヲ行フコトヲ要ス

支柱用丸棒ニ在リテハ壓延シタル儘ノモノ十五箇毎ニ燒入及常溫屈曲試驗ヲ行フコトヲ要ス

鋲釘用丸棒ニハ屈曲試驗ヲ要セス

第四條 胴板、支梁板及主支柱ノ抗張力ハ 44 kg/mm² (28 tons/in²) 以上 55 kg/mm² (35 tons/in²) 以下トス但シ同一ノ汽罐ニ於テ同一ノ用途ニ使用スヘキモノニ在リテハ各抗張力ノ差ハ 6·5 kg/mm² (4 tons/in²) ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

山形材及丁字形材ノ抗張力ハ 44 kg/mm² (28 tons/in²) 以上 50 kg/mm² (32 tons/in²) 以下トス

曲緣又ハ鍛接工事ヲ施スヘキ板、燃燒室用板、火爐用板、燃燒室支柱用丸棒及鋲釘用丸棒ノ抗張力ハ 41 kg/mm² (26 tons/in²) 以上 47 kg/mm² (30 tons/in²) 以下トス

抗張力ヲ緊要トセサル用途ニ用ウル鋼材ニシテ汽罐製造者ニ於テ特ニ之ヲ指定シ且ツ容易ニ識別シ得ヘキ樣記號ヲ刻印シタルモノニハ屈曲試驗ノミヲ行ヒ抗張試驗ヲ行ハス

第五條 伸長率ハ標點間ノ長カ 200 mm (8 in) 又ハ徑ノ 8 倍ナルトキニ於テ抗張力カ 44 kg/mm² (28 tons/in²) 以上 55 kg/mm² (35 tons/in²) 以下ナルヘキ鋼材ニ在リテハ 20% 以上、抗張力カ 41 kg/mm² (26 tons/in²) 以上 47 kg/mm² (30 tons/in²) 以下ナルヘキ鋼材ニ在リテハ 23% 以上トス

厚 9·5 mm ($\frac{3}{8}$ in) 未滿ノ鋼材ニ在リテハ前項ノ伸長率ヲ各 3% 宛減スルコトヲ得

丸棒ニ在リテ標點間ノ長ヲ徑ノ 4 倍ト爲シタル場合ニ於テハ伸長率ハ第一項ノ鋼材中前者ニ在リテハ 24% 以上、後者ニ在リテハ 28% 以上トス

鋲釘用丸棒ノ伸長率ハ標點間ノ長カ徑ノ 8 倍ナルトキハ 25% 以上、標點間ノ長カ徑ノ 4 倍ナルトキハ 30% 以上トス、又標點間ノ長ト徑トノ割合カ上記ノ間ニ在ルトキハ其ノ割合ニ依リ算定スルモノトス

第六條 屈曲試驗ニ於テハ常溫又ハ燒入ノ何レノ場合ニ於テモ試驗材ヲ其ノ厚又ハ徑ノ $1\frac{1}{2}$ 倍以下ノ內半徑ヲ以テ百八十度屈曲スルモ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

屈曲試驗ハ押壓又ハ打擊ノ何レニ依リ之ヲ行フモ妨ナシ

第七條 本會ノ承認シタル製造所ニ於テ平爐ニ依リ製造シタル特殊强力鋼板ニシテ次ニ掲クル各號ノ規定ニ適合スルモノハ之ヲ胴板及胴板縱接合用覆板ニ使用スルコトヲ得

一、抗張試驗片及屈曲試驗片ハ各板ノ兩端ヨリ縱及横ノ方向ニ切取ルコトヲ要ス

二、抗張力ハ 55 kg/mm² (35 tons/in²) 以上 66 kg/mm² (42 tons/in²) 以下トス但シ同一汽罐ニ使用スヘキモノニ在リテハ各抗張力ノ差ハ6·5 kg/mm² (4 tons/in²) ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

三、伸長率ハ標點間ノ長カ 200 mm (8 in) 又ハ徑ノ 8 倍ナルトキ 20% 以上トス但シ厚 9.5 mm ($\frac{3}{8}$ in) 未滿ノ鋼材ニ在リテハ 3% ヲ減スルコトヲ得

四、彈性限度 (Limit of Proportionality) ハ抗張試驗毎ニ伸度計ニ依リ之ヲ定メ少クトモ 23·5 kg/mm² (15 tons/in²) 以上ナルコトヲ要ス但シ抗張力ノ 40% 未滿ナルコトヲ得ス

五、屈曲試驗ハ前條ノ規定ニ依ルモノトス

第八條 鋼材ノ檢印、不合格材ノ排却、「アドヴアイス　ノート」ノ發行等ニ付テハ船體材料ト同一ノ方法ニ依ルモノトス(第四章參照)

鋼材ノ表面ニハ磨飾其ノ他ノ加工ヲ爲スコトヲ得ス但シ檢查員ノ同意ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ加工ヲ爲シタル局部ノ周圍ニ塗料ヲ以テ輪ヲ畫キ檢查員檢印ヲ刻シ之ヲ明示スルコトヲ要ス

第九條　鋲　　釘

鐵製及鋼製ノ鋲釘ハ檢查員ノ指定ニ依リ適宜ニ採リタル試料ニ付屈曲試驗及壓潰試驗ヲ行フコトヲ要ス

鋼製鋲釘ハ常溫ノ儘桿部ヲ百八十度屈曲シテ相接著セシメ又頭部ヲ加熱シテ扁平ニ打壓シ其ノ徑ヲ桿部ノ徑ノ $2\frac{1}{2}$ 倍迄ニ至ラシムルモ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

第十條　支　　柱

鋼製支柱ハ本章第一條乃至第六條ノ試驗ニ合格スルコトヲ要ス

鐵製支柱ハ 31 kg/mm² (20 tons/in²) 以上ノ抗張力ヲ有スル最良ノ錬鐵ヲ用ヒテ製造スルコトヲ要ス

第十一條 螺旋支柱ニ鐵丸棒ヲ用ウル場合ニ於テ其ノ徑ヲ鋼丸棒ヲ用ウル場合ニ

要スル徑ト同一寸法ト爲サントスルトキハ鐵丸棒ハ以下各項ノ試驗ニ合格スルコトヲ要ス

抗張力ハ 34 kg/mm² ($21\frac{1}{2}$ tons/in²) 以上ニシテ伸長率ハ標點間ノ長カ徑ノ 8 倍ナルトキハ 25% 以上、標點間ノ長カ徑ノ 4 倍ナルトキハ 30% 以上ナルコトヲ要ス

屈曲試驗材ハ壓延シタル儘又ハ徑 25 mm (1 in) ニ削リ常溫ノ儘其ノ徑ヨリ大ナラサル內徑ヲ以テ百八十度屈曲スルモ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

鐵丸棒ニ在リテハ壓延シタル儘ノモノ二十箇ヲ以テ一組ト爲シ各組ヨリ一箇ノ試驗材ヲ採リ抗張試驗ヲ行フコトヲ要ス

前項ノ試驗材カ試驗ニ合格セサルトキハ更ニ同一組ヨリ二箇ノ丸棒ヲ撰ヒ抗張試驗ヲ行ヒ二箇ノ丸棒カ共ニ合格シタル場合ニ於テハ其ノ組ヲ合格トス

鐵丸棒ニ在リテハ第四項ニ定メタル各組ヨリ一箇ノ試驗材ヲ採リ屈曲試驗ヲ行フコトヲ要ス又其ノ各組ヨリ別ニ一箇ノ屈曲試驗材ヲ採リ銳利ナル刄物ヲ以テ桿部ノ一方ニ輕微ナル傷痕ヲ刻シ押壓又ハ打擊ニ依リ百八十度屈曲シテ之ヲ挫折スヘシ此ノ場合ニ於テ挫折面ハ纖維狀ヲ呈シ鎔滓、不純物又ハ結晶組織ヲ有セサルコトヲ要ス

前項ノ試驗材カ二種ノ試驗中其ノ何レカニ合格セサルトキハ更ニ同一組ヨリ二箇ノ丸棒ヲ撰ヒ其ノ試驗ヲ繰返シ二箇ノ丸棒カ共ニ合格シタル場合ニ於テハ其ノ組ヲ合格トス

第十二條　水管汽罐及過熱器用管

水管汽罐及過熱器ニ用ウル管ニシテ內部ヨリ壓力ヲ受クルモノハ引拔鋼管ナルコトヲ要ス

管ノ製造ニ用ウル鋼材ハ酸性又ハ鹽基性ノ平爐ニ依リ製造シタルモノニシテ其ノ鋼片又ハ鋼棒ノ場合ニ於ケル抗張力ハ 44 kg/mm² (28 tons/in²) 以下又伸長率ハ標點間ノ長カ徑ノ 4 倍ナルトキ 30% 以上ナルコトヲ要ス

鋼材及管ノ製造者ハ管カ前二項ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ證明スルコト

ヲ要ス

外徑 38 mm ($1\frac{1}{2}$in) 未滿ノ管ハ常温仕上ナルコトヲ要ス

常温引拔管ハ檢査ヲ受クル前適當ニ之ヲ燒鈍スルコトヲ要ス

管ハ常温ノ儘之ヲ鎚打シ次表ニ規定スル扁壓試驗ヲ行フモ裂疵又ハ其ノ他破碎ノ徴ヲ現サザルコトヲ要ス

管ノ厚	扁壓試驗
3·25 mm (10 L.S.G.) 以下ナルトキ	管壁ノ間隙カ 1·6 mm ($\frac{1}{16}$in) トナル迄
3·25 mm (10 L.S.G.) ヲ超エ 4·90 mm (6 L.S.G.) 以下ナルトキ	〃 〃 5·5 mm ($\frac{7}{32}$in) 〃
4·90 mm (6 L.S.G.) ヲ超エ 6·40 mm (3 L.S.G.) 以下ナルトキ	〃 〃 9·5 mm ($\frac{3}{8}$in) 〃
6·40 mm (3 L.S.G.) ヲ超ユルトキ	〃 〃 14·3 mm ($\frac{9}{16}$in) 〃

管ハ常温ノ儘「ローラー」管擴器又ハ打込管擴器ニ依リ其ノ兩端ヲ擴大シ次表ニ規定スル擴大試驗ヲ行フモ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

管ノ厚 mm(L.S.G)	擴大試驗	
	「ローラー」管擴器ナルトキ	打込管擴器ナルトキ
3·25(10) 以下ナルトキ	徑ノ擴大ノ割合カ 12·5% トナル迄	徑ノ擴大ノ割合カ 9·5% トナル迄
3·25(10) ヲ超エ 4·90(6) 以下ナルトキ	〃 〃 9·5% 〃	〃 〃 7·0% 〃
4·90 (6) ヲ超ユルトキ	〃 〃 6·5% 〃	〃 〃 5·5% 〃

管ハ百箇又ハ其ノ未滿ヲ以テ一組ト爲シ任意ニ二箇ノ組ヨリ各二箇及其ノ他ノ組ヨリ各一箇ノ管ヲ採リ試驗ニ供スルコトヲ要ス

前項ノ試驗材ニハ總テ擴大試驗ヲ行ヒ又其ノ中毎組一箇ノ試驗材ニハ扁壓試驗ヲ行フコトヲ要ス

扁壓試驗ハ管ノ中央部及其ノ他ノ二箇所ニ於テ相異ル平面ニ沿ヒ之ヲ行フコトヲ要ス

試驗材カ第九項ノ試驗ノ何レカニ合格セサルトキハ更ニ同一組ヨリ二箇ノ管ヲ採リ各扁壓試驗及擴大試驗ヲ行ヒ二箇ノ管カ共ニ合格シタル場合ニ於テハ其ノ組ヲ合格トス

管ハ總テ其ノ製造所ニ於テ 70 kg/cm² (1,000 lbs/in²) 以上ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

鑵水ノ降路ニ用ウル管ハ汽管ニ關スル規定ニ準シ試驗スルコトヲ要ス

管ハ特ニ指定セラレタル場合ヲ除ク外眞直ナルコトヲ要ス又管ハ其ノ全長ニ亘リ成ルヘク之ヲ同心圓ト爲スヘシ

管ノ厚ノ誤差ハ指定寸法ヨリ小ナルコト其ノ 5%以下又大ナルコト 10 %以下ナルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ同心圓ノ誤差ニ之ヲ準用ス

管ノ外徑ノ誤差ハ次表ニ掲クル寸法以下ナルコトヲ要ス

管ノ外徑	誤差	
	大ナルコト	小ナルコト
35 mm ($1\frac{3}{8}$ in) 以下ナルトキ	0·18 mm (0·007 in)	0.08 mm (0·003 in)
35 mm ($1\frac{3}{8}$ in) ヲ超エ 38 mm ($1\frac{1}{2}$ in) 以下ナルトキ	0·4 mm ($\frac{1}{64}$in)	0·4 mm ($\frac{1}{64}$in)
38 mm ($1\frac{1}{2}$ in) ヲ超ユルトキ	0·8 mm ($\frac{2}{64}$in)	0·4 mm ($\frac{1}{64}$in)

第七項乃至第十四項ノ試驗ハ管製造者ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ成績證明書ヲ差出シ檢査員ノ承認ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ管ハ所要寸法ヨリ 25 mm (1 in)

長ク之ヲ作リ其ノ過剰ノ部分ハ扁壓試驗ノ用ニ供スル爲メ一部切離シ置クコトヲ要ス

第十三條 鋼製汽管

鍛接鋼製汽管ニ使用スル鋼板ハ製鋼所ニ於テ檢査員立會ノ上試驗ヲ行ヒタルモノニシテ其ノ抗張力ハ 44 kg/mm² (28 tons/in²) 以下又伸長率ハ標點間ノ長カ 200 mm (8 in) ナルトキ 25% 以上ナルコトヲ要ス

第十四條 鑄鋼材

打物ヲ通常使用スヘキ箇所ニ使用スル鑄鋼材ハ第四章ノ規定ニ適合スルコトヲ要ス

鑄鐵ヲ通常使用スヘキ箇所ニ使用スル鑄鋼材ニハ墜落試驗及鎚打試驗ヲ行フコトヲ要ス

第十五條 錬鐵材

錬鐵材ノ試驗ハ特別ノ理由ニ依リ必要ト認ムル場合ニ限リ之ヲ行フモノトス此ノ場合ニ於テハ其ノ幹部ヨリ試驗材ヲ採ルコトヲ要ス

抗張力ハ 31 kg/mm² (20 tons/in²) 以上 33 kg/mm² (24 tons/in²) 以下又伸長率ハ標點間ノ長カ徑ノ $3\frac{1}{2}$ 倍ナルトキ 20% 以上トス

屈曲試驗材ハ 25 mm (1 in) 角ニ作リ常溫ノ儘 38 mm ($1\frac{1}{2}$ in) ノ內半徑ヲ以テ九十度屈曲スルモ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

第十六條 鍛鋼材

鍛鋼材ハ平爐ニ依リ製造シタル鋼塊ヲ用ヰ通常ノ鋼塊ニ在リテハ其ノ下部三分ノ二ヲ採リ之ヲ鍛錬シテ製造スルコトヲ要ス

鍛鋼材ハ其ノ幹部ノ截面積ヲ原鋼塊ノ截面積ノ五分ノ一以內ニ其ノ他ノ部分ノ截面積ヲ原鋼塊ノ截面積ノ三分ノ二以內ニ鍛錬スルコトヲ要ス

鍛鋼材ハ燒鈍爐ニ依リ適當ニ燒鈍シ瑕瑾ナキコトヲ要ス

抗張力ハ本會カ特ニ同意シタル場合ヲ除クノ外 55 kg/mm² (35 tons/in²) 以下トス

伸長率ハ標點間ノ長カ徑ノ $3\frac{1}{2}$ 倍以上ナルトキ抗張力 43 kg/mm² (27 tons/in²) ノモノハ 30% 以上、抗張力 55 kg/mm² (35 tons/in²) ノモノハ 22% 以上又抗張力カ上記ノ間ニ在ルモノハ其ノ割合ニ依リ計算シタルモノ以上ナルコトヲ要ス

屈曲試驗材ハ幅 25 mm (1 in) 厚 19 mm ($\frac{3}{4}$ in) ニ作リ其ノ四隅ニ半徑 1·6 mm ($\frac{1}{16}$ in) ノ丸味ヲ附シ常溫ノ儘抗張力 50 kg/mm² (32 tons/in²) 未滿ノモノハ 6 mm ($\frac{1}{4}$ in) ノ內半徑又抗張力 50 kg/mm² (32 tons/in²) 以上 55 kg/mm² (35 tons/in²) 以下ノモノハ 9·5 mm ($\frac{3}{8}$ in) ノ內半徑ヲ以テ百八十度屈曲スルモ疵裂ヲ生セサルコトヲ要ス

試驗材ハ鍛鋼材ノ幹部ヨリ小ナラサル截面積ヲ有スル部分ヨリ縱ニ切取ルコトヲ要ス又鍛鋼材ヲ燒鈍シ檢査員ノ檢印ヲ刻シタル後ニアラサレハ之ヲ切斷スルコトヲ得ス

鍛鋼材ハ材毎ニ抗張試驗及屈曲試驗ヲ行フコトヲ要ス

同一鋼塊ヨリ造レル小形鍛造品ニ在リテハ原鋼塊ノ兩端ヲ代表スル各試驗材ニ付抗張試驗及屈曲試驗ヲ行ヒ其ノ他ノ部分ニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得

鍛鋼材ニハ原鋼塊ノ鎔解ヲ追跡シテ識別シ得ヘキ樣適當ナル記號ヲ刻印シ又上記ノ試驗ニ合格シタルモノハ符號 NK 及檢査員ノ指定スル記號ヲ明瞭ニ刻印スルコトヲ要ス

第三十六章

汽　　　罐

第一條 强力ノ計算

鋼製汽罐ノ最大汽壓ニ對スル各部ノ寸法及構造又ハ其ノ各部ノ寸法及構造ニ對スル最大汽壓ハ以下ニ掲クル算式及規定ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第二條 筩形胴板

筩形胴板ノ强力ハ次ノ各號ニ掲クル算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

一、胴板ノ厚 45 mm ($1\frac{3}{4}$in) 以下ナルトキ

$$W.P.=\frac{(t-t_0)\times S\times J}{C\times D}\qquad t=\frac{W.P.\times D\times C}{J\times S}+t_0$$

二、胴板ノ厚 45 mm ($1\frac{3}{4}$in) ヲ超エ且ツ縦接合ニ兩覆板ヲ有スルトキ

$$W.P.=\frac{t\times S\times J}{K\times D}\qquad t=\frac{W.P.\times D\times K}{J\times S}$$

W.P. ハ最大汽壓 (kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ)

t ハ胴板ノ厚 (mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一ニテ)

S ハ胴板ノ最小抗張力 (kg/mm² 又ハ tons/in² ニテ)

J ハ縦接合ノ强率ニシテ次項ニ掲クル規定ニ依ル

t_0 及 K ハ定數ニシテ

$t_0=1{\cdot}6$ (英式單位ナルトキ 2)

K=2 (英式單位ナルトキ 2·85)

C ハ定數ニシテ次表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數字ヲ用ウヘシ

縦接合ノ種類	C
兩覆板	1·92 (2·75)
累接三列鋲釘	1·98 (2·83)
累接二列鋲釘	2·03 (2·90)
累接單列鋲釘	2·31 (3·30)

D ハ罐胴ノ最大内徑 (mm 又ハ in ニテ)

備考　胴板ノ安全率ハ4以上ナルコトヲ要ス

前項縦接合ノ强率 J ハ次ニ掲クル算式中其ノ最小ナルモノヲ用ウルコトヲ要ス但シ(丙)ハ鋲釘ノ數外列ニ於テ半數ナル場合ニ限リ之ヲ適用ス

(甲) 接合ニ於ケル胴板ノ强率

$$\frac{100(p-d)}{p}$$

(乙) 接合ニ於ケル鋲釘ノ强率

$$\frac{100(S_2\times a\times n\times C)}{S_1\times p\times T}$$

(丙) 鋲釘ノ數外列ニ於テ半數ナル場合ノ胴板及鋲釘ノ聯合强率

$$\frac{100(p-2d)}{p}+\frac{100(S_2\times a\times C)}{S_1\times p\times T}$$

p ハ外列ニ於ケル鋲釘ノ心距 (mm 又ハ in ニテ)

d ハ鋲釘孔ノ徑 (mm 又ハ in ニテ)

a ハ鋲釘孔ノ面積 (mm² 又ハ in² ニテ)

n ハ p ナル心距ニ於ケル鋲釘ノ數

T ハ胴板ノ厚 (mm 又ハ in ニテ)

C ハ定數ニシテ次表ニ依ル

鋲釘カ受クル剪力ノ種類	C
單剪力	1·00
兩剪力	1·875

S_1 ハ胴板ノ最小抗張力 (kg/mm² 又ハ tons/in² ＝テ)

S_2 ハ鋲釘ノ抗剪力＝シテ通常 36 kg/mm² (23 tons/in²) トス又鋲釘用丸棒ノ最小抗張力ノ 85％ ト爲スモ妨ナシ

第三條 覆　板

胴板ノ縦接合＝兩覆板ヲ用ウルトキハ外覆板ノ强力ハ胴板ノ强力ノ 0·625 倍以上又厚ハ其ノ外緣＝於テ塡隙ヲ爲ス＝十分ナルモノト爲スコトヲ要ス

內覆板ノ厚ハ外覆板ノ厚＝ 3 mm $(\frac{1}{8}$in) ヲ加ヘタルモノト爲スヘシ

鋲釘ノ數小列＝於テ半數ナル場合＝於ケル兩覆板ノ厚ハ次ノ算式＝依リ之ヲ定ムヘシ

$$t=\frac{5\times(p-d)}{8\times(p-2d)}\times T$$

$$t_n=\frac{5\times(p-d)}{8\times(p-2d)}\times T+t_0$$

T ハ胴板ノ厚 (mm 又ハ in ＝テ)

t ハ外覆板ノ厚 (mm 又ハ in ＝テ)

t_n ハ內覆板ノ厚 (mm 又ハ in ＝テ)

t_0 ハ定數＝シテ 3 (英式單位ナルトキ $\frac{1}{8}$)

p 及 d ハ前條＝同シ

第四條 鋲釘列間ノ距離及鋲釘ト板端トノ距離

鋲釘孔ノ中心ト板端トノ距離ハ鋲釘孔徑ノ $1\frac{1}{2}$ 倍以上ト爲スヘシ

累接又ハ衝接ノ何レノ場合＝於テモ二列以上ノ鋲釘ナルトキハ鋲釘列間ノ距離ハ少クトモ次ノ各號＝揭クル算式＝依リ計算シタルモノト爲スヘシ

一、鋲釘ノ數各列同數ナルトキ各列間ノ距離

（甲） 千鳥形鋲釘ナルトキ　0·33 p+0·67 d

（乙） 竝列鋲釘ナルトキ　2 d

二、鋲釘ノ數外列＝於テ半數ナルトキ外列ト內列トノ距離

（甲） 內列＝於テ千鳥形鋲釘ナルトキ　0·2 p+1·15 d

（乙） 內列＝於テ竝列鋲釘ナルトキ　次ノ二式中其ノ大ナルモノ＝依ル

0·33 p+0·67 d,　2 d

三、前號ノ場合＝於ケル各內列間ノ距離

（甲） 千鳥形鋲釘ナルトキ　0·165 p+0·67 d

（乙） 竝列鋲釘ナルトキ　2 d

p 及 d ハ本章第二條＝同シ

第五條 鋲釘ノ最大心距

胴板ノ縦接合＝於ケル鋲釘ノ最大心距ハ次ノ算式＝依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

$$p=C\times T+t_0$$

p ハ鋲釘ノ最大心距 (mm 又ハ in ＝テ)

T ハ板ノ厚 (mm 又ハ in ＝テ)

t_0 ハ定數＝シテ 41 (英式單位ナルトキ $1\frac{5}{8}$)

C ハ定數＝シテ次表＝依ル

最大心距內＝於ケル鋲釘數	C	
	累接	兩覆板衝接
1	1·31	1·75
2	2·62	3·50
3	3·47	4·63
4	4·14	5·52
5	—	6·00

第六條 筩形火爐

一、平坦火爐　平坦火爐、「アダムソン」式又ハ其ノ他ノ接合＝依リ補强シタル

火爐及燃焼室ノ筩形底板ニ在リテハ次ニ揭クル二種ノ算式ニ依リ最大汽壓ヲ計算シ其ノ中小ナルモノヲ用ウルコトヲ要ス

$$W.P.=\frac{C\,(t-t_0)^2}{(L+l_0)\times D}\qquad t=\sqrt{\frac{W.P.\times(L+l_0)\times D}{C}}+t_0$$

又ハ

$$W.P.=\frac{C_1}{D}\times[K(t-t_0)-L]\qquad t=\frac{W.P.\times D}{K\times C_1}+\frac{L}{K}+t_0$$

W.P. ハ最大汽壓 (kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ)

D ハ火爐又ハ燃焼室底板ノ外徑 (mm 又ハ in ニテ)

t ハ板ノ厚 (mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一ニテ)

L ハ火爐平坦部又ハ燃焼室底板ノ長 (mm 又ハ in ニテ) ニシテ其ノ補强部ト接合スル箇所ニ於テハ鋲釘列ノ中心線又ハ曲緣ノ起點ヨリ測リタルモノ

t_0, l_0 及 K ハ定數ニシテ

$t_0=0{\cdot}8$ (英式單位ナルトキ 1)

$l_0=610$ (英式單位ナルトキ 24)

K=320 (英式單位ナルトキ 10)

C 及 C_1 ハ定數ニシテ次表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧內ノ數字ヲ用ウヘシ

火爐縱接合ノ種類	C	C_1
鍛接	104,400 (1,450)	3·50 (50)
鋲釘接合	93,600 (1,300)	3·16 (45)

二、皺形火爐　皺形火爐ノ强力ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

$$W.P.=\frac{C\,(t-t_0)}{D}\qquad t=\frac{W.P.\times D}{C}+t_0$$

W.P. ハ最大汽壓 (kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ)

D ハ皺ノ底部ニ於ケル火爐ノ外徑 (mm 又ハ in ニテ)

t ハ皺ノ底部ニ於ケル板ノ厚 (mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一ニテ)

t_0 ハ定數ニシテ 0·8 (英式單位ナルトキ 1)

C ハ定數ニシテ次表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧內ノ數字ヲ用ウヘシ

火爐ノ種類	C
「フオツクス」式、「モリソン」式、「デイトン」式、「パーヴス」式又ハ此等ノ種類ニ屬スル式	1,080 (480)
「リーズ フオージ バルブ サスペンション」式	1,150 (510)

備考　火爐板ノ厚ハ平坦又ハ皺形ノ何レノ場合ニ於テモ 21 mm ($\frac{13}{16}$ in) 以下ト爲スヘシ

第七條　平板

平板ノ强力ハ次ノ算式ニ依ル但シ抗張力 41 kg/mm² (26 tons/in²) 未滿ノ鋼板ヲ使用スルトキハ其ノ割合ヲ以テ最大汽壓ヲ減スルコトヲ要ス

$$W.P.=\frac{(t-t_0)^2\times C}{a^2+b^2}\qquad t=\sqrt{\frac{W.P.\times(a^2+b^2)}{C}}+t_0$$

W.P. ハ最大汽壓 (kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ)

t ハ板ノ厚 (mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一ニテ)

a ハ支柱列間ノ距離 (mm 又ハ in ニテ)

b ハ各列ニ於ケル支柱ノ心距 (mm 又ハ in ニテ)

t_0 ハ定數ニシテ 0·8 (英式單位ナルトキ 1)

C ハ定數ニシテ次表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧內ノ數字ヲ用ウヘシ

支柱ノ配置カ正方形又ハ長方形ヲ爲サザルトキハ a^2+b^2 ノ代リニ d^2 ヲ用ウルコトヲ要ス此ノ場合ニ於ケル d ハ三箇以上ノ支點(支柱ノ中心又ハ曲緣ノ起點)ヲ通シテ畫キタル圓ノ中其ノ最大ナルモノノ徑トス

前項ノ場合ニ於ケル定數 C ハ各支點ノ支柱取附法ニ該當スル定數ノ平均トス

支柱取附法ノ種類	C	
	板カ火焔ノ接觸ヲ受クルトキ	板カ火焔ノ接觸ヲ受ケサルトキ
(一) 支柱ヲ板ニ捻込ミ且ツ其ノ端ヲ鋲締スルトキ	3,600 (50)	4,100 (57)
(二) 支柱管ヲ管板ニ捻込ミ且ツ之ヲ擴張スルトキ	3,740 (52)	
(三) (二)ノ取附法ニシテ支柱管ヲ母螺ニテ締ムルトキ	5,180 (72)	
(四) 支柱ヲ板ニ捻込ミ且ツ其ノ外端ヲ母螺ニテ締ムルトキ	5,400 (75)	6,200 (86)
(五) 支柱ヲ板ニ挿込ミ且ツ板ノ内外ヨリ母螺ニテ締ムルトキ		6,900 (96)
(六) 板ノ厚ノ2½倍以下ノ內半徑ヲ有スル曲線ヲ以テ板ヲ補强スルトキ	6,900 (96)	7,900 (110)

(一)ノ場合ニ於ケル板ノ厚ハ規定ニ依ル支柱ノ徑ノ二分ノ一以上ナルコトヲ要ス

(六)ノ場合ニ於ケル板ハ曲線ノ起點ニ於テ支柱ヲ有スルモノト看做シ其ノ心距ヲ定ムルコトヲ要ス

燃燒室ノ管板又ハ背板ニ於ケル曲線ノ起點ト之ニ隣接スル頂板又ハ側板ニ於ケル支柱列トノ距離ハ支柱列間ノ距離 a 以下ナルコトヲ要ス

燃燒室ノ支柱ハ成ルヘク母螺ヲ取外スコトナクシテ板ノ接合部ヲ塡隙シ得ヘキ樣之ヲ配置スヘシ

燃燒室ノ頂板ト側板トノ接合部ニ於ケル彎曲ノ外半徑カ規定ニ依ル支梁心距ノ二分ノ一未滿ナルトキハ側板ノ內面ト之ニ隣接スル支梁中心線トノ距離ヲ上記ノ支梁心距以下ト爲スヘシ

前項彎曲ノ外半徑カ規定ニ依ル支梁心距ノ二分ノ一ヲ超ユルトキハ彎曲ノ起點ト之ニ隣接スル支梁中心線トノ距離ヲ上記支梁心距ノ二分ノ一以下ト爲スヘシ

平板ノ一局部ニ於テ之ヲ支フル支柱ノ取附法カ一樣ナラサルトキハ定數 C ハ當該各支柱ノ取附法ニ該當スル定數ノ平均トス

第八條 大ナル座金、條板又ハ覆板ヲ有スル平板

平板ニ支柱ヲ挿込ミ內外ヨリ母螺ニテ締ムル場合ニ於テ外面ニ大ナル座金、條板又ハ覆板ヲ當テ之ヲ補强スルトキハ次ノ各號ニ掲クル算式ニ依リ其ノ强力ヲ定ムルコトヲ要ス

前項ノ座金、條板又ハ覆板ノ厚ハ平板ノ厚ヲ超エ且ツ其三分ノ二以上ナルコトヲ要ス

一、支柱徑ノ $3\frac{1}{2}$ 倍以上ノ徑ヲ有スル座金ヲ取附クルトキ

$$W.P.=\frac{C}{a^2+b^2}[(t-t_0)^2+0{\cdot}15\,t_w^2]$$

$$t=\sqrt{\frac{W.P.\times(a^2+b^2)}{C}-0{\cdot}15\,t_w^2}+t_0$$

二、支柱心距ノ三分ノ二以上ノ徑ヲ有スル座金ヲ鋲釘ニテ取附クルトキ

$$W.P.=\frac{C}{a^2+b^2}[(t-t_0)^2+0{\cdot}35\,t_w^2]$$

$$t=\sqrt{\frac{W.P.\times(a^2+b^2)}{C}-0{\cdot}35\,t_w^2}+t_0$$

三、支柱心距ノ三分ノ二以上ノ幅ヲ有スル條板ヲ鋲釘ニテ取附クルトキ

$$W.P.=\frac{C}{a^2+b^2}[(t-t_0)^2+0{\cdot}55\,t_w^2]$$

$$t=\sqrt{\frac{W.P.\times(a^2+b^2)}{C}-0{\cdot}55\,t_w^2}+t_0$$

四、覆板ヲ鋲釘ニテ取附クルトキ

$$W.P.=\frac{C}{a^2+b^2}[(t-t_0)^2+0{\cdot}85\,t_w^2]$$

$$t=\sqrt{\frac{W.P.\times(a^2+b^2)}{C}-0{\cdot}85\,t_w}+t_0$$

t_w ハ座金、條板又ハ覆板ノ厚 （mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一ニテ）

C ハ定數ニシテ 7,200（英式單位ナルトキ 100）

W.P., t, t_0, a 及 b ハ前條ニ同シ

第九條 管 板

燃燒室內ニ於ケル支柱管端ニハ母螺ヲ取附クルコトヲ得ス

煙管巢ニ於ケル管板ノ强力ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

$$W.P.=\frac{C(t-t_0)^2}{p^2} \qquad t=\sqrt{\frac{W.P.\times p^2}{C}}+t_0$$

W.P. ハ最大汽壓（kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ）

t ハ管板ノ厚（mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一 ニテ）

p ハ支柱管ノ平均心距（mm 又ハ in ニテ）ニシテ支柱管ノ中心ヲ連結スル四角形ノ四邊ノ和ヲ 4 ニテ除シタル商

t_0 ハ定數ニシテ 0·8（英式單位ナルトキ 1）

C ハ定數ニシテ次表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧內ノ數字ヲ用ウヘシ

支柱管取附法ノ種類	C
支柱管ヲ捻込ミ且ツ之ヲ擴張シ母螺ヲ取附ケサルトキ	2,740 (38)
支柱管ヲ捻込ミ且ツ之ヲ擴張シ母螺ヲ取附クルトキ	3,530 (49)

煙管巢間及煙管巢ト胴板トノ間ノ充水部ニ於ケル前管板ノ强力ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

$$W.P.=\frac{C\left[(t-t_0)^2+0{\cdot}55\,t_w^2\right]}{a^2+b^2}$$

$$t=\sqrt{\frac{W.P.(a^2+b^2)}{C}-0{\cdot}55\,t_w^2}+t_0$$

W.P. ハ最大汽壓（kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ）

t ハ前管板ノ厚（mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一 ニテ）

t_w ハ覆板ノ厚（mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一 ニテ）

a ハ充水部ノ兩側ニ於ケル支柱管列間ノ水平距離（mm 又ハ in ニテ）

b ハ充水部ノ兩側ニ於ケル支柱管ノ垂直心距（mm 又ハ in ニテ）

t_0 ハ定數ニシテ 0·8（英式單位ナルトキ 1）

C ハ定數ニシテ次表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧內ノ數字ヲ用ウヘシ

端列ニ於ケル支柱管取附法ノ種類	C
支柱管ヲ捻込ミ且ツ之ヲ擴張シ母螺ヲ取附ケサルトキ	3,740 (52)
支柱管ヲ捻込ミ且ツ之ヲ擴張シ各支柱管ニ母螺ヲ取附クルトキ	5,180 (72)
支柱管ヲ捻込ミ且ツ之ヲ擴張シ支柱管一本置ニ母螺ヲ取附クルトキ	4,540 (63)

第十條 管板ノ抗壓力

管板ノ抗壓力ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

$$W.P.=C\times\frac{(D-d)\times t}{W\times D} \qquad t=\frac{W.P.\times W\times D}{C\,(D-d)}$$

W.P. ハ最大汽壓（kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ）

t ハ管板ノ厚（mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一ニテ）

D ハ煙管ノ水平心距（mm 又ハ in ニテ）

d ハ煙管ノ內徑（mm 又 in ニテ）

W ハ燃燒室ノ幅（mm 又ハ in ニテ）ニシテ管板、背板各內面間ノ距離、又兩口汽罐ニ於テ前後ニ共通ナル燃燒室ニ在リテハ兩管板內面間ノ距離

C ハ定數ニシテ 1,970（英式單位ナルトキ 875）

前項ノ算式ニ於テハ板ノ抗壓力ヲ 9·8 kg/mm² (14,000 lbs/in²) トス

第十一條 煙 管

烟管ノ徑、厚及最大汽壓ハ次表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

外徑 mm (in)	標準厚 mm (L.S.G.)	最大汽壓 kg/cm² (lbs/in²)	標準厚 mm (L.S.G.)	最大汽壓 kg/cm² (lbs/in²)	標準厚 mm (L.S.G.)	最大汽壓 kg/cm² (lbs/in²)	標準厚 mm (L.S.G.)	最大汽壓 kg/cm² (lbs/in²)
51 (2)			3·00 (11)	11 (155)	3·25 (10)	15 (215)	3·65 (9)	21 (300)
57 ($2\frac{1}{4}$)	3·00 (11)	10 (140)	3·25 (10)	13·5 (190)	3·65 (9)	18 (260)	4·00 (8)	22 (315)
63·5 ($2\frac{1}{2}$)	3·00 (11)	9 (125)	3·25 (10)	12·5 (175)	3·65 (9)	16 (230)	4·00 (8)	21 (300)
70 ($2\frac{3}{4}$)	3·00 (11)	8 (110)	3·25 (10)	11 (160)	3·65 (9)	15 (215)	4·00 (8)	19·5 (275)
76 (3)	3·25 (10)	10 (140)	3·65 (9)	13·5 (190)	4·00 (8)	17·5 (250)	4·5 (7)	21 (300)
82·5 ($3\frac{1}{4}$)	3·25 (10)	9 (130)	3·65 (9)	12·5 (180)	4·00 (8)	16 (230)	4·5 (7)	19·5 (280)
89 ($3\frac{1}{2}$)	3·25 (10)	8·5 (120)	3·65 (9)	11·5 (165)	4·00 (8)	15 (215)	4·5 (7)	18 (260)

第十二條 支　　梁

燃燒室ノ頂板ヲ支フル支梁ノ强力ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

$$W.P.=\frac{C\times d^2\times t}{(L-p)\times D\times L}\times\frac{S}{f}\qquad t=\frac{W.P.\times(L-p)\times D\times L\times f}{C\times d^2\times S}$$

W.P. ハ最大汽壓 (kg/cm² 又ハ lbs/in² ＝テ)

d ハ支梁中央部ノ深 (mm 又ハ in ＝テ)

t ハ支梁中央部ノ厚 (mm ＝テ又ハ in ノ三十二分ノ一ニテ) ＝シテ支梁カ二枚合ナルトキハ各厚ノ和トス

L ハ支梁ノ長 (mm 又ハ in ＝テ) ＝シテ管板、背板各内面間ノ距離、又兩口汽罐ニ於テ前後ニ共通ナル燃燒室ニ在リテハ兩管板内面間ノ距離

p ハ支梁上ニ在ル支柱ノ心距 (mm 又ハ in ＝テ)

D ハ支梁ノ心距 (mm 又ハ in ＝テ)

S ハ支梁カ鋼板製ナルトキハ其ノ最小抗張力 (kg/mm² 又ハ tons/in² ＝テ)、錬鐵製ナルトキハ 38 (英式單位ナルトキ 24) 又鍛鋼製ナルトキハ 44 (英式單位ナルトキ 28)

f ハ定數ニシテ 44 (英式單位ナルトキ 28)

C ハ次ノ各號ニ依ル

(甲) 各支梁ニ備フル支柱ノ數カ奇數ナルトキ

$$\frac{n}{n+1}\times k$$

(乙) 各支梁ニ備フル支柱ノ數カ偶數ナルトキ

$$\frac{n+1}{n+2}\times k$$

n ハ各支梁上ニ在ル支柱ノ數

k ハ定數ニシテ 1,110 (英式單位ナルトキ 495)

第十三條 支　　柱

支柱ノ强力ハ次ノ各號ニ掲クル算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

一、螺旋支柱ニシテ螺糸ノ數カ 25·4 mm (1 in) ＝付九個以上ナルトキ

$$W.P.=\frac{(d-d_0)^2\times C}{a}\qquad d=\sqrt{\frac{W.P.\times a}{C}}+d_0$$

螺旋支柱ノ內力ハ 6·33 kg/mm² (9,000 lbs/in²) ヲ超ユルコトヲ得ス

二、主支柱ニシテ螺糸ノ數カ 25·4 mm (1 in) ＝付六箇以上ナルトキ

(甲) 鋼製主支柱

$$W.P.=\frac{(d-d_0)^2\times C}{a}\times\frac{S}{f}\qquad d=\sqrt{\frac{W.P.\times a\times f}{C\times S}}+d_0$$

最小抗張力 44 kg/mm² (28 tons/in²) ノ鋼圓材ヲ用ヰテ製造シタル主

支柱ノ內力ハ 7·73 kg/mm² (11,000 lbs/in²) ヲ超ユルコトヲ得ス

（乙） 鐵製主支柱

$$W.P.=\frac{(d-d_0)^2\times C}{a} \qquad d=\sqrt{\frac{W.P.\times a}{C}}+d_0$$

三、主支柱ニシテ螺糸ノ數カ 25.4 mm (1 in) ニ付六箇未滿ナルトキ又ハ其ノ兩端ニ於テ幹部ヨリ大ナル徑ヲ有シ且ツ螺糸ノ底部ニ於ケル徑カ幹部ノ徑ヨリ大ナルトキ

（甲） 鋼製主支柱

$$W.P.=\frac{(d_1-d_0)^2\times C}{a}\times\frac{S}{f} \qquad d_1=\sqrt{\frac{W.P.\times a\times f}{C\times S}}+d_0$$

（乙） 鐵製主支柱

$$W.P.=\frac{(d_1-d_0)^2\times C}{a} \qquad d_1=\sqrt{\frac{W.P.\times a}{C}}+d_0$$

W.P. ハ最大汽壓 (kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ)

d ハ支柱ノ螺糸頂部ニ於ケル徑 (mm 又ハ in ニテ)

d_1 ハ支柱ノ螺糸底部ニ於ケル徑又ハ支柱幹部ノ最小徑 (mm 又ハ in ニテ)

a ハ各支柱ノ支フル面積 (mm² 又ハ in² ニテ)

S ハ鋼丸棒ノ最小抗張力 (kg/mm² 又ハ tons/in² ニテ)

f ハ定數ニシテ 44 (英式單位ナルトキ 28)

d_0 及 C ハ定數ニシテ次表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧內ノ數字ヲ用ウヘシ

定數 d_0

支柱ノ種類	d_0
螺旋支柱ナルトキ	6·8 (0·267)
本條第二號ノ主支柱ナルトキ	8·6 (0·340)
本條第三號ノ主支柱ナルトキ	3·2 (0·125)

定數 C

支柱ノ種類	C
鋼製又ハ第三十五章第十一條ノ試驗ニ合格シタル鐵丸棒ヲ用キテ製造シタル螺旋支柱ナルトキ	580 (8,250)
第三十五章第十一條ノ試驗ヲ行ハサル鐵丸棒ヲ用キテ製造シタル螺旋支柱ナルトキ	460 (6,500)
鋼製主支柱ナルトキ	670 (9,500)
鐵製主支柱ニシテ鍛接セサルモノナルトキ	490 (7,000)
鐵製主支柱ニシテ鍛接シタルモノナルトキ	350 (5,000)

第十四條 支柱管

鐵製支柱管及累鍛接鋼製支柱管ノ內力ハ螺絲底部ノ斷面積ニ於テ 5·27 kg/mm² (7,500 lbs/in²) ヲ超ユルコトヲ得ス

支柱管ノ最小厚ハ螺絲ノ底部ニ於テ之ヲ測リ焔管巣ノ周圍ニ於ケル支柱管ニ在リテハ 6·13mm(0·241in) 以上、又其ノ他ノモノニ在リテハ 4·55mm(0·179in) 以上ナルコトヲ要ス

一般構造

第十五條 胴板ト鏡板トノ接合

常形胴板ト鏡板トノ鋲釘接合ノ强率ハ 42% 以上ナルコトヲ要ス

胴板ノ厚 16mm($\frac{5}{8}$in) ヲ超ユルトキハ胴板ト鏡板トノ接合ヲ二列鋲釘ト爲スコトヲ要ス

第十六條 胴板ノ周圍接合

常形胴板ノ中央部ニ於ケル周圍接合ノ强率ハ單口汽罐ニ在リテハ 60% 以上又兩口汽罐ニ在リテハ 62% 以上ト爲スヘシ

周圍接合ニ於ケル鋲釘列ノ數ハ次表ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

汽鑵ノ種類	胴板ノ厚	鋲釘
單口汽鑵	35 mm ($1\frac{3}{8}$ in) ヲ超ユルトキ	三列
兩口汽鑵	13 mm ($\frac{1}{2}$ in) ヲ超ユルトキ	二列以上
	30 mm ($1\frac{3}{16}$ in) ヲ超ユルトキ	三列

第十七條　板ノ鍛接其ノ他ノ工事

鍛接シタル鋼板ハ直接張力ヲ受クル箇所ニ使用スルコトヲ得ス但シ鍛接シタル上覆板ヲ施シタルモノハ此限ニ在ラス

小汽鑵ヲ厚 13 mm ($\frac{1}{2}$in) 以下ノ鋼板ヲ用キテ製造スル場合ニ於テ鋲打ニ依リ板ヲ鍛接スルトキハ本會ニ於テ同意シタル場合ニ限リ覆板ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル鍛接ノ强率ハ 50% ト看做ス

鍛接、皿形又ハ曲緣ヲ施シ若ハ一部ヲ加熱シテ加工シタル鋼板ハ工事後適當ニ燒鈍スルコトヲ要ス

第十八條　覆板ハ板ヲ用キテ製造スルコトヲ要ス壓延條材ハ之ニ使用スルコトヲ得ス

第十九條　鋲釘孔

鋲釘孔ハ適當ニ錐揉スルコトヲ要ス又出來得ル限リ板ヲ組立テタル儘錐揉スヘシ

鋲釘孔ハ其ノ「返リ」ヲ削除シ、板ノ接合面ヲ掃除シ孔ノ外緣ニ於ケル尖端ヲ削除スヘシ

第二十條　支柱ノ製法其ノ他

鋼製支柱ハ鍛接スルコトヲ得ス

鋼製支柱ハ丸棒ノ兩端ヲ壓大スルカ又ハ其ノ中央部ヲ伸延シテ之ヲ製造スルコトヲ得

前項ノ製法中其ノ何レカニ依ルトキハ工事後其ノ支柱全部ヲ燒鈍スルコトヲ要ス

兩口汽鑵ニ在リテハ全通主支柱ヲ其ノ中央部ニ於テ支持スルコトヲ要ス

燃燒室ノ螺旋支柱ニシテ母螺ヲ取附クルモノハ成ルヘク板ニ垂直ト爲スヘシ

前項ノ規定ニ依リ難キトキハ母螺ト板トノ間ニ勾配ヲ有スル座金ヲ挿入スルコトヲ要ス

螺旋支柱ハ成ルヘク其ノ外端ニ於テ軸心ニ小孔ヲ穿チ徑ヲ 5 mm ($\frac{3}{16}$in)、深ヲ胴板又ハ鏡板內面ヲ超ユルコト 13 mm ($\frac{1}{2}$in) ト爲スヘシ

第二十一條　支柱螺系數

主支柱又ハ螺旋支柱ニ於ケル螺糸ノ數ハ次ノ各號ニ依ルヘシ

一、徑 32 mm ($1\frac{1}{4}$in) 以上ノ螺旋支柱ナルトキ　25·4 mm (1 in) ニ付九個

二、徑 50 mm (2 in) 以上ノ支柱ヲ板ニ挿込ミ且ツ板ノ內外ヨリ母螺ニテ締ムルトキ　25·4 mm (1 in) ニ付六箇以下

螺旋支柱ノ兩板間ニ於ケル部分ハ成ルヘク螺糸ヲ削除スヘシ

第二十二條　胴板ニ於ケル螺旋支柱ノ配置

胴板ニ於テ四箇以上ノ螺旋支柱ヲ同一水平線ニ配置スルトキハ次ノ算式ニ依リ計算シタル强率ヲ胴板ニ於ケル縱接合ノ所要强率以上ト爲スヘシ

$$\frac{100\,(p-d)}{p}$$

d ハ螺旋支柱ノ徑（mm 又ハ in ニテ）

p ハ螺旋支柱ノ水平心距（mm 又ハ in ニテ）

前項ノ規定ニ依リ難キトキハ螺旋支柱ヲ千鳥形ニ配置スルコトヲ要ス

第二十三條　燃燒室ノ螺旋支柱ニ於ケル母螺ノ最小厚ハ次表ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

主支柱ノ母螺ハ母螺ニ關スル英國標準規格ニ依リ板ノ外側ニ在ルモノハ普通ノ母螺ニ準シ、板ノ內側ニ在ルモノハ副母螺ニ準シ夫々支柱ノ徑ニ相當スルモノト爲スコトヲ要ス

母螺ハ錬鐵又ハ鍛接セサル軟鋼ヲ用キテ之ヲ製造スルコトヲ要ス又鐵製ニシテ火焔ニ接觸スヘキモノニ在リテハ之ヲ鍛接スルコトヲ得ス

螺糸ノ頂部ニ於ケル螺旋支柱ノ徑	母螺ノ厚
38 mm ($1\frac{1}{2}$ in) 以下	19 mm ($\frac{3}{4}$ in)
41 mm ($1\frac{5}{8}$ in), 45 mm ($1\frac{3}{4}$ in)	22 mm ($\frac{7}{8}$ in)
48 mm ($1\frac{7}{8}$ in), 50 mm (2 in)	25 mm (1 in)
50 mm (2 in) ヲ超ユルトキ	29 mm ($1\frac{1}{8}$ in)

第二十四條 充汽部ニ於ケル鏡板ニシテ煙路ノ一部ヲ構成スルモノニハ防板ヲ備ヘ火焔ノ接觸ヲ防クコトヲ要ス

第二十五條 管板ニ於ケル主支柱

栓接合ヲ有スル主支柱ヲ前後兩管板間ニ取附クルトキハ次ノ各號ニ掲クル構造ト爲スヘシ

一、栓ノ有效截面積ハ成ルヘク支柱ノ有效截面積ノ $1\frac{1}{4}$ 倍ト爲スヘシ

二、栓徑ト栓孔徑トノ差ハ 1·6 mm ($\frac{1}{16}$in) 以下ト爲スヘシ

三、栓ハ出來得ル限リ「アイ　フオージング」(Eye forging) ノ鍔ニ接近セシムヘシ

四、「アイ　フオージング」ニハ其ノ管板ニ接スル部分ニ鍔ヲ備ヘ其ノ徑ヲ少クトモ管板ノ孔徑ニ 25 mm (1 in) ヲ加ヘタルモノト爲スヘシ

第二十六條 檢査及掃除ニ關スル裝置

汽罐ニハ火焔ノ接觸ヲ受クル板及管ヲ檢査又ハ掃除スル爲メ罐內ニ出入シ得ヘキ適當ナル裝置ヲ設クヘシ

小汽罐ノ場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ難キトキハ之ヲ掃除スルニ十分ナル徑ヲ有スル泥孔及覗孔ヲ適當ニ設クルコトヲ要ス

第二十七條 筩形胴板ニ於ケル人孔ハ其ノ短徑ヲ罐ノ長ニ竝行セシムルコトヲ要ス

第二十八條 平板ニ於ケル人孔及泥孔

平板ニ於ケル人孔又ハ覗孔ヲ曲緣ヲ以テ補强スルトキハ曲緣ノ深ヲ少クトモ次ノ算式ニ依リ計算シタルモノト爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於ケル平板ハ孔ヲ有セサルモノト同等ノ强力ヲ有スルモノト看做ス

$$D=\sqrt{t\times W}$$

D ハ曲緣ノ深 (mm 又ハ in ニテ) ニシテ板ノ外面ヨリ測リタルモノ

t ハ板ノ厚 (mm 又ハ in ニテ)

W ハ孔ノ短徑 (mm 又ハ in ニテ)

第二十九條 人孔ノ補强環

筩形胴板ニ人孔ヲ設クルトキハ之ニ補强環ヲ取附ケ其ノ强率ヲ胴板ノ縱接合ニ於ケル所要强率以上ト爲スコトヲ要ス

第三十條 附屬品ヲ取附クル場合ノ補强

瓣又ハ其ノ他ノ附屬品ヲ取附クル爲メ胴板ニ孔ヲ穿ツ場合ニ於テ孔徑カ板ノ厚ノ $2\frac{1}{2}$ 倍ニ 70 mm ($2\frac{3}{4}$in) ヲ加ヘタルモノヲ超ユルトキハ人孔ノ場合ニ準シ之ヲ補强スルコトヲ要ス

第三十一條 人孔、泥孔及覗孔ノ蓋ハ板ヲ二枚合ト爲スカ、板ヲ所要ノ形ニ「プレツス」シタル上燒鈍スルカ、又ハ板ノ周圍ニ箍帶ヲ施スヘキ機械仕上ノ溝ヲ穿ツカ、其ノ中何レカノ方法ニ依リ之ヲ製造スルコトヲ要ス

蓋ノ突出部ハ其ノ周圍ニ於テ 1·6 mm ($\frac{1}{16}$in) ヲ超ユル遊隙ヲ有スルコトヲ得ス

蓋ノ植込螺釘ハ板ニ捻込ミタル上其ノ內端ニ母螺ヲ取附クヘシ又頭部ヲ有スル螺釘ヲ用ウルトキハ板ノ內側ヨリ之ヲ捻込ムヘシ

第三十二條 支柱管ノ兩端ニ於ケル螺糸及兩管板ニ於テ之ニ該當スル螺糸ハ前後相連續スルモノナルコトヲ要ス

支柱管ノ螺糸ハ 25·4 mm (1 in) ニ付九箇ヲ標準數トス但シ之ニ依ラサルトキト雖モ 25·4 mm (1 in) ニ付十箇以下ト爲スヘシ

支柱管ハ「ローラー」管擴器ヲ以テ之ヲ擴張スルコトヲ要ス又塡隙ノミニ依リ之ヲ水密ト爲スコトヲ得ス

支柱管ノ螺糸底部ニ於ケル厚ヲ其ノ幹部ノ厚ト略等シキモノト爲サントスルトキハ管ヲ脹大スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ鍛接又ハ鎔接スルコトヲ得ス又脹大シタル管ハ之ヲ燒鈍スルコトヲ要ス

第三十三條 汽罐ハ肋板又ハ内底板上出來得ル限リ高キ位置ニ之ヲ据附クルコトヲ要ス又汽罐下ノ空隙ハ本會ニ於テ特ニ同意シタル場合ヲ除クノ外 460 mm (18 in) 未滿ト爲スコトヲ得ス（第八章第十一條及第十一章第三條參照）

汽罐ノ底部ニハ成ルヘク適當ナル不傳熱裝置ヲ設クヘシ

汽罐臺ハ堅牢ナル構造ト爲シ其ノ圖面ハ承認ヲ受クルコトヲ要ス

汽罐ハ肘板又ハ支柱ヲ以テ固定シ前後左右ノ移動ヲ防クコトヲ要ス

汽罐附屬品

第三十四條 驗水器

汽罐ニハ少クトモ二箇ノ獨立驗水裝置ヲ備ヘ且ツ其ノ見易キ箇所ニ燃燒室最高部ヲ標示スルコトヲ要ス

驗水裝置ハ其ノ中一箇ヲ硝子驗水器又ハ之ト同等ノモノト爲スコトヲ要ス

最大内徑 4·9 m (16 ft) 以上ノ單口汽罐ニ在リテハ其ノ兩側ニ各硝子驗水器一箇ヲ備ヘ又徑 4·9 m (16 ft) 未滿ノ單口汽罐ニ在リテハ硝子驗水器一箇及驗水嘴子又ハ之ト同等ノモノ一組ヲ備フルコトヲ要ス

兩口汽罐ニ在リテハ兩端又ハ其ノ附近ニ於テ各硝子驗水器一箇及驗水嘴子又ハ之ト同等ノモノ一組ヲ備ヘ又硝子驗水器ハ左右相互ニ之ヲ配置スルコトヲ要ス

硝子驗水器ノ嘴子ハ硝子カ破損シタルトキ容易ニ閉鎖シ得ヘキモノナルコトヲ要ス

第三十五條 驗水嘴子ハ出來得ル限リ直接罐胴ニ取附クヘシ

驗水嘴子ハ少クトモ三箇ヲ以テ一組ト爲スコトヲ要ス但シ徑 2·3 m (7 ft 6 in) 以下ノ汽罐ニ在リテハ之ヲ二箇ト爲スコトヲ得

第三十六條 驗水器ノ管柱ハ次表ニ依リ其ノ徑ヲ定ムルコトヲ要ス

汽罐ノ徑	管柱ノ内徑
3 m (10 ft) ヲ超ユルトキ	63 mm ($2\frac{1}{2}$ in) 以上
3 m (10 ft) 以下ニシテ 2·3 m ($7\frac{1}{2}$ ft) ヲ超ユルトキ	50 mm (2 in) 以上
2·3 m ($7\frac{1}{2}$ ft) 以下ナルトキ	45 mm ($1\frac{3}{4}$ in) 以上

管柱ハ成ルヘク直接罐胴ニ取附クヘシ

管柱ヲ銅又ハ其ノ他ノ銹蝕シ難キ金屬製ノ管ヲ以テ汽罐ニ連結スルトキハ次表ニ依リ管ノ内徑ヲ定ムルコトヲ要ス

管柱ノ内徑	管ノ内徑
63 mm ($2\frac{1}{2}$ in)	38 mm ($1\frac{1}{2}$ in) 以上
50 mm (2 in)	32 mm ($1\frac{1}{4}$in) 以上
45 mm ($1\frac{3}{4}$in)	25 mm(1 in) 以上

管ト汽罐トノ間ニハ瓣又ハ嘴子ヲ備ヘ又管ノ上端ニハ水ノ停滯スヘキ彎曲部ヲ有セサルコトヲ要ス

管ハ煙路ヲ貫通スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サルトキハ煙路ヲ貫通スル圍壁ヲ設ケ管ノ周圍ニ 50 mm (2 in) 以上ノ通氣路ヲ設クルコトヲ要ス

第三十七條 驗鹽裝置

汽罐ニハ驗鹽嘴子又ハ瓣ヲ備ヘ便宜ノ箇所ニ於テ直接罐胴ニ取附クルコトヲ要ス

驗鹽嘴子又ハ瓣ハ之ヲ驗水器ノ管柱ニ取附クルコトヲ得ス

第三十八條 驗壓計

汽罐ニハ獨立ノ驗壓計ヲ備ヘ容易ニ見得ヘキ場所ニ之ヲ取附ケ又兩口汽罐ニ在リテハ之ヲ二箇ト爲シ罐ノ兩端ニ配置スルコトヲ要ス

第三十九條 給水瓣

汽罐ニハ少クトモ二箇ノ獨立給水裝置及之ニ連結スル獨立給水瓣ヲ備フルコト

ヲ要ス

副汽罐ニ在リテハ前項ノ給水裝置ノ中其ノ一箇ヲ給水注射器ト爲スコトヲ得

第四十條　放　水　瓣

汽罐ニハ放水瓣ヲ備ヘ直接罐胴ニ取附クルコトヲ要ス

放水瓣又ハ管ノ徑ハ汽罐ノ徑 1 m ニ付約 8·5 mm (1 ft ニ付約 $\frac{1}{10}$ in) ノ割合ト爲スヘシ但シ 38 mm ($1\frac{1}{2}$ in) ヲ超ユルコトヲ要セサルモ 19 mm ($\frac{3}{4}$ in) 未滿ト爲スヘカラス

第四十一條　放　水　管

二箇以上ノ汽罐ヲ有スルトキハ放水瓣又ハ表面放水瓣ヲ一箇ノ共通放水管ニ連結スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ罐水ノ逆流ヲ防ク爲メ汽罐每ニ不還塞止瓣ヲ備フルコトヲ要ス

船體外板ニ取附クル放水嘴子又ハ瓣ハ汽罐室ノ床板線以上ニ於テ容易ニ接近シ得ヘキ場所ニ之ヲ設ケ且容易ニ其ノ開閉ヲ檢査シ得ヘキ樣裝置スルコトヲ要ス

放水嘴子ハ之ヲ閉鎖シタル後ニアラサレハ其ノ把手ヲ取外スコトヲ得サル構造ト爲シ又放水瓣ノ把輪ハ之ヲ瓣鋅ニ固著スルコトヲ要ス

第四十二條　主及補助塞汽瓣

汽罐ニハ主塞汽瓣一箇ヲ備ヘ直接罐胴ニ取附クルコトヲ要ス

補助塞汽瓣ハ出來得ル限リ其ノ數ヲ減シ必要ナル場合ヲ除クノ外罐胴ニ孔ヲ穿ツコトナキ樣設計スルコトヲ要ス

二箇以上ノ汽罐ヲ有スルトキハ汽笛、操舵汽機又ハ發電汽機用ノ蒸氣ヲ少クトモ二箇ノ汽罐ヨリ供給シ得ヘキ樣補助塞汽瓣ヲ配置スルコトヲ要ス

第四十三條　安　全　瓣

汽罐ニハ二箇以上ノ安全瓣ヲ備ヘ次ノ各號ニ揭クル規定ニ適合スル樣之ヲ裝置スルコトヲ要ス

一、發條及瓣ヲ匣內ニ裝置スルコト

二、瓣ノ荷重ヲ最大汽壓ニ相當スルモノ以上ニ增スコトヲ得サルコト

三、瓣ハ揚瓣裝置ヲ以テ之ヲ揚開シ又手ヲ以テ瓣座上ニ旋回シ得ルコト

四、瓣ハ發條カ破損スルコトアルモ瓣座ヨリ脫出セサルコト

揚瓣裝置ハ容易ニ接近シ得ヘキ安全ナル場所ニ於テ汽罐每ニ其ノ瓣ヲ悉ク且ツ同時ニ揚開シ得ルモノナルコトヲ要ス

安全瓣ハ汽罐每ニ一箇ノ匣內ニ裝置スルコトヲ得又該瓣匣ハ其ノ他ノ瓣匣ト別箇ノモノト爲シ直接罐胴ニ取附クルコトヲ要ス

安全瓣匣ノ頸部ハ强固ナル構造ト爲スコトヲ要ス又其ノ通汽路ニハ瓣ノ總面積ノ二分ノ一以上ノ截面積ヲ有セシムヘシ

安全瓣匣ニハ排水裝置ヲ備ヘ排水管ハ直接船底又ハ水槽ニ之ヲ導クコトヲ要ス

安全瓣ノ徑ハ 38 mm ($1\frac{1}{2}$ in) 以上ニシテ普通型ノモノニ在リテハ次ノ算式ニ依リ其ノ最小總面積ヲ定ムルコトヲ要ス

次ノ算式ハ石炭又ハ油ヲ燃料ト爲スモノ、又自然通風ナルモノ又ハ强壓若ハ誘引通風裝置ヲ有スルモノ其ノ何レニモ之ヲ適用ス

$$A = H \times \left(\frac{K}{W.P. + p_0}\right)$$

A ハ安全瓣ノ總面積（mm^2 又ハ in^2　ニテ）

H ハ汽罐ノ受熱面積（m^2 又ハ ft^2　ニテ）

W.P. ハ最大汽壓（kg/cm^2 又ハ lbs/in^2　ニテ）

p_0 ハ定數ニシテ 1（英式單位ナルトキ 15）

K ハ定數ニシテ次表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧內ノ數字ヲ用ウヘシ

燃料及通風裝置ノ種類	K
石炭ヲ燃料トスルトキ	610 (1·25)
油ヲ燃料トスルトキ又ハ汽罐室密閉式强壓通風裝置ヲ有スルトキ	733 (1·5)

普通ノ型ト異ル安全瓣ヲ使用セントスルトキハ特ニ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第四十四條　排　汽　管

排汽管又ハ之ニ連結スル通汽路ノ截面積ハ少クトモ前條ノ規定ニ依リ定メタル安全瓣ノ總面積ノ 1·1 倍ト爲スヘシ

第四十五條 過熱器ノ安全瓣及排水裝置

過熱器ヲ有スル汽罐ニ於テ兩者ノ間ニ其ノ連結ヲ遮斷シ得ヘキ裝置ヲ有スルトキハ過熱器ニモ安全瓣ヲ備ヘ揚瓣裝置其ノ他ヲ設クルコトヲ要ス

前項ノ安全瓣ノ構造ハ汽罐ノ安全瓣ニ關スル規定ニ依ルコトヲ要ス但シ此ノ場合ニ於ケル揚瓣裝置ハ汽罐室ニ於テノミ之ヲ操縱シ得ヘキモノト爲スコトヲ得

過熱器ニハ排水嘴子又ハ排水瓣ヲ備フルコトヲ要ス

第四十六條 汽罐附屬品ノ設計

汽罐ニ取附クル瓣ニシテ徑 38 mm ($1\frac{1}{2}$ in) ヲ超ユルモノハ瓣鋌ノ螺旋部ヲ瓣匣外ニ裝置シ又瓣匣蓋ハ螺釘又ハ植込螺釘ヲ以テ取附クルコトヲ要ス

瓣ハ其ノ把輪ヲ右ニ回轉スルトキ之ヲ閉鎖シ得ヘキ構造ト爲スコトヲ要ス

嘴子又ハ瓣ニハ其ノ開閉ヲ容易ニ識別シ得ヘキ樣裝置ヲ設クルコトヲ要ス

汽罐附屬品ヲ植込螺釘ヲ以テ取附クルトキハ板ニ捻込ムヘキ螺旋部ノ長ヲ螺釘ノ徑以上ト爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ螺釘孔カ板ヲ貫通スルトキハ螺釘ヲ捻込ミタル上内端ニ母螺ヲ取附クルコトヲ要ス

汽罐附屬品ヲ頭部ヲ有スル螺釘ヲ以テ取附クルトキハ板ノ内側ヨリ之ヲ捻込ムコトヲ要ス

第四十七條 瓣匣用材料

塞汽瓣匣、安全瓣匣其ノ他汽管ノ附屬品ハ鑄鐵製ト爲スコトヲ得但シ蒸氣ノ溫度 218°C (425° F) ヲ超ユルトキハ鑄鋼又ハ本會ニ於テ承認スル材料ヲ用ヰテ之ヲ製造スルコトヲ要ス

竪　汽　罐

第四十八條 周圍接合

竪汽罐ノ胴板ニ於ケル周圍接合ノ强率ハ 42% 以上ナルコトヲ要ス

前項ノ接合ハ其ノ接合カ全周ニ亘ラサルトキ又ハ板ノ厚カ 16 mm ($\frac{5}{8}$in) ヲ超ユルトキハ二列鋲釘ト爲スコトヲ要ス

第四十九條 泥孔及覗孔（本章第二十八條乃至第三十一條參照）

横通管 (Cross tube) ヲ有スル竪汽罐ニハ管内ヲ掃除スル爲メ適當ナル裝置ヲ設クルコトヲ要ス

横通管ノ徑大ナルトキハ胴板ノ容易ニ接近シ得ヘキ部分ニ於テ管每ニ一箇ノ覗孔ヲ設ケ其ノ徑ヲ掃除及檢査ニ十分ナルモノト爲スコトヲ要ス

第五十條 平坦火爐

竪汽罐ノ竪平坦火爐ニシテ截頭圓錐形ナルモノニ付本章第六條ノ算式ヲ適用スルトキハ火爐ノ外徑及長ハ次ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一、火爐ノ外徑ハ其ノ頂部及底部ニ於ケル曲線又ハ補强環トノ接合部ニ於テ測リタル各外徑ノ平均トス

二、火爐平坦部ノ長ハ其ノ頂板ニ接合スル鋲釘列ノ中心線ヨリ底部ノ補强部ニ接合スル箇所迄又ハ胴板ト火爐トヲ貫ク螺旋支柱列ノ中心線迄ノ距離トス此ノ場合ニ於ケル螺旋支柱ノ心距ハ支柱端ヲ鋲締スルトキハ火爐板ノ厚ノ 14 倍以下、之ニ母螺ヲ取附クルトキ火爐板ノ厚ノ 16 倍以下ニシテ又其ノ螺糸上ノ徑ハ火爐板ノ厚ノ $2\frac{1}{4}$ 倍以上ナルコトヲ要ス

第五十一條 半球火爐

上方ニ凸出スル半球狀火爐ニシテ支柱又ハ其ノ他ノ補强ヲ有セサルトキハ次ノ算式ニ依リ其ノ强力ヲ定ムルコトヲ要ス

$$W.P. = \frac{C\,(t-t_0)}{R} \qquad t = \frac{W.P. \times R}{C} + t_0$$

W.P. ハ最大汽壓 (kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ)

t ハ頂板ノ厚 (mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一 ニテ)

R ハ半球ノ外半徑 (mm 又ハ in ニテ)

C 及 t_0 ハ定數ニシテ

$C=620$ (英式單位ナルトキ 275)

$t_0=0{\cdot}8$ (英式單位ナルトキ 1)

第五十二條 「オジー」環 (Ogee Ring)

「オジー」環ヲ以テ火爐ノ底部ヲ胴板ニ接合シ且ツ之ヲ以テ火爐ニ於ケル垂直方向ノ荷重ヲ悉ク支フルトキハ次ノ算式ニ依リ其ノ强力ヲ定ムルコトヲ要ス

$$W.P.=\frac{C\ (t-t_0)^2}{D\times(D-d)} \qquad t=\sqrt{\frac{W.P.\times(D-d)\times D}{C}}+t_0$$

W.P. ハ最大汽壓 (kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ)

t ハ「オジー」環ノ厚 (mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一 ニテ)

D ハ胴板ノ內徑 (mm 又ハ in ニテ)

d ハ火爐ノ底部ニ於ケル外徑 (mm 又ハ in ニテ) ニシテ火爐ト「オジー」環トノ接合部ニ於テ測リタルモノ

C 及 t_0 ハ定數ニシテ

$C=10{,}100$ (英式單位ナルトキ 140)

$t_0=0.8$ (英式單位ナルトキ 1)

第五十三條 焰管及管板

水平ノ焰管巢ヲ有スル竪汽罐ニ於テ管板カ垂直及水平ノ方向ニ胴板カ受クル荷重ト同一ノ荷重ヲ受クル構造ナルトキハ管板ノ厚及焰管ノ心距ヲ適當ニ定メ其ノ截面積ヲ胴板ノ强力以上ノ强力ヲ有セシムルニ十分ナルモノト爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ焰管巢ノ兩端ニ於ケル縱管列ニ一本置ニ支柱管ヲ配置シ又焰管巢ニ於ケル管板ハ本章第九條ノ規定ノ外次ノ算式ニ依リ其ノ强力ヲ定ムルコトヲ要ス

$$W.P.=\frac{(t-t_0)\times S\times(p-d)\times 100}{C\times D\times p}$$

$$t=\frac{W.P.\times D\times C\times p}{S\times(p-d)\times 100}+t_0$$

W.P. ハ最大汽壓 (kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ)

S ハ管板ノ最小抗張力 (kg/mm² 又ハ tons/in² ニテ)

t ハ管板ノ厚 (mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一 ニテ)

D ハ罐胴ノ中心線ヨリ焰管巢端ニ於ケル縱管列中心線迄ノ距離ノ 2 倍 (mm 又ハ in ニテ)

p ハ縱列ニ於ケル管ノ心距 (mm 又ハ in ニテ)

d ハ管板ニ於ケル管孔ノ徑 (mm 又ハ in ニテ)

t_0 及 C ハ定數ニシテ

$t_0=1{\cdot}6$ (英式單位ナルトキ 2)

$C=2{\cdot}03$ (英式單位ナルトキ 2·9)

第五十四條 外方ニ凸出スル皿形板

竪汽罐ノ端板其ノ他汽兜ノ端板等ニシテ外方ニ凸出スル皿形ヲ爲シ支柱ヲ有セサルトキハ次ノ算式ニ依リ其ノ强力ヲ定ムルコトヲ要ス

$$W.P.=\frac{C\times S(t-t_0)}{R} \qquad t=\frac{W.P.\times R}{C\times S}+t_0$$

W.P. ハ最大汽壓 (kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ)

t ハ端板ノ厚 (mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一 ニテ)

R ハ皿形ノ內半徑 (mm 又ハ in ニテ) ニシテ胴ノ徑ヲ超ユルコトヲ得ス

S ハ端板ノ最小抗張力 (kg/mm² 又ハ tons/in² ニテ)

C 及 t_0 ハ定數ニシテ

$C=21{\cdot}4$ (英式單位ナルトキ 15)

$t_0=0{\cdot}8$ (英式單位ナルトキ 1)

人孔ヲ有スル皿形板ニ在リテハ前項ノ算式ニ依リ計算シタル厚ニ 3 mm

($\frac{4}{32}$in) ヲ加フルコトヲ要ス

皿形板ニ於ケル曲緣ノ内半徑ハ少クトモ板ノ厚ノ4倍以上ニシテ且ツ 63 mm ($2\frac{1}{2}$in) 以上ナルコトヲ要ス

皿形板ノ人孔ニ於ケル曲緣ノ深ハ少クトモ次ノ算式ニ依リ計算シタルモノト爲スコトヲ要ス

$$D=\sqrt{t\times w}$$

D ハ曲緣ノ深（mm 又ハ in ニテ）ニシテ板ノ外面ヨリ測リタルモノ

t ハ端板ノ厚（mm 又ハ in ニテ）

w ハ人孔ノ短徑（mm 又ハ in ニテ）

二箇以上ノ板ヨリ成ル完全ナル半球狀ノ端板ニシテ支柱又ハ其ノ他ノ補强ヲ有セサルトキハ次ノ算式ニ依リ其ノ强力ヲ定ムルコトヲ要ス

$$W.P.=\frac{(t-t_0)\times S\times J}{C\times R} \qquad t=\frac{W.P.\times R\times C}{S\times J}+t_0$$

W.P. ハ最大汽壓（kg/cm^2 又ハ lbs/in^2 ニテ）

t ハ端板ノ厚（mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一ニテ）

S ハ端板ノ最小抗張力（kg/mm^2 又ハ $tons/in^2$ ニテ）

J ハ接合ノ强率

R ハ球ノ内半徑（mm 又ハ in ニテ）

t_0 ハ定數ニシテ 1·6（英式單位ナルトキ 2）

C ハ定數ニシテ次表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數字ヲ用ウヘシ

鋲釘列ノ數	C
單列	2·31 (3·30)
二列	2·03 (2·90)
三列	1·98 (2·83)

第五十五條 驗水器

竪汽罐ニハ二箇ノ獨立驗水裝置ヲ備ヘ其ノ中一箇ハ硝子驗水器ト爲スコトヲ要ス

高 2·15 m (7 ft) ヲ超ユル竪汽罐ノ驗水嘴子ハ少クトモ三箇ヲ以テ一組ト爲スコトヲ要ス

第五十六條 水壓試驗

汽罐又ハ過熱器ハ次ノ各號ニ掲クル水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

一、汽罐ハ最大汽壓力 7 kg/cm^2 (100 lbs/in^2) 以下ナルトキハ其ノ 2 倍、7 kg/cm^2 (100 lbs/in^2) ヲ超ユルトキハ其ノ $1\frac{1}{2}$ 倍ニ 3·5 kg/cm^2 (50 lbs/in^2) ヲ加ヘタルモノ

二、過熱器ハ最大汽壓ノ 2 倍

汽罐ノ塞汽瓣及其ノ他ノ附屬品ハ少クトモ最大汽壓ノ 2 倍ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス但シ給水瓣ノ試驗壓力ハ最大汽壓ノ 2·5 倍トス

安全瓣ハ汽力ヲ以テ之ヲ調整スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於ケル汽壓ハ計畫最大汽壓以上其ノ 3% ヲ超ユルコトヲ得ス

安全瓣ハ塞汽瓣ヲ閉チ十五分間十分ニ焚火スルモ倘汽壓ノ昇騰カ調整汽壓以上其ノ 10% ヲ超エサルコトヲ要ス

前項ノ試驗中ハ罐水ノ表面カ危險水準線ヲ下ラサル限リ給水ヲ爲ササルヲ可トス

第三十七章

水管汽罐及過熱器

第一條　一 般 構 造

水管汽罐ノ構造及之ニ用ウル鋼材竝其ノ試驗ニ關シ特ニ本章ニ規定ナキモノハ筩形汽罐ニ關スル規定ニ依ルコトヲ要ス

水管汽罐ノ火焔ニ接觸スル部分ハ總テ罐水ノ循環ヲ容易ナラシムル樣設計スルコトヲ要ス又其ノ高熱ニ暴露スル部分ハ成ルヘク罐水中ニ在ル固形物ノ沈澱ニ依リ危險ヲ惹起スル惧ナキ樣設計スヘシ

筩形「ドラム」ノ內徑カ其ノ縱接合部ニ於ケル板ノ厚ノ 100 倍未滿ナルトキハ縱接合ハ「ドラム」ノ內面カ橫截面ニ沿ヒ眞圓ヲ爲ス樣設計スルコトヲ要ス

「ドラム」又ハ管寄 (Header) ヲ連結スル管ニシテ蒸氣發生ノ際罐水ノ循環ヲ爲サシムルモノハ水平線ト 15 度以上傾斜セシムルコトヲ要ス但シ各管カ互ニ「シーリース」(series) ヲ成シ連續セル管聯ヲ構成スル汽罐ニ在リテハ前記ノ傾斜ヲ 5 度以上ト爲スモ妨ナシ

蒸氣「ドラム」ノ底部カ焚火ヨリ放射スル高熱ニ暴露シ又ハ高熱瓦斯ノ衝擊ヲ受クルモノナルトキハ當該部分ニ於ケル板ハ適當ニ其ノ厚ヲ減スルコトヲ要ス

第二條　管

管ハ第三十五章第十二條ノ規定ニ依リ製造シタル引拔鋼管ニシテ汽壓 44·25kg/cm²(650 lbs/in²) 以內計畫蒸氣溫度 393·8 °C (750°F)以內ニ使用スルモノニ在リテハ其ノ最小厚ハ次ニ揭クル二種ノ算式ニ依リ計算シ其ノ値ノ小ナルモノニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス但シ管ノ厚ハ 7·6mm(0·3in)ヲ超ユルコトヲ得ス

$$W.P.=\frac{(t-t_0)}{d}\times C \qquad t=\frac{W.P.\times d}{C}+t_0$$

又ハ　$$W.P.=\frac{(t-t_1)}{d}\times C_1-K \qquad t=\frac{d}{C_1}(W.P.+K)+t_1$$

W.P. ハ最大汽壓 (kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ)

d ハ管ノ外徑 (mm 又ハ in ニテ)

t ハ管ノ厚 (mm ニテ又ハ in ノ百分ノ一ニテ)

K ハ定數ニシテ 28 (英式單位ナキトキハ 400)

C, t_0, C_1 及 t_1 ハ定數ニシテ次表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧內ノ數字ヲ用ウヘシ

管 ノ 種 類	C	t_0	C_1	t_1
焚火竝高熱瓦斯ノ通路ニ面スル管列及其ノ次ノ管列ニ於ケル管ナルトキ	390(55)	1·8(7)	1406(200)	2·3(9)
前項以外ノ管及過熱器ニ用ウル管ナルトキ	530(75)	1·8(7)	1406(200)	1·5(6)

管ハ打込管擴器又ハ「ローラー」管擴器ニ依リ管板ニ於ケル管孔ニ丁寧ニ擴張スルコトヲ要ス

管ノ端末ハ管孔ニ於ケル管受部ヲ超エ 6mm ($\frac{1}{4}$in) 以上內方ニ突出セシメ脫出セサル樣其ノ兩端ヲ固定スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ管ノ端末ヲ鐘狀ニ擴大スルコトノミニ依リ之ヲ固定スルトキハ其ノ外端ニ於ケル徑ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$d'=d+\frac{1}{32}d+d_0$$

d' ハ鐘狀ニ擴大セル管端ノ外徑 (mm 又ハ in ニテ)

d ハ管ノ外徑 (mm 又ハ in ニテ)

d_0 ハ定數ニテ 1·6 (英式單位ナルトキ $\frac{2}{32}$)

第三條　管　板

筩形「ドラム」ノ一部ヲ構成スル管板ノ管孔部ニ於ケル最小厚ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

$$W.P.=\frac{(t-t_0)\times S\times J}{C\times D} \qquad t=\frac{W.P.\times C\times D}{S\times J}+t_0$$

W.P. ハ最大汽壓 (kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ)

D ハ「ドラム」ノ內徑 (mm 又ハ in ニテ)

t ハ管板ノ厚 (mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一ニテ)

S ハ管板ノ最小抗張力（kg/mm² 又ハ tons/in² ニテ）

J ハ管孔部ニ於ケル管板ノ强率ニシテ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

$$J=\frac{p-d}{p}\times100$$

p ハ「ドラム」ノ軸ノ方向ニ測リタル管ノ心距（mm 又ハ in ニテ）

d ハ管孔ノ徑（mm 又ハ in ニテ）

t_0 及 C ハ定數ニテ

$t_0=3{\cdot}2$（英式單位ナルトキ 4）

$C=2{\cdot}1$（英式單位ナルトキ 3）

「ドラム」、「ポケツト」又ハ管寄ノ管板ニ於ケル管孔ハ之ニ管ヲ十分ニ密著シ得ヘキモノナルコトヲ要ス

管ノ端カ管板ニ垂直ナラサルトキハ管孔ノ内面ニ於テ管ヲ其ノ軸ニ垂直ノ方向ニ圍繞スル部分ノ深ハ之ヲ管軸ノ方向ニ測リ13mm($\frac{1}{2}$in)以上ナルコトヲ要ス

管ノ端カ管板ニ垂直ナルトキ又ハ實用上垂直ト看做シ得ル場合ニ於テハ前項ノ深ハ 9·5mm($\frac{3}{8}$in) 以上トス

管板ハ其ノ接合部ニ於テ厚ヲ減スル場合ニハ勾配ヲ附シ丁寧ニ之ヲ機械仕上ト爲スコトヲ要ス

第四條　管寄（Header）其ノ他之ニ類スル部分品

管寄其ノ他之ニ類スル部分品ハ鍛鋼、鑄鋼又ハ其ノ他ノ承認スル材料ヲ用ヰテ之ヲ製造スヘシ

前項ノ鑄鋼材ハ第四章第十五條ノ規定ニ適合スルコトヲ要ス但シ抗張試驗ノ伸長率及屈曲試驗ノ角度ハ同條ニ掲ケタルモノヨリ夫々 5% 及 30 度ヲ減スルモ妨ナシ

管寄ノ平坦部又ハ之ニ類スル部分ニシテ管孔ヲ設ケサルモノノ最小厚ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

$$W.P.=\left(\frac{t-t_0}{b}\right)^2\times C \qquad t=b\sqrt{\frac{W.P.}{C}}+t_0$$

W.P. ハ最大汽壓（kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ）

t ハ平坦部ノ厚（mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一 ニテ）

b ハ平坦部ノ幅（mm 又ハ in ニテ）ニシテ兩支持部ノ内側ニ於テ測リタルモノ

t_0 ハ定數ニシテ 2·4（英式單位ナルトキ 3）

C ハ定數ニシテ次ノ各號ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數字ヲ用ウヘシ

一、鍛鋼ナルトキ　　5,830 (81)

二、鑄鋼ナルトキ　　4,600 (64)

管寄ニシテ焚火ヨリ放射スル高熱ニ暴露シ又ハ高熱瓦斯ノ衝擊ヲ受ケ且ツ蒸氣ノミヲ保有スルモノ（例ヘハ過熱器ニ於ケルモノノ如シ）ナルトキハ前項ノ厚ハ算式ニ依リ定メタルモノニ其ノ 12·5 %ヲ加フルコトヲ要ス

管寄ノ管孔部ニ於ケル最小厚ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

$$t=C\sqrt{d}+t_0$$

t ハ管孔部ノ厚（mm ニテ又ハ in ノ三十二分ノ一ニテ）

d ハ管孔ノ徑（mm 又ハ in ニテ）

t_0 及 C ハ定數ニシテ

$t_0=6{\cdot}35$（英式單位ナルトキ 8）

$C=0{\cdot}472$（英式單位ナルトキ 3）

管寄ノ覗孔ノ周圍ニ於テ其ノ蓋ニ接觸スル部分ハ之ヲ機械仕上ト爲シ其ノ面ヲ正確ナラシムルコトヲ要ス又該部ノ厚ハ前項ノ算式ニ依リ定メタル管孔部ノ厚ヨリ 2·4 mm($\frac{3}{32}$in) ヲ減シタルモノト爲スコトヲ得但シ 8 mm($\frac{5}{16}$in) ヲ下ルコトヲ得ス

覗孔ノ蓋ハ頑丈ナル構造ト爲シ取外及取附作業ヲ繰返スモ效力又ハ安全ヲ害スル惧ナキコトヲ要ス又之ヲ螺釘ニ依リ取附クル構造ト爲ストキハ螺釘ノ折損ニ際シ蓋カ吹飛サルル惧ナキ樣設計スルコトヲ要ス

耳鍔（Flange）ト頸部トノ連續部ニハ丸味ヲ附シ其ノ半徑ヲ頸部ノ厚以上ト爲

スコトヲ要ス

第五條 安全瓣

安全瓣ノ數、設計及構造ニ關シテハ第三十六章第四十三條ノ規定ニ依ルコトヲ要ス但シ瓣ノ總面積ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

$$A = T.H.S. \times \left(\frac{K}{W.P. + p_0}\right)$$

A ハ安全瓣ノ總面積 (mm^2 又ハ in^2 ニテ)

T.H.S. ハ管其ノ他蒸氣ヲ發生シ得ヘキ受熱部外面ノ總面積 (m^2 又ハ ft^2 ニテ)

W.P. ハ最大汽壓 (kg/cm^2 又ハ lbs/in^2 ニテ)

p_0 ハ定數ニシテ 1（英式單位ナルトキ 15）

K ハ定數ニシテ次表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數字ヲ用ウヘシ

燃料及通風裝置ノ種類	K
石炭ヲ燃料トシ且ツ自然通風ナルトキ	537 (1·1)
石炭ヲ燃料トシ且ツ强壓通風ナルトキ又ハ油ヲ燃料トスルトキ	610 (1·25)

排汽管又ハ之ト安全瓣トヲ連結スル通汽路ノ截面積ハ少クトモ安全瓣ノ總面積ノ 1·1 倍ト爲スコトヲ要ス

安全瓣ニハ蒸氣ノ蓄積試驗ヲ行フコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ塞汽瓣ヲ閉チ十分ニ焚火シ尙汽壓ノ昇騰カ瓣ノ調整汽壓以上其ノ 10% ヲ超エサルコトヲ要ス

前項ノ試驗ハ罐水ノ安全ニ持續スル限リ成ルヘク長時間之ヲ行フモノトス但シ七分間ヲ超ユルコトヲ要セス

第六條 塞汽瓣

二箇以上ノ汽罐ヲ連結スルトキハ塞汽瓣ハ成ルヘク自働閉塞式又ハ不還瓣ト爲スヲ可トス

第七條 驗水器

汽罐ニハ少クトモ二箇ノ驗水器ヲ備ヘ各驗水器ハ全ク獨立セル裝置ト爲スコトヲ要ス

前項ノ驗水器ノ中一箇ハ之ヲ硝子驗水器ト爲スコトヲ要ス其ノ他ハ之ト同等ノモノヲ代用スルモ妨ナシ但シ水及蒸氣ヲ保有スル「ドラム」ノ長カ 4 m (13f) ヲ超エ且ツ之ヲ船幅ノ方向ニ据附クルトキハ「ドラム」ノ兩端又ハ其ノ附近ニ於テ各一箇ノ硝子驗水器ヲ備フルコトヲ要ス

第八條 給水裝置

汽罐ニハ少クトモ二箇ノ全ク獨立セル給水裝置ヲ備ヘ其ノ給水瓣ハ各裝置ニ專屬トシ且ツ之ヲ直接汽罐ニ取附クルコトヲ要ス

前項ノ給水裝置ノ中少クトモ一箇ニハ給水ヲ自働的ニ加減シ得ヘキ裝置ニシテ委員會ノ承認ヲ受ケタルモノヲ備フルコトヲ要ス

給水瓣ニハ焚火室ノ床板上又ハ其ノ他容易ニ接近シ得ヘキ場所ニ於テ之ヲ開閉シ得ヘキ適當ナル裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第九條 人孔

「ドラム」ニハ總テ其ノ内部ノ檢査又ハ管ノ取附作業ヲ完全ニ行フ爲メ其ノ部分ニ接近スルニ十分ナル徑ヲ有スル人孔ヲ設クルコトヲ要ス

第十條 水管汽罐及過熱器ハ完成シタルトキ次ノ各號ニ掲クル水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

一、水管汽罐ハ最大汽壓ノ $1\frac{1}{2}$ 倍ニ $3·5\,kg/cm^2$ ($50\,lbs/in^2$) ヲ加ヘタルモノ

二、過熱器ハ最大汽壓ノ 2 倍

第三十八章
燃　油　裝　置

本會ノ船級登錄ヲ受ケントスル外國船ニ付テハ第一章第十條ヲ參照セラルヘシ

第一條 燃料油ヲ搭載スル船ニ於テ搭載油ノ引火點（「エーベル」氏密閉式試驗ニ依ル）65.5°C (150°F) 未滿ナルトキハ油艙、喞筒室、油管其ノ他ノ裝置ハ第三十二章第二條、第三條、第五條及第七條ノ規定ニ依リ之ヲ設計シ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第二條 前條ノ裝置ニシテ引火點 65.5°C (150°F) 以上ノ油ニ限リ使用スルモノナルトキハ第三十二章第二十三、二十四、二十六及二十七條ノ規定ニ依リ之ヲ設計シ又喞筒裝置ハ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 燃料油艙又ハ油槽ニハ空氣管又ハ溢油管ヲ備ヘ其ノ總截面積ハ注油管ノ截面積以上ナルコトヲ要ス

空氣管ノ末端ニハ掃除又ハ新換ノ爲メ容易ニ取外シ得ヘキ金網製ノ隔膜ヲ備フルコトヲ要ス

第四條 燃料油艙ニハ油深ヲ測ル爲メ測深管又ハ其ノ他委員會ノ承認スル裝置ヲ備フルコトヲ要ス

測深管ハ暴露甲板又ハ滿載吃水線上ノ甲板ノ接近シ得ヘキ場所ニ達セシメ直下ノ外板等ニハ當板ヲ爲スヘシ

機關室又ハ車軸隧道內ニ於ケル短キ測深管ニハ自働閉鎖裝置ヲ有スル蓋又ハ錠附捻込蓋ヲ備フルコトヲ要ス

第五條 硝子管驗油器ハ之ヲ燃料油庫ニ取附クルコトヲ得ス

厚キ硝子板、自働閉鎖裝置ノ瓣又ハ嘴子及適當ノ保護裝置ヲ有シ委員會ノ承認シタル構造ノ驗油器ハ之ヲ沈澱油庫又ハ常用油庫ニ取附クルコトヲ得

第六條 燃油裝置ヲ備フル汽罐ニハ適當ナル包被ヲ施シ汽罐ト油庫トノ間ニハ十分ナル空隙ヲ存スルコトヲ要ス

水管汽罐ヲ燃料油艙上ニ裝置スルトキハ油艙ノ頂板ト汽罐燃燒室ノ底部ヲ構成スル灰皿ノ下面トノ間隙ハ 760 mm (2 ft 6 in) 以上ナルコトヲ要ス

第七條 煙突內ニ「ダンパー」ヲ設クルトキハ之ヲ開キタル狀態ニ於テ固定シ得ヘキ適當ナル裝置ヲ備フルコトヲ要ス

油ノミヲ燃料トスル汽罐ニ在リテハ煙突又ハ煙路內ニ「ダムパー」ヲ設クヘカラス

第八條 燃油裝置ノ喞筒、加熱器及濾過器ハ二重裝置ト爲シ且ツ其ノ他ノ喞筒裝置ト全ク別箇ノモノト爲スコトヲ要ス

第九條 燃料油喞筒ニハ適當ナル逃出瓣ヲ備ヘ其ノ逃出管ハ之ヲ喞筒ノ吸油側ニ導クコトヲ要ス

第十條 壓力ヲ受クル燃料油管ニハ引拔鋼管ヲ用ヰ且ツ日常見易キ場所ニ之ヲ設置スルコトヲ要ス

前項ノ管ノ接合ニ用ウル塡材ハ出來得ル限リ薄ク且ツ 120°C (250°F) ニ熱シタル油ヲ滲徹セサル性質ノモノナルコトヲ要ス

壓力ヲ受クル油管、加熱器及其ノ附屬品ハ之ヲ取附ケタル後其ノ場所ニ於テ最大壓力ノ 2 倍又ハ 28 kg/cm² (400 lbs/in²) ノ中 其ノ何レカ大ナル水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

其ノ他ノ燃料油管及油艙內ヲ通スル吸水管ニハ鐵管又ハ鋼管ヲ用ヰ又其ノ接合ニ用ウル塡材ハ油ヲ滲徹セサル性質ノモノナルコトヲ要ス

吸油管ハ之ヲ取附ケタル後其ノ場所ニ於テ 2 kg/cm² (30 lbs/in²) ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

二重底上ニ在ル燃料油庫ノ吸油管ニハ瓣又ハ嘴子ヲ備ヘ之ヲ直接油庫ニ取附ケ且ツ甲板又ハ該油庫ヲ設置セサル他ノ區劃室ニ於テ之ヲ開閉シ得ル樣裝置スルコトヲ要ス

前項ノ油庫ノ注油管ハ之ヲ油庫ノ頂部ニ取附クル場合ノ外ハ前項ノ規定ニ準ス

ルカ又ハ油庫ニ不還瓣ヲ取附クルカ又ハ内管ヲ備ヘ之ヲ油庫内頂部ニ導クカ其ノ中何レカノ裝置ヲ備フルコトヲ要ス

機關室ニ於ケル油管ハ檢査及修繕シ易キ位置ニ之ヲ通スヘシ

第十一條 吸油管ニハ其ノ機關室ニ入ル箇所ニ於テ隔壁ノ內側ニ瓣又ハ嘴子ヲ設クヘシ

機關室內ノ燃料油管ニ備フル瓣又ハ嘴子ハ機關室ノ床板上ニ於テ開閉シ得ルモノト爲スヘシ

第十二條 燃料油喞筒ニハ瓣又ハ嘴子ヲ備ヘ喞筒ヲ開放スルトキ其ノ吸油管及送油管ヲ閉鎖シ得ル樣裝置スルコトヲ要ス

沈澱水ヲ排除スル爲メ燃料油庫ニ瓣又ハ嘴子ヲ備ヘ其ノ末端ヲ開放スルトキハ自働閉鎖裝置ト爲スコトヲ要ス

第十三條 燃油裝置ニ用ウル瓣ハ之ヲ開閉スルモ瓣匣蓋カ弛緩スルコトナキ構造ト爲スコトヲ要ス

第十四條 燃料油喞筒ニ用ウル動力及消火用汽管ノ蒸氣ハ之等ヲ常置スル區劃室外ニ於テモ之ヲ操縱シ得ル樣裝置スルコトヲ要ス

第十五條 汽罐ノ焚火口ニハ油受ヲ備ヘ又燃料油庫、加熱器、喞筒等ニハ之レヨリ漏洩スル油ヲ阻止又ハ處理スル爲メ油道又ハ其ノ他ノ適當ナル裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第十六條 燃料油庫內ニ於ケル加熱用ノ汽管ニハ鐵管又ハ鋼管ヲ用ヰ又之ヲ取附ケタル後其ノ場所ニ於テ最大汽壓ノ2倍ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

前項ノ汽管ノ復水ハ之ヲ直接冷汽器ニ導クコトナク開放シタル驗水槽ヲ通過セシメタル後給水ニ用ウルコトヲ要ス

第十七條 汽罐室及沈澱油庫、燃料油喞筒又ハ加熱器ヲ有スル機關室ニ於ケル「ビルジ」及「バラスト」水管ニハ鉛管ヲ使用スルコトヲ得ス

第十八條 汽罐室內及沈澱油庫ヲ設クル區劃室內ニハ木材ヲ用ウヘカラス

第十九條 蒸氣喞筒ノ送水管及布管ハ海水ヲ汽罐室床板ニ灌キ「ビルジ」ニ流シ落ス爲メ適當ノ場所ニ之ヲ設クヘシ

汽罐室ニハ其ノ下部ニ蒸氣ヲ噴出セシメ得ヘキ多孔管ヲ設クヘシ

第二十條 油艙ヲ脚荷水艙ニ兼用スルトキハ吸油管ヨリ吸油喞筒ニ導ク瓣又ハ嘴子ト吸油管ヨリ排水喞筒ニ導ク瓣又ハ嘴子ノ裝置ハ吸油喞筒ヲ以テ油艙ヨリ吸油中排水喞筒ヲ以テ他ノ箇所ノ排水ヲ爲シ得ヘキモノナルコトヲ要ス但シ容積大ニシテ屢補充ヲ要セサル沈澱油庫又ハ常用油庫ヲ備フル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

深水艙ヲ貨物、脚荷水及燃料油ニ共用スルトキハ貨物積載ニ當リテハ脚荷水及燃料油ノ注入管及吸出管ニ又燃料油積載ニ當リテハ送水ノ吸出管ニ盲蓋ヲ取附ケ得ル裝置ヲ爲スヘシ

第三十九章

汽管及給水管

銅管

第一條 電氣分解法ニ依リ製造シタル銅管ハ汽管、給水管、放水管又ハ表面放水管ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二條 銅製ノ汽管、給水管、放水管及表面放水管ハ之ヲ取附クル前適當ニ燒鈍スルコトヲ要ス

第三條 5·25 kg/cm² (75 lbs/in²) ヲ超ユル壓力ヲ受クル汽管、給水管、放水管及表面放水管ハ引拔銅管ナルコトヲ要ス

第四條 12·65 kg/cm² (180 lbs/in²) ヲ超ユル壓力ヲ受クル汽管ニシテ內徑125 mm (5 in) ヲ超ユルモノニハ銅管ヲ使用スルコトヲ得ス

過熱蒸氣管ニハ銅管ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 銅製汽管ハ完成後之ヲ取附クル前少クトモ最大汽壓ノ2倍ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

給水管ハ總テ汽罐ニ於ケル最大汽壓ノ $2\frac{1}{2}$ 倍ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

第六條 銅管ノ强力ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

$$W.P. = \frac{(t - t_0)}{D} \times F \qquad t = \frac{W.P. \times D}{F} + t_0$$

W.P. ハ最大汽壓 (kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ)

D ハ管ノ內徑 (mm 又ハ in ニテ)

t ハ管ノ厚 (mm ニテ又ハ in ノ百分ノ一ニテ)

t_0 ハ定數ニシテ 0·8 (英式單位ナルトキ 3)

F ハ定數ニシテ次表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧內ノ數字ヲ用ウヘシ

管ノ種類		F
汽管	引拔銅管	422 (60)
	鑞附銅管	316 (45)
給水管	引拔銅管	337 (48)
	鑞附銅管	253 (36)

第七條 銅管ヲ彎曲スルトキハ厚ノ減少ヲ補フ爲メ豫メ厚ノ大ナル管ヲ使用スルコトヲ要ス

管ノ中心線ニ於ケル彎曲ノ半徑ハ管ノ外徑ノ2倍以上ト爲スヘシ

錬鐵管及鋼管

第八條 汽管其ノ他ノ管ハ錬鐵又ハ軟鋼ヲ用ヰテ之ヲ製造スルコトヲ得

第九條 管ノ繼目ハ鎚打又ハ「ローリング」(Rolling) ニ依リ之ヲ鍛接スルコトヲ要ス

第十條 管ノ繼目ヲ鍛接シ、管ト鍔トヲ鑞接シ又ハ彎曲其ノ他ノ工事ノ爲メ管ヲ加熱シタルトキハ竣工後丁寧ニ燒鈍スルコトヲ要ス

第十一條 累鍛接鋼製汽管ニ使用スル軟鋼ノ抗張力ハ 44 kg/mm² (28 tons/in²) 以下又伸長率ハ標點間ノ長 200 mm (8 in) ナルトキ 25% 以上ナルコトヲ要ス

第十二條 鋼製給水管ニハ常溫引拔鋼管ヲ使用スヘシ

第十三條 鐵製又ハ鋼製ノ汽管ハ之ヲ取附クル前少クトモ最大汽壓ノ3倍ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

第十四條 鐵製又ハ鋼製ノ給水管ハ少クトモ汽罐ニ於ケル最大汽壓ノ4倍ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

第十五條 鐵管及鋼管ノ强力ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

$$W.P.=\frac{(t-t_0)}{D}\times F \qquad t=\frac{W.P.\times D}{F}+t_0$$

W.P. ハ汽管ナルトキハ最大汽壓（kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ）、給水管ナルトキハ汽罐ニ於ケル最大汽壓（kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ）

D ハ管ノ內徑（mm 又ハ in ニテ）

t ハ管ノ厚（mm ニテ又ハ in ノ百分ノ一ニテ）

t_0 及 F ハ定數ニシテ次表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧內ノ數字ヲ用ウヘシ

管ノ種類		t_0	F
汽管	44 kg/mm² (28 tons/in²) 以下ノ抗張力ヲ有スル常溫引抜鋼管ナルトキ	2·5 (10)	844 (120)
	44 kg/mm² (28 tons/in²) 以下ノ抗張力ヲ有スル加熱引抜鋼管ナルトキ	3 (12)	844 (120)
	覆板ヲ有スルト否トヲ問ハス鍛接シタル鐵管又ハ鋼管ナルトキ	3 (12)	633 (90)
給水管		2 (8)	703 (100)

第十六條　管ニ螺系ヲ切リ鍔ヲ取附クル場合ニ在リテハ螺系ヲ「ヴアニツシングスレツド」ト爲スコトヲ要ス

前項ノ螺系ハ鍔又ハ鍔ノ頸部ヲ超エテ之ヲ切ルコトヲ得ス

第十七條　主汽管ニハ伸縮ノ餘裕ヲ與フル樣適當ナル裝置ヲ爲スコトヲ要ス

主汽管ハ其ノ管系中ニ水ノ停滯セサル樣之ヲ裝置ヘシ但シ之ニ依リ難キトキハ適當ナル排水裝置ヲ爲スヘシ

第四十章

汽　　機

第一條　打　物

軸、吸鍔鋲、接續鋲其ノ他機關ノ主要働作部ハ精選シタル屑鐵、壓延シタル鐵材又ハ良質ノ鋼塊ヲ鍛錬シテ之ヲ製造スルコトヲ要ス但シ別箇ニ製造スル軸鍔又ハ組立曲拐軸ノ曲拐腕ハ屑軟鋼ヲ鍛錬シテ之ヲ製造スルカ又ハ之ヲ鑄鋼製ト爲スモ妨ナシ

鐵又ハ鋼材ノ試驗ニ關シテハ第三十五章第十四條乃至第十六條ノ規定ニ依ルコトヲ要ス

「ニツケル」鋼其ノ他特殊ノ材料ハ特ニ指定スル試驗ニ合格シタルモノニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

塊鋼軸ノ軸鍔ハ水壓力ニ依リ軸端ヲ壓大シテ之ヲ製造スルコトヲ得此場合ニ在リテハ試驗材ハ軸鍔ノ緣端ヨリ之ヲ切リ取ルモ妨ナシ

軸其ノ他主要ナル打物ハ粗削ヲ爲シタルトキ及仕上ヲ終リタルトキ檢査ヲ受クルコトヲ要ス

第二條　軸

往復動汽機ノ軸ノ最小徑ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス但シ主軸受間ノ距離普通ノモノト異ルモノニ在リテハ特ニ其ノ影響ヲ考慮シテ之ヲ定ムヘシ

$$D=\sqrt[3]{\frac{W.P.\times L^2\times S\times M}{B\left(\frac{L^2}{H^2}+2\right)}}\times C$$

D ハ軸ノ徑（mm 又ハ in ニテ）

W.P. ハ汽罐ノ最大汽壓（kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ）

S ハ吸鍔ノ行長（mm 又ハ in ニテ）

L ハ低壓汽筩ノ徑（mm 又ハ in ニテ）ニシテ低壓汽筩二箇以上ナルト

キハ之等ヲ綜合シタル汽筩ノ徑ニ相當スルモノ

H ハ高壓汽筩ノ徑 （mm 又ハ in ニテ）

M ハ定數ニシテ 14·22（英式單位ナルトキ 1）

B ハ定數ニシテ次表ニ依ル

曲拐ノ數	曲拐間ノ角度	B	
		航路ニ制限ナキ船ナルトキ	航路ニ制限アル船ナルトキ
二曲拐	90 度	1,900	2,100
	180 度	1,350	1,500
三曲拐	120 度	2,150	2,400
四曲拐	均勢シタルモノ	2,150	2,400
	90 度	2,100	2,300

C ハ定數ニシテ次ノ各號ニ依ル

一、曲拐軸又ハ推力軸（推力鍔ノ間ニ於テ）ナルトキ 1·05

二、中間軸ナルトキ 1·00

直結式又ハ齒車連結式「タービン」汽機ノ軸ノ最小徑ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

$$D=\sqrt[3]{\frac{S.H.P.\times B}{R}}\times C$$

D ハ軸ノ徑 （mm 又ハ in ニテ）

S.H.P. ハ計畫最大軸馬力

R ハ最大軸馬力ニ對シ一分間ニ於ケル回轉數

B ハ定數ニシテ次ノ各號ニ依ル

一、航路ニ制限ナキ船ナルトキ 64

二、航路ニ制限アル船ナルトキ 58

C ハ定數ニシテ次ノ各號ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧內ノ數字ヲ用ウヘシ

一、推力軸（推力鍔ノ間ニ於テ）ナルトキ 26·67 (1·05)

二、中間軸ナルトキ 25·40 (1·00)

前二項中航路ニ制限アル船ト稱スルハ遞信省船舶檢査法規ニ定ムル沿海航路以下ニ用ウル船ヲ謂フ又其ノ場合ニ於ケル定數ハ船體ノ船級資格ト照合シタル上其ノ使用ヲ承認スルモノトス

推力軸ハ推力鍔ノ外部ニ於テ前後ニ漸次其ノ徑ヲ減シ其ノ最小徑ヲ中間軸ニ要スル徑ト等シクスルコトヲ得

船尾管ヲ貫通スル中間軸ノ徑ハ前算式ニ依リ定メタル中間軸ノ徑ノ 1·05 倍以上ト爲スコトヲ要ス但シ船尾管內ニ於テ海水ニ接觸スル部分ハ 1·075 倍以上トス

齒車連結式「タービン」汽機ノ主齒車軸ノ最小徑ハ中間軸ニ要スル徑ノ 1·05 倍以上ト爲スコトヲ要ス但シ之ニ連結スル小齒車ノ數一箇ナルトキ又ハ二箇ニシテ之等ノ中心ト主齒車軸ノ中心トヲ連結スル線カ 120 度未滿ノ角度ヲ爲ストキハ 1·1 倍以上トス

前項但書ノ場合ニ於テハ軸受部ノ後部ニ於テ軸徑ヲ漸次ニ減シ其ノ最小徑ヲ中間軸ニ要スル徑ノ 1·05 倍ト爲スコトヲ得

第三條 螺旋軸

螺旋軸ノ最小徑ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

$$T=D+\frac{P}{K}$$

T ハ螺旋軸ノ徑 （mm 又ハ in ニテ）

D ハ中間軸ニ要スル徑 （mm 又ハ in ニテ）

P ハ推進器ノ徑 （mm 又ハ in ニテ）

K ハ定數ニシテ次ノ各號ニ依ル

一、全通黃銅卷ヲ有スルモノナルトキ 144

二、其ノ他ノモノナルトキ 100

船尾管ヲ貫通スル螺旋軸ハ船尾管塡筺ノ前部ニ於テ徑ヲ漸次ニ減シ軸鍔部ニ於テ之ヲ 1·05D 迄達セシムルモ妨ナシ

第四條 中空軸

中空軸ノ內徑カ中間軸ニ要スル徑ノ三分ノ一以下ナルトキハ其ノ外徑ヲ中實軸ノ徑ニ止ムルモ妨ナシ

第五條 黃銅卷其ノ他

軸ノ黃銅卷ヲ製造スルトキ其ノ軸受部ニ於ケル最小厚ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$t=\frac{T+C}{32}$$

t ハ黃銅卷ノ厚 (mm 又ハ in ニテ)

T ハ黃銅卷ヲ施スヘキ軸ニ要スル徑 (mm 又ハ in ニテ)

C ハ定數ニシテ 235 (英式單位ナルトキ 9·25)

全通黃銅卷ノ軸受部ノ間ニ於ケル部分ノ厚ハ ·75t ト爲スヘシ

全通黃銅卷ハ之ヲ一體ニ鑄造スルカ又ハ二箇以上ニ之ヲ作リ其ノ全厚ヲ通シテ一體ニ鎔接スルカ其ノ何レカニ依リ製造スルコトヲ要ス

黃銅卷ハ之ヲ軸ニ丁寧ニ燒嵌スルカ又ハ水壓力ニ依リ押嵌スルコトヲ要ス又軸ニ固定スル目的ヲ以テ之ニ目釘ヲ貫通スルコトヲ得ス

推進器ニ隣接スル螺旋軸受ノ長ハ螺旋軸ニ要スル徑ノ 4 倍以上ト爲スヘシ

螺旋軸ノ黃銅卷ノ後端ト推進器轂トノ間ニ於ケル部分ハ海水ニ接觸スルコトナキ樣適當ナル裝置ヲ施スヘシ

第六條 軸　鍔

軸鍔ノ厚ハ螺釘孔ノ心圈ニ於テ該孔ノ軸鍔連結面ニ於ケル徑以上ト爲スコヲト要ス但シ螺旋軸ニ在リテハ中間軸ニ要スル徑ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

軸鍔ト軸トノ連續部ニ於ケル丸味ノ半徑ハ軸徑ノ ·125 倍以上ト爲スヘシ

軸鍔ハ之ヲ軸ト別箇ニ製造シタルトキハ船カ後進スル場合ニ於ケル牽引力ニ對

シテモ十分ナル樣軸ニ固定スルコトヲ要ス

第七條 軸鍔螺釘

軸鍔螺釘ノ軸鍔ノ連結面ニ於ケル最小徑ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$d=\sqrt{\frac{D^3}{3{\cdot}5\times n\times r}}$$

d ハ螺釘ノ徑 (mm 又ハ in ニテ)

D ハ中間軸ニ要スル徑 (mm 又ハ in ニテ)

r ハ螺釘心圈ノ半徑 (mm 又ハ in ニテ)

n ハ螺釘ノ數

第八條 曲拐腕

組立曲拐軸ニ於ケル曲拐腕ノ最小寸法ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$h = {\cdot}625D$$

$$t = \sqrt{\frac{{\cdot}12\times D^3}{h}}$$

h ハ曲拐腕ノ軸ノ方向ニ測リタル厚 (mm 又ハ in ニテ)

t ハ曲拐腕ノ受軸孔ノ周圍ニ於ケル厚 (mm 又ハ in ニテ) ニシテ軸ニ垂直ノ方向ニ測リタルモノ

D ハ曲拐軸ニ要スル徑 (mm 又ハ in ニテ)

曲拐腕ハ之ヲ曲拐軸及曲拐栓ニ確實ニ燒嵌スルカ又ハ水壓力ニ依リ押嵌シ又曲拐腕ト曲拐軸トノ接合部ニハ一箇又ハ二箇ノ「キー」若クハ圓栓ヲ施スコトヲ要ス

第九條 一般ノ構造

汽筩ノ厚及吸鍔鋅螺旋部、接續鋅上下ノ螺釘竝軸受螺釘ノ徑ニ付テハ造船規程ノ規定 依ルモノトス

主機床又ハ推力受ヲ直接內底板ニ取附クルトキハ當該箇所ニ於ケル內底板ノ厚ヲ 19 mm ($\frac{3}{4}$in) 以上ト爲シ尙汽機ノ大サ又ハ馬力ニ應シ之ヲ增スコトヲ要ス

推力受下ノ二重底ハ適當ニ補强シ又其ノ構造ハ委員會ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

内底板ニ於ケル主機其ノ他ノ取附螺釘ハ山形材ノ邊ヲ貫通セシムルカ又ハ出來得ル限リ之ニ接近セシムルコトヲ要ス又螺釘カ山形材ヲ貫通スルトキハ其ノ邊ハ母螺ヲ取附クルニ十分ナル幅ヲ有スルコトヲ要ス（第八章第十條參照）

前項ノ取附螺釘孔ニハ螺糸ヲ設ケ螺釘ヲ捻込ミ其ノ下端ニ母螺ヲ取附クルコトヲ要ス

第十條 長 55 m (180 ft) 以上ノ船ニ在リテハ主汽機ニ「ビルジ」喞筒及給水喞筒各二箇ヲ備ヘ其ノ中一箇ヲ使用スルトキト雖モ他ノ一箇ヲ開放シ得ヘキ樣裝置スルコトヲ要ス

長 55 m (180 ft) 未滿ノ船ニ在リテハ主汽機ニ「ビルジ」喞筒及給水喞筒各一箇ヲ備フルコトヲ要ス

前二項ノ喞筒ハ何レモ獨立ノ汽機ヲ以テ運轉スルコトヲ得

「ビルジ」喞筒ハ船内何レノ區劃室ヨリモ「ビルジ」ヲ排出シ得ヘキ樣裝置スルコトヲ要ス

主汽機ニ附屬スル給水喞筒ニハ發條逃出瓣ヲ備フルコトヲ要ス

喞筒、瓣匣、嘴子、吸水管、送水管其ノ他海水ニ通スル瓣又ハ嘴子ハ水カ不時ニ船内ニ流出スルコトナキ樣裝置スルコトヲ要ス

第十一條 海水ニ通スル瓣又ハ嘴子ハ出來得ル限リ機關室ノ床板線以上ニ設ケ床板上ニ於テ容易ニ開閉シ得ヘキ樣裝置スルコトヲ要ス

主又ハ補助海水瓣ニシテ之ヲ直接船體外板ニ取附クルトキ長キ頸部ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ短縮スル爲メ船體外板ニ鋼板製ノ匣ヲ設ケ之ニ瓣ヲ取附クヘシ

船體外板ニ於ケル海水瓣又ハ嘴子ノ取附螺釘ハ外板ニ捻込ムカ又ハ埋頭ト爲スコトヲ要ス

船外排出口ハ成ルヘク滿載吃水線以上ニ設クヘシ又其ノ瓣ハ船側ノ容易ニ接近

シ得ヘキ場所ニ取附クルコトヲ要ス

汽罐放水管ノ船外排出口ニハ瓣又ハ嘴子ヲ備フルコトヲ要ス

前項ノ瓣又ハ嘴子ニハ外板ヲ貫通スル突出口ヲ備ヘ其ノ周圍ニ環鍔ヲ取附クルコトヲ要ス

第十二條 機關室ニハ補助喞筒ヲ備ヘ船外及溫水溜ヨリ副給水管及副制限瓣ヲ通シテ汽罐ニ給水シ海水ヲ甲板上及冷汽器ニ送リ並船内各區劃室ヨリ「ビルジ」ヲ排出シ得ヘキ樣裝置スルコトヲ要ス但シ次項ノ「バラスト」喞筒ヲ備フル船ニ在リテハ海水ヲ甲板上及冷汽器ニ送リ且「ビルジ」ヲ排出シ得ル裝置ヲ爲ササルモ妨ナシ

二重底及水艙ヲ有スル船ニ在リテハ機關室ニ前項ノ喞筒ノ外其ノ排水ニ適スル「バラスト」喞筒ヲ備ヘ各區劃室ヨリ「ビルジ」ヲ取リ之ヲ船外ニ排水シ且ツ海水ヲ冷汽器及上甲板上ニ送リ得ヘキ樣裝置スルコトヲ要ス但シ獨立ノ循環喞筒二箇以上ヲ備ヘ其ノ吐出口ニ於テ互ニ連結スル裝置アルトキハ冷汽器ニ送水スル裝置ヲ省略スルモ妨ナシ

二箇以上ノ主汽罐ヲ有スル場合ニ於テ補助喞筒ヲ以テ罐水ヲ循環セシムル爲メ汽罐底部ニ吸水管ヲ備フルトキハ之ニ不還瓣ヲ備ヘ又汽罐ト補助喞筒トノ間ニ於ケル吸水主管ニ塞止瓣又ハ嘴子ヲ備フルコトヲ要ス

强壓注油裝置ヲ有スル船ニ在リテハ咄嗟ノ使用ニ適スル豫備油喞筒一箇ヲ備ヘ又冷油器ノ循環水ハ少クトモ二ツノ獨立セル方法ニ依リ送水シ得ルモノト爲スコトヲ要ス

本會ノ船級登錄ヲ受ケントスル外國船ニ付テハ第一章第十條ヲ參照セラルヘシ

第十三條 石炭庫内其ノ他機關室外ノ區劃室内ヲ通過スル諸管ニハ堅牢ナル覆箱ヲ備フルコトヲ要ス

第十四條 水壓試驗

往復動汽機ノ汽筩ハ削仕上ノ後次ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一、單式汽機

最大汽壓 6·3 kg/cm² (90 lbs/in²) 以上ナルトキ

W.P. + 6·3 kg/cm² (90 lbs/in²)

最大汽壓 6·3 kg/cm² (90 lbs/in²) 未滿ナルトキ　2 W.P.

二、二聯成汽機

高壓汽筩

最大汽壓 6·3 kg/cm² (90 lbs/in²) 以上ナルトキ

W.P. + 6·3 kg/cm² (90 lbs/in²)

最大汽壓 6·3 kg/cm² (90 lbs/in²) 未滿ナルトキ　2 W.P.

低壓汽筩　0·5 W.P.

三、三聯成汽機

高壓汽筩	W.P. + 6·3 kg/cm² (90 lbs/in²)
中壓汽筩	0·75 W.P.
低壓汽筩	0·3 W.P.

四、四聯成汽機

高壓汽筩	W.P. + 6·3 kg/cm² (90 lbs/in²)
第一中壓汽筩	W.P.
第二中壓汽筩	0·5 W.P.
低壓汽筩	0·25 W.P.

瓣匣、收汽室、收汽管、汽包室、汽筩蓋及瓣匣蓋ハ其ノ附屬スル汽筩ニ於ケルト同一ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

「タービン」汽機ノ外筐ハ粗削後次ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

一、「リアクション　タービン」

高壓「タービン」ノ前部外筐	1·33 W.P.
高壓「タービン」ノ後部外筐	W.P.
中壓「タービン」ノ外筐	1·5 V.
低壓「タービン」ノ前部外筐	1·5 V.
低壓「タービン」ノ後部外筐	2 kg/cm² (30 lbs/in²)

二、「インパルス　タービン」

高壓蒸氣ノ通スル「タービン」外筐ノ「ノツヅル　ボツクス」	1·66 W.P.
高壓「タービン」ノ外筐	0·66 W.P.
中壓「タービン」ノ外筐	1·5 V.
低壓「タービン」ノ外筐	2 kg/cm² (30 lbs/in²)

W.P. ハ汽罐ノ最大汽壓 (kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ)

V ハ外筐ニ附屬スル逃出瓣ヲ調整スヘキ壓力 (kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ)

本會ノ船級登錄ヲ受ケントスル外國船ニ付テハ第一章第十條ヲ參照セラルヘシ

第十五條　主又ハ補助塞汽瓣ハ檢査員立會ノ上最大汽壓ノ2倍ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

第十六條　蒸化器又ハ高壓給水加熱器ハ其ノ製造所ニ於テ檢査員立會ノ上其ノ適當ト認ムル水壓力ヲ以テ之ヲ試驗スルコトヲ要ス

排汽ヲ用ウル給水加熱器ハ之ニ附屬スル安全瓣ヲ調整スヘキ壓力ノ2倍ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス但シ安全瓣ヲ備ヘサルモノニ於テハ 3·5 kg/cm² (50 lbs/in²) ノ水壓力ヲ以テ試驗スルモノトス

給水喞筒ハ最大汽壓ノ2倍ノ水壓力ヲ以テ又喞筒ト汽罐トノ間ニ取附クル給水濾過器ハ汽罐ノ最大汽壓ノ 2·5 倍ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

冷汽器ハ冷汽管ヲ取附クル前ニ 1·4 kg/cm² (20 lbs/in²) ノ水壓力ヲ以テ試驗シ之ヲ取附ケタル後適當ノ水壓力ヲ以テ其ノ漏否ヲ試驗スヘシ

第十七條　豫備品（第三十四章第五條注意）

近海航路以上ニ使用スル船ニ在リテハ次ノ通リ豫備品ヲ備フルコトヲ要ス

一、往復動汽機ナルトキ

接續鉀上部ノ螺釘	二　箇
接續鉀下部ノ螺釘	二　箇
主軸受ノ螺釘	二　箇
接軸鍔ノ螺釘	一　組
給水及「ビルジ」喞筒ノ瓣	各一組
吸鍔彈環ノ發條	一組（普通ノ發條ナルトキ）
安全瓣發條	各種一箇
火床架	總數ノ四分ノ一
螺釘、母螺及植込螺釘	取合若干
汽筩蓋及滑瓣匣蓋ノ植込螺釘	各六箇
鐵板及鐵棒	取合若干

二、「タービン」汽機ナルトキ

「ロートル」、主齒車及小齒車ノ軸受ニ於ケル螺釘又ハ植込螺釘及母螺	各種二箇
主軸推力受ノ普通型推力片又ハ環	二　箇
但シ「ミッチエル」式ナルトキハ「パッド」	半　組
接軸鍔ノ螺釘	各種一組
「ロートル」、主齒車及小齒車ノ軸受黃銅	各種一組
「ロートル」軸「グランド」ノ彈環及發條又ハ「グランド　フイン」	各「グランド」毎ニ半組
外筺及齒車筺ノ接合部ニ於ケル螺釘又ハ植込螺釘及母螺	總數ノ百分ノ五
「ミッチエル」式「アヂヤスチング　ブロック」ノ「ピボット」及「パッド」	各種一組

「アヂヤスチング　ブロック」ノ調整片	各調整部毎ニ厚ヲ異ニスルモノ二箇
注油喞筒ノ瓣	一組

喞筒瓣、安全瓣發條、火床架其ノ他ハ前號ノ規定ニ依ル

前項ニ於テ近海航路ト稱スルハ遞信省船舶檢查法規ニ定ムル近海航路ヲ謂フ

第十八條　對氷構造

氷中ヲ航行スル船舶ノ機關ノ構造ニ付テハ次ノ各號ニ適合セシムルコトヲ要ス

一、螺旋軸ノ徑ハ當該章ニ於テ規定シタルモノヨリモ5%以上大ナラシムヘシ

二、螺旋翅ハ鑄鋼又ハ本會ノ承認ヲ受ケタル材料ヲ使用シ鑄鐵ハ之ヲ使用セサルヲ可トス

三、海水ニ通スル瓣其ノ他ハ氷ノ爲メ外板トノ取附部分ヲ毀損セラレサル樣又低溫度ノ爲メ破損セサル樣裝置スルヲ可トス

第四十一章

蒸氣喞筒裝置

第一條 汽船ニハ適當ナル蒸氣喞筒ヲ備ヘ船カ龍骨ヲ水平ニシテ直立シタル場合又ハ左右ニ五度傾斜シタル場合ニ於テ各區劃室內又ハ區劃室ノ各支水室內ニ於ケル水ヲ少クトモ一箇ノ吸水管ヲ以テ完全ニ排出シ得ヘキ樣裝置シ又水艙頂板上ニハ排水ノ目的ヲ遂行シ得ヘキ樣適當ナル裝置ヲ爲スコトヲ要ス（第四十章第十條及第十二條參照）

船尾部ニ機關ヲ有シ機關室隔壁ト船首隔壁トノ間ニ支水隔壁ノ設ケナキ船ニ在リテハ該船艙ノ前部ニ於テモ吸水管ヲ備フルコトヲ要ス

石炭庫又ハ貨物艙ニ隣接スル橫置艙內ニ燃料油ヲ搭載スル船ニ於テ該艙內ニ之ヲ通過スル諸管ヲ保護スヘキ油密隧道ヲ設ケサルトキハ油艙內ニ於ケル管ハ鍊鐵管又ハ鋼管ト爲シ且ツ外部ヨリ損傷ヲ受クルコトナキ樣適當ニ之ヲ保護スルコトヲ要ス

前項ノ艙內ヲ通過スル「ビルジ」吸水管ニハ不還瓣ヲ備ヘ又其ノ他ノ吸水管若ハ吸油管ニハ其ノ隔壁ニ於テ之ニ塞止瓣ヲ備ヘ管カ破損スルコトアルモ容易ニ油ノ流出ヲ防止シ得ル樣裝置スルコトヲ要ス

第二條 貨物艙內又ハ機關室內ノ「ビルジ」ヲ排出スル目的ニ使用スル管ハ水艙內ニ送水シ又ハ之ヨリ吸水スル目的ニ使用スル管ト別箇ノモノト爲スヘシ

瓣其ノ他ノ裝置ハ海水又ハ水艙內ノ水カ貨物艙內又ハ機關室內ニ、若ハ一ノ區劃室內ノ水カ他ノ區劃室內ニ流通スルコトナキ樣配置スヘシ

石炭、「バラスト」水、液體又ハ其ノ他ノ貨物ヲ交互ニ搭載スル區劃室ニ在リテハ必要ニ應シ吸出及注入用ノ諸管ニ盲蓋ヲ施シ得ヘキ適當ノ裝置ヲ備フルコトヲ要ス

汽機室ヨリ船首艙ニ通スル吸水管ヲ內底板上ニ敷設スルトキハ船首艙內ニ於テ之ニ塞止瓣ヲ備ヘ隔壁甲板上ニ於テ開閉シ得ヘキ樣裝置スヘシ

第三條 「ビルジ」吸水管

「ビルジ」吸水管ノ最小內徑ハ次ノ各號ニ揭クル算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一、喞筒ニ通スル「ビルジ」吸水主管

$$d=\sqrt{\frac{L\times(B+D)}{C_1}}+d_0$$

二、貨物艙又ハ機關室ニ通スル「ビルジ」吸水枝管

$$d=\sqrt{\frac{l\times(B+D)}{C_2}}+d_0$$

d ハ管ノ內徑 (mm 又ハ in ニテ)

L ハ船ノ長 (m 又ハ ft ニテ)

B ハ船ノ幅 (m 又ハ ft ニテ)

D ハ隔壁甲板ニ至ル船ノ深 (m 又ハ ft ニテ)

l ハ區劃室ノ長 (m 又ハ ft ニテ)

d_0, C_1 及 C_2 ハ定數ニシテ

$d_0=25$（英式單位ナルトキ 1）

$C_1=0{\cdot}360$（英式單位ナルトキ 2,500）

$C_2=0.216$（英式單位ナルトキ 1,500）

「ビルジ」吸水主管ノ內徑ハ 65 mm ($2\frac{1}{2}$ in) 以上又「ビルジ」吸水枝管ノ內徑ハ 50 mm (2 in) 以上ト爲スヘシ但シ「ビルジ」吸水枝管ニ在リテハ其ノ最大內徑 100 mm (4 in) ヲ超エサルモ妨ナシ

第四條 「バラスト」吸水管

「バラスト」吸水管ノ內徑ハ次表ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

喞筒ニ通スル「バラスト」吸水主管ノ內徑ハ最大水艙ニ要スル內徑以上ナルコトヲ要ス又本章第一條ノ規定ニ依リ水艙內ニ二箇以上ノ「バラスト」吸水枝管ヲ設クルトキハ其ノ總截面積ヲ適當ニ增スヘシ

水艙ノ容積 tons		吸水管ノ內徑 mm(in)	水艙ノ容積 tons		吸水管ノ內徑 mm(in)
20 未滿		65 (2½)	270 以上	365 未滿	125 (5)
20 以上	40 未滿	70 (2¾)	365 〃	480 〃	140 (5½)
40 〃	60 〃	75 (3)	480 〃	625 〃	150 (6)
60 〃	85 〃	85 (3¼)	625 〃	800 〃	165 (6½)
85 〃	120 〃	90 (3½)	800 〃	1,000 〃	180 (7)
120 〃	190 〃	100 (4)	1,000 〃	1,300 〃	190 (7½)
190 〃	270 〃	115 (4½)			

第五條 「ビルジ」喞筒

主及補助「ビルジ」喞筒ハ船內何レノ區劃內ヨリモ吸水シ得ヘキ樣裝置スルコトヲ要ス

補助「ビルジ」喞筒ニハ前項ノ外別ニ汽機室「ビルジ」吸水管ヲ備フルコトヲ要ス

「ビルジ」喞筒ハ通常ノ場合ニ於テ毎分時 120m (400 ft) 以上ノ速度ヲ以テ管內ニ通水シ得ヘキ能力ヲ有スルコトヲ要ス

主循環喞筒ニハ「ビルジ」吸水管ヲ備ヘ機關室ノ最低部ヨリ直接吸水シ得ヘキ樣裝置シ又其ノ內徑ハ少クトモ循環喞筒吸水主管ノ內徑ノ三分ノ二ト爲スヘシ

第六條 瓣匣其ノ他

瓣匣、瓣及嘴子ハ日常容易ニ接近シ得ヘキ場所ニ取附クルコトヲ要ス

第七條 「ビルジ」及「バラスト」吸水管

「ビルジ」及「バラスト」吸水管ハ適當ニ固定シ且ツ適當ナル伸縮接合ヲ備フルコトヲ要ス

彎曲シタル鉛管ヲ以テ管ノ各聯ヲ連結スルトキハ彎曲ノ半徑及其ノ中心間ノ距離ハ管徑ノ 3 倍以上又彎曲部ノ長ハ管徑ノ 8 倍以上ト爲スヘシ

第八條 芥除及泥箱

芥除及泥箱ハ容易ニ檢査又ハ掃除シ得ルコトヲ要ス

機關室又ハ車軸隧道ノ「ビルジ」溜ニ通スル「ビルジ」吸水管ニハ泥箱ヲ備ヘ成ルヘク床板線以上ニ於テ容易ニ接近シ得ヘキ場所ニ取附ケ彎曲セサル吸水管ヲ以テ「ビルジ」溜ニ連結スヘシ

其ノ他ノ場所ニ設クル「ビルジ」吸水管ニハ末端ニ芥除ヲ備フヘシ

芥除ニ穿テル小孔ノ總面積ハ吸水管ノ截面積ノ 3 倍以上ト爲シ又該箱ハ吸水管ヲ取外スコトナクシテ掃除シ得ヘキ構造ト爲スヘシ

第九條 測深管

區劃室及二重底ニハ測深管ヲ備ヘ又其ノ直下ノ外板ニハ厚キ鋼板ヲ取附クルコトヲ要ス

測深管ハ彎曲スルコトヲ得ス又其ノ上端ハ隔壁甲板又ハ其ノ下ニ於テ日常容易ニ接近シ得ヘキ場所ニ達セシムルコトヲ要ス但シ隔壁甲板下ニ止ムルトキハ之ニ鎖附捻込蓋ヲ備フルコトヲ要ス

第十條 空氣管

水艙ノ各隅ニハ其ノ容積ニ相當シ少クトモ 50 mm (2 in) ノ內徑ヲ有スル空氣管ヲ備フルコトヲ要ス但シ容積特ニ小ナル水艙ニ在リテハ其ノ內徑ヲ 50 mm (2 in) 未滿ト爲スコトヲ得

空氣管ノ總截面積ハ溢水管ノ截面積以上又深水艙ニ在リテハ溢水管ノ截面積ノ 2 倍以上ト爲スヘシ

水艙ハ充水ノ際內部ノ空氣ヲ容易ニ排出シ得ヘキ樣適當ニ裝置スルコトヲ要ス

頂板カ平坦ナラサル水艙ニ在リテハ其ノ最高ノ箇所ニ空氣管ヲ取附クルコトヲ要ス

第十一條 空氣管、測深管及吸水管ニハ適當ナル圍ヲ設ケ貨物、石炭其ノ他ノ爲メ損傷ヲ受クルコトナキ樣保護スルコトヲ要ス

第四十二章

內燃機關ニ關スル假規則

第一條　總　　則

本會ノ機關登錄ヲ受クル目的ヲ以テ內燃機關、補助裝置及副汽罐ヲ製造スルトキハ製造中特別檢査ヲ受クルコトヲ要ス

製造者ハ工事著手前次ニ揭クル事項ニ付詳細ニ記載シタル圖面ヲ差出シ委員會ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

一、內燃機關ノ構造

二、主機關臺ノ構造及取附螺釘ノ配置

三、「ビルジ」及「バラスト」ニ關スル喞筒裝置

四、氣槽ノ構造

五、燃料油槽、燃料油濾過器及燃料油加熱裝置ノ配置

六、汽罐ノ構造及其ノ船內ニ於ケル配置

前二項ニ依リ製造シ完成ノ上良好ト認メタル機關ハ船舶原簿ニ符號 M.N.S.✳ヲ附記シテ登錄ス

以下各條ハ內燃機關、補助裝置、氣槽及油槽ノ構造ニ關スル特別ノ規定ニシテ第三十五章以下ノ打物、喞筒其ノ他一般ニ關スル規定ニ之ヲ補足スルモノトス

第二條　內燃機關ノ製造ニ使用スル材料ハ總テ第三十五章第十四條乃至第十六條ノ規定ニ適合シ氣槽ニ使用スル鋼材ハ汽罐用鋼材（第三十五章參照）ニ、又油槽ニ使用スル鋼材ハ船體用鋼材ニ關スル規定（第四章參照）ニ適合スルコトヲ要ス

第三條　機關室ハ通風良好ニシテ可燃性瓦斯ノ蓄積セサルコトヲ要ス

機關ニハ之ヨリ燃料油カ溢出スルコトナキ樣適當ナル裝置ヲ爲スコトヲ要ス

常用油槽ハ副汽罐、煙突又ハ排氣管ヨリ適當ノ距離ヲ有スル場所ニ据附クルコトヲ要ス

「エーベル」式密閉試驗ニ依ル引火點 65·5°C（150°F）未滿ノ油ヲ使用スルトキハ副汽罐ハ機關室及油槽ヨリ隔離シ且ツ通風良好ナル區劃室內ニ之ヲ据附クルコトヲ要ス

第四條　推進用ノ機關ニハ空轉ヲ防ク爲メ調速機又ハ其ノ他ノ適當ナル裝置ヲ設クルコトヲ要ス

前項ノ機關ニシテ純馬力 300 ヲ超ユルモノハ反轉式ト爲スヘシ

第五條　軸

曲拐軸及中間軸ノ最小徑ハ次ノ各號ニ揭クル算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

一、曲拐軸　$$d=\sqrt[3]{\frac{D^2\times(PL+KpS)\times M}{10000}}$$

二、中間軸　$$d=\sqrt[3]{\frac{D^2\times p\times S(1+Y)\times M}{C}}$$

d ハ軸ノ徑（mm 又ハ in ニテ）

D ハ氣筩ノ徑（mm 又ハ in ニテ）

S ハ吸鎟ノ行長（mm 又ハ in ニテ）

L ハ曲拐ノ兩側ニ於ケル軸受內側間ノ距離（mm 又ハ in ニテ）

P ハ氣筩內最大壓力（kg/cm^2 又ハ lbs/in^2 ニテ）

p ハ氣筩內平均實效壓力（kg/cm^2 又ハ lbs/in^2 ニテ）

K ハ定數ニシテ第一表、第二表及第三表ニ依ル

M ハ定數ニシテ 14·22（英式單位ナルトキハ 1）

W ハ飛輪ノ重量（kg 又ハ tons ニテ）

F ハ飛輪ノ徑（mm 又ハ ft ニテ）

w ハ平衡重量ノ總重量（kg 又ハ tons ニテ）

G ハ平衡重量ノ環動半徑（mm 又ハ ft ニテ）

R ハ機關ノ每分時ニ於ケル回轉數

f ハ定數ニシテ 81,900（英式單位ナルトキハ 1）

C,X ハ定數ニシテ第四表及第五表ニ依ル

Y ハ定數ニシテ次ノ各號ニ依ル

一、飛輪又ハ平衡重量ヲ有セサルトキハ第四表及第五表ニ依ル

二、飛輪又ハ平衡重量ヲ有スルトキハ次ノ算式ニ依ル

$$Y=\frac{D^2\times P\times S\times f}{(WF^2+6{\cdot}24\,wG^2)R^2\times X}$$

（第一表） 單働機關ニシテ {P カ 21·1 kg/cm² (300 lbs/in²) 乃至 49·2 kg/cm² (700 lbs/in²)／p カ 2·8 kg/cm² (40 lbs/in²) 乃至 4·2 kg/cm² (60 lbs/in²)} ナルトキ

氣筩ノ數		K							
		P＝21·1(300)		P＝28·1(400)		P＝35·2(500)		P＝42·2(600)乃至49·2(700)	
4サイクル	2サイクル	p＝2·8(40)	p＝4·2(60)	p＝2·8(40)	p＝4·2(60)	p＝2·8(40)	p＝4·2(60)	p＝2·8(40)	p＝4·2(60)
1, 2, 3, 4	1, 2	5·0	4·2	10·3	8·1	11·5	9·8	11·8	10·1
5, 6	3	6·0	5·3	11·7	9·3	13·0	11·2	13·3	11·5
7, 8	4	6·6	5·9	12·1	9·9	13·3	11·4	13·6	11·8
9, 10	5	7·1	6·3	12·5	10·4	13·6	11·8	13·9	12·0
11, 12	6	7·5	6·7	12·8	11·0	14·2	12·2	14·3	12·3
	7	8·1	7·2	13·3	11·6	14·7	12·5	14·8	12·6
	8	8·5	7·7	13·8	12·2	14·9	12·7	15·1	12·8

P 及 p ノ値カ前表ニ掲ケタルモノノ間ニ在ルトキハ K ノ値ハ挿間法ニ依リ之ヲ定ム

（第二表） 單働機關ニシテ {P カ 35·2 kg/cm² (500 lbs/in²) 乃至 49·2 kg/cm² (700 lbs/in²)／p カ 5·6 kg/cm² (80 lbs/in²) 乃至 9·8 kg/cm² (140 lbs/in²)} ナルトキ

氣筩ノ數		K			
		P＝35·2 (500) 乃至 49·2 (700)			
4サイクル	2サイクル	p＝5·6(80)	p＝7·0(100)	p＝8·4(120)	p＝9·8(140)
1, 2, 3, 4	1, 2	8·8	8·2	7·6	7·3
5, 6	3	9·8	9·0	8·5	8·2
7, 8	4	10·7	9·9	9·5	9·2
9, 10	5	11·0	10·5	10·0	9·7
11, 12	6	11·6	10·9	10·5	10·0
	7	11·8	11·2	10·8	10·5
	8	12·3	11·7	11·4	11·2
	9	13·0	12·4	12·0	11·8
	10	14·0	13·6	13·3	13·1
	11	14·4	14·0	13·7	13·5
	12	15·2	14·8	14·5	14·3
二箇ノ氣筩カ同時ニ著火スルトキ	8	19·2	18·9	18·8	18·4
	10	19·4	19·1	18·8	18·6
	12	19·6	19·3	19·0	18.8

P ノ値カ前表ニ掲ケタルモノノ間ニ在ルトキハ K ノ値ハ挿間法ニ依リ之ヲ定ム

(第三表) 複働機關ニシテ {P カ 35·2 kg/cm² (500 lbs/in²) 乃至 49·2 kg/cm² (700 lbs/in²)、p カ 5·6 kg/cm² (80 lbs/in²) 乃至 9·8 kg/cm² (140 lbs/in²)} ナルトキ

4サイクル K P=35·2(500) 乃至 49·2(700) p=5·6(80)	p=7·0(100)	p=8·4(120)	p=9·8(140)	氣筩ノ數及曲拐ノ配置		2サイクル K P=35·2(500) 乃至 49·2(700) p=5·6(80)	p=7·0(100)	p=8·4(120)	p=9·8(140)
7·0	6·3	5·9	5·6	1	各氣筩カ同時ニ著火セサルモノ	6·9	6·0	5·5	5·3
9·2	8·5	8·1	7·9	2		9·8	9·0	8·6	8·3
9·2	8·5	8·1	7·9	3		7·9	7·1	6·7	6·4
10·3	9·6	9·2	9·0	4		14·0	13·6	13·3	13·0
				4		10·9	10·4	10·1	9·9
12·2	11·6	11·2	11·0	5		11·7	11·2	10·9	10·7
11·2	10·6	10·2	10·0	6		14·0	13·5	13·2	13·0
				6		14·0	13·5	13·2	13·0
14·0	13·6	13·4	13·2	7		14·5	14·0	13·7	13·5
12·5	11·9	11·6	11·4	8		17·4	16·9	16·7	16·5
14·6	14·2	14·0	13·8	8	同時ニ二箇ノ氣筩カ著火スルモノ				
				9		18·1	17·7	17·5	17·3
				10		20·4	20·0	19·8	19·6
				10		24·8	24·5	24·3	24·1

p ノ値カ前表ニ揭ケタルモノノ間ニ在ルトキハ K ノ値ハ挿間法ニ依リ之ヲ定ム

(第四表) 單働機關ニシテ {P カ 21·1 kg/cm² (300 lbs/in²) 乃至 49·2 kg/cm² (700 lbs/in²)、p カ 2·8 kg/cm² (40 lbs/in²) 乃至 9·8 kg/cm² (140 lbs/in²)} ナルトキ

4サイクル單働 氣筩ノ數	C	X	Y	飛輪又ハ平衡重量ヲ有セサルトキ	2サイクル單働 氣筩ノ數	C	X	Y	飛輪又ハ平衡重量ヲ有セサルトキ
1, 2, 3, 4	4700	4			1, 2	4700	4		
5	3800	6			3	3160	12		
6	3160	12		·6	4	2370	18		
7	2720	20		·4	5	1900	50		·15
8	2380	30		·2	6	1580	200		·05
9	2110	80		·1	7	1360	400		·02
10	1900	200		·05	8	1190		Y=0	
11	1730	400		·02	9	1050		Y=0	
12	1580		Y=0		10	950		Y=0	
					11	860		Y=0	
					12	860		Y=0	
					8	1190	12		·45
				二箇ノ氣筩カ同時ニ著火スルモノ	10	950	35		·15
					12	790	130		·05

（第五表） 複働機關ニシテ $\left\{\begin{array}{l}\text{P カ } 35{\cdot}2\,kg/cm^2(500\,lbs/in^2)\text{ 乃至 } 49{\cdot}2\,kg/cm^2(700\,lbs/in^2)\\ \text{p カ } 5{\cdot}6\,kg/cm^2(80\,lbs/in^2)\text{ 乃至 } 9{\cdot}8\,kg/cm^2(140\,lbs/in^2)\end{array}\right\}$ ナルトキ

4サイクル複働			氣筩ノ數及曲拐ノ配置		2サイクル複働		
C	X	Y 飛輪又ハ平衡重量ヲ有セサルトキ			C	X	Y 飛輪又ハ平衡重量ヲ有セサルトキ
5000	2·5		各氣筩カ同時ニ著火セサルモノ	1	2510	7	
5000	2·5			2	2510	7	
3350	3			3	1670	23	·35
2510	6			4	1260	11	·7
				4	1260	22	·35
2010	15	·46		5	1000	200	·05
1680	33	·27		6	840	300	·03
				6	840	300	·03
1440	27	·4		7	720	400	·02
1260	40	·21		8	630	400	·02
1260	30	·28	二箇ノ氣筩カ同時ニ著火スルモノ	8			
				9	560	Y=0	
				10	500	Y=0	
				10	500	130	·05

飛輪軸ノ徑ハ曲拐軸ニ要スルモノ以上ナルコトヲ要ス

推力軸ノ推力鍔間ニ於ケル徑ハ中間軸ニ要スル徑ニ其ノ5%ヲ増シタルモノ以上ナルコトヲ要ス

中間軸ノ徑ハ必要ト認ムルトキハ震動ノ同時發生ヲ避クル爲メ適當ニ之ヲ増スヘシ

螺旋軸ノ徑ハ第四十章第三條ニ掲ケタル算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

組立曲拐軸ニ於ケル曲拐腕ハ第四十章第八條ノ規定ニ依リ其ノ寸法ヲ定ムヘシ

一體ニ鍛造シタル曲拐軸ニ於ケル曲拐腕ノ寸法ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

$$b\times t^2=\frac{d^3}{2{\cdot}4}$$

d ハ曲拐軸ノ徑（mm 又ハ in ニテ）

b ハ曲拐腕ノ幅（mm 又ハ in ニテ）

t ハ曲拐腕ノ厚（mm 又ハ in ニテ）

前項ノ曲拐腕ノ厚ハ 0·55d 以上ナルコトヲ要ス

曲拐腕ト軸又ハ栓トノ連續部ニハ丸味ヲ附シ其ノ半徑ヲ軸受部ニ在リテハ 0·07d 以上又曲拐栓ニ在リテハ 0·05d 以上ト爲スコトヲ要ス

補助機關ノ曲拐軸ノ徑ハ本條ノ算式ニ依リ定メタルモノヨリ其ノ5%ヲ減スルモ妨ナシ

第六條 軸 鍔

軸鍔ハ第四十章第六條ノ規定ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第七條 軸 鍔 螺 釘

軸鍔螺釘ノ軸鍔ノ連結面ニ於ケル最小徑ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

$$d=\sqrt{\frac{D^3}{3{\cdot}5\times n\times r}}$$

d ハ螺釘ノ徑（mm 又ハ in ニテ）

D ハ軸ノ徑ニシテ次ノ各號ニ依ル

一、推力軸、中間軸又ハ螺旋軸ノ場合ハ中間軸ニ要スル徑（mm 又ハ in ニテ）

二、曲拐軸又ハ飛輪軸ノ場合ハ曲拐軸ニ要スル徑ニ ·95 ヲ乘シタルモノ（mm 又ハ in ニテ）

r ハ螺釘心圈ノ半徑（mm 又ハ in ニテ）

n ハ螺釘ノ數

第八條 水 壓 試 驗

主機關ノ氣筩頭、內筩ヲ有セサル氣筩、內外面ヲ削成セサル內筩及起動及噴油用空氣壓縮機ノ氣筩ハ最大壓力ノ 2 倍ノ水壓力ヲ以テ又氣筩ノ水套ハ 3·5 kg/cm²(50 lbs/in²) ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

第九條 [illegible] 槽

氣槽ハ中間充氣ヲ行ハスシテ主機關ノ發動 12 回以上ヲ行フニ十分ナル空氣ヲ貯藏シ得ルモノナルコトヲ要ス

鋲釘接合ヲ用ウル筩形氣槽ノ鋼板ハ第三十五章ニ掲ケタル汽罐用胴板ノ試驗及檢査ニ關スル規定ニ適合シ又其ノ胴板ノ厚ハ筩形汽罐胴板ノ厚ニ關スル算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

製造者ハ前項ノ鋲釘接合其ノ他ニ關シ詳細ナル圖面ヲ差出シ承認ヲ受クルコトヲ要ス

鋲釘接合ヲ用ウル氣槽ノ端板カ外方ニ凸出スル皿形ナルトキハ其ノ板ノ厚ハ次ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

$$W=\frac{C\times S\times t}{R} \qquad t=\frac{W\times R}{C\times S}$$

W ハ最大壓力 (kg/cm² 又ハ lbs/in²)

S ハ端板ノ最小抗張力 (kg/mm² 又ハ tons/in²)

t ハ端板ノ厚 (mm 又ハ in ノ三十二分ノ一ニテ)

R ハ皿形端板ノ彎曲內半徑 (mm 又ハ in ニテ)

C ハ定數ニシテ 25·7 (英式單位ナルトキ 18)

端板カ內方ニ凹入スル皿形ナルトキハ前項ニ依ル厚ニ其ノ 20% ヲ增シタルモノトナスコトヲ要ス

無接合又ハ鍛接合ノ氣槽ニ用ウル鋼材ハ平爐ニ依リ製造シタル最良ノ軟鋼ニシテ抗張力ハ 36 kg/mm²(23 tons/in²) 以上又伸長率ハ標點間ノ長 200mm(8in) ナルトキ 25% 以上ナルコトヲ要ス

前項ノ氣槽ニ於ケル鋼板ノ厚ハ次ノ各號ニ掲クル算式ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

一、筩形胴板

$$W=\frac{C(T-t_0)}{D} \qquad T=\frac{W\times D}{C}+t_0$$

二、扁平端板

$$W=\frac{C(t-t_0)^2}{D^2} \qquad t=\sqrt{\frac{W\times D^2}{C}}+t_0$$

三、皿形端板

$$W=\frac{C(t-t_0)}{R} \qquad t=\frac{W\times R}{C}+t_0$$

T ハ胴板ノ厚 (mm 又ハ in ニテ)

t ハ端板ノ厚 (mm 又ハ in ニテ) ニシテ T 以上ナルコトヲ要ス

W ハ最大壓力 (kg/cm² 又ハ lbs/in² ニテ)

D ハ胴ノ最大內徑 (mm 又ハ in ニテ)

R ハ皿形端板ノ彎曲內半徑 (mm 又ハ in ニテ)

t_0 ハ定數ニシテ 1·6 (英式單位ナルトキ $\frac{1}{16}$)

C ハ定數ニシテ次表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧內ノ數字ヲ用ウヘシ

板 ノ 種 類		C
胴 板	鍛接合ナルトキ	1,265 (18,000)
	無接合ナルトキ	1,830 (26,000)
扁 平 端 板		5,625 (80,000)
皿 形 端 板		1,265 (18,000)

胴板ニ在リテハ抗張力 36 kg/mm² (23 tons/in²) ヲ超ユルトキハ其ノ割合ヲ以テ C ヲ增スコトヲ得

鍛接合胴板ノ抗張力ハ 47 kg/mm² (30 tons/in²) ヲ超ユルコトヲ得ス

材料ハ總テ檢査員ニ於テ檢査及試驗ヲ行フモノトス

氣槽ハ端板ヲ取附クル前内部ノ檢査ヲ受クルコトヲ要ス

氣槽ノ縱接合ヲ鍛接スルトキハ累鍛接ト爲スコトヲ要ス又電氣、「オキシアセチリン」瓦斯又ハ酸水素瓦斯ヲ用ウル鎔接ハ之ヲ氣槽ニ施スコトヲ得ス

無接合又ハ鍛接合ノ氣槽ハ完成後之ヲ燒鈍シ檢査員立會ノ上最大壓力ノ2倍ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

鋲釘接合ノ氣槽ハ筩形汽罐ノ水壓試驗ニ關スル規定ニ依リ試驗スルコトヲ要ス（第三十六章第五十六條參照）

氣槽ノ端板ニハ若シ出來得ルトキハ内部ヲ檢査スル爲メ檢査孔ヲ設クヘシ

人孔ヲ設クルニ十分ナル徑ヲ有スル氣槽ニハ總テ之ヲ設クヘシ

氣槽ノ底部ニハ水又ハ油ヲ排出スル爲メ排水瓣ヲ備フルコトヲ要ス又氣槽ニハ失火ノ場合ニ於テ氣壓ノ過度ニ昇騰スルヲ防ク爲メ逃出瓣ヲ備フヘシ

空氣管系ニハ封鎖シ得ヘキ構造ノ安全瓣ヲ備フルコトヲ要ス又燃料噴射用ノ氣管ニハ成ルヘク不還瓣又ハ其ノ他ノ適當ナル裝置ヲ設ケ噴油瓣匣内ニ於テ發火スルコトアルモ氣管ヲ通シテ氣槽内ニ延燒スルコトナキ樣裝置スヘシ

第十條 空氣壓縮機

空氣壓縮機ハ内燃機關ノ曲拐室内ヨリ吸氣スルコトナキ樣設計スヘシ

壓縮空氣ハ一回ノ壓縮毎ニ適當ニ冷却スルコトヲ要ス又其ノ溫度ハ氣槽ニ送入スル前冷却用水ノ溫度ヨリ 11°C (20°F) ヲ超ユルコトナカラシムヘシ

空氣壓縮機ノ氣筩ニハ安全瓣又ハ之ニ類スル適當ノ裝置及壓力計ヲ備ヘ又塵埃ノ侵入及油霧ノ逸出ヲ防ク爲メ適當ナル裝置ヲ設クルコトヲ要ス

前項ノ安全瓣ハ壓縮機ノ塞氣瓣ヲ閉チタル儘通常使用ノ狀態ニ於テ之ヲ運轉スルモ尙氣壓ノ昇騰カ調整氣壓以上ノ 10% ヲ超エサルモノナルコトヲ要ス

壓縮空氣ノ冷却ニ用ウル管ハ容易ニ掃除シ又ハ取外シ得ルコトヲ要ス

機關室ニハ補助空氣壓縮機ヲ備ヘ主機關ヲ起動スル場合又ハ之ニ附屬スル空氣壓縮機ヲ使用シ得サル場合ノ用ニ供スルコトヲ要ス

補助空氣壓縮機ノ能力ハ主機關一組ニ附屬スル空氣壓縮機ノ能力ノ $\frac{1}{2}$ 以上ト爲

スヘシ

壓縮機ノ循環水ハ循環喞筒カ破損スルコトアルモ其ノ他ノ獨立喞筒ヲ以テ送水シ得ヘキ樣設置スヘシ

第十一條 機關床ハ適當ナル肋骨ヲ有スル堅牢ナル構造ト爲シ又機柱ハ張力ニ耐ヘ得ル樣特ニ注意シテ設計スルコトヲ要ス

曲拐室ヲ蔽圍シタル機關ニ於テハ曲拐軸、主軸受等ヲ檢査スル爲メ容易ニ取外シ得ヘキ戶ヲ設ケ又適當ナル換氣裝置ヲ設クルコトヲ要ス

機關室ノ床板ヲ支フル架構ハ金屬製トシ木材ハ之ニ使用スルコトヲ得ス

第十二條 氣筩頭ニハ氣筩内ニ於ケル過大ノ壓力ヲ警告セシムル爲逃出瓣ヲ備フヘシ

氣筩ノ水套ニハ驗水嘴子及排水嘴子ヲ備フヘシ

第十三條 淺水ニ使用スル目的ノ船ニ在リテハ船底及彎曲部上ニ各一箇ノ循環水吸水瓣ヲ備フヘシ

循環水吸水瓣ト循環喞筒トノ間ニハ適當ナル濾水器ヲ備ヘ且ツ該器ハ機關ノ運轉中ト雖モ開放又ハ掃除シ得ヘキ樣設計スヘシ

氣筩ノ水套ヨリ排出スル循環水ハ之ヲ見得ル樣裝置スルカ又ハ驗水嘴子若ハ其ノ他ノ方法ニ依リ各水套内ノ水流カ連續セルコトヲ知リ得ヘキ裝置ヲ設クルコトヲ要ス

第十四條 燃料油ノ貯藏及移送ニ關スル裝置ニ付テハ第三十二章及第三十八章ニ揭クル規定ニ依ルコトヲ要ス

第十五條 燃料油濾過器ノ逃出瓣ニハ排油管ヲ備ヘ油槽内又ハ甲板上ニ導キ後者ノ場合ニ於テハ管端ヲ下方ニ彎曲セシメ之ニ金網製ノ隔膜ヲ備フルコトヲ要ス

第十六條 燃料油管及壓縮空氣管ニハ鋼管又ハ燒鈍シタル引拔銅管ヲ用ウルコトヲ要ス其ノ壓力 28 $\mathrm{kg/cm^2}$ (400 $\mathrm{lbs/in^2}$) ヲ超ユルトキハ管ノ接合ハ成ルヘク金屬直接ノ接合トナシ塡材ヲ用キサルヲ可トス

前項ノ管ハ最大壓力 70 $\mathrm{kg/cm^2}$(1,000 $\mathrm{lbs/in^2}$) 以下ナルトキハ其ノ二倍以上又

70 kg/cm² (1,000 lbs/in²) ヲ超ユルトキハ之ニ 70 kg (1,000 lbs) ヲ加ヘタルモノ以上ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

第十七條 排氣管カ木甲板ヲ貫通シ又可燃性物ニ接近スルトキハ適當ナル防熱裝置ヲ設クルコトヲ要ス

排氣管ヲ船外ニ導キ水線ノ附近ニ達セシムルトキハ海水カ吸揚作用ニ依リ氣筩內ニ侵入セサル樣裝置スルコトヲ要ス

消音器ハ掃除又ハ檢査ノ爲メ容易ニ開放シ得ヘキ構造ナルコトヲ要ス

第十八條 强壓注油裝置ノ冷油槽ニハ冷却用ノ水管ヲ備ヘ循環水管系ニ連結セシムルコトヲ要ス

强壓注油喞筒ニハ壓力計ヲ備フルコトヲ要ス又該喞筒ハ空氣ノ停滯ニ依リ其ノ動作ヲ妨クルコトナキ樣設計スヘシ

油溜ハ出來得ル限リ航海中管內ニ空氣ヲ吸入セシメサル樣裝置スルコトヲ要ス

機關室ニハ何時ニテモ使用シ得ヘキ豫備强壓注油喞筒ヲ備ヘ又油冷却器ヲ備フルトキハ之ニ單獨ニ送水シ得ヘキ二樣以上ノ裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第十九條 電氣點火導線ハ完全ニ絕緣シ又外部ヨリ損傷ヲ受クルコトナキ樣適當ニ保護スルコトヲ要ス

前項ノ導線ハ揮發管ヨリ適當ナル距離ヲ有セシメ又油ト接觸スル虞ナキ場所ニ之ヲ敷設スヘシ

「コンミユテーター」ハ之ヲ蔽圍スルコトヲ要ス又火花線輪ハ爆發性ノ瓦斯ニ暴露スヘキ場所ニ取附クルコトヲ得ス

露出火花間隙ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

揮發油又ハ重油ヲ使用スル機關ニ於テ點火又ハ氣化ノ目的ニ燈ヲ使用スルトキハ適當ナル臺上ニ之ヲ固持シ又其ノ火焰ハ之ヲ蔽圍スヘシ

第二十條 機關室ニハ適當ナル消火裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第二十一條 近海航路以上ニ使用スル船ニ在リテハ次ノ通リ豫備品ヲ備フヘシ

（第三十四章第五條參照）

一、主內燃機關

氣筩蓋	瓣其ノ他ヲ完備セルモノ	一箇
吸鍔	完備セルモノ	一箇
軸鍔螺釘	曲拐軸及中間軸用ノモノ	各種一組
吸鍔冷却用「テレスコピツク」管	吸鍔一箇ニ對スル分	一組

二、主及補助內燃機關

氣筩ニ屬スル瓣、瓣坐、發條其ノ他	氣筩一箇ニ對スル分	一組
燃料油針狀瓣		總數ノ二分ノ一
吸鍔彈環		一組
接續鋅上部ノ螺釘及母螺		各二箇
接續鋅下部ノ螺釘及母螺		各二箇
主軸受ノ螺釘及母螺		各二箇
氣筩蓋ノ螺釘又ハ植込螺釘		一組
主及補助空氣壓縮機ノ吸鍔彈環	壓縮機ノ各段階ニ付	一組
主及補助空氣壓縮機ノ瓣		總數ノ二分ノ一
燃料油喞筒ノ働作部	完備セルモノ	一組

三、補助喞筒

掃除空氣喞筒ノ瓣	一組
常用燃料油喞筒ノ瓣	一組
循環喞筒ノ瓣	一組
注油喞筒ノ瓣	一組
給水喞筒ノ瓣	一組

四、雜品

螺釘、母螺、植込螺釘、鐵棒、鐵板、高壓燃料油管、高壓空氣管及是等管ノ附屬品	各取合セ若干

前項ニ於テ近海航路ト稱スルハ遞信省船舶檢査法規ニ定ムル近海航路ヲ謂フ

第四十三章

電氣裝置

船舶推進以外ノ目的ニ使用スル電氣裝置ハ此ノ規程ニ依ルコトヲ要ス

第一條　供給電壓

供給電壓ハ次ノ各號ニ揭クルモノヲ超ユルコトヲ得ス

一、直流不變電壓式

甲、動力用　　500「ヴオルト」

乙、點燈及電熱用　　250「ヴオルト」

二、交流不變電壓式

甲、動力及電熱用　　250「ヴオルト」

乙、點燈用　　150「ヴオルト」

三、直流不變電流直列式　　650「ヴオルト」

引火點 65.5°C (150°F) 未滿ノ油ヲ搭載スル船ニ在リテハ第十八條ノ規定ニ依ルコトヲ要ス

第二條　發電機

發電機カ蒸氣機關又ハ內燃機關ニ依リ運轉セラルルモノナルトキ各機關ニハ之ニ急激ニ全負荷ヲ加ヘ若ハ除キタル場合其ノ速度ノ變化ヲ自働的ニ第一表ニ揭クル割合以內ニ止ムル調速器ヲ備フルコトヲ要ス

第一表

容量		瞬間的	永久的
50「キロワツト」以下ナルトキ		10%	5%
50「キロワツト」ヲ超ユルトキ	蒸氣機關	10%	3%
	內燃機關	10%	5%

發電機規格ハ附錄第一號ニ依ルコトヲ要ス但シ船內ノ特ニ高溫度ノ場所ニ於ケルモノ又ハ熱帶地方ニ於テ使用セラルルモノハ定格全負荷ヲ超エテ使用スヘカラスH.ツ其ノ定格全負荷ニ於ケル溫度ノ上昇ハ捲線及鐵心ニ於テ 35°C (63°F) ヲ超ユルコトヲ得ス

溫度ハ凡テ寒暖計ニ依リ測定スルモノトス

發電機カ並行運轉セラルル場合ニ在リテハ各發電機ハ各負荷ニ對シ標準電壓以上其ノ 5%、以下 10% ノ範圍內ニ於テ發電機ノ電壓ヲ調整シ得ル樣分捲線輪ニ直列ニ 25 以上ノ等階段ヲ有スル加減シ得ヘキ調整抵抗ヲ備フルコトヲ要ス

發電機ニハ布線ニ便ニシテ接近シ易キ位置ニ於テ記號ヲ附シタル端子ヲ設ケ之ニ適當ナル電纜取附承口ヲ備フルコトヲ要ス

發電機ハ通風良好ニシテ燃エ易キ瓦斯ノ蓄積セサル區劃內ニ於テ燃エ易キ物質ニ接近セスH.ツ機械的損傷又ハ水、蒸氣若ハ油ニ依ル損害ヲ受クル惧ナキ場所ニ設置スルコトヲ要ス

海洋ヲ航行スル船ニ在リテハ發電機ハ其ノ回轉軸ヲ船ノ前後ノ方向ニ向ケ設置スルコトヲ要ス

發電機ノ臺及枠ハ有效ニ接地シ原動機ト發電機トノ間ニ絕緣物ヲ挿入セサルモノトス

第三條　配電盤

配電盤ハ燃エ易キ瓦斯又ハ酸性瓦斯ナク取扱容易ニシテ燃エ易キ物質ニ接近セスH.ツ機械的損傷又ハ水、蒸氣、熱若ハ油ニ依ル損害ヲ受クル惧ナキ場所ニ設置スルコトヲ要ス

配電盤ハ凡テ耐久、不燃性、不吸收性物質ヲ以テ構成シ其ノ絕緣ハ永ク良好ナル絕緣耐力及絕緣抵抗ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

大理石又ハ石板ノ如キ半絕緣性物質ヲ配電盤ニ使用シタル場合ニ在リテハ導電部ハ凡テ雲母又ハ其ノ他ノ不吸濕性物質ヲ以テ石板又ハ大理石盤ト絕緣シ又盤ハ全體トシテ同樣ニ其ノ枠ト絕緣シH.ツ枠ハ有效ニ接地スルコトヲ要ス

各帶電部ハ其ノ間ニ弧光ノ持續セサル樣配置スルコトヲ要ス

配電盤上ノ母線及導線竝該裝置中ノ「プラッグ」、「ソケット」及「カットアウト」（可鎔片ヲ除ク）ノ各部ハ定格全電流ヲ連續シテ通スルモ其ノ溫度カ周圍溫度以上30°C（54°F）ヲ超エサルモノト爲スコトヲ要ス

各電壓計、表示燈、接地燈及其ノ接續線ハ各絕緣極ニ取附ケタル可鎔片ニ依リ保護スルコトヲ要ス

開閉器ハ開キタルトキ其ノ刄又ハ可動部カ帶電セサル樣母線ニ接續シ又開閉器ト可鎔片トヲ同一極ニ取附クル場合ニ在リテハ開閉器ハ母線ト可鎔片トノ間ニ置クコトヲ要ス

此ノ規程ニ依リ單極開閉器又ハ可鎔片附開閉器ヲ要スル場合ニ在リテハ該開閉器ハ其ノ裝置中凡テ之ヲ同一極ニ取附クルコトヲ要ス

此ノ規程ニ依リ可鎔片ト開閉器又ハ可鎔片ト連繫開閉器トヲ要スル場合ニ在リテハ便宜可鎔片附開閉器又ハ可鎔片附連繫開閉器ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

第四條　主開閉裝置

各主配電盤ニハ少クトモ次ノ各號ニ依リ開閉裝置ヲ備フルコトヲ要ス

一、二　線　式

甲、發電機一臺ナル場合

イ、發電機ニ對シ

單線又ハ兩線接地式（兩線ヲ用ヰ其ノ一線ヲ裸線トシ接地セルモノ）ニ在リテハ單極過負荷遮斷器又ハ單極可鎔片及單極開閉器ヲ絕緣極ニ備フルコト

兩線絕緣式ニ在リテハ兩極過負荷遮斷器又ハ可鎔片及兩極連繫開閉器ヲ備ヘ可鎔片ハ各極ニ附スルコト

ロ、各送電回路ニ對シ

單線又ハ兩線接地式ニ在リテハ單極可鎔片及單極開閉器ヲ絕緣極ニ備フルコト

兩線絕緣式ニ在リテハ可鎔片ヲ各極ニ備ヘ且ツ單極開閉器ヲ一極ニ備フルコト但シ開閉器ハ凡テ同一極ニ附スルモノトス

乙、發電機二臺以上ニシテ並行運轉セラレサル場合

イ、各發電機ニ對シ

單線又ハ兩線接地式ニ在リテハ單極過負荷遮斷器又ハ單極可鎔片及單極開閉器ヲ絕緣極ニ備フルコト

兩線絕緣式ニ在リテハ兩極過負荷遮斷器又ハ可鎔片及兩極連繫開閉器ヲ備ヘ可鎔片ハ各極ニ附スルコト

ロ、各送電回路ニ對シ

單線又ハ兩線接地式ニ在リテハ單極可鎔片及單極切換開閉器ヲ絕緣極ニ備フルコト

兩線絕緣式ニ在リテハ可鎔片ヲ各極ニ備ヘ且ツ單極切換開閉器ヲ一極ニ備フルコト但シ切換開閉器ハ凡テ同極ニ附スルモノトス

丙、發電機二臺以上ニシテ並行運轉セラルル場合

イ、分捲式ナルトキハ各發電機ニ對シ

過負荷及逆流引外シ裝置ヲ有スル遮斷器ヲ備フルコト但シ該遮斷器ハ次ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

單線又ハ兩線接地式ニ在リテハ單極

兩線絕緣式ニ在リテハ兩極

ロ、複捲式ナルトキハ各發電機ニ對シ

過負荷及逆流引外シ裝置ヲ有スル遮斷器竝單極均壓開閉器ヲ備ヘ均壓開閉器ハ遮斷器カ閉サルル以前ニ於テ閉チ且ツ主回路カ遮斷サルルマテ開キ得サル樣裝置スルコト

前項ノ遮斷器ハ次ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

單線又ハ兩線接地式ニ在リテハ單極

兩線絕緣式ニ在リテハ兩極

ハ、各送電回路ニ對シ

單線又ハ兩線接地式ニ在リテハ單極可鎔片及開閉器ヲ絕緣極ニ備フルコト

兩線絕緣式ニ在リテハ可鎔片ヲ各極ニ備ヘ且ツ單極開閉器ヲ一極ニ備フルコト但シ開閉器ハ凡テ同一極ニ附スルモノトス

二、三　線　式

全電壓用又ハ均壓機トシテ使用セラルル半電壓用發電機二臺以上ニシテ並行運轉セラルル場合

分捲式ナルトキハ各發電機ニ對シ過負荷及逆流引外シ裝置ヲ有スル兩極遮斷器ヲ備フルコト

複捲式ナルトキハ各發電機ニ對シ過負荷及逆流引外シ裝置ヲ有スル兩極遮斷器竝單極均壓開閉器ヲ備ヘ均壓開閉器ハ遮斷器カ閉サルル以前ニ於テ閉チ且ツ主回路カ遮斷サルルマテ開キ得サル樣裝置スルコト

三線ニテ送電スル三線式各送電回路ニ對シテハ外側線ヲ制御スル兩極過負荷遮斷器ヲ備フルカ又ハ可鎔片ヲ各外側線ニ備ヘ且ツ外側線ヲ制御スル兩極連繫開閉器ヲ備フルコト、可鎔片又ハ開閉器ハ中性線ニ附スヘカラス但シ試驗用ノ斷路器ヲ備フルヲ妨ケス

三線式ノ中性線及一外側線ヨリ分岐スル兩線絕緣式ノ各送電回路ニ對シテハ兩極過負荷遮斷器ヲ備フルカ又ハ兩極連繫開閉器及其ノ各極ニ可鎔片ヲ備フルコト

三線式ノ中性線及一外側線ヨリ分岐スル單線又ハ兩線接地式ノ各送電回路ニ對シ外側線ニ接續スル極ニ過負荷引外シ裝置ヲ有スル兩極遮斷器ヲ備フルカ又ハ單極可鎔片及兩極連繫開閉器ヲ備ヘ可鎔片ハ外側線ニ接續スル極ニ附スルコト

第五條　計　器

主配電盤ニハ少クトモ次ノ各號ニ依リ計器ヲ備フルコトヲ要ス

一、二　線　式

發電機一臺ナル場合ニ在リテハ電壓計及電流計各一箇

發電機二臺以上ニシテ並行運轉セラレサル場合ニ在リテハ電壓計各一箇及各發電機每ニ電流計一箇但シ電壓計ニハ連繫兩極複式開閉器又ハ「プラッグ」ヲ附シ之ヲ各發電機ニ共用シ得ル樣爲スモノトス

發電機二臺以上ニシテ並行運轉セラルル場合ニ在リテハ電壓計二箇及各發電機每ニ電流計一箇又交流發電機ニ在リテハ並行運轉用同期裝置一組

複捲發電機ニ在リテハ電流計ハ均壓線ヲ接續シタル極ノ反對極ニ取付クルコトヲ要ス

電壓計中其ノ一箇ハ連繫兩極複式開閉器又ハ「プラッグ」ヲ裝備シ之ニ依リ任意ノ發電機カ回路ニ接續セラルル前發電機ト連結セシメ得ルモノト爲シ他ノ一箇ハ永久的ニ母線ト連結スルモノトス

二、三　線　式

二線式ニ要スルモノノ外中性線ト各外側母線トノ間ニ電壓計一箇又主中性線ニ中央零位ナル電流計一箇

一極ヲ永久的ニ接地シタル場合ヲ除キ主配電盤ニハ電燈、電壓計又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ電路ノ絕緣狀態ヲ表示スル適當ノ裝置ヲ設クルコトヲ要ス

第六條　開閉器及遮斷器

開閉器ノ各部ノ溫度上昇ハ定格電流ヲ連續シテ通スルトキ定格電流 100「アムペア」未滿ノモノニ在リテハ周圍溫度ヨリ 20°C (36°F)、定格電流 100「アムペア」以上ノモノニ在リテハ周圍溫度ヨリ 30°C (54°F) ヲ超エサルモノトス

開閉器トシテ回路ヲ遮斷スル可鎔片附開閉器及開閉器ハ定格電壓ノ 1.5 倍ノ電壓ヲ以テ定格電流ノ 1.5 倍ノ電流ヲ通シタルトキ孤光ヲ持續スルコトナク回路ヲ遮斷シ得ルモノト爲スコトヲ要ス

可鎔片トシテ回路ヲ遮斷スル可鎔片附開閉器及遮斷器ニ付テハ第七條ノ規定ニ依ルモノトス

臺ハ耐久、不燃性ノ絕緣體ニシテ不吸收性ナル物質ヲ以テ構成スルコトヲ要ス

配電盤上ニ取附ケサル開閉器ハ不燃性ノ覆ヲ以テ圍ヒ且ツ機械的損傷ヲ受ケサル樣保護スルコトヲ要ス

125「ヴオルト」ヲ超ユル電壓ニ於テ 6「アムペア」ヲ超ユル電流ヲ通スル開閉器ノ金屬性外函ニハ不燃性絕緣物ヲ以テ內張スルコトヲ要ス

雨露又ハ强度ノ濕氣ニ暴露スル場所ニ設置スル開閉器ハ防水函內ニ收ムルコトヲ要ス

第七條　可鎔「カツトアウト」

可鎔片ノ鎔解電流ハ該可鎔片ヲ以テ保護スヘキ電纜中最小電纜ノ最大容量電流ノ2倍ヲ超ユルコトヲ得ス

各「カツトアウト」ニハ適當ナル不燃性絕緣體ノ可鎔片支持具ヲ備フルコトヲ要ス

接觸點及其ノ端子ハ可鎔片カ切レタルトキ孤光ノ持續セサル樣互ニ間隔ヲ保タシムルカ又ハ遮蔽ヲ設ケテ保護スルコトヲ要ス

可鎔片ハ開閉器、壁附「プラツグ」、承口又ハ紐線吊ニ取附ケサルモノトス

第八條　接續函、區電盤及分電盤

接續函、區電盤及分電盤ノ構造ハ第三條ノ規定ニ依ルモノトス

區電盤又ハ分電盤ハ船內ノ別箇ノ區劃又ハ場所ニ設置スル場合ヲ除キ凡テ保護函內ニ收ムルコトヲ要ス

金屬製函ハ開閉器及可鎔片（密閉式ナルト否トヲ問ハス）ニ面スル部分ヲ不燃性絕緣物ヲ以テ內張リシ函內ノ帶電部ハ凡テ函ト 38 mm $(1\frac{1}{2}\text{in})$ 以上隔離スルコトヲ要ス

軟木製函ハ不燃性ノ物質ヲ以テ內張リシ函內ノ帶電部ハ凡テ之ト 25 mm(1 in) 以上隔離スルコトヲ要ス但シ「チーク」ノ如キ硬木ヲ以テ製シタル函ニ在リテハ此ノ限リニアラス

後面ナキ覆函ニ在リテハ內部ノ電氣部分品ト之ヲ取附クヘキ隔壁又ハ其ノ他ノ

構造物トノ間ニ不燃絕緣性遮蔽ヲ設クルモノトス

硝子蓋ヲ備フル函ニ在リテハ硝子蓋ト帶電部トハ 25 mm(1 in) 以上隔離スルコトヲ要ス

金屬製函ニ在リテハ硝子蓋ハ絕緣保護物ト看做スコトヲ得

雨露又ハ强度ノ濕氣ニ暴露スル場所ニ設置スヘキ函ハ凡テ防水構造ト爲スコトヲ要ス

第九條　導　　線

導線ハ凡テ附錄第二號ニ依ル軟銅タルヘキモノトス

導線ノ絕緣被覆カ硫黃ヲ含有スルモノナルトキハ不純物ヲ含有セサル錫ヲ以テ各線ヲ有效ニ且ツ一樣ニ鍍金スルコトヲ要ス

斷面積 1 mm² (0·0015 in²) 未滿ノ導線ヲ有スル電纜ハ使用スルコトヲ得ス

但シ之ニ依リ難キ裝飾用電氣器具類ノ布線ニ在リテハ其ノ導線ノ斷面積ヲ 0·4 mm² (0·0006 in²) マテ減スルコトヲ得

有效斷面積 2·1 mm²(0·0033 in²) ヲ超ユル導線ハ撚線ト爲スモノトス

導線ハ最大負荷ニテ主配電盤上ノ母線ト該裝置中ノ各點トノ間ニ於ケル電壓降下カ點燈用回路ニ在リテハ 2「ヴオルト」ニ母線電壓ノ 3% ヲ加ヘタルモノヲ超エス又動力及電熱用回路ニ在リテハ 2「ヴオルト」ニ母線電壓ノ 5% ヲ加ヘタルモノヲ超エサル樣其ノ太サヲ定ムルコトヲ要ス但シ電流ハ各導線ノ太サニ對シ第二表乃至第四表ニ揭クルモノヲ超ユヘカラス

均壓線ノ斷面積ハ發電機用主電纜ノ斷面積ノ二分ノ一以下タルヲ得ス

第十條　電纜ノ絕緣及保護被覆

一、**護謨絕緣電纜**　護謨絕緣電纜ハ純護謨ヲ以テ直接導線ヲ包ミ其ノ上ヲ更ニ二層ノ硫化護謨ヲ以テ被覆シ此ノ三層ノ被覆ヲシテ絕緣體ヲ構成セシメ其ノ厚ヲ第六表第三欄ニ揭クルモノ以上ト爲シ更ニ防水「テープ」ヲ以テ之ヲ捲キ其ノ全體ニ硫化ヲ施シタルモノトス但シ特ニ承認ヲ得タル場合ニ限リ本項以外ノ絕緣方法ヲ採用スルコトヲ得

編組電纜ハ護謨又ハ鎧裝ニ有害ナラサル保護混和物ヲ充分ニ含浸セシメタル麻、木綿又ハ「ジユート」ヲ以テ其ノ外部ニ編組ヲ施シタルモノトス

600「メグオーム」級ヲ超ユル絶縁抵抗ヲ有スル電纜ハ高溫度ノ場所ニ使用セサルヲ可トス

二、**紙絶縁電纜**　紙絶縁電纜ハ化學的中性ナル絶縁混和物ヲ以テ含浸セシメタル紙ノ被覆ヲ以テ絶縁トシ之ヲ鉛被ノ外徑ノ 10 倍ノ半徑ヲ以テ彎曲スルモ絶縁體ヲ毀損セス又電纜ヲ切斷スルモ絶縁混和物ノ認識シ得ル程度ニ滲出セサルモノトス

絶縁體ノ厚ハ第七表第三欄ニ掲クルモノヨリ小ナルコトヲ得ス

三、**鉛被**　電纜ニ鉛被ヲ施ス場合ニ在リテハ均等ノ厚ヲ有スル純鉛ノ密著セル外裝ヲ施シ其ノ厚ハ第六表及第七表ニ掲クルモノヨリ小ナラサルコトヲ要ス

四、**鎧裝**　鉛被電纜ヲ鎧裝スル場合ニ在リテハ鉛被上ニ耐濕防腐劑ヲ含浸セシメタル「ジユート　ヤーン」、「ヘシアン　テープ」又ハ他ノ適當ナル物質ヲ纏捲シ其ノ上ヲ第六表及第七表ニ掲クル徑ヲ有スル亞鉛鍍軟鋼線ヲ以テ鎧裝スルコトヲ要ス

鎧裝用軟鋼線ハ均等ノ撚程ト爲シ其ノ撚程ハ徑 2 mm (0·08 in) ヲ超ユル軟鋼線ナルトキハ層心徑ノ 10 倍ヲ超エス、徑 2 mm (0·08 in) 以下ノ軟鋼線ナルトキハ其ノ 8 倍ヲ超エサルモノト爲スコトヲ要ス

編組電纜ヲ鉛被ヲ施サスシテ鎧裝スル場合ニ在リテハ前項ニ準シ編組上ヲ鎧裝スルモノトス

五、**「カムブリツク」絶縁電纜**　「ワニス」ヲ浸潤シタル「カムブリツク」ヲ以テ絶縁シタル電纜ハ第五表及第八表ニ適合シ且附錄第二號ニ規定スル 660「ヴオルト」ノ電壓ニ使用セラルル紙絶縁電纜ニ關スル試驗ニ合格スルコトヲ要ス

本電纜ハ鉛被ヲ施シ又ハ鉛被ヲ施シタル上鎧裝ヲ行ヒタルモノニシテ本條第二號第二項ノ規定ニ合格スルモノナルコトヲ要ス

六、**電纜ノ絶縁試驗**　護謨絶縁電纜又ハ紙絶縁電纜（可撓紐線ヲ除ク）ノ絶縁體ハ附錄第二號ニ依ル耐壓試驗及其ノ他ノ試驗ニ合格スルコトヲ要ス

前項ノ耐壓試驗ヲ執行シタル後電纜ヲ水ニ浸シタル儘少クトモ 500「ヴオルト」ノ電壓ヲ以テ一分間課電ノ後絶縁抵抗ハ 15·6°C (60°F) ノ溫度ニ於テ第七表ニ掲クルモノヨリ小ナルコトヲ得ス

多心電纜（可撓紐線ヲ除ク）ノ各線心ノ絶縁抵抗ハ之ト同一斷面積ヲ有スル單心電纜ノ絶縁抵抗（第十表參照）ヨリ小ナルコトヲ得ス

同心電纜ノ二線間ニ於ケル絶縁體ノ絶縁抵抗ハ內部線ト同徑ノ單心電纜ノ絶縁抵抗（第十表參照）ヨリ小ナルコトヲ得ス

第十一條　電纜ノ布設及取附

電纜ハ成ルヘク水又ハ油ノ滴下若ハ停滯ナク汽罐、汽管等ニ依ル高溫度ニ暴露セス取扱容易ナル場所ニ之ヲ布設シ且ツ機械的損傷ヲ受ケサル樣適當ニ保護スルコトヲ要ス

機關室、雨露又ハ海水ニ暴露スル場所ニ布設スル電纜ニハ鉛被ヲ施スコトヲ要ス、該電纜ハ鎧裝スルコトヲ得又其ノ鎧裝上ニ編組ヲ施スコトヲ得

乾燥セル場所ニ在リテハ電纜ハ其ノ種類ノ如何ニ拘ラス之ヲ木製樋內ニ收ムルコトヲ得但シ電纜カ交叉スル場合ニ在リテハ各電纜ヲ別箇ノ溝ニ通シ確實ニ隔離スル樣適當ノ方法ヲ講スルモノトス

木製樋內ヲ通ササル鎧裝電纜及鉛被電纜ハ適當ノ間隔ニ設ケタル金屬製「クリツプ」ヲ以テ取附ケ且ツ適當ノ方法ニ依リ該電纜ノ金屬被覆ノ任意ノ二點間ニ於ケル電氣抵抗カ 2「オーム」ヲ超エサル樣爲スモノトス

斷面積 160 mm² (0·25 in²) 以上ノ鎧裝電纜ニ在リテハ金屬製吊子ヲ以テ支持シ前項ノ「クリツプ」ニ代用スルコトヲ得

金屬製鈎釘ハ電纜ノ種類ノ如何ニ拘ラス使用スルコトヲ得ス

冷凍室ニ引込ム電纜ハ該室ノ防熱被覆ニ直角ニ通シ兩端ニ鍔ヲ有スル全通鉛管

ヲ以テ保護スルコトヲ要ス

冷凍室內ニ布設スル電纜ハ防熱被覆內ニ埋設スルコトヲ得ス

前項ノ電纜ハ之ニ鉛被ヲ施シ且ツ之ヲ接地シ磁器、硬木又ハ非金屬耐濕性物質ノ「クリツプ」ヲ以テ支持スルコトヲ要ス

反對極ノ電纜ハ直流ナルトキハ導管內ニ於テ束ヌルコトヲ得、交流ナルトキハ之ヲ束ヌルコトヲ要ス

木製樋ヲ以テ保護スル場合ニ在リテハ同極ノ編組電纜ハ束ヌルコトヲ得但シ反對極ノモノハ別箇ノ溝ニ通スモノトス

鉛被鎧裝電纜ハ極ノ如何ニ拘ラス束ヌルコトヲ得

大ナル護謨絕緣電纜相互ノ接續ハ凡テ接續函ニ於ケル螺止メ「スリーブ」又ハ「テイー」等ノ方法ニ依リ又小ナル電纜相互ノ接續及小ナル電纜ト可撓紐線トノ接續ハ適當ナル受器內ニ於ケル締付接續ノ方法ニ依ルモノトス但シ電燈器具ノ場合ニ在リテハ其ノ一部ヲ受器ト爲スコトヲ得

可撓紐線相互ノ接續ハ爲スコトヲ得ス

鉛被紙絕緣電纜相互ノ接續ハ護謨絕緣電纜ノ場合ト同一ノ方法ニ依リ之ヲ行ヒ接續端ノ絕緣體ニ濕氣ヲ受ケサル樣適當ニ封スルカ又ハ導線ヲ銅「スリーブ」ニ依リ接合シ其ノ全體ヲ鑞付スルモノトス

前項後段ノ接合部ハ使用直前ニ含浸シタル紙又ハ純木綿ノ「テープ」ヲ以テ纏捲シ之ヲ函內ニ收ムルカ又ハ寧ロ上記ノ如ク被覆シタル上鉛「スリーブ」又ハ「テイー」ニテ包ミ該受器內ニハ防濕性絕緣混和物ヲ塡充スルモノトス

前項ノ鉛「スリーブ」及「テイー」ニハ接合完了後强靱ナル彈性「エナメル」ノ二回塗ヲ施スコトヲ要ス

甲板又ハ支水間隔ヲ貫通スル電纜ニハ甲板管又ハ水防「グランド」ヲ使用スルコトヲ要ス

無鎧裝電纜カ梁及非支水隔壁ヲ貫通スル場合ニ在リテハ其ノ貫通スル孔ニ鉛又ハ其ノ他ノ軟質非鐵物質ノ「ブツシユ」ヲ施スコトヲ要ス

第十二條 主配線

單獨電燈及其ノ他小電流ヲ要スル裝置ハ之ヲ 6「アムペア」以下ノ最終回路ニ併合スルモノトス但シ各最終回路內ニ於ケル電燈及其ノ他ノ裝置ノ數ハ 10 ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ最終回路ハ小分電盤ヨリ分岐スルモノトス

各小分電盤竝 6「アムペア」ヨリ大ナル電流ヲ要スル各電燈及其ノ他ノ電氣裝置ハ區分電盤又ハ主分電盤ヨリ別途ニ分岐スルモノトス

各區分電盤又ハ主分電盤ハ順次ニ更ニ大ナル電流ニ對スル分電盤又ハ主配電盤ヨリ分岐スルモノトス

三線式ニシテ外側線間ノ電壓カ 250「ヴオルト」ヲ超ユル場合ニ在リテハ携帶器具又ハ其ノ附屬品ノ使用セラルル場所又ハ一區劃ニ於ケル任意ノ二點間ノ電壓ハ 250「ヴオルト」ヲ超ユルコトヲ得ス但シ携帶器具又ハ其ノ附屬品ヲ互ニ1·8m (6ft) 以內ニ接近セシメ得サル場合ニ在リテハ此ノ限ニアラス

分電盤ニ屬スル各二線式回路ハ各絕緣極ニ附スル可鎔片及一絕緣極ニ附スル開閉器ニ依リ制御スルモノトス但シ小分電盤ノ場合ニ在リテハ開閉器ヲ附スルニ及ハス

可鎔片又ハ開閉器ハ接地シタル極又ハ接地シタル導線ヨリ導キタル極ニ連結セサルモノトス

三線式又ハ三相四線式ノ中性線ハ接地シタルト否トニ拘ラス之ニ可鎔片又ハ開閉器ヲ附セサルモノトス

三相式ノ三線ヨリ送電スル各三線式回路ハ少クトモ二相ニ於テ過負荷引外シ裝置ヲ有スル三極遮斷器ヲ備フルカ又ハ三極連繫開閉器及其ノ各極ニ可鎔片ヲ備ヘ制御スルモノトス

直流ナルト交流ナルトヲ問ハス三線式ノ中性線ハ電壓ノ如何ニ拘ラス一點又ハ多クノ點ニ於テ接地スルコトヲ得但シ電壓カ三線式ノ外側線間又ハ二線式ニ於テ 250「ヴオルト」ヲ超ユルトキ（直流ノ場合ニ限ル）中性線ハ少クトモ一點

ニ於テ確實ニ且ツ永久的ニ接地スルコトヲ要ス而シテ後者ノ場合ハ發電機ニ於テ靜電線輪ニ依リ接地スルモノトス

常ニ電流カ通ラサル接地用導線ニハ銅線ヲ用ヰ其ノ斷面積ハ次ノ各號ニ依ルモノトス

一、電線ノ斷面積カ 4·5 mm² (0·007 in²) 以下ナルトキハ之ト同面積但シ 1·95 mm² (0·003 in²) 未滿ナルコトヲ得ス

二、電線ノ斷面積カ 4·5 mm² (0·007 in²) ヲ超ユルトキハ電流 50「アンペア」又ハ其ノ未滿毎ニ 4·5 mm² (0·007 in²) 以上但シ 64·5 mm² (0·1 in²) ヨリ大ナルヲ要セス

單線式ニ於テ船體ニ接續スル導線ハ絕緣極ニ接續スル導線ト同斷面積ヲ有スルモノトス

前項ノ導線ハ徑 9·5 mm($\frac{3}{8}$in) ヨリ小ナラサル專用ノ螺釘ヲ以テ取扱ヒ易キ場所ニ周到ニ取附クルコトヲ要ス

二線式回路ニ 250「ヴオルト」ヲ超ユル電壓（直流ノ場合ニ限ル）ヲ以テ送電スル場合ニ在リテハ次ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一、發電機又ハ電動機ハ開放型ナルコトヲ得ス

二、電動機以外ノモノニ對シテ送電スルコトヲ得ス、電動機ニシテ可搬式ノモノ又ハ 2·2「キロワツト」(3 馬力) 未滿ノモノニ對シテ亦同シ

三、帶電部以外ノ金屬製ノ部分ハ有效ニ接地スルコトヲ要ス

四、布線ハ鉛被鎧裝電纜又ハ編組鎧裝電纜トシ鎧裝及鉛被ハ共ニ電氣的ニ連續セシメ且ツ完全ニ接地スルコトヲ要ス

五、電動機及其ノ附屬品ハ通常ノ取扱ニ際シテ感電スルコトナク且ツ火災ノ危險ナカラシムル樣蔽圍保護サレタル構造ト爲スモノトス

配電盤ハ凡テ適當ニ保護シ不慮ニ接觸スルノ危險ナカラシムルコトヲ要ス

第十三條　磁氣羅針儀ニ對スル影響

發電機、電動機、二次電池、制御裝置、抵抗及其ノ他使用中外部磁場ヲ生スル

凡テノ裝置ハ羅針儀ニ有害ナル影響ヲ及ホササル位置ニ設置スルコトヲ要ス

前項規定ノ條件ハ羅針儀調整ノ場合ニ於テ試驗シテ之ヲ確メ計測シタル誤差ノ記錄ヲ保存スルコトヲ要ス

直流單線式回路ハ標準羅針儀又ハ操舵羅針儀ヨリ 9·15 m (30 ft) 未滿ノ距離ニ布設スルコトヲ得ス

二線式ニ在リテハ往復電流ヲ互ニ中和セシムル爲メ羅針儀ノ附近ニ於ケル導線ハ成ルヘク二心電纜ト爲スモノトス

前項ノ導線カ分離セルモノナルトキハ成ルヘク互ニ接近セシメ且ツ全長ニ亙リ各線ヲ羅針儀ヨリ等距離ト爲スモノトス

羅針盤函內ノ導線ハ出來得ル限リ短キ直線ト爲シ導線カ分離セル場合ニ在リテハ互ニ之ヲ撚リ合スコトヲ要ス、該導線ハ螺旋狀ニ捲クコトヲ得ス

羅針牌照明用電燈ノ電流ハ 0·6「アムペア」ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ電燈ハ其ノ帶電部カ羅針盤ノ磁石ニ對シテ 180 mm (7 in) 未滿ノ距離ニ在ラサル樣設備スルモノトス

第十四條　點燈用及動力用二次電池

電池ハ船體ノ動搖ニ依リ移動シ又ハ電解液ノ散出スルコトナキ樣適當ナル構造、配置及取附ヲ爲スモノトス

電池ハ通風良好ナル區劃室內ニ設置シ該室內ノ船體構造部ニ酸又ハ酸氣ノ接觸セサル樣適當ニ保護スルコトヲ要ス

電池室內ノ總テノ導線ハ裸導體又ハ鉛被電纜タルコトヲ要ス

第十五條　取附部分品

暴露甲板、汽罐室、機械室及其ノ他露滴又ハ濕氣ニ暴露スル場所ニ設置スル器具ハ防水型ト爲スモノトス

開放型器具ハ燃エ易キ若ハ爆發性ノ塵又ハ瓦斯ノ存在シ易キ場所又ハ燃エ易キ物質ヲ貯藏スル場所ニ使用スルコトヲ得ス

開閉器及其ノ他ノ器具ニシテ使用ノ際弧光ヲ發生シ易キモノハ石炭庫又ハ其

ノ他燃エ易キ若ハ爆發性ノ塵又ハ瓦斯ノ存在シ易キ場所ニ設置スルコトヲ得ス

弧光燈ノ回路ニハ各絶縁極ニ可鎔片及開閉器ヲ設ケ二極以上絶縁シタル回路ニ在リテハ開閉器ハ連繫式ト爲スモノトス

弧光燈ハ可燃物ヲ貯藏スル場所又ハ燃エ易キ瓦斯ノ蓄積スル惧アル場所ニ設置スルコトヲ得ス

第十六條　電動機

電動機ハ開放檢査ニ便ニシテ運轉中震動セサル樣均衡セルモノタルコトヲ要ス

界磁線輪ハ凡テ枠内ニ收メ容易ニ取換ヘ得ルモノナルコトヲ要ス

刷子ハ炭素製トシ可撓銅結線ヲ備ヘ縦ニ調整シ得ルモノトス

電動機ニハ布線ニ便ニシテ接近シ易キ位置ニ於テ記號ヲ附シタル適當ナル端子ヲ備フルコトヲ要ス

端子ハ不慮ニ接地、短絡又ハ接觸スルコトナキ樣適當ノ間隔ヲ保タシメ且ツ遮蔽ヲ設クルカ又ハ其ノ何レカニ依リ保護スルモノトス

電動機枠ニハ接地線ヲ連結スヘキ適當ナル端子ヲ備フルモノトス

電動機制御裝置及抵抗ハ成ルヘク通風良好ニシテ燃エ易キ瓦斯ノ蓄積セサル區劃内ニ於テ燃エ易キ物質ニ接近セサル樣ニ設置スルコトヲ要ス但シ之ニ依リ難キ場合ニ在リテハ電動機ハ防熖型タルコトヲ要ス

電動機及制御裝置ハ成ルヘク機械的損傷又ハ水、蒸氣若ハ油ニ依ル損害ヲ受クル惧ナキ場所ニ設置スルモノトス

前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ在リテハ電動機及制御裝置ハ全閉型又ハ防滴型タルコトヲ要ス

電動機規格ハ附錄第一號ニ依ルモノトス

第十七條　制御裝置及抵抗

發電機ノ界磁調整器及電動機ノ速度調整器、起動器竝制御器ハ取扱者ニ感電セサル樣構成サレタルモノトス

抵抗ハ過熱セサル樣適當ノ寸法ト爲スモノトス

内部ノ接續ハ鑞附スルコトヲ得ス又該接續ハ單獨ニ支持シ得ルモノ又ハ固定シタルモノヲ除キ凡テ磁器製聯珠ヲ以テ連續的ニ絶縁スルモノトス

外部導線取附用端子ハ導線カ如何ナル點ニ於テモ高温度ニ暴露サレサル樣設置スルモノトス

制御裝置及抵抗ノ温度上昇及耐壓試驗ハ附錄第一號ニ依ルモノトス

第十八條　引火點 65·5°C（150°F）未滿ノ油ヲ搭載スル船舶ニ對スル特殊規程

供給電壓ハ次ノ各號ニ揭クルモノヲ超ユルコトヲ得ス

一、直流ナルトキ

甲、動力用	220「ヴォルト」
乙、點燈及電熱用	110「ヴォルト」

二、交流ナルトキ

凡テノ用途ニ對シ	110「ヴォルト」

主配電盤ヨリ出ツル各回路及可鎔片附接續盤又ハ區分電盤ヲ制御スル各分岐回路ニハ二極連繫開閉器ヲ備フルモノトス

接續函、區分電盤及分電盤用ノ函ハ高級船員室區域ニ於ケルモノヲ除キ凡テ金屬製ト爲シ電纜引込口ニ水防「グランド」ヲ備フルモノトス

高級船員室區域ニ於ケル分電盤ハ第八條ノ規定ニ依ルコトヲ得

電纜ハ凡テ鉛被又ハ鉛被鎧裝電纜タルコトヲ要ス

配線ハ各極ニ絶縁シタル別個ノ導線ヲ有スル二線式ト爲シ其ノ何レノ部分ヲモ接地スルコトヲ得ス

油艙又ハ「コツフアーダム」ニハ電燈又ハ各種ノ器具及布線ヲ設クルコトヲ得ス

油艙又ハ「コツフアーダム」ヲ電燈ニ依リ照明スル場合ニ在リテハ布線ハ凡テ外部ニ設ケ電燈ハ氣密ニ裝置セル堅固ナル硝子球ヲ以テ内部ト隔離スルコトヲ

要ス

喞筒室、中甲板及油艙ニ隣接スル場所ニ於ケル電燈ハ氣密裝具ヲ以テ覆ヒ其ノ開閉器ハ凡テ外部ニ設クルコトヲ要ス

前項電燈用ノ開閉器ハ凡テ兩極型ト爲シ又布線ハ氣密管内ニ密閉スルコトヲ要ス

鑛山用電池附安全燈以外ノ携帶電燈ハ危險ナル場所ニ於テ使用スルコトヲ得ス

第十九條　不變電流直列式ヲ使用スル場合ノ特殊規程

發電機ハ回路中ノ一點カ遮斷シタル場合ニ於テ之ヲ短絡スル樣裝置シタル自働回路短絡器ヲ備フルコトヲ要ス

發電機及電動機ハ開放型ト爲スコトヲ得ス

裸線（電熱線ヲ含ム）ハ凡テ金屬製ノ函内ニ收メ其ノ扉又ハ蓋ニ凡テ連鎖裝置ヲ設ケ内部ノ導線カ回路ヨリ全ク遮斷サルルニ在ラサレハ之ニ接近シ得サルモノト爲スコトヲ要ス

主回路ハ開閉器ノ働作ニ依リ遮斷サルルコトアルヘカラス

電動機、電燈其ノ他電力ヲ受クル裝置ハ其ノ主開閉器ニ依リ遮斷サレタルトキ兩極共回路ヨリ遮斷サルルモノナルコトヲ要ス

本裝置ハ其ノ何レノ部分ト雖モ接地スルコトヲ得ス

第二十條　試　運　轉

電氣裝置ハ完成ノ後試驗スルコトヲ要ス絶縁抵抗ハ電線ト大地トノ間ニ於テ電燈回路ニ在リテハ 10 ヲ該回路上ノ電燈ノ數ニテ除シタルモノ（「メグオーム」ニテ）ヨリ小ナルヘカラス但シ最終回路ノ絶縁抵抗カ 1「メグオーム」ヲ超ユルコトヲ要セサル場合ハ此ノ限ニアラス

前項ノ試驗ノ外電氣裝置ヲ一體トシテ其ノ使用狀態ニ於テ相當時間繼續運轉ヲ執行シ發電機、電動機等ヲ充分ニ試驗スルコトヲ要ス

試運轉執行中開閉器及遮斷器ハ凡テ之ヲ試驗シ又電燈、電熱器及其ノ他ノ施設ニ對シテハ檢査員ノ適當ト認ムル試驗ヲ執行スヘキモノトス

第　二　表
單心電纜ノ電壓降下ニ對スル電流容量及之ニ相當スル電壓降下（連續負荷ノ場合）

導體ノ公稱斷面積 mm²(in²) (1)	導體ノ有效斷面積 mm²(in²) (2)	素線ノ數及徑 mm(in) (3)	護謨絶縁電纜 許容最大電流（アムペア） (4)	護謨絶縁電纜 1「ヴオルド」ノ電壓降下ニ該當スル概略ノ長（往復） m (ft) (5)	紙絶縁電纜 許容最大電流（アムペア） (6)	紙絶縁電纜 1「ヴオルド」ノ電壓降下ニ該當スル概略ノ長（往復） m (ft) (7)
·65 (·0010)	·60 (·00102)	1/·90 (·036)	4·1	9·45 (31)	4·1	9·45 (31)
·97 (·0015)	·98 (·00162)	1/1·10 (·044)	6·1	9·45 (31)	6·1	9·45 (31)
1·30 (·0020)	1·25 (·00194)	3/·75 (·029)	7·8	9·45 (31)	7·8	9·45 (31)
1·95 (·0030)	1·93 (·00299)	3/·90 (·036)	12·0	9·45 (31)	12·0	9·45 (31)
1·95 (·0030)	2·08 (·00322)	1/1·60 (·064)	12·9	9·45 (31)	12·9	9·45 (31)
2·90 (·0045)	2·94 (·00455)	7/·75 (·029)	18·2	9·45 (31)	18·2	9·45 (31)
4·50 (·0070)	4·52 (·00701)	7/·90 (·036)	24·0	10·37 (34)	28·2	9·45 (31)
6·45 (·0100)	6·75 (·01046)	7/1·10 (·044)	31·0	11·89 (39)	42·0	9·45 (31)
9·35 (·0145)	9·45 (·01462)	7/1·30 (·052)	37·0	14·03 (46)	57·0	9·45 (31)
14·50 (·0225)	14·25 (·02214)	7/1·60 (·064)	46·0	17·08 (56)	75·0	10·06 (33)
19·40 (·0300)	18·30 (·02840)	19/1·10 (·044)	53·0	18·60 (61)	87·0	10·67 (35)
25·80 (·0400)	25·60 (·03960)	19/1·30 (·052)	64·0	21·96 (72)	104·0	12·81 (42)
38·70 (·0600)	38·70 (·0600)	19/1·60 (·064)	83·0	25·62 (84)	135·0	14·94 (49)
48·50 (·0750)	49·00 (·07592)	19/1·85 (·072)	97·0	27·75 (91)	157·0	16·16 (53)
64·50 (·1000)	65·00 (·10090)	19/2·10 (·083)	118·0	30·19 (99)	191·0	17·69 (58)
77·50 (·1200)	75·30 (·11680)	37/1·60 (·064)	130·0	32·02 (105)	210·0	18·60 (61)
97·00 (·1500)	95·40 (·14780)	37/1·85 (·072)	152·0	34·77 (114)	246·0	20·13 (66)
129·00 (·2000)	127·00 (·19640)	37/2·10 (·083)	184·0	38·12 (125)	296·0	22·26 (73)
161·00 (·2500)	159·00 (·24650)	37/2·35 (·093)	214·0	41·17 (135)	343.0	24·09 (79)
194·00 (·3000)	195·00 (·30240)	37/2·60 (·103)	240·0	44·83 (147)	385·0	26·53 (87)
258·00 (·4000)	262·00 (·40640)	61/2·35 (·093)	288·0	50·325 (165)	464·0	29·58 (97)
322·00 (·5000)	321·00 (·49850)	61/2·60 (·103)	332·0	53·37 (175)	540·0	31·11 (102)
387·00 (·6000)	391·00 (·60620)	91/2·35 (·093)	384·0	56·12 (184)	624·0	32·63 (107)
485.00 (·7500)	480·00 (·74350)	91/2·60 (·103)	461·0	57·34 (188)	738·0	33·85 (111)
548·00 (·8500)	546·00 (·84590)	127/2·35 (·093)	512·0	57.95 (190)	815·0	35·38 (116)
645·00 (1·0000)	670·00 (1·03760)	127/2·60 (·103)	595·0	62·22 (204)	932·0	37·51 (123)

第　三　表

二心可撓紐線ノ電流容量及電壓降下

導體ノ公稱斷面積 mm²(in²) (1)	素線ノ數及徑 mm (in) (2)	許容最大電流（電壓降下＝對スルモノ）（アムペア） (3)	1「ヴオルト」ノ電壓降下＝該當スル長（往復） m (ft) (4)
·39 (·0006)	14/·19 (·0076)	1·8	17·99 (59)
·65 (·001)	23/·19 (·0076)	3·0	17·99 (59)
1·10 (·0017)	40/·19 (·0076)	5·0	17·38 (57)
1·95 (·003)	70/·19 (·0076)	8·5	17·38 (57)
3·10 (·0048)	110/·19 (·0076)	13·0	17·08 (56)
4·50 (·007)	162/·19 (·0076)	17·0	21·04 (69)
6·45 (·01)	97/·30 (·0120)	24·0	15·55 (51)
9·35 (·0145)	60/·46 (·0180)	28·0	18·91 (62)
14·52 (·0225)	91/·46 (·0180)	35·0	22·57 (74)

第　四　表

單心電纜ノ電流容量

（斷續的負荷ノ場合）

導體ノ公稱斷面積 mm² (in²) (1)	護謨絕緣電纜 半時間定格（アムペア） (2)	護謨絕緣電纜 一時間定格（アムペア） (3)	護謨絕緣電纜 附錄第三號ニ依ル連續定格（アムペア） (4)	紙絕緣電纜 半時間定格（アムペア） (5)	紙絕緣電纜 一時間定格（アムペア） (6)	紙絕緣電纜 附錄第三號ニ依ル連續定格（アムペア） (7)
9·35 (·0145)	38	37	37	60	57	57
14·50 (·0225)	47	46	46	79	75	75
19·40 (·0300)	56	54	53	94	89	87
25·80 (·0400)	68	65	64	113	105	104
38·70 (·0600)	92	85	84	151	138	135
48·50 (·0750)	113	101	97	180	162	157
64·50 (·1000)	142	124	118	225	199	191
77·50 (·1200)	160	138	130	252	220	210
97·00 (·1500)	191	164	152	303	261	246
129·00 (·2000)	247	204	184	376	320	296
161·00 (·2500)	295	244	214	453	377	343
194·00 (·3000)	351	283	240	523	435	385
258·00 (·4000)	452	357	288	663	543	464
322·00 (·5000)	534	422	332	804	648	540
387·00 (·6000)	641	499	384	960	767	624
485·00 (·7500)	774	604	461	1,180	930	738
548·00 (·8500)	900	680	512	1,325	1,045	815
645·00 (1·0000)	1,036	803	595	1,548	1,211	932

第　五　表

「ワニス」ヲ施シタル「カムブリツク」電纜ノ電流容量　（使用電壓660「ヴォルト」以下）

導體ノ公稱斷面積 mm² (in²)	素線ノ數及徑 mm (in)	連續定格 單心(對) (アムペア)	連續定格 二心 (アムペア)	連續定格 三心 (アムペア)	斷續定格單心（對） 半時間 (アムペア)	斷續定格單心（對） 一時間 (アムペア)
1·95 (·0030)	3/0·91 (·036)	10·8	10·8	10·8	--	—
1·95 (·0030)	1/1·62 (·064)	11·6	11·6	11·6	—	—
2·90 (·0045)	7/0·75 (·029)	16·4	16·2	16·2	—	—
4·50 (·0070)	7/0·90 (·036)	25	23	21	—	—
6·45 (·0100)	7/1·10 (·044)	38	31·5	28	—	—
9·35 (·0145)	7/1·30 (·052)	51	40	37	54	51
14·50 (·0225)	7/1·60 (·064)	68	54	50	71	68
19·40 (·0300)	19/1·10 (·044)	78	64	59	84	80
25·80 (·0400)	19/1·30 (·052)	94	76	70	102	95
38·70 (·0600)	19/1·60 (·064)	122	103	91	136	124
48·50 (·0750)	19/1·85 (·072)	141	117	105	162	146
64·50 (·1000)	19/2·10 (·083)	172	141	128	203	179
77·50 (·1200)	37/1·60 (·064)	189	157	145	226	198
79·00 (·1500)	37/1·85 (·072)	222	180	167	273	235
129·00 (·2000)	37/2·10 (·083)	266	218	204	338	288
161·00 (·2500)	37/2·35 (·093)	309	252	238	407	340
193·00 (·3000)	37/2·60 (·103)	346	290	274	470	392
258·00 (·4000)	61/2·35 (·093)	417	354	—	596	488
322·00 (·5000)	61/2·60 (·103)	486	412	—	723	584
387·00 (·6000)	91/2·35 (·093)	561	—	—	864	690
485·00 (·7500)	91/2·60 (·103)	664	—	—	1,061	838
548·00 (·8500)	127/2·35 (·093)	733	—	—	1,190	940
645·00 (1·0000)	127/2·60 (·103)	839	—	—	1,390	1,090

第　六　表

單心護謨絕緣電纜ノ寸法

導體		絕緣體	編組電纜	編組鎧裝電纜			鉛被電纜		鉛被鎧裝電纜		
公稱斷面積 mm² (in²) (1)	外徑 mm (in) (2)	厚 mm (in) (3)	外徑 mm (in) (4)	鎧裝用線ノ徑 mm (in) (5)	鎧裝上ノ徑 mm (in) (6)	鎧裝及編組上ノ徑 mm (in) (7)	鉛ノ厚 mm (in) (8)	鉛被上ノ徑 mm (in) (9)	鎧裝用線ノ徑 mm (in) (10)	鎧裝上ノ徑 mm (in) (11)	鎧裝及編組上ノ徑 mm (in) (12)
·65 (·0010)	·91 (·036)	·865 (·034)	4·13 (·165)	1·62 (·064)	8·35 (·328)	10·60 (·418)	1·00 (·040)	5·10 (·200)	1·62 (·064)	10·35 (·408)	12·65 (·498)
·97 (·0015)	1·10 (·044)	·865 (·034)	4·40 (·173)	1·62 (·064)	8·55 (·336)	10·80 (·426)	1·00 (·040)	5·30 (·208)	1·62 (·064)	10·60 (·416)	12·85 (·506)
1·30 (·0020)	1·60 (·063)	·915 (·036)	4·95 (·195)	1·62 (·064)	9·10 (·358)	11·35 (·448)	1·00 (·040)	5·85 (·230)	1·62 (·064)	11·10 (·438)	13·40 (·528)
1·95 (·0030)	2·00 (·078)	·965 (·038)	5·45 (·215)	1·62 (·064)	9·60 (·378)	11·90 (·468)	1·00 (·040)	6·35 (·250)	1·62 (·064)	11·60 (·458)	13·90 (·548)
1·95 (·0030)	1·63 (·064)	·915 (·036)	5·00 (·197)	1·62 (·064)	9·15 (·360)	11·40 (·450)	1·00 (·040)	5·90 (·232)	1·62 (·064)	11·20 (·440)	13·45 (·530)
2·90 (·0045)	2·20 (·087)	·930 (·039)	5·75 (·226)	1·62 (·064)	9·90 (·389)	12·15 (·479)	1·00 (·040)	6·62 (·261)	1·62 (·064)	11·90 (·469)	14·20 (·559)
4·50 (·0070)	2·75 (·108)	1·040 (·041)	6·58 (·259)	1·62 (·064)	10·75 (·422)	13·00 (·512)	1·27 (·050)	8·00 (·314)	1·62 (·064)	13·25 (·522)	15·55 (·612)
6·45 (·0100)	3·35 (·132)	1·090 (·043)	7·30 (·287)	1·62 (·064)	11·40 (·450)	13·70 (·540)	1·27 (·050)	8·70 (·342)	1·62 (·064)	14·00 (·550)	16·25 (·640)
9·35 (·0145)	4·00 (·156)	1·170 (·046)	8·05 (·317)	1·62 (·064)	12·20 (·480)	14·50 (·570)	1·52 (·060)	9·95 (·392)	1·62 (·064)	15·20 (·600)	17·50 (·690)
14·50 (·0225)	4·90 (·192)	1·245 (·049)	9·10 (·359)	1·62 (·064)	13·25 (·522)	15·55 (·612)	1·52 (·060)	11·00 (·434)	1·83 (·072)	17·70 (·698)	20·00 (·788)
19·40 (·0300)	5·60 (·220)	1·320 (·052)	10·00 (·393)	1·62 (·064)	14·10 (·556)	16·40 (·646)	1·52 (·060)	11·90 (·468)	1·83 (·072)	18·60 (·732)	20·90 (·822)
25·80 (·0400)	6·60 (·260)	1·420 (·056)	11·20 (·441)	1·62 (·064)	15·30 (·604)	17·60 (·694)	1·52 (·060)	13·10 (·516)	1·83 (·072)	19·80 (·780)	22·10 (·870)
38·70 (·0600)	8·15 (·320)	1·575 (·062)	13·00 (·513)	1·83 (·072)	18·60 (·732)	20·90 (·822)	1·78 (·070)	15·45 (·608)	1·83 (·072)	22·20 (·872)	24·40 (·962)
48·50 (·0750)	9·15 (·360)	1·680 (·066)	15·10 (·596)	1·83 (·072)	19·80 (·780)	22·10 (·870)	1·78 (·070)	16·70 (·656)	1·83 (·072)	23·40 (·920)	25·70 (1·010)
64·50 (·1000)	10·50 (·415)	1·830 (·072)	16·80 (·663)	1·83 0·72	21·50 (·847)	23·80 (·937)	1·78 (·070)	18·40 (·723)	1·83 (·072)	25·10 (·987)	27·30 (1·077)
77·50 (·1200)	11·40 (·448)	1·900 (·075)	17·80 (·702)	1·83 (·072)	22·50 (·886)	24·80 (·976)	1·78 (·070)	19·40 (·762)	1·83 (·072)	26·00 (1·026)	29·10 (1·146)
79·00 (·1500)	12·80 (·504)	2·030 (·080)	19·50 (·768)	1·88 (·072)	24·20 (·952)	26·50 (1·042)	2·03 (·080)	21·60 (·848)	2·03 (·080)	30·60 (1·208)	33·70 (1·328)
129·00 (·2000)	14·75 (·581)	2·240 (·088)	22·60 (·889)	1·83 (·072)	26·80 (1·053)	29·80 (1·173)	2·03 (·080)	24·10 (·949)	2·03 (·080)	33·20 (1·309)	36·30 (1·429)
161·00 (·2500)	16·50 (·651)	2·410 (·095)	24·70 (·973)	2·03 (·080)	31·30 (1·233)	34·40 (1·353)	2·28 (·090)	26·80 (1·053)	2·65 (·104)	37·10 (1·461)	40·20 (1.581)
193·00 (·3000)	18·30 (·721)	2·590 (·102)	26·80 (1·057)	2·03 (·080)	33·40 (1·317)	36·50 (1·437)	2·28 (·090)	28·80 (1·137)	2·65 (·104)	39·20 (1·545)	42·30 (1·665)
258·00 (·4000)	21·30 (·837)	2·900 (·114)	30·40 (1·197)	2·65 (·104)	38·20 (1·505)	41·30 (1·625)	2·54 (·100)	33·00 (1·297)	2·65 (·104)	43·30 (1·705)	46·40 (1·825)
322·00 (·5000)	23·60 (·927)	3·080 (·121)	33·00 (1·301)	2·65 (·104)	40·80 (1·609)	44·00 (1·729)	2·80 (·110)	36·10 (1·421)	3·25 (·128)	47·70 (1·877)	50·60 (1·997)
387·00 (·6000)	26·00 (1·023)	3·180 (·125)	36·20 (1·425)	3·25 (·128)	44·80 (1·761)	47·80 (1·881)	2·80 (·110)	38·80 (1·525)	3·25 (·128)	50·40 (1·981)	53·50 (2·101)
485·00 (·7500)	28·80 (1·133)	3·330 (·131)	39·30 (1·547)	3·25 (·128)	47·80 (1·883)	51·00 (2·003)	3·05 (·120)	42·30 (1·667)	4·06 (·160)	55·40 2·187)	58·50 (2·307)
548·00 (·8500)	30·70 (1·209)	3·430 (·135)	41·40 (1·631)	3·25 (·128)	50·00 1·967)	53·00 (2·087)	3·05 (·120)	44·50 (1·751)	4·06 (·160)	57·70 (2·271)	60·70 (2·391)
645·00 (1·0000)	34·00 (1·339)	3·580 (·141)	45·00 (1·773)	3·25 (·128)	55·20 (2·173)	58·20 (2·293)	3·05 (·120)	48·10 (1·893)	4·06 (·160)	61·20 (2·413)	64·30 (2·533)

第七表

單心紙絕緣電纜ノ寸法

導體		絕緣體	鉛被電纜		鎧裝電纜	
公稱斷面積 mm² (in²) (1)	外徑 mm (in) (2)	厚 mm (in) (3)	鉛ノ厚 mm (in) (4)	鉛被上ノ徑 mm (in) (5)	鎧裝用線ノ徑 mm (in) (6)	鎧裝上ノ徑 mm (in) (7)
0·65 (·0010)	0·91 (·036)	1·27 (·050)	1·14 (·045)	5·74 (·226)	1·62 (·064)	11·00 (·434)
0·97 (·0015)	1·10 (·044)	1·27 (·050)	1·14 (·045)	5·94 (·234)	1·62 (·064)	11·20 (·442)
1·30 (·0020)	1·57 (·062)	1·27 (·050)	1·14 (·045)	6·40 (·252)	1·62 (·064)	11·79 (·464)
1·95 (·0030)	2·00 (·078)	1·27 (·050)	1·14 (·045)	6·81 (·268)	1·62 (·064)	12·10 (·476)
1·95 (·0030)	1·63 (·064)	1·27 (·050)	1·14 (·045)	6·45 (·254)	1·62 (·064)	11·73 (·462)
2·90 (·0045)	2·20 (·087)	1·52 (·060)	1·27 (·050)	7·80 (·307)	1·62 (·064)	13·10 (·515)
4·50 (·0070)	2·75 (·108)	2·03 (·080)	1·52 (·060)	9·85 (·388)	1·62 (·064)	15·14 (·596)
6·45 (·0100)	3·35 (·132)	2·03 (·080)	1·52 (·060)	10·45 (·412)	1·83 (·072)	17·20 (·676)
9·35 (·0145)	4·00 (·156)	2·03 (·080)	1·52 (·060)	11·10 (·436)	1·83 (·072)	17·80 (·700)
14·50 (·0225)	4·90 (·192)	2·03 (·080)	1·52 (·060)	12·00 (·472)	1·83 (·072)	18·70 (·736)
19·40 (·0300)	5·60 (·220)	2·03 (·080)	1·52 (·060)	12·70 (·500)	1·83 (·072)	19·40 (·764)
25·80 (·0400)	6·60 (·260)	2·03 (·080)	1·52 (·060)	13·70 (·540)	1·83 (·072)	20·40 (·804)
38·70 (·0600)	8·15 (·320)	2·03 (·080)	1·52 (·060)	15·24 (·600)	1·83 (·072)	21·90 (·864)
48·50 (·0750)	9·15 (·360)	2·03 (·080)	1·78 (·070)	16·77 (·660)	1·83 (·072)	23·40 (·924)
64·50 (·1000)	10·50 (·415)	2·03 (·080)	1·78 (·070)	18·15 (·715)	1·83 (·072)	24·80 (·979)
77·50 (·1200)	11·40 (·448)	2·03 (·080)	1·78 (·070)	19·00 (·748)	1·83 (·072)	25·70 (1·012)
97·00 (·1500)	12·80 (·504)	2·03 (·080)	1·78 (·070)	20·42 (·804)	2·03 (·080)	29·60 (1·164)
129·00 (·2000)	14·75 (·581)	2·03 (·080)	1·78 (·070)	22·38 (·881)	2·03 (·080)	31·50 (1·241)
161·00 (·2500)	16·50 (·651)	2·28 (·090)	2·03 (·080)	25·20 (·991)	2·03 (·080)	34·30 (1·351)
194·00 (·3000)	18·30 (·721)	2·28 (·090)	2·03 (·080)	26·95 (1·061)	2·65 (·104)	37·30 (1·469)
258·00 (·4000)	21·30 (·837)	2·54 (·100)	2·28 (·090)	30·90 (1·217)	2·65 (·104)	41·40 (1·625)
322·00 (·5000)	23·60 (·927)	2·54 (·100)	2·28 (·090)	33·20 (1·307)	3·25 (·128)	44·80 (1·763)
387·00 (·6000)	26·00 (1·023)	2·54 (·100)	2·54 (·100)	36·14 (1·423)	3·25 (·128)	47·80 (1·879)
485·00 (·7500)	28·80 (1·133)	2·80 (·110)	2·54 (·100)	39·45 (1·553)	3·25 (·128)	51·00 (2·009)
548·00 (·8500)	30·70 (1·209)	2·80 (·110)	2·80 (·110)	41·90 (1·649)	4·06 (·160)	55·10 (2·169)
645·00 (1·0000)	34·00 (1·339)	2·80 (·110)	2·80 (·110)	45·20 (1·779)	4·06 (·160)	58·50 (2·299)

第八表

「ワニス」ヲ施シタル「カムブリツク」電纜ノ絕緣體及鉛被ノ厚

（使用電壓660「ヴオルト」以下）

導體ノ公稱斷面積 mm² (in²)	素線ノ數及徑 mm (in)	絕緣體ノ厚 mm (in)	鉛被ノ厚 mm (in) 單心	二心	三心
1·95 (·0030)	3/0·91 (·036)	2·03 (·08)	1·52 (·06)	1·78 (·07)	1·78 (·07)
1·95 (·0030)	1/1·62 (·064)	2·03 (·08)	1·52 (·06)	1·78 (·07)	1·78 (·07)
2·90 (·0045)	7/0·75 (·029)	2·03 (·08)	1·52 (·06)	1·78 (·07)	1·78 (·07)
4·50 (·0070)	7/0·91 (·036)	2·03 (·08)	1·52 (·06)	1·78 (·07)	1·78 (·07)
6·45 (·0100)	7/1·10 (·044)	2·03 (·08)	1·52 (·06)	1·78 (·07)	1·78 (·07)
9·35 (·0145)	7/1·30 (·052)	2·03 (·08)	1·52 (·06)	1·78 (·07)	2·03 (·08)
14·50 (·0225)	7/1·60 (·064)	2·03 (·08)	1·52 (·06)	1·78 (·07)	2·03 (·08)
19·40 (·0300)	19/1·10 (·044)	2·03 (·08)	1·52 (·06)	2·03 (·08)	2·03 (·08)
25·80 (·0400)	19/1·30 (·052)	2·03 (·08)	1·52 (·06)	2·03 (·08)	2·29 (·09)
38·70 (·0600)	19/1·60 (·064)	2·03 (·08)	1·78 (·07)	2·03 (·08)	2·29 (·09)
48·50 (·0750)	19/1·85 (·072)	2·03 (·08)	1·78 (·07)	2·03 (·08)	2·29 (·09)
64·50 (·1000)	19/2·10 (·083)	2·03 (·08)	1·78 (·07)	2·29 (·09)	2·54 (·10)
77·50 (·1200)	37/1·60 (·064)	2·03 (·08)	1·78 (·07)	2·29 (·09)	2·54 (·10)
97·00 (·1500)	37/1·85 (·072)	2·03 (·08)	1·78 (·07)	2·29 (·09)	2·54 (·10)
129·00 (·2000)	37/2·10 (·083)	2·03 (·08)	1·78 (·07)	2·54 (·10)	2·79 (·11)
161·00 (·2500)	37/2·35 (·093)	2·29 (·09)	2·03 (·08)	2·79 (·11)	3·05 (·12)
194·00 (·3000)	37/2·60 (·103)	2·29 (·09)	2·03 (·08)	3·05 (·12)	3·30 (·13)
258·00 (·4000)	61/2·35 (·093)	2·54 (·10)	2·29 (·09)	3·30 (·13)	3·56 (·14)
322·00 (·5000)	61/2·60 (·103)	2·54 (·10)	2·29 (·09)	3·56 (·14)	3·81 (·15)
387·00 (·6000)	91/2·35 (·093)	2·54 (·10)	2·54 (·10)	—	—
485·00 (·7500)	91/2·60 (·103)	2·79 (·11)	2·54 (·10)	—	—
548·00 (·8500)	127/2·35 (·093)	2·79 (·11)	2·79 (·11)	—	—
645·00 (1·0000)	127/2·60 (·103)	2·79 (·11)	2·79 (·11)	—	—

第九表

强靭護謨絶縁電纜ノ寸法

（一） 船殼ノ電位ヨリ250「ヴオルト」ヲ超ユル變化ヲナササル直流配電用
（二） 線間電壓500「ヴオルト」ヲ超過セズ且ツ中性點ヲ接地セル三相交流配電用

導體ノ公稱斷面積 mm² (in²)	素線ノ數及徑 mm (in)	絶縁體ノ厚 mm (in)	强靭護謨絶縁體ノ厚 mm (in) 單心	丸二心	平二心	三心
0·645 (·0010)	1/0·90 (·036)	0·865 (·034)	1·27 (·05)	1·27 (·05)	1·27 (·05)	1·27 (·05)
0·968 (·0015)	1/1·10 (·044)	0·865 (·034)	1·27 (05)	1·27 (·05)	1·27 (·05)	1·27 (·05)
1·29 (·0020)	3/0·75 (·029)	0·915 (·036)	1·27 (·05)	1·52 (·06)	1 52 (·06)	1·52 (·06)
1 95 (·0030)	3/0·90 (·036)	0·965 (·038)	1·27 (·05)	1·52 (·06)	1·52 (·06)	1·52 (·06)
1·95 (·0030)	1/1·60 (·064)	0·915 (·036)	1·27 (·05)	1·52 (·06)	1·52 (·06)	1·52 (·06)
2·90 (·0045)	7/0·75 (·029)	0 990 (·039)	1·27 (·05)	1·52 (·06)	1·52 (·06)	1·52 (·06)
4·50 (·0070)	7/0·90 (·036)	1·040 (·041)	1·27 (·05)	1·52 (·06)	1 52 (·06)	1·52 (·06)
6·45 (·0100)	7/1·10 (·044)	1·090 (·043)	1·27 (·05)	1·52 (·06)	1·52 (·06)	1·52 (·06)
9·35 (·0145)	7/1·30 (·052)	1·170 (·046)	1·27 (·05)	1·52 (·06)	1·52 (·06)	2·03 (·08)
14·50 (·0225)	7/1·60 (·064)	1·245 (·049)	1·52 (·06)	2·03 (·08)	2·03 (·08)	2·03 (·08)
19·5 (·0300)	19/1·10 (·044)	1·320 (·052)	1·52 (·06)	2·03 (·08)	2·03 (·08)	2·03 (·08)
25·80 (·0400)	19/1·30 (·052)	1 420 (·056)	1·52 (·06)	2 54 (·10)	2·54 (·10)	2·54 (·10)
38·70 (·0600)	19/1·60 (·064)	1·575 (·062)	1·52 (·06)	2·54 (·10)	2·54 (·10)	2·54 (·10)
48·50 (·0750)	19/1·85 (·072)	1·680 (·066)	1·52 (·06)	2·54 (·10)	2·54 (·10)	3·05 (·12)
64·50 (·1000)	19/2·10 (·083)	1·830 (·072)	2·03 (·08)	3·05 (·12)	3·05 (·12)	3·05 (·12)
77·50 (·1200)	37/1·60 (·064)	1·900 (·075)	2·03 (·08)	3·05 (·12)	3·05 (·12)	3·30 (·13)
79·00 (·1500)	37/1·85 (·072)	2·030 (·080)	2·03 (·08)	3·30 (·13)	3·30 (·13)	3·30 (·13)
129·00 (·2000)	37/2·10 (·083)	2·240 (·088)	2·54 (·10)	3·81 (·15)	3·81 (·15)	3·81 (·15)
161·00 (·2500)	37/2·35 (·093)	2·410 (·095)	2·54 (·10)	3·81 (·15)	—	4·44 (·175)
193·00 (·3000)	37/2·60 (103)	2·590 (·102)	2·54 (·10)	4·44 (·175)	—	4·44 (·175)
258·00 (·4000)	61/2·35 (·093)	2·900 (·114)	3·05 (·12)	5·08 (·20)	—	5·72 (·225)
322·00 (·5000)	61/2·60 (·103)	3·080 (·121)	3·05 (·12)	5·72 (·225)	—	6·35 (·25)
387·00 (·6000)	91/2·35 (·093)	3·180 (·125)	3·30 (·13)	6·35 (·25)	—	6·35 (·25)
485·00 (·7500)	91/2·60 (·103)	3·330 (·131)	3·30 (·13)	6·35 (·25)	—	6·35 (·25)
548·00 (·8500)	127/2·35 (·093)	3·430 (·135)	3·30 (·13)	6·35 (·25)	—	6·35 (·25)
645·00 (1·0000)	127/2·60 (·103)	3·580 (·141)	3·81 (·15)	6·35 (·25)	—	6·35 (·25)

第十表

單心護謨絶縁電纜ノ絶縁抵抗

（600「メグオーム」級）

導體ノ公稱斷面積 mm² (in²)	最小絶縁抵抗 15·6°C(60°F)ニ於テ1kmニ對スル「メグオーム」	60°F(15·6°C)ニ於テ1,000「ヤード」ニ對スル「メグオーム」	60°F(15·6°C)ニ於テ1哩ニ對スル「メグオーム」	導體ノ公稱斷面積 mm² (in²)	最小絶縁抵抗 15·6°C(60°F)ニ於テ1kmニ對スル「メグオーム」	60°F(15·6°C)ニ於テ1,000「ヤード」ニ對スル「メグオーム」	60°F(15·6°C)ニ於テ1哩ニ對スル「メグオーム」
0 65 (·0010)	3,220	3,520	2,000	43·50 (·0750)	965	1,056	600
0·97 (·0015)	3,220	3,520	2,000	64·50 (·1000)	965	1,056	600
1·30 (·0020)	2,010	2,200	1,250	77·50 (·1200)	965	1,056	600
1·95 (·0030)	2,010	2,200	1,250	97·00 (·1500)	965	1,056	600
1·95 (·0030)	3,220	3,520	2,000	129·00 (·2000)	965	1,056	600
2 90 (·0045)	2,010	2,220	1,250	161·00 (·2500)	965	1,056	600
4·50 (·0070)	1,450	1,584	900	194·00 (·3000)	965	1,056	600
6·45 (·0100)	1,450	1,584	900	258·00 (·4000)	965	1,056	600
9·35 (·0145)	1,450	1,584	900	322·00 (·5000)	965	1,056	600
14·50 (·0225)	1,450	1,584	900	387·00 (·6000)	965	1,056	600
19·40 (·0300)	1,210	1,320	750	485·00 (·7500)	965	1,056	600
25·80 (·0400)	1,210	1,320	750	548·00 (·8500)	965	1,056	600
38·70 (·0600)	1,210	1,320	750	645·00 (1·0000)	965	1,056	600

附錄第一號

發電機、電動機、制御裝置及抵抗機試驗ニ關スル規程

第一條　溫度上昇ノ制限

電動機及發電機カ全負荷ニテ連續運轉セラレタル後各部ノ溫度上昇ハ次表ニ揭クル範圍ヲ超ユヘカラス

機械ノ部分名稱	溫度上昇（寒暖計ニテ測定）	
	全閉型ニアラサルモノ	全閉型
(1) 下記ノ材料ヲ以テ絕緣セラレタル捲線及之ニ接スル鐵心	40°C	50°C
(2) 整流子	45°C	55°C
(3) 滑動環 開放型	45°C	55°C
(3) 滑動環 密閉型	55°C	55°C
(4) 絕緣セラレサル部分（絕緣セラレタル捲線ニ接セサル鐵心ヲ含ム）	隣接部分ノ絕緣材料ニ損傷ヲ及ホスカ如キ溫度ニ達セサルコト	

本表(1)ノ絕緣材料ハ木綿、絹、紙及類似ノ材料ニ「ワニス」類ヲ含浸シタルモノ又ハ常ニ油中ニ浸シタル場合竝「エナメル」線トス

本規程ニ適用スル周圍溫度及海拔ハ次ノ値ヲ超ユヘカラス

周圍溫度	40°C
海拔	1,000 m

第二條　過負荷試驗

發電機及電動機ハ其ノ大サニ從ヒ次ニ揭クル時間何等ノ損傷ナク 25% ノ過負荷ニ耐ヘ得ルモノトス

過負荷試驗ハ全負荷連續運轉後ノ上昇溫度ニ於テ定格電壓及周波數ニテ行フモノトス

（イ）連續定格電動機ノ場合（全閉型ヲ除ク）

電動機ノ大サ		過負荷ノ時間
定格出力 $\times \frac{1,000}{\text{毎分回轉數}}$ カ	7·5 kW (10 HP) 以上	2時間
〃　〃　〃	3 kW (4 HP) 以上 7·5 kW (10 HP) 未滿	30分間
〃　〃　〃	0·75 kW (1 HP) 以上 3 kW (4 HP) 未滿	15分間

（ロ）連續定格發電機ノ場合（全閉型ヲ除ク）

發電機ノ大サ		過負荷ノ時間
直流、定格出力 $\times \frac{1,000}{\text{毎分回轉數}}$ カ	7·5 kW 以上	2時間
交流、〃　〃　〃	7·5 kVA 以上	〃
直流、〃　〃　〃	3 kW 以上 7·5 kW 未滿	30分間
交流、〃　〃　〃	3 kVA 以上 7·5 kVA 未滿	〃
直流、〃　〃　〃	1 kW 以上 3 kW 未滿	15分間
交流、〃　〃　〃	1 kVA 以上 3 kVA 未滿	〃

短時間定格ノ機械及全閉型ノ機械ニ對シテハ前記ノ持續過負荷ヲ行ハサルモノトス

前記ノ過負荷ハ周圍溫度カ 35°C (95°F) ヲ超エサル場合ニ之ヲ適用ス、周圍溫度カ 35°C (95°F) ヲ超ユル場合ニ於テ過負荷ヲ持續セントスルトキハ定格容量ヲ減スルコトヲ要ス、又周圍溫度カ 35°C (95°F) 未滿ナルトキハ小容量ノ機械ニ對シテ過負荷時間ヲ延長スルコトヲ得但シ何レノ場合ニ於テモ2時間ヲ超ユヘカラス

第三條　過電流試驗及過回轉力試驗

發電機ハ規定ノ全負荷運轉後ノ上昇溫度ニ於テ何等ノ損傷ナク次ニ揭クル過電流及時間ニ對シ耐ヘ得ルモノトス但シ電壓ハ出來得ル限リ定格電壓ニ保ツモノトス

凡テノ連續定格發電機 50% ノ過電流ニ對シ1分間

電動機ハ規定ノ全負荷運轉後ノ上昇溫度ニ於テ何等ノ損傷ナク次ニ揭クル回轉力及時間ニ對シ耐ヘ得ルモノトス但シ試驗中電壓ハ定格電壓ヲ保ツモノトス

（一） 連續定格電動機ノ場合（全閉型ヲ含ム）

（イ） 凡テノ電動機 50% ノ過回轉力ニ對シ1分間

（ロ） 直流電動機ニシテ毎分 1,000 回轉ニ於テ 112 kW(150 HP)以下ノモノ 100% ノ過回轉力ニ對シ 15 秒間

（ハ） 凡テノ誘導電動機 100% ノ過回轉力ニ對シ 15 秒間

（二） 短時間定格電動機ノ場合（全閉型ヲ含ム）

凡テノ電動機 100% ノ過回轉力ニ對シ 30 秒間

第四條 耐壓試驗

耐壓試驗ハ新製機械ニシテ組立完了シタルモノニ對シ之ヲ執行ス、該試驗ハ特ニ指定セサルトキハ製造工場ニ於テ溫度試驗終了後直チニ執行スルモノトス

耐壓試驗ハ捲線ト鐵心及枠ヲ總括シタルモノトノ間竝捲線ト他ノ捲線トノ間ニ1分間次ニ揭クル試驗電壓ヲ加フルモノトス但シ試驗電壓ハ周波數 25 乃至 100「サイクル」ノ交流ニシテ正弦波形ノモノタルヘシ

機械又ハ部分品	試驗電壓
(1) 1 kW 又ハ kVA 以上 3 kW 又ハ kVA 未滿ノ機械	1,000V ＝定格電壓ノ 2 倍ヲ加ヘタルモノ
(2) 3 kW 又ハ kVA 以上ノ機械	1,000V ＝定格電壓ノ 2 倍ヲ加ヘタルモノ但シ最小 2,000V トス
(3) 同期發電機ノ界磁捲線 但シ勵磁電壓 750V ヲ超エサルトキ	勵磁電壓ノ 10 倍但シ最小 2,000V 最大 3,500V トス
(4) 同期電動機ノ界磁捲線	
（イ） 界磁捲線ヲ短絡シテ起動セシムル場合	勵磁電壓ノ 10 倍但シ最小 2,000V 最大 3,500V トス
（ロ） 界磁捲線ニ分切開閉器ヲ備ヘ起動セシムル場合	5,000V
（ハ） 分切開閉器ヲ備ヘスシテ界磁回路ヲ開放シタル儘起動セシムル場合	勵磁電壓 275V 未滿ナルトキ 5,000V 勵磁電壓 275V 以上ナルトキ 8,000V
（ニ） 交流側ノ捲線ヲ使用セスシテ起動セシムル場合	（イ）ニ同シ
(5) 勵 磁 機	勵磁サルル機械ノ界磁捲線ノ試驗電壓ヨリ小ナルヘカラス但シ同期機ノ場合ニ於テ交流側ヨリ起動セシムル場合ハ(3)ニ依ル
(6) 誘導電動機ノ回轉子捲線（短絡回轉子型ヲ除ク）	1,000V ＝滑動環間ニ於ケル最大誘起電壓ノ 2 倍ヲ加ヘタルモノ、又回轉方向ヲ變スル電動機ニ在リテハ 1,000V ＝最大誘起電壓ノ 4 倍ヲ加ヘタルモノ

第五條 絕緣抵抗ノ測定

絕緣抵抗ハ耐壓試驗前ニ於テ測定シ次ノ値ヨリ小ナルヘカラス

$$\frac{\text{定格電壓}}{1{,}000+\text{定格出力（kW 又ハ kVA）}}\text{「メグオーム」}$$

絕緣抵抗ハ直流電壓 500V ヲ加ヘテ測定スルモノトス

第六條 給 油 裝 置

發電機及電動機ニハ之ヲ水平位置ヨリ何レノ方向ニ 15 度傾クルモ連續運轉ニ支障ヲ來ササル軸受給油裝置ヲ備フルモノトス

第七條 制御裝置及抵抗ノ溫度上昇

制御裝置及抵抗各部ノ溫度上昇ハ次表ニ揭クル範圍ヲ超ユヘカラス

器械ノ部分名稱	溫度上昇(寒暖計ニテ測定)
接觸部分及導體	30°C
釋 放 線 輪	
（イ） 木綿、絹、紙及類似ノ材料ニ「ワニス」ヲ含浸シタルモノ	50°C
（ロ） 「エナメル」線	50°C
（ハ） 「アスベスト」、「マイカ」、「マイカナイト」及裸線輪	100°C
接觸器用線輪	70°C
抵抗（裸線ノ上ニテ測定）	260°C

第八條 制御裝置及抵抗ノ耐壓試驗

制御裝置及抵抗ハ導體ト枠トノ間ニ 1,000V ＝定格電壓ノ 2 倍ヲ加ヘタル電壓（但シ最小 2,000V トス）ヲ課シ1分間耐ヘ得ルモノトス

附錄 第二號

電纜規程

第一條 銅線ノ萬國標準抵抗

次ノ各號ヲ標準軟銅ノ常規數量トシテ定ム

(一) 20°C ノ溫度ニ於テ長 1m 斷面積 $1mm^2$ ノ標準軟銅線ノ抵抗ヲ $\frac{1}{58}$ = 0·017241……「オーム」トス

(二) 20°C ノ溫度ニ於ケル標準軟銅ノ密度ヲ $1cm^3$ ニ付 8·89g トス

(三) 20°C ノ溫度ニ於ケル標準軟銅ノ線膨脹係數ヲ攝氏1度ニ付 0·000017 トス

(四) 膨脹自由ナル電線上ニ固著セシメタル二ツノ測點間ニ於テ測定セル標準軟銅ノ 20°C ニ於ケル抵抗溫度係數ヲ攝氏1度ニ付 0·00393 卽チ $\frac{1}{254{\cdot}45}$ トス

(五) (一)及(二)ニ依リ 20°C ノ溫度ニ於ケル標準軟銅ノ「グラム」質量抵抗ヲ 1m 1g ニ付 $\frac{1}{58}\times 8{\cdot}89=0{\cdot}15328$「オーム」トス

第二條 撚線ノ標準

撚線ノ斷面積、重量及抵抗ハ素線ノ斷面積、重量及抵抗ニ夫々次表ニ掲クル定數ヲ乘シタルモノトス

素線ノ數	定數		
	斷面積	重量	抵抗
3	2·94118	3·06000	0·340000
7	6·88235	7·12000	0·145299
19	18·6471	19·3600	0·0536278
37	36·2941	37·7200	0·0275527
61	59·8235	62·2000	0·0167158
91	89·2353	92·8000	0·0112063
127	124·529	129·520	0·00803023
169	165·706	172·360	0·00603479

第三條 可撓紐線ノ標準

可撓紐線ニ於ケル徑 0·193mm (0·0076in) ノ素線ノ數竝導體ノ斷面積及抵抗ハ次表ニ依ル

可撓紐線ノ導體

(標準軟銅)

1	2	3	4	5	6
可撓紐線ニ於ケル素線ノ數		導體ノ徑	20°C ニ於ケル 1,000m ノ抵抗 (60°F ニ於ケル 1,000「ヤード」ノ抵抗)		
公稱斷面積	素線ノ數及徑		標準	最大許容抵抗 軟銅	最大許容抵抗 錫鍍軟銅
0·4 mm^2 (0·0006 in^2)	14/·193 mm (14/·0076 in)	0·873mm (0·034 in)	44·1 オーム (39·7)	45·0 オーム (40·5)	45·9 オーム (41·3)
0·65 (0·001)	23/·193 (23/·0076)	1·168 (0·046)	26·9 (24·2)	27·3 (24·6)	27·9 (25·1)
1·0 (0·0017)	40/·193 (40/·0076)	1·448 (0·057)	15·4 (13·9)	15·8 (14·2)	16·0 (14·4)
2·0 (0·003)	70/·193 (70/·0076)	1·930 (0·076)	8·83 (7·94)	9·01 (8·10)	9·19 (8·26)
3·0 (0·0048)	110/·193 (110/·0076)	2·515 (0·099)	5·62 (5·05)	5·73 (5·15)	5·84 (5·25)
4·5 (0·007)	162/·193 (162/·0076)	2·794 (0·110)	3·81 (3·43)	3·89 (3·50)	3·97 (3·57)

第四條 可撓電纜ノ標準

可撓電纜ニ於ケル素線ノ數及徑竝導體ノ斷面積及抵抗ハ次表ニ依ル

可撓電纜ノ導體

(標準軟銅)

1	2	3	4	5	6	7	8
公稱	素線ノ數及徑				20°C ニ於ケル 1,000 m ノ抵抗 (60°F ニ於ケル 1,000「ヤード」ノ抵抗)		
斷面積	徑 0·254 mm (0·010 in)	徑 0·304 mm (0·012 in)	徑 0·457 mm (0·018 in)	徑 0·736 mm (0·029 in)	標準	最大許容抵抗 軟銅	最大許容抵抗 錫鍍軟銅
6·5 mm^2 (0·01 in^2)	140/·254 (140/·010)	97/·304 (97/·012)			2·553オーム (2.29)	2·604オーム (2·34)	2·655オーム (2·39)
9·5 (0·0145)	195/·254 (195/·010)		60/·457 (60/·018)		1·828 (1·64)	1·864 (1·68)	1·901 (1·71)
15 (0·0225)	296/·254 (296/·010)		91/·457 (91/·018)		1·207 (1·08)	1·231 (1·11)	1·255 (1·13)
20 (0·03)		266/·304 (266/·012)	117/·457 (117/·018)		0·9425 (0·847)	0·9613 (0·864)	0·9802 (0·881)
25 (0·04)		368/·304 (368/·012)	163/·457 (163/·018)		0·6748 (0·605)	0·6883 (0·618)	0·7018 (0·631)
40 (0·06)		577/·304 (577/·012)	248/·457 (248/·018)		0·4454 (0·400)	0·4543 (0·408)	0·4532 (0·416)
50 (0·075)		705/·304 (705/·012)	313/·457 (313/·018)	121/·736 (121/·029)	0·3519 (0·316)	0·3590 (0·323)	0·3660 (0·329)
65 (0·10)			416/·457 (416/·018)	160/·736 (160/·029)	0·2648 (0·238)	0·2701 (0·243)	0·2754 (0·247)
75 (0·12)			482/·457 (482/·018)	186/·736 (186/·029)	0·2288 (0·206)	0·2334 (0·210)	0·2380 (0·214)
95 (0·15)			610/·457 (610/·018)	235/·736 (235/·029)	0·1808 (0·163)	0.1844 (0·166)	0·1880 (0·169)
125 (0·2)			810/·457 (810/·018)	312/·736 (312/·029)	0·1350 (0·122)	0·1388 (0·125)	0·1415 (0·127)
160 (0·25)			1017·/457 (1017·/018)	392/·736 (392/·029)	0·1083 (0·0974)	0·1105 (0·0993)	0·1127 (0·101)
195 (0·3)				481/·736 (481/·029)	0·08836 (0·0794)	0·09013 (0·0810)	0·09189 (0·0826)
260 (0·4)				646/·736 (646/·029)	0·06576 (0·0591)	0·06708 (0·0603)	0·06839 (0·0614)
320 (0·5)				792/·736 (792/·029)	0·05361 (0·0482)	0·05468 (0·0491)	0·05575 (0·0501)

第五條 導體ノ標準重量及抵抗ニ對スル公差

導體ノ標準重量及抵抗ニ對スル公差ハ次表ニ依ル

導體	公差(百分率) 重量 +又ハ−	公差(百分率) 抵抗 +又ハ−
單　線(同心電纜ノ環狀導體ヲ含ム)		
軟銅線	3	3
徑 0·915 mm (0·036 in) 以上ノ錫鍍軟銅線	3	4
徑 0·915 mm (0·036 in) 未滿ノ錫鍍軟銅線	3	5
撚　線		
軟銅線	2	2
徑 0·915 mm (0·036 in) 以上ノ錫鍍軟銅線	2	3
徑 0·915 mm (0·036 in) 未滿ノ錫鍍軟銅線	2	4

第六條 絕緣體

一、絕緣體ノ標準厚

絕緣體ノ厚ハ第四十三章第六表乃至第九表ニ依ル

二、絕緣體ノ標準厚ニ對スル公差

絕緣體ノ厚ノ最大誤差ハ第四十三章第六表乃至第九表ニ揭ケタル厚ヨリ小ナルコト其ノ 10% ヲ超ユヘカラス、又周圍ニ沿ヒ等分ノ點ニ於テ測リタル厚ノ平均カ標準値ヨリ小ナルヘカラス

第七條 保護被覆

一、被覆ノ標準厚

被覆ノ厚ハ第四十三章第六表乃至第九表ニ依ル

二、被覆ノ標準厚ニ對スル公差

被覆ノ厚ノ最大誤差ハ第四十三章第六表乃至第九表ニ揭ケタル厚ヨリ小ナル

コト其ノ 10% ヲ超ユヘカラス、又周圍ニ沿ヒ等分ノ點ニ於テ測リタル厚ノ平均カ標準値ヨリ小ナルヘカラス

强靱ナル護謨混合物ヲ以テ多心ノ間隙ヲ充塡スル樣被覆シテ保護シタル多心電纜ニ在リテハ護謨混合物ノ厚ハ其ノ最小ナル部分ニ於テ測リ其ノ最大誤差ハ次表ニ揭クル標準値ヨリ小ナルコト其ノ 10% ヲ超ユヘカラス、又周圍ニ沿ヒ等分ノ點ニ於テ測リタル厚ノ平均カ標準値ヨリ小ナルヘカラス

强靱ナル護謨混合物ヲ以テ保護被覆サレタル可撓線

（標準錫鍍軟銅）

1	2	3	4	5	6	7	8
公稱斷面積	素線ノ數及徑	導體ノ直徑	20°C ニ於ケル 1,000 m ノ抵抗（6°F ニ於ケル 1,000「ヤード」ノ抵抗） 標準	最大	强靱ナル護謨混合物ノ厚	外徑（250V ノ場合）	外徑（250V ノ場合）
0·4 mm² (0·0006 in²)	5–錫鍍軟銅線 2–錫鍍軟鋼線 7/·304 mm (7/·012 in)	0·915 mm (0·036 in)	45·07オーム (40·5)	45·96オーム (41·3)	1·27 mm (0·050 in)	5·13mm (0·202 in)	6·25mm (0·246 in)
0·65 (0·001)	9–錫鍍軟銅線 2–錫鍍軟鋼線 11/·304 (11/·012)	1·219 (0·048)	27·38 (24·6)	27·94 (25·1)	1·27 (0·050)	5·48 (0·216)	6·55 (0·258)
1·0 (0·0017)	凡テノ錫鍍軟銅線 16/·304, (16/·012)	1·448 (0·057)	15·80 (14·2)	16·03 (14·4)	1·27 (0·050)	5·76 (0·227)	6·83 (0·269)
2·0 (0·003)	〃 〃 28/·304 (28/·012)	1·930 (0·076)	9·01 (8·10)	9·19 (8·26)	1·27 (0·050)	6·30 (0·248)	7·36 (0·290)
3·0 (0·0048)	〃 〃 44/·304 (44/·012)	2·337 (0·092)	5·73 (5·15)	5·84 (5·25)	1·27 (0·050)	6·81 (0·268)	7·82 (0·308)
4·5 (0·007)	〃 〃 65/·304 (65/·012)	2·845 (0·112)	3·89 (3·50)	3·97 (3·57)	1·27 (0·050)	7·36 (0·290)	8·38 (0·330)

第八條 試驗

一、屈曲試驗

外徑ノ 6）倍ノ長ヲ有スル試料ヲ取リ其ノ兩端ヲ其ノ儘ニシテ之ヲ其ノ外徑ノ 12 倍ノ徑ヲ有スル圓壔ノ周ニ沿ヒ一方向ニ、次ニ其ノ反對ノ方向ニ曲ケ斯クスルコト三回ニ及フモ電纜ニ損傷ヲ生スルコトナク且ツ次ノ耐壓試驗ニ耐ヘ得ルモノトス

二、耐壓試驗

250V ノ電壓ニ使用セラルル絕緣電纜ハ 15 分間 1,000V ノ電壓ニ耐ヘ、又

660V ノ電壓ニ使用セラルル絕緣電纜ハ 15 分間 2,500V ノ電壓ニ耐ヘ得ルモノトス

特ニ指定セサル場合ニ在リテハ耐壓試驗ハ製造工場ニ於テ 24 時間水中ニ浸シタル後執行スルモノトス

三、絕緣抵抗試驗

絕緣抵抗試驗ハ第四十三章第十條第六號ニ依ル

四、導線ノ扯斷力及伸長率

日本電氣工藝委員會制定ノ電線標準ニ依ル

五、錫鍍、護謨絕緣體、亞鉛鍍試驗

日本電氣工藝委員會制定ノ電線標準ニ依ル

附錄 第三號

電纜ノ溫度上昇

第四十三章第四表ハ周圍溫度 26.6°C (80°F) ヲ超エス且單心ニシテ護謨ニテ絕緣セラレタル電纜ニ對シテハ 11.1°C (20°F)、紙ニテ絕緣セラレタル電纜ニ對シテハ 27.7°C (50°F) ノ溫度上昇ヲ許スモノトシテ制定セラル卽チ護謨絕緣電纜ニシテ斷面積 4.5 mm² (0.007 in²) 未滿ノモノ及紙絕緣電纜ニシテ斷面積 11 mm (0.017 in²) 未滿ノモノハ電流密度 1 mm² ニ付 6.2 amp (1 in² ニ付 4,000 amp) トシテ計算セラル

前項ニ依リ使用狀態ニ於ケル最大溫度ハ護謨絕緣電纜ニ在リテハ 37.7°C (100°F)、紙絕緣電纜ニ在リテハ 54.4°C (130°F) ナリ

護謨絕緣電纜ハ長キ使用期間ニ於テハ 48.8°C (120°F)、短キ使用期間ニ於テハ 54.4°C (130°F) ヲ超ユル溫度ニ昇ルコトヲ許サス、又紙絕緣電纜ハ 80°C (176°F) ヲ超ユル連續シタル溫度ニ保ツコトアルヘカラス

周圍溫度カ 26.6°C (80°F) ヲ超ユル場合ニ在リテハ電纜ノ最大溫度カ前記ノ値ヲ超エサル樣許容電流ヲ減スルコトヲ要ス

第四十四章

冷藏裝置

委員會ハ冷藏貨物ノ運搬ニ使用スル冷藏船ノ防熱裝置及冷凍機關ニ關シ本則ヲ承認シ船主又ハ製造者ノ申込ニ應シ檢查員ヲシテ必要ナル檢查ヲ行ハシム

第一條 本則ニ依リ且ツ本會檢查員ノ製造中檢查ヲ受ケ施設シタル冷藏裝置ニ對シテハ委員會ノ承認ヲ經テ船舶原簿ニ R. M. C. ＊（檢查年月）ヲ附記シ且ツ冷藏艙ノ數及容積、防熱材ノ種類、冷凍方法竝冷凍機ノ種類及數ヲ表示シテ之ヲ登錄シ檢查證書ヲ發行ス

製造中檢查ヲ受ケサル冷藏裝置ニ對シ檢查ノ申込アリタルトキハ本會檢查員ニ於テ檢查ヲ行ヒ良好ト認メタルトキハ委員會ノ承認ヲ經テ船舶原簿ニ R. M. C（檢查年月）ヲ附記シ前項ノ表示事項ト共ニ之ヲ登錄シ檢查證書ヲ發行ス

本會ノ登錄ヲ繼續セントスル冷藏裝置ニ對シテハ六箇月ヲ超エサル期間每ニ第十四條ニ定ムル定期檢查ヲ行フモノトス

三箇月以內ニ一航海ヲ終ル船ニ在リテハ前回定期檢查後約三箇月目ニ第十四條ニ定ムル中間檢查ヲ行ヒ次回定期檢查ニ於テ其部分ノ檢查ヲ省略スルコトヲ得

本則ハ主トシテ航洋船ノ冷藏裝置ニ付之ヲ適用スルモ特殊ノ航路、用途ニ使用スル冷藏船ノ冷藏裝置及本則ニ規定セサル特殊構造ノ冷藏裝置ニ付テハ委員會ニ於テ特ニ銓衡シ之ニ適應スル檢查證書ヲ發行ス

第二條 **冷凍機室**ニハ有效ナル通風裝置及排水裝置ヲ備ヘ且鋼製水密仕切板ヲ設ケ完全ニ防熱區劃ト隔離スルコトヲ要ス

油艙ノ隔壁ニ防熱裝置ヲ施ストキハ該隔壁ト防熱裝置トノ間ニ適當ノ空隙ヲ設ケ同部ノ「ドレイン」ヲ「オイル　ガツターウエー」及「ビルジ」ニ導ク樣裝置スルコトヲ要ス又該防熱裝置ハ之ヲ氣密ト爲スコトヲ要ス

前項ノ空隙ニハ大氣ニ通スル通風管ヲ設ケ其ノ末端ニ金網製ノ隔膜ヲ備フルコトヲ要ス

第三條 冷藏艙ノ防熱裝置ハ堅實ナル構造ト爲シ且ツ之ニ使用スル防熱材料ハ凡テ有效ノモノナルコトヲ要ス

防熱裝置ノ材料及構造ニ關シテハ其ノ明細ヲ委員會ニ報告シ承認ヲ受クルコトヲ要ス

防熱裝置ニシテ貨物ノ爲メニ損傷ヲ受クル惧アル部分ハ適當ニ之ヲ保護スルコトヲ要ス

第四條 防熱區劃ニ於ケル諸管、空氣通路等ハ適當ニ之ヲ配置シテ其ノ位置ニ固定シ且ツ貨物ノ爲メニ損傷ヲ受ケサル樣保護スルコトヲ要ス

防熱區劃ニ於ケル「ビルジ」吸水管、測深管、空氣管等ニハ凡テ適當ニ防熱裝置ヲ施スコトヲ要ス

石炭庫ヲ通過スル冷却管及石炭庫隔壁ノ防熱裝置ハ失火ニ對シ特別ノ注意ヲ以テ之ヲ施スコトヲ要ス

第五條 寒暖計鞘ノ鐶及蓋ハ銅甲板ヨリ傳熱セサルモノト爲シ且ツ鞘內ニ浸水セサル樣之ヲ裝置スルコトヲ要ス

寒暖計鞘及冷却管ハ其ノ所屬防熱區劃外ニ在リテハ之ニ有效ナル防熱裝置ヲ施スコトヲ要ス但シ冷却管ニシテ「ブライン」槽室及蒸化器室ヲ通過スルモノニ在リテハ此ノ限ニアラス

第六條 滿載吃水線下ニ在ル防熱區劃ノ「ドレイン」ハ防熱裝置ヲ施シタル不還瓣又ハ水封穽ヲ經テ之ヲ「ビルジ」ニ排泄スルコトヲ要ス

防熱區劃ニ通スル外部ヨリノ「ドレイン」ハ該區劃ニ冷藏貨物ヲ積載スル間之ヲ遮斷シ得ル樣裝置スルコトヲ要ス

第七條 防熱區劃ニ於ケル「ビルジ」、芥除箱等ハ容易ニ檢査シ得ル樣施設スルコトヲ要ス

第八條 冷藏艙ノ船側、隔壁及床上ニハ凡テ冷藏貨物積載前ニ於テ「バツテン」ヲ施シ船側及隔壁ニ於ケルモノハ之ヲ固着スルコトヲ要ス

前項ノ「バツテン」ハ床上ニ於ケルモノハ少クトモ幅 50 mm (2 in)、厚 50 mm (2 in)、船側及隔壁ニ於ケルモノハ幅 50 mm (2 in)、厚 38 mm ($1\frac{1}{2}$ in) トシ各適當ノ間隔ヲ以テ之ヲ設置スルコトヲ要ス

懸吊ノ方法ニ依リ貨物ヲ積載スルトキハ床上ノ「バツテン」ヲ要セス

第九條 冷凍機關ハ承認ヲ經タル構造ニシテ熱帶地ノ氣候ニ於テ毎日 18 時間之ヲ運轉シ所要ノ冷藏艙溫度ヲ保持スルニ充分ナル能力ヲ有スルコトヲ要ス

冷凍機關ハ二箇以上ノ力源ヲ備フル場合ニ在リテハ其ノ何レニ依リテモ運轉シ得ル裝置ト爲スヘシ

冷藏艙ノ容積カ 1,980 m³ (70,000 ft³) ヲ超ユルトキハ冷凍機ハ第一項ニ揭ケタル能力ヲ有スルモノ二箇ヲ備フルカ又ハ之ト同能力ノ複式ト爲スコトヲ要ス

「ブライン」喞筒及冷却水喞筒ハ各二箇ヲ備フルコトヲ要ス但シ冷却水喞筒カ補助喞筒ナルトキハ之ニ獨立ノ連結ヲ爲スコトヲ要ス

「ブライン」加減瓣ハ防熱區劃外ノ接近シ易キ場所ニ設置スルコトヲ要ス

第十條 冷凍機關ノ壓力ヲ受クル部分ハ次ノ各號ニ依リ之ヲ試驗スヘシ

一、CO_2 壓縮筩、分離器、凝縮器竝蒸化器ノ「コイル」、「ヘツダー」及此等ヲ連結スル管ハ 210 kg/cm² (3,000 lbs/in²) ノ水壓試驗ヲ行ヒ次ニ水中ニ於テ 105 kg/cm² (1,500 lbs/in²) ノ氣壓試驗ヲ行フコト

二、NH_3 壓縮筩及之ニ附屬スル管ハ 42 kg/cm² (600 lbs/in²) ノ水壓試驗ヲ行フコト

三、NH_3 凝縮器及蒸化器ノ各「コイル」ハ 105 kg/cm² (1,500 lbs/in²) ノ水壓試驗ヲ行ヒ次ニ水中ニ於テ 35 kg/cm² (500 lbs/in²) ノ氣壓試驗ヲ行ヒ更ニ現場ニ取附ケタル後 14 kg/cm² (200 lbs/in²) ノ氣壓試驗ヲ行フコト

四、「ブライン」管ハ現場ニ取附ケタル後 6·3 kg/cm² (90 lbs/in²) ノ氣壓試驗ヲ行フコト

五、瓦斯凝縮器及蒸化器ノ外筐ハ使用壓力ノ二倍ヨリ少カラサル水壓試驗ヲ

行フコト

冷凍及防熱裝置ハ完成シタル後使用狀態ニ於テ之ヲ試驗スルコトヲ要ス

前項ノ試驗ニ於テハ冷藏艙カ凍結肉及表面凍結肉ヲ積載セントスルモノナルトキハ約 −12°C (10°F) ニ、又果實其ノ他輕度冷却ヲ要スル貨物ヲ積載セントスルモノナルトキハ約 −7°C (20°F) ニ全艙ヲ同時ニ冷却シ各艙カ該溫度ニ冷却セリト認メタルトキ機關ノ運轉ヲ停止シ約 12 時間ノ後各艙ノ昇溫度ヲ檢シ之ヲ記錄スヘシ

第十一條　豫備品ハ次表ニ依リ之ヲ備ヘ接近シ易キ場所ニ藏置スルコトヲ要ス

全冷藏艙ヲ二區ニ分チ又ハ二區劃ノ冷藏艙ヲ各別ニ同型ノ冷凍機ヲ以テ冷却スルトキハ豫備品ハ冷凍機一臺分ニ止ムルモ妨ナシ

同型ニシテ各相當部ヲ相轉用シ得ル冷凍機二臺以上ヲ備ヘ其ノ一臺ヲ除ク他ノ冷凍機ノ總能力カ第九條第一項ニ適合スルトキハ豫備品ヲ備ヘサルモ妨ナシ

豫　備　品

品　名	瓦斯壓縮筩一箇ヲ有スル冷凍機一臺ナルトキ	瓦斯壓縮筩二箇以上ヲ有スル冷凍機一臺又ハ瓦斯壓縮筩一箇ヲ有スル冷凍機二臺ナルトキ
曲拐軸　隔心器內輪ヲ有シ完備セルモノ	一箇	一箇
但シ相轉用シ得ルモノナルトキ	半數	半數
壓縮筩蓋　但シ鍛鋼製又ハ螺栓式ナラサルトキ	各種　一箇	各種　一箇
汽筩及壓縮筩ノ吸鍔　完備セルモノ	各種　一組	——
汽筩ノ吸鍔彈環其ノ他	——	各筩ニ付　一組
壓縮筩ノ吸鍔彈環又ハ衞帶環	——	各種　一組
汽筩及壓縮筩ノ吸鍔鋲及母螺　完備セルモノ	各種　一組	各種　一組
滑瓣鋲及母螺	各種　一組	各種　一組
主軸受ノ黃銅	一組	——
主軸受ノ螺釘	二箇	二箇
吸鍔鋲及接續鋲ノ螺釘及黃銅	各　一組	各　一組
隔心器ノ外輪及鋲　完備セルモノ	各種　一組	各種　一組
汽筩ノ主蒸氣瓣及斷汽瓣	一組	高壓氣筩ノ分一組
排氣喞筒ノ「バケツト」及鋲	一組	一組
循環喞筒ノ「バケツト」及鋲	一組	一組
壓縮筩ノ金屬衞帶環	一組	各筩ニ付　一組
壓縮筩ノ吸入瓣及排出瓣　瓣匣及發條ヲ完備セルモノ	一組	一組
排氣、循環、給水及「ブライン」各喞筒ノ瓣	各　一組	各　一組
瓦斯加減瓣　完備セルモノ	一組	各　一組
瓦斯配送匣及收集匣　鍛鋼製ナラサルトキ	各　一箇	各　一箇
瓣、嘴子、接合鍔及附屬品	各種　若干	各種　若干
柔革衞帶環製造用型	各種　一箇	各種　一箇
冷　汽　管	六箇	六箇
冷汽管塡箍	二十四箇	二十四箇
管及曲管　鍔、接手、螺絲工具トモ	各種　若干	各種　若干
螺釘、母螺、植込螺釘、「パツキング」、接合環、壓縮筩衞帶環及柔革	各種　若干	各種　若干

第十二條　「ブライン」喞筒及冷却水喞筒カ獨立喞筒ナルトキハ次ノ豫備品ヲ備フルコトヲ要ス

吸鍔彈環、喞筒瓣及喞筒鋲	各　一組

排氣喞筒、循環喞筒及給水喞筒カ一箇ノ獨立汽機ニ依リ運轉シ主機ノ喞筒ト連絡ヲ有セサルトキハ次ノ豫備品ヲ備フルコトヲ要ス

曲　拐　軸	隔心器內輪ヲ有シ完備セルモノ	一箇
吸　鍔　鋲	完備セルモノ	各種一箇
汽筩ノ吸鍔彈環		各種一組
隔心器外輪及鋲		各種一組
滑瓣及滑瓣鋲		各種一組
接續鋲兩端ノ螺釘及母螺		各　一組
喞筒ノ「バケツト」及鋲	完備セルモノ	各種一組
喞　筒　瓣		各種一組

前項ノ喞筒カ主機ノ喞筒ト連絡ヲ有スルトキハ次ノ豫備品ヲ備フルモノトス

接續鋲兩端ノ螺釘及母螺	各一組
喞筒ノ「バケツト」及鋲	各種一組
喞筒瓣	各種半組

冷風扇車機ヲ備フルトキハ次ノ豫備品ヲ備フルコトヲ要ス

曲拐軸	隔心器內輪ヲ有シ完備セルモノ	一箇
吸鍔及鋲		一組
汽筩蓋		一箇
接續鋲兩端ノ螺釘及母螺		各一組
軸受黃銅及螺釘		各一組

補助汽機二臺以上ヲ備ヘ其ノ豫備品ヲ相轉用シ得ルモノナルトキハ之ヲ汽機一臺分ニ止ムルモ妨ナシ

第十三條 航海中冷凍機關ニ於ケル漏洩ニ備フル爲メ補給用冷却媒劑及鹽化「カルシウム」ヲ充分ニ備フルコトヲ要ス

第十四條 檢　　査

冷凍機關ハ各檢査每ニ使用狀態ニ於テ之ヲ試驗スルコトヲ要ス、該試驗ハ成ルヘク揚荷港ニ於テ揚荷完了前之ヲ行フヘシ

定期檢査 定期檢査ハ次ノ各號ニ依リ之ヲ行フコトヲ要ス

一、「リンバー ハツチ」其ノ他出入口ノ蓋ヲ全部取外シ「リンバー」ヲ掃除シ「ビルジ」吸水管及測深管ヲ檢査スルコト

二、艙口、空氣通路、寒暖計箱、通風筒緣材及甲板ニ於ケル諸取附部ノ防熱裝置ヲ檢査シ空氣通路カ支水隔壁ヲ貫通スルトキハ支水扉ノ開閉試驗ヲ行フコト

三、「ブライン」カ「ビルジ」ニ排出シ得ル裝置ノモノニ於テハ其ノ「セメント」ヲ檢査スルコト

四、冷凍機ノ各部、各喞筒、汽管、水管、冷汽器、瓦斯凝縮器、「ブライン」冷却器、冷却媒劑液管、瓦斯管、「ブライン」管及豫備品ヲ檢査スルコト

五、瓦斯凝縮器ノ「コイル」カ鐵製又ハ鋼製ナルトキハ約四年目每ニ之ヲ取出シ成規ノ水壓試驗ヲ爲スコト

中間檢査 中間檢査ハ少クトモ次ノ各號ニ依リ行フモノトス

一、防熱裝置、空氣通路及防熱區劃ニ於ケル冷却管ノ一般檢査ヲ爲スコト

二、壓縮筩及其ノ諸瓣ヲ檢査シ豫備品ヲ調査スルコト

積荷前檢査 揚荷港ニ於テ冷凍機關及防熱裝置ノ檢査ヲ行ヒタルトキト雖モ更ニ積荷港ニ於テ冷藏貨物積載前「バツテン」及防熱裝置ニ異狀ナキヤヲ確メ且冷凍機關ヲ使用狀態ニ於テ運轉シテ艙內ノ溫度ヲ記錄スルコトヲ要ス但シ本檢査ハ短期間ノ航海ニ從事スル船ニ在リテハ二箇月以內ニ一回行フモノトス

船カ本會檢査員ノ檢査ヲ受ケ難キ地ニ在ル場合ニハ委員會ハ相當ノ技能ヲ有スル者ノ檢査報告書ヲ承認ス又相當ノ技能者ヲ得難キ場合ニハ本船ニ於ケル當該技術者二名ノ檢査報告書ヲ承認ス

船級ノ登錄ヲ受ケタル船ノ檢査

第一條　船級ノ登錄ヲ受ケタル船ノ特別檢査ハ製造工事完成ノ月ヨリ起算シ四年目每ニ之ヲ行フ但シ特別ノ場合ニ於テハ委員會ハ四年ニ滿タサル特別檢査期間ヲ定メ又近海航路以下ノ航路ニ制限シタル船級ヲ有スル船及漁船其ノ他特殊ノ用途ニ制限シタル船級ヲ有スル船ニ付テハ製造中特別檢査ヲ受ケタルモノニ限リ第一次第一種特別檢査ヲ六年目ニ行フコトアルヘシ

船カ進水後六箇月以內ニ完成セサル場合ニ於テハ航行開始前ニ於ケル入渠檢査ノ月ヲ以テ製造工事完成ノ月ト看做スコトアルヘシ

第二條　特別檢査滿了ノ期日ハ本會ヨリ之ヲ船主ニ通知スヘシ該通知ヲ受ケタルモ相當ノ手續ヲ爲ササル場合ニ於テ生スル責ハ船主又ハ其ノ代理人ニ歸スルモノトス

第三條　特別檢査ニ著手シ其ノ幾分ヲ行ヒタル場合ニ於テ特別ノ事由アルトキハ委員會ノ承認ヲ受ケ殘部ノ檢査ハ成規ノ時期ヨリ一箇年以內ノ範圍ニ於テ之ヲ延期スルコトヲ得但シ第一條但書ノ規定ニ依リ第一次第一種特別檢査ヲ六年目ニ定メタル船ニ付テハ該檢査ヲ延期スルコトヲ得ス

第一次第三種特別檢査ハ前項ノ規定ニ拘ラス製造工事完成ノ月ヨリ十三箇年ヲ超エテ延期スルコトヲ得ス又第一條第一項但書ノ規定ニ依リ第一次第一種特別檢査ヲ六年目ニ定メタル船ノ第一次第三種特別檢査ハ十五箇年ヲ超エテ延期スルコトヲ得ス

第四條　特別檢査期間滿了前ト雖モ船主ヨリ請求アリタルトキハ特別檢査ヲ行フ此ノ場合ニ於テハ爾後ノ特別檢査ノ番號及期間ハ繰上ケタル特別檢査完了ノ月ヨリ之ヲ起算ス

第五條　船級ノ登錄ヲ受ケタル船カ坐礁、衝突又ハ其ノ他ノ原因ニ依リ損傷ヲ受ケ航行ニ支障ヲ生シタル場合ニ於テハ船主ハ檢査ヲ請求シ船體又ハ機關ニ對シ檢査員ノ必要ト認ムル修理ヲ加フヘシ

第六條　機關ノ一部又ハ汽罐ヲ移動セントスルトキハ本會又ハ最寄出張所ニ其ノ旨ヲ通知シ檢査員ノ臨檢ヲ受ケ缺陷ヲ發見シタルトキハ檢査員ノ指示ニ從ヒ修理ヲ加フヘシ

第七條　檢査員ハ前二條以外ノ場合ニ於テモ成ルヘク適當ノ機會ヲ利用シ船級ノ登錄ヲ受ケタル船ニ臨檢スヘキモノトス

船級ノ登錄ヲ受ケタル船ヲ入渠又ハ上架シタルトキハ船主又ハ其ノ代理人ヨリ之ヲ本會又ハ最寄出張所ニ通知セラルヘシ

船舶原簿ニハ最近臨檢ノ年月ヲ登錄スルモノトス

檢査員臨檢ノ上修理ヲ必要ト認メタルトキハ之ヲ船主又ハ其ノ代理人ニ通知スヘシ

修理ハ船級ノ登錄ヲ繼續スル爲メ成ルヘク迅速ニ之ヲ執行スヘシ

第八條　檢査員船級ノ登錄ヲ受ケタル船ノ所有者又ハ船長ヨリ請求ヲ受ケタルトキハ檢査ヲ行ヒ遲滯ナク其ノ成績ヲ委員會ニ報告スヘシ

檢査員損傷又ハ修繕ニ對スル檢査ヲ行フ場合ニ於テハ勗メテ同時ニ特別檢査ノ手續ヲ行ヒ檢査ノ重複ヲ避クヘシ

船 體 及 艤 裝 品

※ 年次檢査

船ハ檢査ノ爲メ成ルヘク一箇年ニ一回入渠セシムヘシ

入渠ヨリ入渠迄ノ期間ハ二箇年ヲ超ユヘカラス

檢査員ハ十二箇月ヲ超エサル期間每ニ船ニ臨檢シ操舵裝置、水密扉、「スルースヴアルヴ」、艙口ノ蓋板及縱材、艙口及通風筒ノ緣材竝暴露甲板ニ於ケル其ノ他ノ開口保護裝置ノ現狀及操作、排水口ノ一般狀態及蝶番ノ現狀ヲ檢査シ之ヲ報告スヘシ

前項ノ檢査ハ成ルヘク入渠檢査ヲ利用スヘシ

※　船主ハ日本船舶ニ付テ船舶檢査法令ニ依リ入渠ヨリ入渠迄ノ期間ハ旅客船ニ在リテハ一箇年、非旅客船ニ在リテハ一年六箇月ヲ超エヘカラサルコトニ注意セラルヘシ又非旅客船ニ付テハ(第一章第九條注意書參照)船舶檢査法令ニ依ル檢査省略ヲ受クル爲メ檢査員ハ一箇年ヲ超エサル期間毎ニ船ニ臨檢シ船體各部ヲ檢査シ殊ニ水密扉(支水壁ノ扉、載貨門、載炭門、舷窓等)、「スルース　ヴアルヴ」、艙口ノ蓋板及縱材、艙口及通風筒ノ緣材竝暴露甲板ニ於ケル其ノ他ノ開口保護裝置ノ現狀及操作ヲ檢査シ尚檢査員ノ見込ニ依リ繋船、揚錨、揚貨ノ裝置及操舵機具竝「ビルジ」喞筒ノ現狀及操作ヲ檢査スヘシ但シ船體各部ノ檢査ハ航海中ノ成績竝現狀ニ依リ次ノ各號ノ通リ斟酌ヲ爲スコトヲ得

一、進水後十二年未滿ノ鋼船船體ノ船艙、燃料庫、二重底、水艙及油艙ノ內部檢査ハ航海中ノ成績ニ徵シ特ニ異狀アリト認ムル箇所ヲ除クノ外之ヲ省略ス

二、進水後十二年以上ノ鋼船船體ノ前號諸部檢査ニ付テハ前回檢査ノ範圍及程度ヲ考慮シ缺點ヲ生シ易キ箇所及特ニ必要ト認ムル箇所ヲ檢査シ其ノ他ヲ省略スル等適宜ノ處置ヲ爲ス

第一次第一種特別檢査

本檢査ニ於テハ船ヲ入渠又ハ上架セシムヘシ

檢査準備ハ次ノ各號ニ依ル

一、貨物艙、船首尾艙、「ビルジ」及汽船ニ在リテハ機關室竝石炭庫內ヲ取片付ケ掃除スルコト

二、船ノ首尾ヲ通シテ船底內張板ヲ少クトモ各舷一條宛取外シ又「セメント」ヲ檢査スル爲メ必要アルトキハ機關室床板ヲ取外シ尚「ビルジ」覆板其ノ他取外シ得ヘキ船底內張板ハ總テ之ヲ取外スコト

三、二重底ノ部分ニ於テハ檢査員ノ指示ニ從ヒ船底內張板ヲ取離シ人孔ヲ開キ二重底內ヲ掃除シ尚頂板ノ掃除及塗裝上必要アルトキハ內張板ノ殘部ヲ取離スコト

二重底ハ滿載吃水ニ相當スル水高壓力ヲ以テ其ノ水密ヲ試驗スヘシ

艙內深水艙及船首尾水艙ハ滿載吃水及滿水狀態ニ於ケル水艙內ノ最高水面迄ノ高ノ中大ナルモノニ相當スル水高壓力ヲ以テ水密ヲ試驗スヘシ

檣、「スパー」、「リギング」、「アウトフイツト」、舵及操舵裝置ノ全部、艙口ノ蓋板及縱材、艙口及通風筒ノ緣材、機關室圍壁及暴露甲板ニ於ケル開口保護裝置、船外ニ通スル「サニタリー　パイプ」其ノ他ノ諸管、揚錨機、「スルース　ヴアルヴ」、水密扉、排氣管竝測深管等ノ現狀及操作、排水口ノ一般狀態及蝶番ノ現狀ヲ檢査シ其ノ成績ヲ報告スヘシ

手用喞筒ニ付テハ揚水試驗ヲ行フヘシ

肋骨及鋼板ノ表面ハ必要ニ應シ銹落ヲ爲シ「ペイント」ヲ施スヘシ

乾舷標示ノ正否ヲ檢査スヘシ

冷藏ノ爲メ貨物艙ニ絕緣裝置ヲ施シタル部分ハ「リムバー」及艙口ノ蓋板ヲ取外シ該部ヲ檢査スヘシ

各測深管ノ下部ニ當ル外板ニハ厚キ鋼板ヲ固定シ測深桿ノ衝擊受タラシムコトヲ要スルニ付特ニ注意シテ檢査スヘシ

油艙船ニ在リテハ油艙內ノ瓦斯ヲ驅除シ檢査ノ際危險ナカラシムヘシ

油艙ノ各區劃室ハ膨脹室艙口頂部迄ノ高ニ相當スル水高壓力ヲ以テ水密ヲ試驗スヘシ

第一次第二種特別檢査

本檢査ニ付テハ第一次第一種特別檢査ニ對スル規定ニ依ルノ外次ノ規定ニ依ルヘシ

本檢査ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シ彎曲部ニ於ケル內張板ヲ各舷一條宛取離シ且ツ二重底又ハ深水艙ノ部分ニ於テハ內張板全部ヲ取離スコトヲ要ス

揚錨機ヲ檢査スヘシ但シ木製揚錨機ニ付テハ之ヲ解放シ添木ヲ剝離スルコトヲ

要ス

木甲板ノ磨滅部分ヲ穿孔シ其ノ狀態ヲ檢査シ厚カ規定ノ厚ノ$\frac{3}{4}$以下ニ減シタル部分又ハ不良ノ部分ハ之ヲ新換スヘシ

錨鎖ハ之ヲ船外ニ整列シ「シヤツクル　ピン」ヲ拔キテ檢査スヘシ

錨鎖ハ其ノ截面積ノ減少カ規定ノ截面積ノ 25% 卽チ徑ノ減少カ次表ニ揭クルモノ以上トナリタルトキハ之ヲ新換スヘシ

錨鎖ノ徑(吋ニテ)		徑ノ減少ノ最大限度(吋ニテ)
$\frac{8}{16}$以上	$\frac{12}{16}$未滿	$\frac{1}{16}$
$\frac{12}{16}$ 〃	$1\frac{4}{16}$ 〃	$\frac{2}{16}$
$1\frac{4}{16}$ 〃	$1\frac{12}{16}$ 〃	$\frac{3}{16}$
$1\frac{12}{16}$ 〃	2 〃	$\frac{4}{16}$
2 〃	$2\frac{8}{16}$ 〃	$\frac{5}{16}$
$2\frac{8}{16}$ 〃	3 〃	$\frac{6}{16}$
3 〃	$3\frac{8}{16}$ 〃	$\frac{7}{16}$

船體ノ構造ニ變更ヲ加ヘタル爲メ錨量等ヲ定ムル數增大シ新造當時ヨリモ大ナル艤裝ヲ要スルモノトナリタル船ニ在リテハ現ニ備フル錨鎖ハ其ノ截面積カ新ニ備フヘキ錨鎖ノ截面積ヨリ其ノ 25% ヲ減シタルモノニ達スル迄使用スルコトヲ得

第一次第三種特別檢査

本檢査ニ付テハ第一次第一種及第二種特別檢査ニ對スル規定ニ依ルノ外次ノ規定ニ依ルヘシ

本檢査ニ於テハ船側及船底內張板全部ヲ取離シ肋骨、二重底頂板及外板全部ヲ

露出セシムルコトヲ要ス

船底ニ施シタル「セメント」ハ板トノ接着完全ナル部分ハ之ヲ剝離スルニ及ハス

外板ノ兩面竝肋骨及肋板ニ生シタル銹其ノ他鋼材及鐵材ノ露出面ニ生シタル銹ハ之ヲ除去シ更ニ「ペイント」ヲ施スヘシ

檣及斜檣ノ楔ヲ新換シ尙必要ニ應シ鐵製又ハ鋼製「スパー」ニ對シ鎚打又ハ穿孔試驗ヲ行フヘシ

船室ノ部分ニ於テハ先ツ舷窓下ノ內張板ノミヲ取離シ鋼材ノ現狀ヲ檢査スルニ支障ナカラシメ尙必要アルトキハ檢査員ノ指示ニ從ヒ內張板ヲモ取離スヘシ

檢査員ノ指示ニ從ヒ絕緣箇所ニ於ケル內張板ヲ取離シ尙該箇所ノ板、肋骨等ヲ檢査スルニ支障ナカラシムヘシ

鋼製汽船ニ於テハ檢査員ノ指示ニ從ヒ外板其ノ他構造上ノ重要部分ニシテ銹ノ多量ニ生スル箇所ヲ穿孔シ磨耗ノ甚シキ部分アルトキハ該部分ヲ新換又ハ補强シ委員會ノ承認ヲ受クヘシ

鐵船及鋼製帆船ニ於テハ船體ノ現狀良好ナルトキハ檢査員ノ見込ニ依リ穿孔試驗ヲ省略スルコトヲ得

木製梁肱材ハ檢査員ノ指示ニ從ヒ塗料ヲ剝去シ木地ヲ露出セシムヘシ

第二次第一種特別檢査

本檢査ニ付テハ第一次第一種特別檢査ニ對スル規定及第一次第二種特別檢査ノ項錨鎖ノ檢査及寸法ニ關スル規定竝第一次第三種特別檢査ノ項絕緣箇所ニ於ケル鋼材ノ檢査ニ關スル規定ニ依ルノ外次ノ規定ニ依ルヘシ

本檢査ニ於テハ內張板ヲ更ニ各舷一條宛取離シ且ツ二重底及深水艙上ノ內張板全部ヲ取離スコトヲ要ス

外板其ノ他構造上ノ重要部分ノ現狀ヲ特ニ細密ニ檢査シ銹ノ多量ニ生スル箇所ニシテ第一次第三種特別檢査ノ際檢査セサリシ部分ハ之ヲ穿孔スヘシ

第二次第二種特別檢査

本検査ニ付テハ第一次第二種特別検査及第二次第一種特別検査ニ對スル規定ニ依ル

第二次第三種特別検査

本検査ニ付テハ第一次第三種特別検査ニ對スル規定ニ依ル

検査員ハ船體材料ノ寸法ヲ實測シ之ヲ委員會ニ詳報スヘシ

本検査ハ第一次第三種特別検査完了ノ月ヨリ起算シ十三年以內ニ行フ

第三次第一種特別検査

委員會ニ於テ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外第三次第一種特別検査及其ノ後ニ行フヘキ特別検査ハ第二次第一種特別検査及其ノ後ニ行フ特別検査ニ準シテ夫々之ヲ行フ

機　　關

日本非旅客船ノ機關ノ検査ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依ルモノトス

機 關 ノ 検 査

本會ノ船級登錄ヲ受ケタル船ノ機關ハ船體ノ特別検査ト同時ニ其ノ特別検査ヲ受クルコトヲ要ス但シ特殊ノ事由アルトキハ委員會ノ承認ヲ經テ單獨ニ之ヲ行フコトヲ得

損傷ノ場合大修理ヲ施シ十分ナル検査ヲ行ヒタルトキハ委員會ノ承認ヲ經テ之ヲ特別検査ト同等ノモノト看做スコトアルヘシ

汽　　機

汽機ノ特別検査ニ於テハ汽筩、「タービン」、吸鍔、滑瓣、喞筒、冷汽器、推力受、主軸受、中間軸受、諸軸、蒸化器及操舵汽機ノ開放検査ヲ行ヒ又喞筒裝置其ノ他検査員ニ於テ必要ト認ムル部分ノ検査ヲ行フモノトス

內 燃 機 關

內燃機關ハ二箇年以內每ニ次ノ各號ニ依リ検査ヲ行フモノトス

一、次ニ揭クル部分ハ之ヲ開放シテ検査スルコト

甲、氣槽、分離器及管

乙、主及補助內燃機關ノ氣筩、吸鍔、氣筩蓋及瓣若干組

丙、空氣壓縮機ノ氣筩、瓣及冷却裝置若干組

丁、曲拐軸受若干

二、次ニ揭クル部分ハ其ノ現狀ニ付検査員ノ適當ト認ムル程度ニ於テ出來得ル限リ之ヲ検査スルコト

甲、內燃機關ノ動瓣裝置、反轉裝置、喞筒其ノ他一般

乙、燃料油槽及喞筒裝置

前項ノ検査ハ前回検査以後短期間內ト雖モ碇泊中ニ於テ機關ノ一部ニ付検査ヲ行ヒ得ヘキ機會アルトキハ其ノ都度之ヲ行フヘシ

前項ノ趣旨ニ基キ內燃機關其ノ他ヲ開放又ハ調整シタルトキハ其ノ都度開放シタル部分ノ検査ヲ受クルコトヲ要ス又開放ノ結果不良箇所ヲ發見シタルトキハ其ノ他ノ部分ニ付テモ検査員ニ於テ必要ト認ムルモノハ之ヲ開放シテ検査スルコトヲ要ス

特別検査ニ於テハ次ノ各號ニ依リ全般ニ亙ル検査ヲ行フモノトス

一、主及補助內燃機關ノ氣筩、氣筩蓋、瓣、吸鍔、十字頭、接續鋲、喞筒、曲拐及中間軸系、推力受、空氣壓縮機其ノ他検査員ニ於テ必要ト認ムル部分ハ之ヲ開放シテ検査スルコト但シ本検査以前十二箇月以內ニ検査シタル部分ハ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外之ヲ開放スルコトヲ要セス

二、燃料油槽及氣槽ハ丁寧ニ之ヲ検査シ又検査員ニ於テ必要ト認ムルトキハ各其ノ製造ニ關スル規定ニ依リ定メタル水壓力ヲ以テ試驗スルコト但シ內部ヲ検査シ難キ氣槽ニ在リテハ製造後四箇年ヲ經過シタルトキ又其ノ以後ニ於テ二箇年每ニ最大壓力ノ2倍ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコト

三、喞筒裝置ヲ検査スルコト

螺　旋　軸

螺旋軸ハ二箇年以內ニ一回拔出シテ検査ヲ受クヘシ但シ検査員ニ於テ必要ト認

ムルトキハ其ノ檢査期間ヲ短縮スルコトアルヘシ

螺旋軸ニ全通黃銅卷ヲ施シ又ハ船尾管ニ承認シタル注油裝置ヲ備ヘタルモノニ在リテハ前項ノ檢査期間ヲ三箇年トス

特別ノ事情ニ因リ前二項ニ依リ難キ場合ニ於テ船主ヨリ要求アルトキハ委員會ハ螺旋軸檢査期間ノ延長ヲ承認スルコトアルヘシ

船尾管ノ後部軸受ニ於テ其ノ磨耗ニ因リ次表ニ掲クル寸法以上ノ間隙ヲ生シタルトキハ支面材ヲ新換スルコトヲ要ス

螺旋軸ノ徑	軸ト支面材トノ間隙
9吋以下ナルトキ	$\frac{1}{4}$ 吋
9吋ヲ超エ 12吋以下ナルトキ	$\frac{5}{16}$ 吋
12吋ヲ超ユルトキ	$\frac{3}{8}$ 吋

海水瓣其ノ他

海水ニ通スル諸孔竝之ニ附屬スル瓣及嘴子ハ特別檢査每ニ船渠内ニ於テ檢査ヲ受クルコトヲ要ス

鐵又ハ鋼製ノ螺釘ヲ用キテ海水瓣又ハ嘴子ヲ外板ニ取附ケタルトキハ船體ノ第三種特別檢査每ニ全部之ヲ取外シテ檢査ヲ受クヘシ

汽　　罐

水管汽罐ハ一箇年每ニ檢査ヲ受クルコトヲ要ス

筩形汽罐ハ製造後四箇年ヲ經過シタルトキ第一回ノ檢査ヲ行ヒ六箇年ヲ經過シタルトキ第二回ノ檢査ヲ行ヒ又其ノ以後ニ於テハ十二箇月每ニ檢査ヲ行フモノトス

汽罐、過熱器、安全瓣其ノ他汽罐ノ附屬品ハ檢査ノ都度内外ヨリ丁寧ニ檢査シ又安全瓣ハ檢査後最大汽壓ニ對シ調整スルモノトス

檢査員ニ於テ必要ト認ムルトキハ罐板ノ厚又ハ支柱ノ大サヲ實測シテ其ノ最大

汽壓ヲ改定シ又汽罐若ハ過熱器ノ水壓試驗ヲ行フコトアルヘシ

本會ノ船級登錄ヲ繼續セントスル帆船ノ副汽罐ハ前記ノ規定ニ依リ檢査ヲ受クルコトヲ要ス

主　　汽　　管

主汽管ハ次ノ各號ニ掲クル期限ニ於テ少クトモ最大汽壓ノ2倍ノ水壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ要ス

一、鑞附銅管　每四箇年

二、引拔銅管、鐵管及鋼管　每六箇年

銅管ハ水壓試驗前之ヲ燒鈍スヘシ

檢査ノ結果委員會ニ於テ汽機、汽罐又ハ内燃機關ノ一部若ハ全部ニ付前記規定ノ期限以内ニ於テ之ヲ檢査スルヲ適當ト認メタルトキハ船主ハ其ノ要求ニ應セラルヘシ

船級ノ登錄ヲ受ケタル日本非旅客船ノ機關ノ檢査

日本非旅客船ニ付テハ船舶檢査法令ニ依ル檢査省略ヲ受クル爲メ（第一章第九條注意書參照）檢査ノ方法ハ次ノ各號ニ依ル

(1) 機 關 ノ 檢 査

本會ノ船級登錄ヲ受ケタル船ノ機關ハ船體ノ特別檢査ト同時ニ其ノ特別檢査ヲ又船體ノ年次檢査ト同時ニ其ノ年次檢査ヲ受クルコトヲ要ス但シ特別檢査ニ限リ特種ノ事由アルトキハ委員會ノ承認ヲ經テ單獨ニ之ヲ行フコトヲ得

損傷ノ場合大修理ヲ施シ十分ナル檢査ヲ行ヒタルトキハ委員會ノ承認ヲ經テ之ヲ特別檢査ト同等ノモノト看做スコトアルヘシ

汽機及汽罐ノ特別檢査及年次檢査ニ於テハ製造後ノ年齡、前檢査及航海中ノ成績竝現狀ニ徵シ次ニ規定スル檢査ノ範圍及程度ヲ多少斟酌スルコトヲ得

(2) 汽　　機

汽機ノ特別檢査及年次檢査ニ於テハ汽筩、「タービン」、吸鍔、滑瓣、喞筒、冷汽器、推力受、主軸受、中間軸受及諸軸ノ開放檢査ヲ行ヒ又喞筒裝置其ノ他檢

査員ニ於テ必要ト認ムル部分ノ檢査ヲ行フモノトス但シ製造後六年未滿ノ汽機ノ年次檢査ニ於テハ航海中ノ成績等ニ徴シ特ニ異狀アリト認ムル箇所ノ外開放檢査ヲ省略スルコトヲ得

汽機ノ特別檢査ニ於テハ前項ノ外「タービン」汽機ノ「ロートル」ヲ取出シ「ギヤー ケース」ノ上半ヲ取外シ蒸化器及補助汽機ヲ開放シテ檢査ヲ行フモノトス

(3) 内燃機關

内燃機關ハ年次檢査毎ニ次ノ各號ニ依リ檢査ヲ行フモノトス

一、次ニ揭クル部分ハ之ヲ開放シテ檢査スルコト

甲、氣槽、分離器及管

乙、主及補助内燃機關ノ氣筩、吸鍔、氣筩蓋及瓣若干組

丙、空氣壓縮機ノ氣筩、瓣及冷却裝置若干組

丁、曲拐軸受若干

二、次ニ揭クル部分ハ其ノ現狀ニ付檢査員ノ適當ト認ムル程度ニ於テ出來得ル限リ之ヲ檢査スルコト

甲、内燃機關ノ動瓣裝置、反轉裝置、喞筒其ノ他一般

乙、燃料油槽及喞筒裝置

特別檢査ニ於テハ次ノ各號ニ依リ全般ニ亙ル檢査ヲ行フモノトス

一、主及補助内燃機關ノ氣筩、氣筩蓋、瓣、吸鍔、十字頭、接續錍、喞筒、曲拐及中間軸系、推力受、空氣壓縮機其ノ他檢査員ニ於テ必要ト認ムル部分ハ之ヲ開放シテ檢査スルコト但シ本檢査以前十二箇月以内ニ檢査シタル部分ハ特別ノ事情アル場合ヲ除ク外之ヲ開放スルコトヲ要セス

二、燃料油槽及氣槽ハ丁寧ニ之ヲ檢査シ又檢査員ニ於テ必要ト認ムルトキ油槽ハ製造ニ關スル規定ニ依リ定メタル水壓力ヲ以テ又氣槽ハ次ニ揭クル水壓力ヲ以テ試驗スルコト

甲、鋲釘接合氣槽ハ毎平方吋ノ最大氣壓300封度以上ナルトキハ之ニ 100

封度ヲ加ヘタルモノ、300 封度未滿ナルトキハ其ノ $1\frac{1}{3}$倍

乙、無接合又ハ鍛接氣槽ハ最大氣壓ノ $1\frac{1}{2}$倍

三、喞筒裝置ヲ檢査スルコト

(4) 螺旋軸

螺旋軸ハ二箇年以内ニ一回拔出シ檢査ヲ受クヘシ但シ檢査員ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ檢査期間ヲ短縮スルコトアルヘシ

螺旋軸ニ全通黃銅卷ヲ施シ又ハ船尾管ニ承認シタル注油裝置ヲ備ヘタルモノニ在リテハ前項ノ檢査期間ヲ三箇年トス

船尾管支面材ノ磨耗其ノ内徑ノ二十分ノ一若ハ$\frac{5}{16}$吋ニ及フ時ハ之ヲ整調スヘシ

(5) 海水瓣其ノ他

海水ニ通スル諸孔竝之ニ附屬スル瓣及嘴子ハ特別檢査毎ニ船渠内ニ於テ檢査ヲ受クルコトヲ要ス

鐵又ハ鋼製ノ螺釘ヲ用キテ海水瓣又ハ嘴子ヲ外板ニ取附ケタルトキハ船體ノ第三種特別檢査毎ニ全部之ヲ取外シテ檢査ヲ受クヘシ

(6) 汽鑵

汽鑵ハ特別檢査及年次檢査ニ於テ之ヲ檢査スルモノトス但シ製造後六年未滿ノ筩形汽鑵ノ年次檢査ニ於テハ前回内部檢査以後一年六箇月ノ期間ヲ經過セサル汽鑵ニ限リ航海中ノ成績ニ徴シ特ニ異狀アリト認ムル場合ヲ除クノ外内部檢査ヲ省略スルコトヲ得

汽鑵附屬諸瓣及嘴子竝過熱器ハ年次檢査毎ニ内外ヨリ丁寧ニ之ヲ檢査シ驗壓器ハ驗壓標準器ニ照シ其ノ適否ヲ檢査シ又安全瓣ハ檢査後最大汽壓ニ對シ調整スルモノトス

檢査員ニ於テ必要ト認ムルトキハ鑵板ノ厚又ハ支柱ノ大サヲ實測シテ其ノ最大汽壓ヲ改定スルコトアルヘシ

汽鑵ハ特別檢査及其ノ他檢査員ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テ次ノ各號ニ揭クルル水壓力ヲ以テ試驗スルモノトス

一、最大汽壓100封度未滿ナルトキハ最大汽壓ノ$1\frac{1}{2}$倍

二、最大汽壓100封度以上ナルトキハ最大汽壓ニ50封度ヲ加ヘタルモノ

既ニ使用シタル汽罐ニシテ第三十六章第五十六條又ハ第三十七章第十條ノ水壓試驗ヲ受ケタルモノハ製造後七年未滿ノ場合ニ限リ其ノ特別檢查ニ於テ檢查員ノ見込ニ依リ水壓試驗ヲ省略スルコトヲ得

檢查員ニ於テ必要ト認ムルトキハ過熱器ノ水壓試驗ヲ行フコトアルヘシ

本會ノ船級登錄ヲ繼續セントスル帆船ノ副汽罐ハ前記ノ規定ニ依リ檢查ヲ受クルモノトス

(7) 主汽管及給水管

主汽管及給水管ハ特別檢查及其ノ他檢查員ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テ最大汽壓ノ2倍ノ水壓力ヲ以テ試驗スルモノトス

銅管ハ水壓試驗前之ヲ燒鈍スヘシ

檢查ノ結果委員會ニ於テ汽機、汽罐又ハ內燃機關ノ一部若ハ全部ニ付前記規定ノ期間以內ニ於テ之ヲ檢查スルヲ適當ト認メタルトキハ船主ハ其ノ要求ニ應セラルヘシ

船級檢查料金

船體及艤裝品

種別		料金
最低料金		110圓
總噸數 1,000 噸未滿ナルトキ	10 噸每ニ	11圓
總噸數 1,000 噸ナルトキ		1,100圓
總噸數 1,000 噸ヲ超ユルトキ	超過噸數 10 噸每ニ	7圓50錢
總噸數 2,000 噸ナルトキ		1,850圓
總噸數 2,000 噸ヲ超ユルトキ	超過噸數 10 噸每ニ	5圓
總噸數 5,000 噸ナルトキ		3,350圓
總噸數 5,000 噸ヲ超ユルトキ	超過噸數 10 噸每ニ	2圓50錢
總噸數10,000 噸ナルトキ		4,600圓
總噸數10,000 噸ヲ超ユルトキ	超過噸數 10 噸每ニ	1圓25錢

油槽船ノ建造中特別檢查ノ場合ニ於ケル料金ハ前記料金ノ5割增トス

往復動汽機

種別		料金
最低料金		60圓
低壓汽筒ノ容積 20 立方呎未滿ナルトキ	1 立方呎每ニ	10圓
容積カ 20 立方呎ナルトキ		200圓
容積カ 20 立方呎ヲ超ユルトキ	超過 1 立方呎每ニ	5圓
容積カ 100 立方呎ナルトキ		600圓
容積カ 100 立方呎ヲ超ユルトキ	超過 1 立方呎每ニ	2圓
容積カ 200 立方呎ナルトキ		800圓
容積カ 200 立方呎ヲ超ユルトキ	超過 1 立方呎每ニ	1圓

全馬力ニ於ケル汽機ノ回轉數カ毎分時 120 ヲ超ユルトキハ其ノ回轉數ト 120 トノ比ヲ汽筩ノ容積ニ乘シタル容積ヲ以テ前表ノ容積ニ充ツ、雙螺旋汽機ニ對スル料金ハ各低壓汽筩ノ容積ノ和ヲ基礎トシテ之ヲ計算ス

「タービン」汽機

種別		料金
軸馬力カ 500 馬力未滿ナルトキ	25 軸馬力毎ニ	10 圓
軸馬力カ 500 馬力ナルトキ		200 圓
軸馬力カ 500 馬力ヲ超ユルトキ	超過 25 軸馬力毎ニ	5 圓
軸馬力カ 2,500 馬力ナルトキ		600 圓
軸馬力カ 2,500 馬力ヲ超ユルトキ	超過 25 軸馬力毎ニ	2 圓
軸馬力カ 5,000 馬力ナルトキ		800 圓
軸馬力カ 5,000 馬力ヲ超ユルトキ	超過 25 軸馬力毎ニ	1 圓

本料金ハ各船ニ於ケル「タービン」汽機ニ依リテ發生スル全軸馬力ヲ基礎トシテ之ヲ計算ス

內燃機關

種別		料金
最低料金		75 圓
純馬力カ 500 馬力未滿ナルトキ	25 純馬力毎ニ	15 圓
純馬力カ 500 馬力ナルトキ		300 圓
純馬力カ 500 馬力ヲ超ユルトキ	超過 25 純馬力毎ニ	9 圓
純馬力カ 2,500 馬力ナルトキ		1,020 圓
純馬力カ 2,500 馬力ヲ超ユルトキ	超過 25 純馬力毎ニ	3 圓
純馬力カ 5,000 馬力ナルトキ		1,320 圓
純馬力カ 5,000 馬力ヲ超ユルトキ	超過 25 純馬力毎ニ	1 圓 50 錢

本料金ハ主機ニ依リテ發生スル全純馬力ヲ基礎トシテ之ヲ計算ス

汽罐

主機ト同時ニ据付クル汽罐ニ付テノ檢查料金

種別		料金
汽罐一箇ニ對スル最低料金		45 圓
受熱面積カ 4,000 平方呎未滿ナルトキ	100 平方呎毎ニ	6 圓
受熱面積カ 4,000 平方呎ナルトキ		240 圓
受熱面積カ 4,000 平方呎ヲ超ユルトキ	超過 100 平方呎毎ニ	3 圓
受熱面積カ 8,000 平方呎ナルトキ		360 圓
受熱面積カ 8,000 平方呎ヲ超ユルトキ	超過 100 平方呎毎ニ	1 圓 25 錢
受熱面積カ 16,000 平方呎ナルトキ		460 圓
受熱面積カ 16,000 平方呎ヲ超ユルトキ	超過 100 平方呎毎ニ	50 錢

常用汽壓カ每平方吋ニ付キ 180 封度ヲ超ユルトキハ其ノ常用汽壓ト 180 封度トノ比ヲ受熱面積ニ乘シタル面積ヲ前表ノ面積ニ充ツ

強壓通風又ハ誘引通風ヲ採用スル汽罐ナルトキハ其ノ面積ハ前記ノ 2.5 割增トス

主汽罐ト同所ニ於テ同時ニ製造セラルル副汽罐ノ檢查料金ハ一箇ニ付 45 圓トス

主汽罐ト同所ニ於テ同時ニ製造セラレサル副汽罐及主機ト同時ニ据付ケラレサル主汽罐及副汽罐ノ檢查料金ハ次ノ如シ

種別		料金
汽罐一箇ニ對スル最低料金		45 圓
受熱面積 3,000 平方呎未滿ナルトキ	100 平方呎毎ニ	7 圓
受熱面積 3,000 平方呎ナルトキ		210 圓
受熱面積 3,000 平方呎ヲ超ユルトキ	1,000 平方呎毎ニ	3 圓 50 錢

本料金ハ同一場所ニ於テ同時ニ製造セラルル汽罐ノ受熱面積ノ總面積ヲ基礎トシテ之ヲ計算ス

補機其ノ他ノ船用品

補機其ノ他ノ船用品ニシテ主機關ト同時ニ又ハ同一ノ場所ニ於テ製造セラレサルモノノ試驗及檢査ニ付テハ上記諸表ニ揭クル料金ノ外別ニ相當料金ヲ申受ク

電　氣　裝　置

最低料金			50圓
發電機ノ總容量	15kW 未滿ナルトキ	1kW ニ付	10圓
〃　〃	15kW ナルトキ		150圓
〃　〃	15kW ヲ超エ 30kW 未滿ナルトキ	1kW ニ付	5圓
〃　〃	30kW ナルトキ		225圓
〃　〃	30kW ヲ超エ 50kW 未滿ナルトキ	1kW ニ付	2圓50錢
〃　〃	50kW ナルトキ		275圓
〃　〃	50kW ヲ超エ 80kW 未滿ナルトキ	1kW ニ付	1圓
〃　〃	80kW ナルトキ		305圓
〃　〃	80kW ヲ超エ 200kW 未滿ナルトキ	1kW ニ付	50錢
〃　〃	200kW ナルトキ		365圓
〃　〃	200kW ヲ超ユルトキ	1kW ニ付	25錢

特別檢査料金

船體、機關併セテ

總噸數	料　金
100 噸未滿	50 圓
100 噸以上　300 噸未滿	70 圓
300　〃　500　〃	100 圓
500　〃　1,000　〃	150 圓

船　　體

總噸數	第一種特別檢査	第二種特別檢査	第三種特別檢査
1,000 噸以上 1,500 噸未滿	110 圓	140 圓	180 圓
1,500　〃　2,500　〃	130 圓	150 圓	210 圓
2,500　〃　5,000　〃	150 圓	170 圓	220 圓
5,000　〃　7,000　〃	160 圓	180 圓	230 圓
7,000　〃　10,000　〃	170 圓	190 圓	240 圓
10,000　〃	180 圓	200 圓	250 圓

備考（一）總噸數 1,000 未滿ノ船（油艙船ヲ除ク）ニ付キ船體若ハ機關ノ何レカ一方ニ特別檢査ヲ行フ場合料金ハ表ノ半額トス

（二）總噸數 1 000 未滿ノ油艙船ニ付テハ表ノ 2.5 割增トシ船體特別檢査料金ハ表ノ$\frac{3}{4}$額又機關特別檢査料金ハ表ノ半額トス

（三）總噸數 1,000 未滿ノ補助機附帆船ニ付テハ表ノ 2.5 割減トシ船體特別檢査料金ハ表ノ半額又機關特別檢査料金ハ表ノ$\frac{1}{4}$額トス

（四）總噸數 1,000 以上ノ船ニ付キ第二次以後ノ特別檢査料金ハ表ノ 2.5 割增トス

（五）總噸數 1,000 以上ノ油艙船ニ付テハ表ノ五割增トス但シ第二次以後ノ特別檢査料金ハ表ノ 8.5 割增トス

汽機

（總噸數 1,000 噸未滿ノ船ニハ之ヲ適用セス）

低壓汽筩容積（立方呎ニテ）	軸馬力（「タービン」用）	料金
10 未滿	250 未滿	30 圓
10 以上 20 未滿	250 以上 500 未滿	50 圓
20 〃 40 〃	500 〃 1,000 〃	70 圓
40 〃 80 〃	1,000 〃 2,000 〃	80 圓
80 〃 200 〃	2,000 〃 5,000 〃	90 圓
200 〃	5,000 〃	100 圓

內燃機關

（總噸數 1,000 噸未滿ノ船ニハ之ヲ適用セス）

純馬力	料金
250 未滿	50 圓
250 以上 500 未滿	70 圓
500 〃 1,000 〃	90 圓
1,000 〃 2,000 〃	110 圓
2,000 〃 4,000 〃	130 圓
4,000 〃 8,000 〃	150 圓
8,000 〃	160 圓

副汽罐檢查料金ハ申受ケス

汽罐

（總噸數 1,000 噸未滿ノ船ニハ之ヲ適用セス）

種別	料金
單口汽罐一箇ニ付	20 圓
兩口汽罐一箇ニ付	30 圓
單口汽罐一箇ヲ加フル毎ニ	10 圓
兩口汽罐一箇ヲ加フル毎ニ	20 圓
最高料金	100 圓
汽機及汽罐ヲ同時ニ檢査スルトキ合計最高料金	160 圓

年次檢查料金

（第一章第九條注意書ニ依ル船ヲ除ク）

（一）船體檢查料金ハ次ノ表ニ依ル

總噸數	料金
300 噸未滿	7 圓 50 錢
300 噸以上 500 噸未滿	10 圓
500 〃 1,500 〃	12 圓 50 錢
1,500 〃 5,000 〃	15 圓
5,000 〃 10,000 〃	17 圓 50 錢
10,000 〃	20 圓

（二）汽罐檢查料金ハ汽罐特別檢查料金表ヲ適用ス

（三）內燃機關檢查ハ二箇年以內ニ行ヒ特別檢查料金ノ半額ヲ申受ク但シ日本船舶ニ在リテハ一年毎ニ遞信省檢查規程ニ依リ開放檢查ヲ要スルカ故ニ此ノ機會ヲ利用シ檢査ヲ行ヒ料金ハ特別檢查料金ノ$\frac{1}{3}$トス

（四）螺旋軸ノ檢查料金ハ臨時檢查料金（初回分）ノ半額ヲ加算ス但シ（三）ニ依リ內燃機關檢查料金ヲ申受クルトキハ螺旋軸檢查ヲ爲ストモ其ノ料金ハ申受ケス

第一章第九條注意書ニ依ル船ノ年次檢查料金

船體、機關併セテ

總噸數	料金
100 噸未滿	25 圓
100 噸以上 300 噸未滿	35 圓
300 〃 500 〃	45 圓
500 〃 1,500 〃	55 圓
1,500 〃 3,000 〃	70 圓
3,000 〃 6,000 〃	90 圓
6,000 〃 10,000 〃	110 圓
10,000 〃	130 圓

船體若ハ機關ノ何レカ一方ニ特別檢查ヲ行フ場合年次檢查料金ハ表ノ半額

トス

第一章第五條第二項ニ依ル檢査料金

特別檢査又ハ年次檢査ニ於テ自然磨損以外ノ損傷部復舊工事、構造變更等ニ付キ特ニ臨檢ヲ要スルトキハ臨時檢査料金表中第二回以後ノ臨檢料金ヲ加算ス

臨時檢査料金

船體、機關共通

本表ハ自然磨損、過失損傷等ヲ問ハス總テノ日本船舶ニ適用ス

總噸數			料金
100 噸未滿	臨檢一回ニ付	初回	10 圓
		第二回以後	5 圓
100 噸以上 500 噸未滿	同上	初回	15 圓
		第二回以後	10 圓
500 〃 1,500 〃	同上	初回	20 圓
		第二回以後	10 圓
1,500 〃 6,000 〃	同上	初回	25 圓
		第二回以後	15 圓
6,000 〃	同上	初回	30 圓
		第二回以後	20 圓

備考 (一) 臨檢一回トハ約四時間以内ヲ看做ス

(二) 船體檢査員及機關檢査員ヲ要スルトキ上記表中ノ「初回」トハ船體、機關各檢査ノ初回ニ在ラス從テ初回料率ハ二重ニ申受ケス

(三) 船體、機關臨時檢査料金ハ各特別檢査料金以内ニ止ム

材料試驗及檢査料金

(本會ノ船級登錄ヲ受クヘキ船舶ニ使用スル材料ニ適用ス)

壓延鋼材		料金
船體用板及形材	一噸又ハ未滿每ニ	50 錢
汽罐用板及形材	同上	1 圓

以上ハ壓延工場ニ於ケルモノニ適用シ檢査員臨檢回數ニ 10 圓ヲ乘シタルモノヲ一箇月最低料金トス

鍛造材及鑄造材

一箇二噸迄ハ一「ハンドレッドウエイト」每ニ	25 錢
一箇二噸ナルトキ	10 圓
一箇二噸以上ハ超過一噸又ハ未滿每ニ增額	5 圓
一箇最高料金 鍛造材	30 圓
一箇最高料金 鑄造材	40 圓

以上ハ他ノ製造工場ニ於テ試驗檢査スルモノニ適用シ檢査員臨檢回數ニ 10 圓ヲ乘シタルモノヲ一箇月最低料金トス

冷藏裝置

登錄檢査ノ料金

冷藏艙ノ容積	40,000	立方呎未滿				80圓
〃 〃	40,000	〃 以上	60,000		立方呎未滿	90圓
〃 〃	60,000	〃 〃	80,000		〃 〃	100圓
〃 〃	80,000	〃 〃	100,000		〃 〃	110圓
〃 〃	100,000	〃 〃	120,000		〃 〃	120圓
〃 〃	120,000	〃 〃	140,000		〃 〃	140圓
〃 〃	140,000	〃 〃	160,000		〃 〃	160圓
〃 〃	160,000	〃 〃	180,000		〃 〃	180圓
〃 〃	180,000	〃 〃	200,000		〃 〃	200圓
〃 〃	200.000	〃 〃	220,000		〃 〃	220圓
〃 〃	220,000	〃 〃	250,000		〃 〃	240圓
〃 〃	250,000	〃 〃	280,000		〃 〃	260圓
〃 〃	280,000	〃 〃	320,000		〃 〃	280圓
〃 〃	320,000	〃 〃	360,000		〃 〃	310圓
〃 〃	360,000	〃 〃	400,000		〃 〃	350圓

冷藏艙ノ容積	400,000	立方呎以上	500,000	立方呎未滿	400圓
〃 〃	500,000	〃 〃	600,000	〃 〃	450圓
〃 〃	600,000	〃 〃			500圓

特定ノ時期ニ行フ檢査ノ料金 —

					定期檢査	中間檢査
冷藏艙ノ容積	40,000	立方呎未滿			40圓	30圓
〃 〃	40,000	〃 〃	60,000	立方呎未滿	45圓	35圓
〃 〃	60,000	〃 〃	80,000	〃 〃	50圓	35圓
〃 〃	80,000	〃 〃	100,000	〃 〃	55圓	40圓
〃 〃	100,000	〃 〃	120,000	〃 〃	60圓	45圓
〃 〃	120,000	〃 〃	140,000	〃 〃	70圓	50圓
〃 〃	140,000	〃 〃	160,000	〃 〃	80圓	60圓
〃 〃	160,000	〃 〃	180,000	〃 〃	90圓	65圓
〃 〃	180,000	〃 〃	200,000	〃 〃	100圓	75圓
〃 〃	200,000	〃 〃	220,000	〃 〃	110圓	80圓
〃 〃	220,000	〃 〃	250,000	〃 〃	120圓	90圓
〃 〃	250,000	〃 〃	280,000	〃 〃	130圓	95圓
〃 〃	280,000	〃 〃	320,000	〃 〃	140圓	105圓
〃 〃	320,000	〃 〃	360,000	〃 〃	155圓	115圓
〃 〃	360,000	〃 〃	400,000	〃 〃	175圓	130圓
〃 〃	400,000	〃 〃	500,000	〃 〃	200圓	150圓
〃 〃	500,000	〃 〃	600,000	〃 〃	225圓	170圓
〃 〃	600,000	〃 〃			250圓	190圓

附屬各表

第一號表

方形龍骨、船首材及船尾材

寸法ハ吋トス

方形龍骨				船首材及船尾材									
L	深	L	厚	L	幅	L	幅	L	船首材ノ厚	L	船尾材ノ厚	L	船尾材ノ厚
以上 100	5¾	以上 100	1¼	以上 100	5	以上 270	7⅝	以上 100	1	以上 100	1¼	以上 404	4
110	6	115	1⅜	108	5⅛	280	7¾	115	1⅛	115	1⅜	418	4⅛
126	6¼	130	1½	116	5¼	290	7⅞	130	1¼	130	1½	432	4¼
142	6½	145	1⅝	124	5⅜	300	8	150	1⅜	145	1⅝	446	4⅜
158	6¾	160	1¾	132	5½	314	8⅛	170	1½	160	1¾	460	4½
174	7	175	1⅞	140	5⅝	328	8¼	190	1⅝	175	1⅞	474	4⅝
190	7¼	190	2	148	5¾	342	8⅜	210	1¾	190	2	488	4¾
206	7½	210	2⅛	156	5⅞	356	8½	230	1⅞	205	2⅛	502	4⅞
222	7¾	230	2¼	164	6	370	8⅝	250	2	220	2¼	516	5
238	8	250	2⅜	172	6⅛	384	8¾	275	2⅛	234	2⅜	530	5⅛
255	8¼	270	2½	180	6¼	398	8⅞	300	2¼	248	2½	544	5¼
275	8½	290	2⅝	188	6⅜	412	9	330	2⅜	261	2⅝	558	5⅜
295	8¾	310	2¾	196	6½	426	9⅛	360	2½	274	2¾	572	5½
315	9	330	2⅞	204	6⅝	450	9¼	390	2⅝	287	2⅞	586	5⅝
340	9¼	350	3	212	6¾	470	9⅜	420	2¾	300	3	600	5¾
370	9½	375	3⅛	220	6⅞	490	9½	460	2⅞	313	3⅛	614	5⅞
400	9¾	400	3¼	228	7	520	9⅝	500	3	326	3¼	628	6
				236	7⅛	550	9¾	550	3⅛	339	3⅜	642	6⅛
				244	7¼	600	9⅞	600	3¼	352	3½	656	6¼
				252	7⅜	650	10	650	3⅜	365	3⅝	670	6⅜
				260	7½	700	10	700	3½	378	3¾	684	6½
										391	3⅞	698	6⅝

第二號表

船尾骨材

寸法ハ吋トス

*船尾骨材―推進器柱														
L	*幅	L	*幅	L	*幅	L	†吃水	厚	L	†吃水	厚	L	†吃水	厚
以上 100	5	以上 252	7⅜	以上 410	9¾	以上 100	7	2⅜	以上 260	15·5	5¼	以上 424	24	8⅛
108	5⅛	260	7½	420	9⅞	106	7·33	2½	267	15·87	5⅜	432	24·33	8¼
116	5¼	268	7⅝	430	10	113	7·66	2⅝	274	16·25	5½	440	24·66	8⅜
124	5⅜	276	7¾	440	10⅛	120	8	2¾	281	16·62	5⅝	448	25	8½
132	5½	284	7⅞	450	10¼	127	8·37	2⅞	288	17	5¾	456	25·33	8⅝
140	5⅝	292	8	460	10⅜	134	8·75	3	295	17·37	5⅞	464	25·56	8¾
148	5¾	300	8⅛	470	10½	141	9·12	3⅛	302	17·75	6	472	26	8⅞
156	5⅞	308	8¼	480	10⅝	148	9·5	3¼	309	18·12	6⅛	480	26·33	9
164	6	316	8⅜	490	10¾	155	9·87	3⅜	316	18·5	6¼	488	26·66	9⅛
172	6⅛	324	8½	500	10⅞	162	10·25	3½	323	18·87	6⅜	496	27	9¼
180	6¼	332	8⅝	510	11	169	10·62	3⅝	330	19·25	6½	504	27·33	9⅜
188	6⅜	340	8¾	520	11⅛	176	11	3¾	337	19·62	6⅝	512	27·66	9½
196	6½	348	8⅞	530	11¼	183	11·37	3⅞	344	20	6¾	520	28	9⅝
204	6⅝	356	9	540	11⅜	190	11·75	4	351	20·37	6⅞	528	28·33	9¾
212	6¾	364	9⅛	550	11½	197	12·12	4⅛	358	20·75	7	536	28·66	9⅞
220	6⅞	372	9¼	560	11⅝	204	12·5	4¼	365	21·12	7⅛	544	29	10
228	7	381	9⅜	570	11¾	211	12·87	4⅜	372	21·5	7¼	552	29·33	10⅛
236	7⅛	390	9½	580	11⅞	218	13·25	4½	379	21·87	7⅜	560	29·66	10¼
244	7¼	400	9⅝	590	12	225	13·62	4⅝	386	22·25	7½	568	30	10⅜
						232	14	4¾	393	22·62	7⅝	576	30·33	10½
						239	14·37	4⅞	400	23	7¾	584	30·66	10⅝
						246	14·75	5	408	23·33	7⅞	592	31	10¾
						253	15·12	5⅛	416	23·66	8			

一、* 舵柱ノ幅及推進器柱ノ上部ノ幅ハ本表ニ掲クルモノノ 85% ト爲スコトヲ得

二、† 滿載吃水カ本表ニ掲クルモノヲ超ユルトキハ吃水ノ超過1呎ニ付 $\frac{1}{8}$ 吋ノ割合ヲ以テ船尾骨材ノ厚ヲ増スヘシ

第三號表

平板龍骨、中心線桁板及船側縱通材

寸法ハ吋トス

L	平板龍骨			中心線桁板					船側縱通材	
	幅	厚		厚			底部山形材			
		中央部	首尾	中央部	首尾	汽罐室	†中央部及船首部	船尾部	*山形材	*斷切板
100	39	·4	34	·28	·24	·36	2½ × 2½ × ·3	↑ ·34	4 × 2½ × ·28	·24
125	40	44	·36	·3	26	·38	2½ × 2½ × ·3	·36	4 × 2½ × ·3	·26
150	40	·46	·38	·32	·28	·4	3 × 2½ × ·32	·38	4 × 2½ × ·32	·26
175	41	·48	42	·34	3	·42	3 × 2½ × ·32	·4	4 × 3 × 34	·28
200	41	·52	46	·36	·32	44	3 × 3 × ·34	單 42	4½ × 3 × ·36	3
225	42	·56	·48	·38	·34	·46	3 × 3 × 34	·44	4½ × 3 × ·38	·3
250	43	·6	·52	·4	34	·48	3½ × 3 × ·36	材 ·44	5 × 3 × ·4	·32
280	44	·64	·56	·42	·36	·5	3½ × 3 × 38	·46	5 × 3 × 42	34
310	45	·68	·6	·44	·36	·52	3½ × 3½ × ·4	·46	.5½ × 3 × ·44	·34
340	46	·72	·64	·46	·38	·54	4 × 3½ × ·44	·48	6 × 3 × ·46	36
370	47	·76	·68	48	·4	56	4 × 3½ × ·46	·5	6 × 3½ × ·48	·38
400	48	·8	·72	·5	42	58	4 × 4 × ·48	·52	6½ × 3½ × ·5	4
430	49	·84	74	·52	·44	·6	4 × 4 × ·5	·54	6½ × 3½ × ·52	4
460	50	·88	78	·54	·46	·62	4 × 4 × ·54	·56	7 × 3½ × ·54	·4
490	51	·92	·82	·56	·48	·64	4½ × 4 × ·56	↓ ·58	7 × 3½ × ·56	·42
520	51	·96	·86	·58	·5	·66	4½ × 4½ × ·58	↑ ·5	7 × 3½ × ·58	42
550	52	1	·9	·6	52	·68	4½ × 4½ × ·6	二重 52	7½ × 3½ × ·6	·42
580	53	1·04	·94	·62	54	·7	5 × 4½ × ·64	材 ·54	7½ × 3½ × ·62	·44
610	54	1·08	98	·64	·56	·72	5 × 5 × ·66	·56	7½ × 3½ × ·64	44
640	55	1·12	1·02	·66	·58	·74	5 × 5 × ·68	·58	8 × 3½ × ·66	·46
670	56	1 16	1·06	·68	·6	·76	5 × 5 × ·7	·6	8 × 3½ × ·68	46
700	57	1·2	1·1	7	·62	·78	5 × 5 × ·74	↓ ·62	8 × 3½ × ·7	·46

一、船ノ長カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、* 汽罐室ニ於テハ厚ヲ 0·08吋増スヘシ

三、† 單山形材ナルトキハ厚ヲ 0·08吋増スヘシ

第四號表

內龍骨

寸法ハ吋トス

L	中心線內龍骨				側內龍骨			
	*平置板		*頂部山形材		*山形材		*斷切板	
	中央部	首尾	中央部	首尾	中央部	首尾	中央部	兩端
100	7½×·3	7½×·28	2½×2½×·3	·28	4 ×2½×·3	·28	·26	·24
110	8 ×·3	8 ×·28	2½×2½×·3	·28	4 ×2½×·3	·28	·26	·24
120	9 ×·32	9 ×·28	2½×2½×·32	·28	4 ×2½×·32	·28	·28	·26
130	9½×·32	9½×·3	3 ×2½×·32	·3	4 ×2½×·32	·3	·28	·26
140	10½×·34	10½×·3	3 ×3 ×·34	·3	4 ×2½×.34	·3	·28	·26
150	11 ×·34	11 ×·32	3 ×3 ×·34	·32	4 ×2½×·34	·32	·28	·26
160	12 ×·36	12 ×·32	3 ×3 ×·36	·32	4 ×2½×·36	·32	·3	·28
170	12½×·36	12½×·32	3 ×3 ×·36	·32	4 ×3 ×·36	·32	·3	·28
180	13½×·38	13½×·34	3 ×3 ×·38	·34	4 ×3 ×·38	·34	·3	·28
190	14 ×·38	14 ×·34	3 ×3 ×·38	·34	4 ×3 ×·38	·34	·32	·28
200	15 ×·4	15 ×·36	3 ×3 ×·4	·36	4½×3 ×·4	·36	·32	·3
210	15½×·4	15½×·36	3 ×3 ×·4	·36	4½×3 ×·4	·36	·32	·3
220	16½×·42	16½×·36	3 ×3 ×·42	·36	4½×3 ×·42	·36	·34	·3
230	17 ×·42	17 ×·38	3 ×3 ×·42	·38	4½×3 ×·42	·38	·34	·3
240	18 ×·44	18 ×·38	3 ×3 ×·44	·38	5 ×3 ×·44	·38	·34	·32
250	18½×·44	18½×·4	3 ×3 ×·44	·4	5 ×3 ×·44	·4	·36	·32
260	19½×·46	19½×·4	3 ×3 ×·46	·4	5 ×3 ×·46	·4	·36	·32
270	20 ×·46	20 ×.4	3 ×3 ×·46	·4	5 ×3 ×·46	·4	·36	·32
280	21 ×·48	21 ×·42	3 ×3 ×·48	42	5 ×3 ×·48	·42	·38	·34
290	22 ×·48	22 ×·42	3½×3 ×·48	·42	5 ×3 ×·48	·42	·38	·34
300	22½×·5	22½×·42	3½×3½×·5	·42	5½×3 ×·5	·42	·38	·34
310	23 ×·5	23 ×·44	3½×3½×·5	·44	5½×3 ×·5	·44	·38	·34

一、 船ノ長カ本表ニ揭クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、 * 汽罐室ニ於テハ厚ヲ 0·08吋增スヘシ

第五號表　二重底

甲表　中心線桁板及緣板ノ深

寸法ハ吋トス

L	B	d	中心線桁板	緣板	L	B	d	中心線桁板	緣板
160	..	..	27	19	440	60	21	40	32
180	..	..	27	19	460	61	21·5	41	33
200		10	28	20	480	62	22	42	34
220	..	11	29	21	500	63	22·5	43	35
240	..	12	30	22	520	64	23	44	36
260	..	13	31	23	540	65	23·5	45	37
280	..	14	32	24	560	66	24	46	38
300	..	15	33	25	580	67	24·5	47	39
320	..	16	34	26	600	68	25	48	40
340	..	17	35	27	620	69	25·5	49	41
360	..	18	36	28	640	70	26	50	42
380	..	19	37	29	660	71	26·5	51	43
400	58	20	38	30	680	72	27	52	44
420	59	20·5	39	31	700	73	27·5	53	45

一、 船ノ長カ本表ニ揭クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ノ定ムヘシ

二、 長400呎未滿ノ船ニシテ吃水カ 20 呎ヲ超ユル場合及長400呎以上ノ船ニシテ吃水カ本表ニ於テ L 又ハ B ニ對シ規定シタル吃水ノ中大ナルモノヲ超ユル場合ニ於テハ中心線桁板ノ深ハ本表ニ揭クルモノヨリモ吃水ノ超過1呎ニ付1吋ノ割合ヲ以テ之ヲ增スヘシ

三、 吃水カ本表ニ於テ L 又ハ B ニ對シ規定シタル吃水ノ中大ナルモノヲ超ユル場合ニ於テハ緣板ノ深ハ本表ニ揭クルモノヨリモ吃水ノ超過1呎ニ付1吋ノ割合ヲ以テ之ヲ增スヘシ

四、 緣板ヲ水平ニ設クル場合ニ於テハ緣板ノ幅ハ第五號乙表ニ揭クル中心線頂板ノ幅ヨリモ小ナルヘカラス

五、 第二號及第三號ニ依ル寸法ノ算定方ハ次ノ例ニ依ル

L=480′ B=63′ D=42′ d=26·5′ ノ船ニ於テハ表ニ揭クル B ニ對スル中心線桁板ノ深ハ 43″ 緣板ノ深ハ 35″ ニシテ d ト表ニ揭クル B ニ對スル吃水 22·5′ トノ差ハ 4′ ナルヲ以テ中心線桁板及緣板ノ深ハ表ニ揭クルモノニ 4″ ヲ增シテ 47″ 及 39″ ト爲スコトヲ要ス

第五號表　二重底

乙表　內底板ノ寸法及緣板ト外板トヲ固著スル山形材ノ寸法

寸法ハ吋トス

L	肋骨ノ心距	中心線頂板			厚				緣板ト外板トヲ固著スル山形材
		幅	厚		緣板	*其ノ他ノ頂板	機械室	*汽罐室	
			中央部	首尾					
100	21	39	·3	·22	·3	·22	·3	·38	3 ×3 ×·3
130	21	40	·32	·24	·32	·24	·32	·4	3 ×3 ×·32
160	22	41	·34	·26	·34	·26	·34	·42	3 ×3 ×·34
180	23	42	·36	·28	·36	·28	·36	·44	3 ×3 ×·36
220	23·5	42	·38	·3	·38	·3	·38	·46	3 ×3 ×·38
250	24·5	43	·4	·32	·4	·32	·4	·48	3 ×3 ×·4
280	25	44	·42	·34	·42	·34	·42	·5	3½×3½×·42
310	26	45	·44	·36	·44	·36	·44	·52	3½×3½× 44
340	26·5	46	·46	·38	·46	·38	·46	·54	3½×3½×·46
370	27·5	47	·48	·4	·48	·4	·48	·56	3½×3½×·48
400	28·5	48	·5	·42	·5	·42	·5	·58	4 ×4 ×·5
430	29	49	·52	·44	·52	·44	·52	·6	4 ×4 ×·52
460	30	50	·54	·46	·54	·46	·54	·62	4 ×4 ×·54
490	30·5	51	·56	·48	·56	·48	·56	·64	4 ×4 ×·56
520	31·5	52	·58	·5	·58	·5	·58	·66	4 ×4 ×·58
550	32	53	·6	·52	·6	·52	·6	·68	4 ×4 ×·6
580	33	54	·62	·54	·62	·54	·62	·7	4 ×4 ×·62
610	34	54	·64	·56	·64	·56	·64	·72	4 ×4 ×·64
640	34·5	55	·66	·58	·66	·58	·66	·74	4½×4½×·66
670	35·5	56	·68	·6	·68	·6	·68	·76	4½×4½×·68
700	36	57	·7	·62	·7	·62	·7	·78	4½×4½×·7

一、船ノ長カ本表ニ揭クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、* 肋骨ノ心距カ表ニ揭クル L ニ對スル心距ヲ超ユル場合ニ於テハ板ノ厚ハ表ニ揭クル厚ニ肋骨ノ心距ノ超過2吋又ハ其ノ未滿毎ニ 0·02 吋ヲ加ヘタルモノト爲スヘシ

三、中心線頂板、緣板及汽機室ニ於ケル頂板ノ厚ハ前號ニ依リ定メタル厚ヨリモ小ナルヘカラス

四、船ノ首尾ニ於ケル頂板ノ厚ハ之ヲ當該部分ニ於ケル普通隔壁板ノ厚ニ 0·4 吋ヲ加ヘタルモノト爲スコトヲ得

五、汽罐室内ニ於テ緣板ト外板トヲ固著スル山形材ヲ「セメント」ヲ以テ覆ハサルトキハ該山形材ノ厚ヲ緣板ノ厚ニ等シカラシムヘシ

六、第二號ニ依ル寸法ノ算定方ハ次ノ例ニ依ル

L＝480′ 肋骨ノ心距 36″ ノ船ニ於テハ表ニ揭クル L ニ對スル頂板ノ厚ハ 0·47″ ニシテ肋骨ノ實際ノ心距ト表ニ揭クル L ニ對スル心距トノ差ハ 36″－31″＝5″ ナルヲ以テ頂板ノ厚ハ表ニ揭クルモノニ 0·05″ ヲ増シテ ·52″ ト爲スコトヲ要ス

丙表　二重底用山形材（緣板ト外板トヲ固著スル山形材ヲ除ク）

寸法ハ吋トス

L	肘板、斷切板、肋板			正肋材			副肋材			
	厚			前端	艙內	機關室	艙內	機關室ニ於ケル各邊ノ幅	厚	
	艙內	機械室	汽罐室						機械室	汽罐室
96	·24	·3	·36	4 ×4 ×·3	2½×2½×·24	·3	2½×2½×·24	2½×2½	·3	·36
120	·24	·3	·36	〃 〃 ·3	〃 〃 ·24	·3	〃 〃 ·24	〃 〃	·3	·36
144	·26	·32	·38	4½×4½×·32	〃 〃 ·26	·32	〃 〃 ·26	〃 〃	·32	·38
168	·26	·32	·38	〃 〃 ·32	3 ×2½×·26	·32	〃 〃 ·26	〃 〃	·32	·38
192	·28	·34	·4	〃 〃 ·34	〃 〃 ·28	·34	〃 〃 ·28	〃 〃	·34	·4
216	·28	·34	·4	〃 〃 ·34	3 ×3 ×·28	·34	〃 〃 ·28	3 ×3	·34	·4
240	·3	·36	·42	〃 〃 ·36	〃 〃 ·3	·36	〃 〃 ·3	〃 〃	·36	·42
264	·3	·36	·42	5 ×5 ×·38	〃 〃 ·32	·36	〃 〃 ·32	〃 〃	·36	·42
288	·32	·38	·44	〃 〃 ·4	〃 〃 ·34	·38	3 ×3 ×·34	〃 〃	·38	·44
312	·32	·38	·44	〃 〃 ·42	〃 〃 ·36	·38	〃 〃 ·36	〃 〃	·38	·44
336	·34	·4	·46	〃 〃 ·44	3½×3 ×·38	·4	〃 〃 ·38	3½×3	·4	·46
360	·34	·4	·46	〃 〃 ·46	〃 〃 ·4	·4	〃 〃 ·4	〃 〃	·4	·46
384	·36	·42	·48	6 ×6 ×·48	〃 〃 ·42	·42	〃 〃 ·42	〃 〃	·42	·48
408	·36	·42	·48	〃 〃 ·48	3½×3½×·42	·42	〃 〃 ·42	3½×3½	·42	·48
432	·38	·44	·5	〃 〃 ·5	〃 〃 ·44	·44	〃 〃 ·44	〃 〃	·44	·5
456	·38	·44	·5	〃 〃 ·5	〃 〃 ·44	·44	〃 〃 ·44	〃 〃	·44	·5
480	·4	·46	·52	〃 〃 ·52	〃 〃 ·46	·46	〃 〃 ·46	〃 〃	·46	·52
504	·4	·46	·52	〃 〃 ·52	〃 〃 ·46	·46	〃 〃 ·46	〃 〃	·46	·52
528	·42	·48	·54	〃 〃 ·54	〃 〃 ·48	·48	〃 〃 ·48	〃 〃	·48	·54
552	·42	·48	·54	〃 〃 ·56	〃 〃 48	·48	3½×3½×·48	〃 〃	·48	·54
576	·44	·5	·56	7 ×7 ×·58	4 ×3½×·5	·5	〃 〃 ·5	〃 〃	·5	·56
600	·44	·5	·56	〃 〃 ·6	〃 〃 ·5	·5	〃 〃 ·5	〃 〃	·5	·56
624	·46	·52	·58	〃 〃 ·62	〃 〃 ·52	·52	〃 〃 ·52	〃 〃	·52	·58
648	·46	·52	·58	〃 〃 ·64	4 ×4 ×·52	·52	〃 〃 ·52	〃 〃	·52	·58
672	·48	·54	·6	〃 〃 ·66	〃 〃 ·54	·54	〃 〃 ·54	〃 〃	·54	·6
696	·48	·54	·6	〃 〃 ·68	〃 〃 ·54	·54	〃 〃 ·54	〃 〃	·54	·6

船ノ長カ本表ニ揭クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

第五號表 二重底

丁表 二重底用山形材(緣板ト外板トヲ固著スル山形材ヲ除ク)

寸法ハ吋トス

L	* 中心線桁板頂部山形材 (二重山形材ナルトキ)					肋板ニ附スル防撓材	
	各邊ノ幅	厚 中央部	厚 首尾	厚 機室	厚 汽罐室	艙內	汽罐室
96	2½×2½	·24	·24	·3	·36		
120	,, ,,	·24	·24	·3	·36		
144	,, ,,	·26	·26	·32	·38		
168	3 ×2½	·26	·26	·32	·38		
192	,, ,,	·28	·28	·34	·4		
216	3 ×3	·28	·28	·34	·4		
240	,, ,,	·3	·3	·36	·42		
264	,, ,,	·32	·32	·36	·42		
288	,, ,,	·34	·34	·38	·44	2½×2½×·32	3 ×3 ×·44
312	,, ,,	·36	·36	·38	·44	,, ,, ·32	,, ,, ·44
336	3½×3	·38	·38	·4	·46	,, ,, ·34	,, ,, ·46
360	,, ,,	·4	·4	·4	·46	3 ×2½×·34	3½×3 ×·46
384	,, ,,	·42	·42	·42	·48	,, ,, ·36	,, ,, ·48
408	3½×3½	·44	·42	·44	·5	3 ×3 ×·36	,, ,, ·48
432	,, ,,	·46	·44	·46	·52	,, ,, ·38	,, ,, ·5
456	,, ,,	·48	·44	·48	·54	,, ,, ·38	3½×3½×·5
480	,, ,,	·5	·46	·5	·56	,, ,, ·4	,, ,, 52
504	,, ,,	·52	·46	·52	·58	,, ,, ·4	,, ,, ·52
528	,, ,,	·54	·48	·54	·6	,, ,, ·42	,, ,, ·54
552	,, ,,	·56	·5	·56	·62	3½×3½×·42	,, ,, ·54
576	4 ×3½	·58	·52	·58	·64	,, ,, ·44	,, ,, ·56
600	,, ,,	·6	·54	·6	·66	,, ,, ·44	,, ,, ·56
624	,, ,,	·62	·56	·62	·68	,, ,, ·46	,, ,, ·58
648	4 ×4	·64	·58	·64	·7	,, ,, ·46	,, ,, ·58
672	,, ,	·66	·6	·66	·72	,, ,, ·48	,, ,, ·6
696	,, ,,	·68	·62	·68	·74	,, ,, ·48	,, ,, ·6

一、船ノ長カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、竪山形材ノ邊ノ幅ハ使用鋲釘ノ徑ニ應シ第二十四章K表ニ依リテ之ヲ定ムヘシ

三、中心線桁板ト肋板トヲ固著スル竪山形材及緣板ト外側肘板トヲ固著スル竪山形材ノ厚ハ機械室ニ於ケル肋板ノ厚ニ等シカラシムヘシ但シ汽罐室ニ於テハ其ノ厚ヲ該室ニ於ケル肋板ノ厚ニ等シカラシムルコトヲ要ス

四、前二號ニ掲クルモノヲ除クノ外竪山形材ノ厚ハ肋板ノ厚ニ等シカラシムヘシ

五、外側肘板ヲ水平ニ設ケタル緣板ニ固著スル山形材ハ第八章第七條ノ規定ニ適合シ其ノ厚ハ肘板ノ厚ニ 0·08 吋ヲ增シタルモノナルコトヲ要ス又汽罐室內ニ於テハ其ノ厚ヲ更ニ 0·06 吋增スヘシ

六、斷切桁板ノ上緣及下緣ニ附スル山形材ノ寸法ハ夫々副肋材及正肋材ノ寸法ニ等シカラシムヘシ

七、斷切桁板ノ下緣ニ附スル山形材ノ厚ハ船首ニテ船底ノ扁平ナル部分ニ於テハ之ヲ前端正肋材ノ厚ニ等シカラシムルコトヲ要ス

八、機械臺ヲ取附クル爲メ厚キ頂板ヲ用ウル場合等ニ於テ本表竝第二號及第六號ニ規定シタル山形材ノ邊ノ幅カ使用鋲釘ノ徑ニ對シ十分ナラサルトキハ邊ノ幅ハ第二十四章K表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

九、中心線桁板ノ頂部山形材ヲ單材ト爲ストキハ山形材ノ厚ハ中心線桁板ノ厚ヨリ小ナルヘカラス

第六號表 其ノ一

梁、「スケレトン フローア」、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル山形材及球山形材

寸法ハ吋トス

l	N 2	3	4	5	6	7	8	9
3	.. ..	.. ..	.. ..	.. ..	.. ..	.. ..	.. ..	.. ..
3·5	.. ..	.. ..	.. ..	.. ..	.. ..	.. ..	2½×2½×·2	2½×2½×·22
4	.. ..	.. ..	.. ..	.. ..	2½×2½×·2	2½×2½×·22	2½×2½×·24	3 ×2½×·2
4·5	.. ..	.. ..	.. .	2½×2½×·2	2½×2½×·24	3 ×2½×·2	3 ×2½×·22	3 ×2½×·26
5	.. ..	.. ..	2½×2½×·2	3 ×2½×·2	3 ×2½×·22	3 ×2½×·24	3½×2½×·24	3½×2½×·24
5·5	.. ..	.. ..	2½×2½×·24	3 ×2½×·22	3 ×2½×·26	3½×2½×·24	3½×2½×·24	3½×2½×·28
6	.. ..	2½×2½×·22	3 ×2½×·2	3 ×2½×·26	3½×2½×·24	3½×2½×·26	4 ×2½×·26	4 ×2½×·26
6·5	.. ..	3 ×2½×·2	3 ×2½×·24	3½×2½×·24	3½×2½×·26	3½×2½×·3	4 ×2½×·26	4 ×3 ×·3
7	2½×2½×·2	3 ×2½×·2	3 ×2½×·28	3½×2½×·26	3½×2½×·3	4 ×2½×·28	4 ×3 ×·3	4 ×3 ×·36
7·5	2½×2½×·22	3 ×2½×·24	3½×2½×·24	3½×2½×·28	4 ×2½×·26	4 ×3 ×·3	4½×3 ×·3	4½×3 ×·32
8	2½×2½×·24	3 ×2½×·26	3½×2½×·26	4 ×2½×·26	4 ×3 ×·3	4½×3 ×·3	4½×3 ×·32	4½×3 ×·36
8·5	3 ×2½×·2	3½×2½×·24	3½×2½×·3	4 ×2½×·28	4 ×3 ×·34	4½×3 ×·32	4½×3 ×·36	5 ×3 ×·34
9	3 ×2½×·22	3½×2½×·24	4 ×2½×·26	4 ×3 ×·32	4½×3 ×·3	4½×3 ×·36	5 ×3 ×·34	5 ×3 ×·38
9·5	3 ×2½×·24	3½×2½×·28	4 ×3 ×.28	4½×3 ×·3	4½×3 ×·34	5 ×3 ×·32	5 ×3 ×·38	5½×3 ×·36
10	3 ×2½×·28	4 ×2½×·26	4 ×3 ×·32	4½×3 ×·32	5 ×3 ×·32	5 ×3 ×·36	5½×3 ×·34	6 ×3 ×·34
10·5	3½×2½×·24	4 ×2½×·26	4 ×3 ×·34	4½×3 ×·34	5 ×3 ×·34	5½×3 ×·34	5½×3 ×·38	6 ×3 ×·36
11	3½×2½×·24	4 ×2½×·28	4½×3 ×·3	5 ×3 ×·32	5 ×3 ×·38	5½×3 ×·36	6 ×3 ×·36	5½×3 ×·3
11·5	3½×2½×·26	4 ×3 ×·3	4½×3 ×·34	5 ×3 ×·34	5½×3 ×·34	6 ×3 ×·34	5 ×2½×·34	5½×3 ×·3
12	4 ×2½×·26	4 ×3 ×·34	4½×3 ×·36	5 ×3 ×·38	5½×3 ×·38	6 ×3 ×·38	5½×3 ×·3	5½×3 ×·34
12·5	4 ×2½×·26	4½×3 ×·3	5 ×3 ×·32	5½×3 ×·34	6 ×3 ×·34	5 ×2½×·36	5½×3 ×·32	6 ×3 ×·32
13	4 ×2½×·26	4½×3 ×·32	5 ×3 ×·34	5½×3 ×·36	6 ×3 ×·38	5½×3 ×·3	5½×3 ×·36	6 ×3 ×·34

山形材

球山形材

一、l 及 N カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル球山形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型球山形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ一ニ依ル

第六號表 其ノ二

梁、「スケレトン フローア」、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル山形材及球山形材

寸法ハ吋トス

l		N 2	3	4	5	6	7	8	9
13·5	山形材	4 ×2½×·28	4½×3×·34	5 ×3×·38	6 ×3×·32	5½×3×·3	5½×3 ×·32	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·36
14		4 ×3 ×·3	4½×3×·36	5½×3×·34	6 ×3×·36	5½×3×·3	5½×3 ×·36	6 ×3 ×·36	6½×3 ×·32
14·5		4 ×3 ×·32	5 ×3×·32	5½×3×·36	5½×3×·3	5½×3×·32	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·38	6½×3 ×·36
15		4½×3 ×·3	5 ×3×·36	6 ×3×·32	5½×3×·3	5½×3×·36	6 ×3 ×·36	6½×3 ×·34	6½×3 ×·4
15·5		4½×3 ×·32	5 ×3×·38	6 ×3×·34	5½×3×·3	6 ×3×·32	6 ×3 ×·38	6½×3 ×·36	7 ×3 ×·36
16·25		4½×3 ×·34	5½×3×·36	6 ×3×·38	5½×3×·34	6 ×3×·34	6½×3 ×·34	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·4
17		5 ×3 ×·32	6 ×3×·32	5½×3×·3	6 ×3×·32	6 ×3×·38	6½×3 ×·4	7 ×3 ×·4	7½×3 ×·38
17·75		5 ×3 ×·34	6 ×3×·34	5½×3×·32	6 ×3×·34	6½×3×·34	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·44	7½×3 ×·42
18·5		5 ×3 ×·36	6 ×3×·36	5½×3×·36	6 ×3×·38	6½×3×·4	7 ×3 ×·42	7½×3 ×·4	8 ×3 ×·4
19·25		5½×3 ×·34	5½×3×·3	6 ×3×·32	6½×3×·34	7 ×3×·36	7½×3 ×·38	8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·44
20		5½×3 ×·36	5½×3×·3	6 ×3×·36	6½×3×·4	7 ×3×·4	7½×3 ×·42	8 ×3 ×·42	8½×3 ×·42
20·75		6 ×3 ×·3	5½×3×·34	6 ×3×·38	7 ×3×·36	7½×3×·38	8 ×3 ×·4	8½×3 ×·42	8½×3 ×·48
21·5		6 ×3 ×·32	5½×3×·36	6½×3×·34	7 ×3×·4	7½×3×·4	8 ×3 ×·42	8½×3 ×·44	9 ×3 ×·44
22·25		6 ×3 ×·34	6 ×3×·32	6½×3×·38	7 ×3×·42	8 ×3×·4	8½×3 ×·42	8½×3 ×·48	9 ×3 ×·5
23		6 ×3 ×·36	6 ×3×·34	7 ×3×·36	7½×3×·38	8 ×3×·42	8½×3 ×·44	9 ×3 ×·44	9½×3½×·46
23·75		6 ×3 ×·38	6 ×3×·38	7 ×3×·38	7½×3×·42	8 ×3×·46	8½×3 ×·48	9 ×3 ×·5	9½×3½×·48
24·5	球山形材	5½×3 ×·3	6½×3×·34	7 ×3×·42	8 ×3×·4	8½×3×·42	9 ×3 ×·44	9½×3½×·46	10 ×3½×·46
25·25		5½×3 ×·32	6½×3×·36	7½×3×·38	8 ×3×·42	8½×3×·46	9 ×3 ×·48	9½×3½×·48	10 ×3½×·5
26		5½×3 ×·36	6½×3×·4	7½×3×·4	8 ×3×·46	9 ×3×·44	9 ×3 ×·52	10 ×3½×·46	10½×3½×·46
26·75		6 ×3 ×·32	7 ×3×·36	7½×3×·44	8½×3×·42	9 ×3×·46	9½×3½×·46	10 ×3½×·5	10½×3½×·52
27·5		6 ×3 ×·32	7 ×3×·38	8 ×3×·4	8½×3×·46	9 ×3×·5	9½×3½×·5	10½×3½×·46	11 ×3½×·48

一、l 及 N カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル球山形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型球山形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ一ニ依ル

第六號表 其ノ三

梁、「スケレトン フローア」、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル山形材及球山形材

寸法ハ吋トス

l		N 10·5	12	13·5	15	16·5	18	20	22
3	山形材	2½×2½×·2	2½×2½×·22	3 ×2½×·2	3 ×2½×·2	3 ×2½×·2	3 ×2½×·22	3 ×2½×·26	3½×2½×·24
3·5		3 ×2½×·2	3 ×2½×·2	3 ×2½×·24	3 ×2½×·26	3½×2½×·24	3½×2½×·24	3½×2½×·26	3½×2½×·28
4		3 ×2½×·24	3 ×2½×·26	3½×2½×·24	3½×2½×·24	3½×2½×·28	4 ×2½×·26	4 ×2½×·26	4 ×2½×·28
4·5		3½×2½×·24	3½×2½×·24	3½×2½×·28	4 ×2½×·26	4 ×2½×·26	4 ×3 ×·28	4 ×3 ×·32	4½×3 ×·3
5		3½×2½×·26	4 ×2½×·26	4 ×2½×·26	4 ×3 ×·3	4 ×3 ×·32	4½×3 ×·3	4½×3 ×·32	4½×3 ×·34
5·5		4 ×2½×·26	4 ×3 ×·28	4 ×3 ×·32	4½×3 ×·3	4½×3 ×·32	4½×3 ×·34	5 ×3 ×·32	5 ×3 ×·34
6		4 ×3 ×·3	4 ×3 ×·34	4½×3 ×·3	4½×3 ×·34	5 ×3 ×·32	5 ×3 ×·34	5 ×3 ×·38	5½×3 ×·34
6·5		4½×3 ×·3	4½×3 ×·32	4½×3 ×·36	5 ×3 × 32	5 ×3 ×·36	5½×3 ×·34	5½×3 ×·36	5 ×2½×·28
7		4½×3 ×·32	5 ×3 ×·32	5 ×3 ×·34	5 ×3 ×·38	5½×3 ×·36	5½×3 ×·38	5 ×2½×·3	5½×3 ×·3
7·5		4½×3 ×·36	5 ×3 ×·34	5½×3 ×·34	5½×3 ×·36	5 ×2½×·28	5 ×2½×·32	5½×3 ×·3	5½×3 ×·3
8		5 ×3 ×·34	5½×3 ×·34	5½×3 ×·38	5 ×2½×·3	5 ×2½×·34	5½×3 ×·3	5½×3 ×·32	5½×3 ×·38
8·5		5½×3 ×·34	5½×3 ×·38	5 ×2½×·3	5½×3 ×·3	5½×3 ×·3	5½×3 ×·34	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·34
9		5½×3 ×·36	5 ×2½×·3	5½×3 ×·3	5½×3 ×·3	5½×3 ×·36	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·36	6½×3 ×·34
9·5		6 ×3 ×·34	5½×3 ×·3	5½×3 ×·3	5½×3 ×·36	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·36	6½×3 ×·34	6½×3 ×·38
10	球山形材	5½×3 ×·3	5½×3 ×·3	5½×3 ×·36	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·38	6½×3 ×·34	6½×3 ×·4	7 ×3 ×·36
10·5		5½×3 ×·3	5½×3 ×·34	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·38	6½×3 ×·34	6½×3 ×·4	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·42
11		5½×3 ×·32	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·36	6½×3 ×·34	6½×3 ×·4	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·42	7½×3 ×·38
11·5		6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·36	6½×3 ×·34	6½×3 ×·4	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·42	7½×3 ×·38	7½×3 ×·44
12		6 ×3 ×·34	6 ×3 ×·4	6½×3 ×·38	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·42	7½×3 ×·38	7½×3 ×·44	8 ×3 × 42
12·5		6 ×3 ×·38	6½×3 ×·36	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·4	7½×3 ×·38	7½×3 ×·42	8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·48
13		6½×3 ×·34	6½×3 ×·42	7 ×3 ×·38	7½×3 ×·38	7½×3 ×·42	8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·46	8½×3 ×·44

一、l 及 N カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル球山形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型球山形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ一ニ依ル

第六號表 其ノ四

梁、「スケレトン フローア」、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル球山形材

寸法ハ吋トス

l	N 10·5	12	13·5	15	16·5	18	20	22
13·5	6½×3 ×·36	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·44	7½×3 ×·4	8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·44	8½×3 ×·44	8½×3 ×·5
14	6½×3 ×·42	7 ×3 ×·4	7½×3 ×·38	7½×3 ×·46	8 ×3 ×·42	8½×3 ×·42	8½×3 ×·48	9 ×3 ×·46
14·5	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·44	7½×3 ×·42	8 ×3 ×·42	8½×3 ×·42	8½×3 ×·46	9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·52
15	7 ×3 ×·4	7½×3 ×·38	8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·46	8½×3 ×·44	9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·48	9½×3½×·46
15·5	7½×3 ×·38	7½×3 ×·44	8 ×3 ×·42	8½×3 ×·42	8½×3 ×·5	9 ×3 ×·46	9½×3½×·46	9½×3½×·52
16·25	7½×3 ×·42	8 ×3 ×·42	8½×3 ×·42	9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·46	9½×3½×·46	9½×3½×·52	10 ×3½×·5
17	8 ×3 ×·4	8½×3 ×·42	8½×3 ×·48	9 ×3 ×·46	9 ×3½×·54	9½×3½×·5	10 ×3½×·5	10½×3½×·52
17·75	8 ×3 ×·44	8½×3 ×·46	9 ×3 ×·44	9½×3½×·46	9½×3½×·5	10 ×3½×·48	10½×3½×·5	11 ×3½×·48
18·5	8½×3 ×·42	9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·52	9½×3½×·48	10 ×3½×·48	10½×3½×·48	11 ×3½×·48	11½×3½×·48
19·25	8½×3 ×·48	9 ×3 ×·48	9½×3½×·46	10 ×3½×·48	10½×3½×·48	11 ×3½×·48	11½×3½×·48	11½×3½×·56
20	9 ×3 ×·44	9½×3½×·46	10 ×3½×·46	10½×3½×·46	11 ×3½×·48	11 ×3½×·52	11½×3½×·54	12 ×3½×·52
20·75	9 ×3 ×·5	9½×3½×·48	10 ×3½×·5	10½×3½×·52	11 ×3½×·5	11½×3½×·52	12 ×3½×·5	
21·5	9½×3½×·46	10 ×3½×·48	10½×3½×·48	11 ×3½×·48	11½×3½×·5	12 ×3½×·5		
22·25	9½×3½×·5	10½×3½×·46	11 ×3½×·48	11½×3½×·48	11½×3½×·56	12 ×3½×·54		
23	10 ×3½×·48	10½×3½×·5	11 ×3½×·5	11½×3½×·54	12 ×3½×·52	12 ×3½×·6		
23·75	10½×3½×·46	11 ×3½×·48	11½×3½×·48	12 ×3½×·5				
24·5	10½×3½×·5	11 ×3½×·52	11½×3½×·54	12 ×3½×·54				
25·25	11 ×3½×·48	11½×3½×·5	12 ×3½×·5	12 ×3½×·6				
26	11 ×3½×·5	11½×3½×·56						
26·75	11½×3½×·48	12 ×3½×·5						
27·5	11½×3½×·54	12 ×3½×·56						

一、l 及 N カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル球山形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型球山形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ一ニ依ル

第六號表 其ノ五

梁、「スケレトン フローア」、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル山形材及球山形材

寸法ハ吋トス

l		N 24	27	30	34	38	42	46	50
3	↑	3½×2½×·24	3½×2½×·24	3½×2½×·28	4 ×2½×·26	4 ×2½×·28	4 ×3 ×·3	4 ×3 ×·32	4½×3 ×·3
3·5		4 ×2½×·26	4 ×2½×·26	4 ×3 ×·28	4 ×3 ×·32	4½×3 ×·3	4½×3 ×·32	5 ×3 ×·32	5 ×3 ×·32
4		4 ×3 ×·3	4 ×3 ×·34	4½×3 ×·3	4½×3 ×·34	5 ×3 ×·32	5 ×3 ×·34	5½×3 ×·34	5½×3 ×·34
4·5	山形材	4½×3 ×·3	4½×3 ×·34	5 ×3 ×·32	5 ×3 ×·36	5½×3 ×·34	5½×3 ×·36	5 ×2½×·28	5 ×2½×·32
5		5 ×3 ×·32	5 ×3 ×·36	5½×3 ×·34	5 ×2½×·28	5 ×2½×·28	5 ×2½×·34	5½×3 ×·3	5½×3 ×·32
5·5		5 ×3 ×·38	5½×3 ×·36	5 ×2½×·28	5 ×2½×·34	5½×3 ×·3	5½×3 ×·32	5½×3 ×·36	6 ×3 ×·32
6	↓	5½×3 ×·38	5 ×2½×·3	5½×3 ×·3	5½×3 ×·3	5½×3 ×·36	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·38	6½×3 ×·34
6·5	↑	5 ×2½×·32	5½×3 ×·3	5½×3 ×·32	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·36	6½×3 ×·34	6½×3 ×·38	7 ×3 ×·36
7		5½×3 ×·3	5½×3 ×·34	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·38	6½×3 ×·34	6½×3 ×·42	7 ×3 ×·38	7 ×3 ×·42
7·5		5½×3 ×·36	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·38	6½×3 ×·36	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·4	7½×3 ×·38	7½×3 ×·42
8		6 ×3 ×·34	6½×3 ×·34	6½×3 ×·36	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·42	7½×3 ×·38	7½×3 ×·44	8 ×3 ×·42
8·5		6½×3 ×·34	6½×3 ×·38	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·42	7½×3 ×·4	8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·44	8½×3 ×·42
9		6½×3 ×·38	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·42	7½×3 ×·4	8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·46	8½×3 ×·44	9 ×3 ×·44
9·5	球山形材	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·42	7½×3 ×·4	8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·46	8½×3 ×·46	9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·5
10		7 ×3 ×·42	7½×3 ×·38	8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·46	8½×3 ×·46	9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·5	9½×3½×·46
10·5		7½×3 ×·38	8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·44	8½×3 ×·46	9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·52	9½×3½×·48	10 ×3½×·46
11		7½×3 ×·44	8 ×3 ×·44	8½×3 ×·42	9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·5	9½×3½×·48	10 ×3½×·46	10½×3½×·46
11·5		8 ×3 ×·42	8½×3 ×·42	8½×3 ×·5	9 ×3 ×·5	9½×3½×·48	10 ×3½×·48	10½×3½×·46	11 ×3½×·48
12		8½×3 ×·42	8½×3 ×·48	9 ×3 ×·46	9½×3½×·46	10 ×3½×·46	10½×3½×·46	11 ×3½×·48	11 ×3½×·52
12·5		8½×3 ×·46	9 ×3 ×·44	9½×3½×·46	10 ×3½×·46	10½×3½×·46	10½×3½×·54	11 ×3½×·52	11½×3½×·52
13	↓	9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·5	9½×3½×·48	10 ×3½×·5	10½×3½×·52	11 ×3½×·5	11½×3½×·52	12 ×3½×·5

一、l 及 N カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル球山形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型球山形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ一ニ依ル

第六號表 其ノ六

梁、「スケレトン フローア」、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル球山形材

寸法ハ吋トス

l	N 24	27	30	34	38	42	46	50
13·5	9 ×3 ×·48	9½×3½×·46	10 ×3½×·46	10½×3½×·48	11 ×3½×·48	11½×3½×·5	12×3½×·5	12×3½×·56
14·0	9½×3½×·46	9½×3½×·52	10 ×3½×·52	11 ×3½×·48	11 ×3½×·54	11½×3½×·58	12×3½×·56	
14·5	9½×3½×·48	10 ×3½×·48	10½×3½×·5	11 ×3½×·52	11½×3½×·54	12 ×3½×·54		
15·0	10 ×3½×·46	10½×3½×·46	11 ×3½×·48	11½×3½×·5	12 ×3½×·5	12 ×3½×·6		
15·5	10 ×3½×·5	10½×3½×·52	11 ×3½×·52	11½×3½×·56	12 ×3½×·56			
16·25	10½×3½×·5	11 ×3½×·5	11½×3½×·54	12 ×3½×·54				
17·0	11 ×3½×·48	11½×3½×·52	12 ×3½×·5					
17·75	11½×3½×·48	12 ×3½×·5	12 ×3½×·6					
18·5	12 ×3½×·5	12 ×3½×·58						
19·25	12 ×3½×·54							
20	12 ×3½×·6							

一、l 及 N カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル球山形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型球山形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ一ニ依ル

第六號表 其ノ七

梁、「スケレトン フローア」、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル山形材及球山形材

寸法ハ吋トス

l		N 55	60	65	70
3	←山形材→	4½×3 ×·3	4½×3 ×·34	5 ×3 ×·32	5 ×3 ×·32
3·5		5 ×3 ×·34	5½×3 ×·34	5½×3 ×·34	5½×3 ×·36
4	↑ 球山形材 ↓	5 ×2½×·28	5 ×2½×·3	5 ×2½×·34	5½×3 ×·3
4·5		5½×3 ×·3	5½×3 ×·3	5½×3 ×·34	6 ×3 ×·32
5		5½×3 ×·36	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·36	6½×3 ×·34
5·5		6 ×3 ×·38	6½×3 ×·34	6½×3 ×·38	7 ×3 ×·36
6		6½×3 ×·38	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·4	7½×3 ×·38
6·5		7 ×3 ×·38	7½×3 ×·38	7½×3 ×·4	8 ×3 ×·4
7		7½×3 ×·38	7½×3 ×·44	8 ×3 ×·42	8 ×3 ×·46
7·5		8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·46	8½×3 ×·42	8½×3 ×·48
8		8½×3 ×·42	8½×3 ×·46	9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·48
8·5		8½×3 ×·48	9 ×3 ×·46	9½×3½×·46	9½×3½×·48
9		9 ×3 ×·48	9½×3½×·46	9½×3½×·5	10 ×3½×·48
9·5		9½×3½×·46	10 ×3½×·46	10½×3½×·46	10½×3½×·5
10		10 ×3½×·46	10½×3½×·46	10½×3½×·52	11 ×3½×·48
10·5		10½×3½×·46	11 ×3½×·48	11 ×3½×·52	11½×3½×·5
11		11 ×3½×·48	11 ×3½×·52	11½×3½×.52	12 ×3½×·5
11·5		11 ×3½×·52	11½×3½×·54	12 ×3½×·5	12 ×3½×·58
12		11½×3½×·54	12 ×3½×·5	12 ×3½×·58	
12·5		12 ×3½×·5	12 ×3½×·58		
13		12 ×3½×·58			

一、l 及 N カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル球山形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型球山形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ一ニ依ル

第六號表 其ノ八

梁、「スケレトン フローア」、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル山形材及球山形材

寸法ハ吋トス

l		N 75	80	85	90	95	100	106	112
			山	形	材				
3		5 ×3 ×·34	5 ×3 ×·36	5½×3 ×·34	5½×3 ×·36	5½×3 ×·36	5 ×2½×·28	5 ×2½×·3	5 ×2½×·32
3·5	↑	5 ×2½×·28	5 ×2½×·3	5 ×2½×·34	5½×3 ×·3	5½×3 ×·3	5½×3 ×·3	5½×3 ×·34	5½×3 ×·36
4		5½×3 ×·3	5½×3 ×·32	5½×3 ×·36	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·36	6½×3 ×·34	6½×3 ×·34
4·5		6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·36	6½×3 ×·34	6½×3 ×·34	6½×3 ×·36	6½×3 ×·4	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·38
5		6½×3 ×·34	6½×3 ×·38	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·38	7 ×3 ×·4	7½×3 ×·38	7½×3 ×·38	7½×3 ×·42
5·5		7 ×3 ×·38	7 ×3 ×·42	7½×3 ×·38	7½×3 ×·4	7½×3 ×·44	8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·42	8 ×3 ×·46
6		7½×3 ×·38	7½×3 ×·44	8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·42	8 ×3 ×·46	8½×3 ×·42	8½×3 ×·46	9 ×3 ×·44
6·5		8 ×3 ×·42	8 ×3 ×·46	8½×3 ×·42	8½×3 ×·46	9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·48	9½×3½×·46
7		8½×3 ×·44	8½×3 ×·48	9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·48	9½×3½×·46	9½×3½×·46	9½×3½×·5	10 ×3½×·46
7·5	球山形材	9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·5	9½×3½×·46	9½×3½×·48	10 ×3½×·46	10 ×3½×·48	10½×3½×·46	10½×3½×·5
8		9½×3½×·46	9½×3½×·48	10 ×3½×·46	10 ×3½×·5	10½×3½×·46	10½×3½×·52	11 ×3½×·48	11 ×3½×·52
8·5		10 ×3½×·46	10 ×3½×·5	10½×3½×·48	10½×3½×·52	11 ×3½×·48	11 ×3½×·52	11½×3½×·5	11½×3½×·56
9		10½×3½×·46	10½×3½×·52	11 ×3½×·48	11 ×3½×·52	11½×3½×·5	11½×3½×·56	12 ×3½×·5	12 ×3½×·56
9·5		11 ×3½×·48	11 ×3½×·52	11½×3½×·5	11½×3½×·56	12 ×3½×·5	12 ×3½×·54	12 ×3½×·6	
10		11½×3½×·48	11½×3½×·54	12 ×3½×·5	12 ×3½×·54	12 ×3½×·6			
10·5		12 ×3½×·5	12 ×3½×·52	12 ×3½×·6					
11	↓	12 ×3½×·56							

一、l 及 N カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル球山形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型球山形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ一ニ依ル

第六號表 其ノ九

梁、「スケレトン フローア」、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル球山形材

寸法ハ吋トス

l	N 118	124	130	136	142	148	154	160
3	5 ×2½×·34	5½×3 ×·3	5½×3 ×·3	5½×3 ×·3	5½×3 ×·32	5½×3 ×·34	5½×3 ×·36	6 ×3 ×·32
3·5	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·36	6 ×3 ×·38	6½×3 ×·34	6½×3 ×·34	6½×3 ×·34	6½×3 ×·38
4	6½×3 ×·34	6½×3 ×·38	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·38	7 ×3 ×·4	7 ×3 ×·42	7½×3 ×·38
4·5	7 ×3 ×·4	7½×3 ×·38	7½×3 ×·38	7½×3 ×·4	7½×3 ×·44	8 ×3 ×.4	8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·42
5	7½×3 ×·44	8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·42	8 ×3 ×·46	8½×3 ×·42	8½×3 ×·44	8½×3 ×·46	9 ×3 ×·44
5·5	8½×3 ×·42	8½×3 ×·44	8½×3 ×·48	9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·46	9 ×3 ×·48	9½×3½×·46	9½×3½×·46
6	9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·48	9½×3½×·46	9½×3½×·46	9½×3½×·48	10 ×3½×·46	10 ×3½×·46	10 ×3½×·5
6·5	9½×3½×·46	9½×3½×·5	10 ×3½×·46	10 ×3½×·5	10½×3½×·46	10½×3½×·5	10½×3½×·52	11 ×3½×·48
7	10 ×3½×·5	10½×3½×·46	10½×3½×·52	11 ×3½×·48	11 ×3½×·48	11 ×3½×·52	11½×3½×·5	11½×3½×·52
7·5	11 ×3½×·48	11 ×3½×·48	11½×3½×·52	11½×3½×·5	11½×3½×·54	12 ×3½×·5	12 ×3½×·52	12 ×3½×·54
8	11½×3½×·48	11½×3½×·54	12 ×3½×·5	12 ×3½×·52				
8·5	12 ×3½×·5	12 ×3½×·54						
9	12 ×3½×·6							

一、l 及 N カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル球山形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型球山形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ一ニ依ル

第六號表 其ノ十

梁、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル溝形材

寸法ハ吋トス

l	N 4	6	8	10	12
15·5	.. ..	.. ..	.. ..	.. ..	6×3 ×·42· 48
16·25	.. ..	.. ..	.. ..	6×3 ×·32 ·44	7×3 ×·38 ·48
17	.. ..	.. ..	.. ..	6×3 ×·42 ·48	7×3 ×·38 ·48
17·75	.. ..	.. ..	.. ..	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·48 ·48
18·5	.. ..	.. ..	6×3 ×·4 ·44	7×3 ×·38 ·48	8×3 ×·38 ·5
19·25	.. ..	.. ..	6×3 ×·46 ·48	7×3 ×·46 ·48	8×3½×·38 ·52
20	.. ..	.. ..	7×3 ×·38 ·48	8×3 ×·38 ·5	8×3½×·38 ·52
20·75	.. ..	6×3 ×·32 ·44	7×3 ×·38 ·48	8×3 ×·38 ·5	8×3½×·42 ·52
21·5	.. ..	6×3 ×·4 ·44	7×3 ×·46 ·48	8×3 ×·46 ·5	9×3½×·38 ·5
22·25	.. ..	6×3 ×·46 ·48	8×3 ×·38 ·5	8×3½×·38 ·52	9×3½×·42 ·5
23	.. ..	7×3 ×·38 ·48	8×3 ×·38 ·5	8×3½×·46 ·52	9×3½×·44 ·55
23·75	.. ..	7×3 ×·38 ·48	8×3 ×·42 ·5	9×3½×·38 ·5	10×3½×·38 ·5
24·5	.. ..	7×3 ×·42 ·48	8×3½×·38 ·52	9×3½×·42 ·5	10×3½×·42 ·58
25·25	6×3×·32 ·44	7×3 ×·48 ·48	8×3½×·38 ·52	9×3½×·44 ·55	10×3½×·46 ·58
26	6×3×·36 ·44	8×3 ×·38 ·5	8×3½×·46 ·52	10×3½×·38 ·5	10×3½×·54 ·58
26·75	6×3×·38 ·48	8×3 ×·38 ·5	9×3½×·38 ·5	10×3½×·46 ·5	11×3½×·44 ·58
27·5	6×3×·46 ·48	8×3 ×·42 ·5	9×3½×·42 ·5	10×3½×·46 ·58	12×3½×·44 ·5
28·25	7×3×·38 ·48	9×3 ×·38 ·44	9×3½×·44 ·55	10×3½×·52 ·58	12×3½×·5 ·5
29	7×3×·38 ·48	8×3½×·38 ·52	10×3½×·38 ·5	11×3½×·42 ·58	12×3½×·46 ·6

一、*l* 及 **N** カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル溝形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型溝形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ二ニ依ル

第六號表 其ノ十一

梁、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル溝形材

寸法ハ吋トス

l	N 15	18	21	24	27
9·5	.. ..	.. ..	.. ..	.. ..	.. ..
10	.. ..	.. ..	.. ..	.. ..	6×3 ×·36 ·44
10·5	.. ..	.. ..	.. ..	6×3 ×·34 ·44	6×3 ×·44 ·48
11	.. ..	.. ..	.. ..	6×3 ×·42 ·48	7×3 ×·38 ·48
11·5	.. ..	.. ..	6×3 ×·4 ·44	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·4 ·48
12	.. ..	.. ..	6×3 ×·46 ·48	7×3 ×·38 ·48	8×3 ×·38 ·5
12·5	.. ..	6×3×·38 ·48	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·48 ·48	8×3 ×·38 ·5
13	.. ..	6×3×·48 ·48	7×3 ×·4 ·48	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·44 ·5
13·5	6×3×·38 ·44	7×3×·38 ·48	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·4 ·5	8×3½×·38 ·52
14	6×3×·44 ·48	7×3×·48 ·48	8×3 ×·38 ·5	8×3½×·38 ·52	8×3½×·44 ·52
14·5	7×3×·38 ·48	7×3×·48 ·48	8×3 ×·4 ·5	8×3½×·38 ·52	9×3½×·38 ·5
15	7×3×·38 ·48	8×3×·38 ·5	8×3½×·38 ·52	8×3½×·48 ·52	9×3½×·44 ·5

一、*l* 及 **N** カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル溝形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型溝形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ二ニ依ル

第六號表 其ノ十二

梁、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル溝形材

寸法ハ吋トス

l	N 15	18	21	24	27
15·5	7×3 ×·42 ·48	8×3 ×·38 ·5	8×3½×·38 ·52	9×3½×·38 ·5	9×3½×·48 ·55
16·25	7×3½×·38 ·5	8×3½×·38 ·52	9×3½×·38 ·5	9×3½×·44 ·55	10×3½×·42 ·58
17	7×3½×·46 ·5	8×3½×·42 ·52	9×3½×·4 ·55	10×3½×·42 ·5	10×3½×·5 ·58
17·75	8×3½×·38 ·52	9×3½×·38 ·5	10×3½×·38 ·5	10×3½×·46 ·58	11×3½×·44 ·58
18·5	8×3½×·42 ·52	9×3½×·4 ·55	10×3½×·42 ·58	11×3½×·42 ·58	12×3½×·46 ·5
19·25	9×3½×·38 ·5	10×3½×·38 ·5	10×3½×·5 ·58	12×3½×·42 ·5	12×3½×·46 ·6
20	9×3½×·42 ·5	10×3½×·42 ·58	11×3½×·42 ·58	12×3½×·5 ·5	12×4 ×·48 ·62
20·75	9×3½×·48 ·55	10×3½×·5 ·58	12×3½×·44 ·5	12×3½×·5 ·6	12×4 ×·52 ·62
21·5	10×3½×·42 ·5	11×3½×·42 ·58	12×3½×·46 ·6	12×4 ×·48 ·62	13×4 ×·48 ·62
22·25	10×3½×·42 ·58	12×3½×·42 ·5	12×3½×·52 ·6	12×4 ×·54 ·62	13×4 ×·56 ·62
23	10×3½×·52 ·58	12×3½×·5 ·5	12×4 ×·48 ·62	13×4 ×·48 ·62	14×4 ×·48 ·62
23·75	11×3½×·42 ·58	12×3½×·48 ·6	12×4 ×·52 ·62	13×4 ×·56 ·62	14×4 ×·58 ·62
24·5	12×3½×·42 ·5	11×4 ×·6 ·6	13×4 ×·48 ·62	14×4 ×·48 ·62	15×4 ×·52 ·62
25·25	12×3½×·5 ·5	12×4 ×·48 ·62	13×4 ×·56 ·62	14×4 ×·58 ·62	15×4 ×·58 ·62
26	12×3½×·46 ·6	12×4 ×·56 ·62	14×4 ×·48 ·62	15×4 ×·52 ·62	16×4 ×·52 ·65
26·75	12×3½×·54 ·6	13×4 ×·48 ·62	14×4 ×·56 ·62	15×4 ×·58 ·62	16×4 ×·58 ·65
27·5	12×4 ×·48 ·62	13×4 ×·56 ·62	15×4 ×·48 ·62	16×4 ×·5 ·65	17×4 ×·52 ·68
28·25	12×4 ×·56 ·62	14×4 ×·48 ·62	15×4 ×·56 ·62	16×4 ×·58 ·65	
29	13×4 ×·48 ·62	14×4 ×·56 ·62	16×4 ×·48 ·65	17×4 ×·48 ·68	

一、l 及 N カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル溝形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型溝形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ二ニ依ル

第六號表 其ノ十三

梁、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル溝形材

寸法ハ吋トス

l	N 30	34	38	42	46
7·5	.. ..	.. ..	.. ..	.. ..	6×3 ×·32 ·44
8	.. ..	.. ..	.. ..	6×3 ×·36 ·44	6×3 ×·44 ·48
8·5	.. ..	.. ..	6×3 ×·38 ·44	6×3 ×·46 ·48	7×3 ×·38 ·48
9	.. ..	6×3 ×·38 ·44	6×3 ×·48 ·48	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·46 ·48
9·5	6×3 ×·36 ·44	6×3 ×·48 ·48	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·48 ·48	8×3 ×·38 ·5
10	6×3 ×·46 ·48	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·48 ·48	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·46 ·5
10·5	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·48 ·48	8×3 ×·38 ·5	9×3 ×·38 ·44	8×3½×·4 ·52
11	7×3 ×·42 ·48	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·44 ·5	8×3½×·4 ·52	9×3½×·38 ·5
11·5	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·42 ·5	8×3½×·38 ·52	9×3½×·38 ·5	9×3½×·44 ·5
12	8×3 ×·38 ·5	9×3 ×·42 ·44	8×3½×·5 ·52	9×3½×·44 ·5	10×3½×·38 ·5
12·5	9×3 ×·38 ·44	8×3½×·46 ·52	9×3½×·42 ·5	9×3½×·5 ·55	10×3½×·42 ·58
13	8×3½×·4 ·52	9×3½×·38 ·5	9×3½×·46 ·55	10×3½×·44 ·5	11×3½×·4 ·5
13·5	9×3½×·38 ·5	9×3½×·42 ·55	10×3½×·42 ·5	10×3½×·48 ·58	11×3½×·42 ·58
14	9×3½×·4 ·5	10×3½×·38 ·5	10×3½×·44 ·58	11×3½×·42 ·58	12×3½×·44 ·5
14·5	9×3½×·44 ·55	10×3½×·46 ·5	10×3½×·52 ·58	11×3½×·48 ·58	12×3½×·46 ·6
15	10×3½×·38 ·5	10×3½×·46 ·58	11×3½×·44 ·58	12×3½×·48 ·5	12×3½×·5 ·6

一、l 及 N カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル溝形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型溝形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ二ニ依ル

第六號表 其ノ十四

梁、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル溝形材

寸法ハ吋トス

l	N 30	34	38	42	46
15·5	10×3½×·42 ·58	11×3½×·42 ·58	12×3½×·44 ·5	12×3½×·46 ·6	12×4×·48 ·62
16·25	10×3½×·52 ·58	12×3½×·42 ·5	12×3½×·46 ·6	12×4 ×·48 ·62	12×4×·56 ·62
17	12×3½×·38 ·5	12×3½×·46 ·6	12×4 ×·48 ·62	12×4 ×·56 ·62	13×4×·56 ·62
17·75	12×3½×·48 ·5	12×3½×·54 ·6	12×4 ×·56 ·62	13×4 ×·52 ·62	14×4×·48 ·62
18·5	12×3½×·5 ·6	12×4 ×·52 ·62	13×4 ×·52 ·62	14×4 ×·48 ·62	15×4×·48 ·62
19·25	12×4 ×·48 ·62	13×4 ×·48 ·62	14×4 ×·48 ·62	15×4 ×·48 ·62	15×4×·58 ·62
20	12×4 ×·56 ·62	13×4 ×·56 ·62	14×4 ×·58 ·62	15×4 ×·56 ·62	16×4×·52 ·65
20·75	13×4 ×·48 ·62	14×4 ×·52 ·62	15×4 ×.52 ·62	16×4 ×·52 ·65	17×4×·48 ·68
21·5	13×4 ×·58 ·62	15×4 ×·48 ·62	16×4 ×·48 ·65	17×4 ×·48 ·68	17×4×·6 ·68
22·25	14×4 ×·54 ·62	15×4 ×·56 ·62	16×4 ×·56 ·65	17×4 ×·56 ·68	
23	15×4 ×·48 ·62	16×4 ×·52 ·65	17×4 ×·52 ·68		
23·75	15×4 ×·56 ·62	16×4 ×·6 ·65	17×4 ×·6 ·68		
24·5	16×4 ×·48 ·65	17×4 ×·52 ·68			
25·25	16×4 ×·58 ·65				
26	17×4 ×·52 ·68				

一、l 及 **N** カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル溝形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型溝形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ二ニ依ル

第六號表 其ノ十五

梁、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル溝形材

寸法ハ吋トス

l	N 50	55	60	65	70
6	.. ..	.. ..	.. ..	.. ..	.. ..
6·5	.. ..	.. ..	.. ..	6×3 ×·38 ·44	6×3 ×·44 ·48
7	.. ..	.. ..	6×3 ×·44 ·48	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·38 ·48
7·5	6×3 ×·38 ·48	6×3 ×·48 ·48	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·44 ·48	8×3 ×·38 ·5
8	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·38 ·48	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·42 ·5
8·5	7×3 ×·42 ·48	8×3 ×·38 ·5	7×3½×·46 ·5	9×3 ×·38 ·44	8×3½×·4 ·52
9	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·42 ·5	8×3½×·38 ·52	8×3½×·44 ·52	9×3½×·38 ·5
9·5	8×3 ×·42 ·5	8×3½×·38 ·52	8×3½×·48 ·52	9×3½×·4 ·5	9×3½×·44 ·55
10	8×3½×·38 ·52	9×3½×·38 ·5	9×3½×·42 ·5	9×3½×·48 ·55	10×3½×·42 ·5
10·5	9×3½×·38 ·5	9×3½×·44 ·5	9×3½×·5 ·55	10×3½×·46 ·5	10×3½×·48 ·58
11	9×3½×·44 ·5	10×3½×·38 ·5	10×3½×·42 ·58	11×3½×·4 ·5	11×3½×·42 ·58
11·5	10×3½×·38 ·5	10×3½×·42 ·58	11×3½×·42 ·5	11×3½×·44 ·58	12×3½×·46 ·5
12	10×3½×·42 ·58	11×3½×·42 ·5	11×3½×.46 ·58	12×3½×·48 ·5	12×3½×·46 ·6
12·5	11×3½×·4 ·5	11×3½×·44 ·58	12×3½×·48 ·5	12×3½×·48 ·6	12×4 ×·48 ·62
13	11×3½×·42 ·58	12×3½×·46 ·5	12×3½×·48 ·6	12×4 ×·48 ·62	12×4 ×·52 ·62
13·5	12×3½×·44 ·5	12×3½×·46 ·6	12×4 ×·48 ·62	12×4 ×·54 ·62	13×4 ×·48 ·62
14	12×3½×·46 ·6	12×3½×·56 ·6	12×4 ×·52 ·62	13×4 ×·48 ·62	13×4 ×·58 ·62
14·5	12×3½×·52 ·6	12×4 ×·52 ·62	13×4 ×·48 ·62	13×4 ×·58 ·62	14×4 ×·52 ·62
15	12×4 ×·48 ·62	12×4 ×·58 ·62	13×4 ×·56 ·62	14×4 ×·52 ·62	14×4 ×·58 ·62

一、l 及 **N** カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル溝形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型溝形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ二ニ依ル

第六號表　其ノ十六

梁、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル溝形材

寸法ハ吋トス

l	N 50	55	60	65	70
15·5	12×4×·56·62	13×4×·52·62	14×4×·48·62	15×4×·48·62	15×4×·56·62
16·25	13×4×·52·62	14×4×·52·62	15×4×·48·62	15×4×·58·62	16×4×·56·65
17	14×4×·48·62	15×4×·5 ·62	16×4×·48·65	16×4×·56·65	17×4×·52·68
17·75	15×4×·48·62	16×4×·48·65	16×4×·58·65	17×4×·52·68	
18·5	15×4×·58·62	16×4×·56.65	17×4×·54·68		
19·25	16×4×·56·65				
20	17×4×·48·68				

一、l 及 N カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル溝形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型溝形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ二ニ依ル

第六號表　其ノ十七

梁、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル溝形材

寸法ハ吋トス

l	N 75	80	85		
15·5	16×4×·52·65	16×4×·58·65	17×4×·52·68		
16·25	17×4×·48·68	17×4×·6 ·68			

一、l 及 N カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル溝形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型溝形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ二ニ依ル

第六號表　其ノ十八

梁、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル溝形材

寸法ハ吋トス

l	N 75	80	85	90	95
5·5	.. ..	.. ..	.. ..	6×3 ×·38 ·44	6×3 ×·4 ·48
6	6×3 ×·36 ·44	6×3 ×·4 ·48	6×3 ×·48 ·48	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·38 ·48
6·5	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·42 ·48	7×3 ×·48 ·48	8×3 ×·38 ·5
7	7×3 ×·44· 48	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·4 ·5	8×3½×·38 ·52
7·5	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·42 ·5	8×3½×·38 ·52	8×3½×·38 ·52	8×3½×·46 ·52
8	8×3½×·38 ·52	8×3½×·4 ·52	9×3½×·38 ·5	9×3½×·38 ·5	9×3½×·44 ·5
8·5	9×3½×·38 ·5	9×3½×·38 ·5	9×3½×·4 ·55	9×3½×·48 ·55	10×3½×·4 ·5
9	9×3½×·44 ·5	9×3½×·48 ·55	10×3½×·4 ·5	10×3½×·42 ·58	10×3½×·48 ·58
9·5	10×3½×·38 ·5	10×3½×·46 ·5	10×3½×·48 ·58	11×3½×·44 ·5	11×3½×·44 ·58
10	10×3½×·44 ·58	11×3½×·42 ·5	11×3½×·42 ·58	11×3½×·5 ·58	12×3½×·48 ·5
10·5	11×3½×·42 ·58	11×3½×·48 ·58	12×3½×·48 ·5	12×3½×·46 ·6	12×3½×·52 ·6
11	12×3½×·44 ·5	12×3½×·5 ·5	12×3½×·5 ·6	12×3½×·56 ·6	12×4 ×·48 ·62
11·5	12×3½×·46 ·6	12×3½×·52 ·6	12×4 ×·48 ·62	12×4 ×·54 ·62	13×4 ×·48 ·62
12	12×3½×·56 ·6	12×4 ×·48 ·62	12×4 ×·58 ·62	13×4 ×·48 ·62	13×4 ×·58 ·62
12·5	12×4 ×·52 ·62	12×4 ×·58 ·62	13×4 ×·52 ·62	14×4 ×·48 ·62	14×4 ×·54 ·62
13	13×4 ×·48 ·62	13×4 ×·56 ·62	14×4 ×·48 ·62	14×4 ×·58 ·62	15×4 ×·5 ·62
13·5	13×4 ×·58 ·62	14×4 ×·52 ·62	15×4 ×·48 ·62	15×4 ×·54 ·62	16×4 ×·48 ·65
14	14×4 ×·52 ·62	15×4 ×·48 ·62	15×4 ×·56 ·62	16×4 ×·48 ·65	16×4 ×·56 ·65
14·5	15×4 ×·48 ·62	15×4 ×·56 ·62	16×4 ×·48 ·65		
15	15×4 ×·56 ·62	16×4 ×·5 ·65	16×4 ×·58 ·65		

一、l 及 N カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル溝形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型溝形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ二ニ依ル

第六號表 其ノ十九

梁、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル溝形材

寸法ハ吋トス

l	N 100	106	112	118	124
5	.. ..	6×3 ×·34 ·44	6×3 ×·38 ·48	6×3 ×·44 ·48	7×3 ×·38 ·48
5·5	6×3 ×·46 ·48	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·4 ·48	7×3 ×·48 ·48
6	7×3 ×·42 ·48	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·42 ·5
6·5	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·42 ·5	8×3½×·38 ·52	8×3½×·38 ·52	8×3½×·44 ·52
7	8×3½×·38 ·52	8×3½×·42 ·52	9×3½×·38 ·5	9×3½×·38 ·5	9×3½×·44 ·5
7·5	9×3½×·38 ·5	9×3½×·42 ·5	9×3½×·44 ·55	10×3½×·38 ·5	10×3½×·42 ·5
8	9×3½×·46 ·55	10×3½×·38 ·5	10×3½×·46 ·5	10×3½×·46 ·58	11×3½×·42 ·5
8·5	10×3½×·42 ·58	10×3½×·48 ·58	11×3½×·44 ·5	11×3½×·44 ·58	11×3½×·5 ·58
9	11×3½×·44 ·5	11×3½×·44 ·58	12×3½×·44 ·5	12×3½×·5 ·5	12×3½×·46 ·6
9·5	11×3½×·5 ·58	12×3½×·5 ·5	12×3½×·46 ·6	12×3½×·54 ·6	12×4 ×·48 ·62
10	12×3½×·46 ·6	12×3½×·54 ·6	12×4 ×·48 ·62	12×4 ×·52 ·62	12×4 ×·58 ·62
10·5	12×4 ×·48 ·62	12×4 ×·52 ·62	12×4 ×·58 ·62	13×4 ×·5 ·62	13×4 ×·58 ·62
11	12×4 ×·56 ·62	13×4 ×·48 ·62	13×4 ×·56 ·62	14×4 ×·48 ·62	14×4 ×·56 ·62
11·5	13×4 ×·52 ·62	14×4 ×·48 ·62	14×4 ×·52 ·62	15×4 ×·48 ·62	15×4 ×·52 ·62
12	14×4 ×·48 ·62	14×4 ×·58 ·62	15×4 ×·5 ·62	15×4 ×·58 ·62	16×4 ×·48 ·65
12·5	15×4 ×·48 ·62	15×4 ×·54 ·62	16×4 ×·48 ·65	16×4 ×·52 ·65	17×4 ×·48 ·68
13	15×4 ×·56 ·62	16×4 ×·48 ·65	16×4 ×·58 ·65	17×4 ×·48 ·68	17×4 ×·56 ·68
13·5	16×4 ×·52 ·65	16×4 ×·6 ·65	17×4 ×·52 ·68		
14	17×4 ×·48 ·68	17×4 ×·56 ·68			

一、l 及 **N** カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル溝形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型溝形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ二ニ依ル

第六號表 其ノ二十

梁、隔壁防撓材其ノ他ニ用ウル溝形材

寸法ハ吋トス

l	N 130	136	142	148	154	160
5	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·38 ·48	7×3 ×·4 ·48	7×3 ×·46 ·48	7×3½×·36 ·5	7×3½×·36 ·5
5·5	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·38 ·5	8×3 ×·42 ·5	8×3½×·38 ·52	8×3½×·38 ·52
6	8×3½×·38 ·52	8×3½×·38 ·52	8×3½×·4 ·52	8×3½×·46 ·52	9×3½×·38 ·5	9×3½×·38 ·5
6·5	9×3½×·38 ·5	9×3½×·38 ·5	9×3½×·42 ·5	9×3½×·42 ·55	9×3½×·48 ·55	10×3½×·38 ·5
7	9×3½×·44 ·55	10×3½×·38 ·5	10×3½×·42 ·5	10×3½×·42 ·58	10×3½×·46 ·58	11×3½×·4 ·5
7·5	10×3½×·42 ·58	10×3½×·46 ·58	11×3½×·42 ·5	11×3½×·42 ·58	11×3½×·46 ·58	11×3½×·5 ·58
8	11×3½×·42 ·58	11×3½×·46 ·58	12×3½×·44 ·5	12×3½×·48 ·5	12×3½×·46 ·6	12×3½×·5 ·6
8·5	12×3½×·48 ·5	12×3½×·46 ·6	12×3½×·5 ·6	12×3½×·54 ·6	12×4 ×·48 ·62	12×4 ×·5 ·62
9	12×3½×·52 ·6	12×4 ×·48 ·62	12×4 ×·48 ·62	12×4 ×·54 ·62	13×4 ×·48 ·62	13×4 ×·48 ·62
9·5	12×4 ×·52 ·62	12×4 ×·58 ·62	13×4 ×·48 ·62	13×4 ×·54 ·62	13×4 ×·58 ·62	14×4 ×·48 ·62
10	13×4 ×·48 ·62	13×4 ×·56 ·62	14×4 ×·48 ·62	14×4 ×·52 ·62	14×4 ×·58 ·62	15×4 ×·5 ·62
10·5	14×4 ×·48 ·62	14×4 ×·56 ·62	15×4 ×·48 ·62	15×4 ×·52 ·62	15×4 ×·58 ·62	16×4 ×·48 ·65
11	15×4 ×·48 ·62	15×4 ×·54 ·62	15×4 ×·58 ·62	16×4 ×·48 ·65	16×4 ×·54 ·65	16×4 ×·6 ·65
11·5	15×4 ×·58 ·62	16×4 ×·5 ·65	16×4 ×·56 ·65	17×4 ×·48 ·68	17×4 ×·52 ·68	17×4 ×·58 ·68
12	16×4 ×·56 ·65	17×4 ×·48 ·68	17×4 ×·52 ·68	17×4 ×·6 ·68		
12·5	17×4 ×·52 ·68	17×4 ×·6 ·68				
13						
13·5						
14						

一、l 及 **N** カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ於ケル溝形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型溝形材ノ寸法ハ第六號補表其ノ二ニ依ル

第六號補表 其ノ一

第六號表ニ於ケル官設製鐵所標準型球山形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型球山形材

第六號表ニ於ケル球山形材	1924年英國標準型球山形材	第六號表ニ於ケル球山形材	1924年英國標準型球山形材
5½ × 3 × ·36	6 × 3 × ·28	9½ × 3½ × ·46	10 × 3½ × ·4
6½ × 3 × ·34	7 × 3 × ·31	9½ × 3½ × ·5	10 × 3½ × ·4
6½ × 3 × ·4	7 × 3 × ·31	10 × 3½ × ·46	10 × 3½ × ·4
7 × 3 × ·36	7 × 3 × ·36	10 × 3½ × ·52	10 × 3½ × ·46
7 × 3 × ·42	7 × 3 × ·42	10½ × 3½ × ·46	11 × 3½ × ·42
7½ × 3 × ·38	8 × 3 × ·35	10½ × 3½ × ·52	11 × 3½ × ·42
7½ × 3 × ·44	8 × 3 × ·35	11 × 3½ × ·48	11 × 3½ × ·42
8 × 3 × ·4	8 × 3 × ·36	11 × 3½ × ·52	11 × 3½ × ·44
8 × 3 × ·46	8 × 3 × ·44	11½ × 3½ × ·48	11 × 3½ × ·5
8½ × 3 × ·42	9 × 3 × ·36	11½ × 3½ × ·56	12 × 3½ × ·42
8½ × 3 × ·5	9 × 3 × ·38	12 × 3½ × ·5	12 × 3½ × ·42
9 × 3 × ·44	9 × 3 × ·4	12 × 3½ × ·6	12 × 3½ × ·46
9 × 3 × ·48	9 × 3 × ·44		

第六號補表 其ノ二

第六號表ニ於ケル官設製鐵所標準型溝形材ニ代用スヘキ1924年英國標準型溝形材

第六號表ニ於ケル溝形材	1924年英國標準型ニ依ル3″邊溝形材	1924年英國標準型ニ依ル3½″邊溝形材	第六號表ニ於ケル溝形材	1924年英國標準型ニ依ル3½″邊及4″邊溝形材
6 × 3 × ·38 ·48	7 × 3 × ·28 ·42		11 × 3½ × ·42 ·58	12 × 3½ × ·34 ·5
6 × 3 × ·48 ·48	7 × 3 × ·42 ·42		11 × 3½ × ·54 ·58	12 × 3½ × ·4 ·5
7 × 3 × ·36 ·48	7 × 3 × ·42 ·42		12 × 3½ × ·42 ·5	12 × 3½ × ·42 ·5
7 × 3 × ·38 ·48	8 × 3 × ·32 ·44	7 × 3½ × ·28 ·5	12 × 3½ × ·46 ·5	12 × 3½ × ·36 ·6
7 × 3 × ·48 ·48	8 × 3 × ·4 ·44	7 × 3½ × ·3 ·5	12 × 3½ × ·46 ·6	12 × 3½ × ·44 ·6
8 × 3 × ·34 ·5	8 × 3 × ·4 ·44	8 × 3½ × ·3 ·52	12 × 3½ × ·54 ·6	12 × 4 × ·38 ·6
8 × 3 × ·38 ·5	9 × 3 × ·32 ·44	8 × 3½ × ·32 ·52	12 × 4 × ·48 ·62	12 × 4 × ·48 ·6
8 × 3 × ·48 ·5	9 × 3 × ·36 ·44	8 × 3½ × ·32 ·52	12 × 4 × ·56 ·62	12 × 4 × ·56 ·6
8 × 3½ × ·38 ·52	9 × 3 × ·42 ·44	8 × 3½ × ·38 ·52	12 × 4 × ·58 ·62	15 × 4 × ·42 ·62
8 × 3½ × ·48 ·52	10 × 3 × ·32 ·45	8 × 3½ × ·46 ·52	13 × 4 × ·48 ·62	15 × 4 × ·42 ·62
9 × 3½ × ·38 ·5	10 × 3 × ·4 ·45	9 × 3½ × ·36 ·54	13 × 4 × ·56 ·62	15 × 4 × ·42 ·62
9 × 3½ × ·48 ·5	10 × 3 × ·48 ·45	9 × 3½ × ·42 ·54	14 × 4 × ·48 ·62	15 × 4 × ·42 ·62
9 × 3½ × ·38 ·55		9 × 3½ × ·36 ·54	14 × 4 × ·58 ·62	15 × 4 × ·44 ·62
9 × 3½ × ·48 ·55		9 × 3½ × ·48 ·54	15 × 4 × ·48 ·62	15 × 4 × ·48 ·62
10 × 3½ × ·38 ·5		10 × 3½ × ·34 ·56	15 × 4 × ·58 ·62	15 × 4 × ·58 ·62
10 × 3½ × ·48 ·5		10 × 3½ × ·38 ·56	16 × 4 × ·48 ·65	17 × 4 × ·42 ·68
10 × 3½ × ·42 ·58		10 × 3½ × ·4 ·56	16 × 4 × ·58 ·65	17 × 4 × ·42 ·68
10 × 3½ × ·54 ·58		10 × 3½ × ·54 ·56	17 × 4 × ·48 ·68	17 × 4 × ·48 ·68
			17 × 4 × ·6 ·68	17 × 4 × ·6 ·68

第七號表 其ノ一

山形肋骨及球山形肋骨

寸法ハ吋トス

K	M 1	1·5	2	2·5	3	3·5		4
0	2½ × 2½ × ·2	3 × 2½ × ·2	3½ × 2½ × ·2	3½ × 2½ × ·26	4 × 2½ × ·24	4 × 2½ × ·28	↑	4 × 3 × ·32
1	2½ × 2½ × ·24	3 × 2½ × ·24	3½ × 2½ × ·24	3½ × 2½ × ·28	4 × 2½ × ·26	4 × 3 × ·3		4 × 3 × ·34
2	3 × 2½ × ·2	3 × 2½ × ·26	3½ × 2½ × ·26	4 × 2½ × ·24	4 × 3 × ·28	4 × 3 × ·32		*4 × 2½ × ·24* 4½ × 3 × ·3
3	… …	3½ × 2½ × ·24	4 × 2½ × ·24	4 × 2½ × ·28	4 × 3 × ·32	4½ × 3 × ·28	山形材	*4 × 2½ × ·28* 4½ × 3 × ·32
4	… …	… …	4 × 3 × ·26	4 × 3 × ·3	4 × 3 × ·34	4½ × 3 × ·32		*4½ × 2½ × ·24* 4½ × 3 × ·36
5	… …	… …	… …	… …	4½ × 3 × ·3	4½ × 3 × ·34		*4½ × 2½ × ·28* 5 × 3 × ·32
6	… …	… …	… …	… …	4½ × 3 × ·34	5 × 3 × ·32	↓	*4½ × 2½ × ·3* 5 × 3 × ·34
8	… …	… …	… …	… …	… …	… …	↑	*5 × 2½ × ·28* 5 × 3 × ·28
10	… …	… …	… …	… …	… …	… …		… …
12	… …	… …	… …	… …	… …	… …	球山形材	… …
14	… …	… …	… …	… …	… …	… …		… …
16	… …	… …	… …	… …	… …	… …	↓	… …

一、M及Kカ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、外板ニ取附クル縦邊ノ幅カ第二十四章K表ニ掲クル園習ニ要スルモノヨリモ大ナルトキハ該幅ヲ減スルコトヲ得

三、「イタリツク」ニテ示シタル寸法ハ1924年英國標準型トス

第七號表　其ノ二

山形肋骨及球山形肋骨

寸法ハ吋トス

K	M 5	6	7	8	9·5	11	12·5
0	4 ×2½ ×·24 4½×3 ×·32	4 ×2½ ×·32 5 ×3 ×·32	5 ×2½ ×·26 5 ×3 ×·36	5 ×2½ ×·26 5½×3 ×·34	5 ×3 ×·28 5 ×3 ×·3	5½×3 ×·28 5½×3 ×·3	6 ×3 ×·28 5½×3 ×·32
1	4 ×2½ ×·28 4½×3 ×·34	4½×2½ ×·26 5 ×3 ×·34	5 ×2½ ×·26 5½×3 ×·32	5 ×2½ ×·26 5½×3 ×·36	5 ×3 ×·32 5 ×3 ×·32	5½×3 ×·3 5½×3 ×·3	6 ×3 ×·28 5½×3 ×·34
2	4 ×2½ ×·32 5 ×3 ×·32	4½×2½ ×·28 5 ×3 ×·36	5 ×2½ ×·26 5½×3 ×·34	5 ×3 ×·28 5 ×3 ×·28	5½×3 ×·28 5 ×3 ×·34	5½×3 ×·32 5½×3 ×·32	6 ×3 ×·28 6 ×3 ×·32
3 山形材	4½×2½ ×·26 5 ×3 ×·32	5 ×2½ ×·26 5 ×3 ×·38	5 ×2½ ×·28 5½×3 ×·36	5 ×3 ×·3 5 ×3 ×·3	5½×3 ×·3 5½×3 ×·3	6 ×3 ×·28 5½×3 ×·34	6 ×3 ×·3 6 ×3 ×·32
4	4½×2½ ×·3 5 ×3 ×·36	5 ×2½ ×·26 5½×3 ×·34	5 ×3 ×·28 5 ×3 ×·28	5½×3 ×·28 5 ×3 ×·32	5½×3 ×·32 5½×3 ×·32	6 ×3 ×·28 5½×3 ×·36	6 ×3 ×·34 6 ×3 ×·34
5	5 ×2½ ×·26 5 ×3 ×·38	5 ×2½ ×·28 5½×3 ×·36	5½×3 ×·28 5 ×3 ×·32	5½×3 ×·28 5 ×3 ×·36	6 ×3 ×·28 5½×3 ×·34	6 ×3 ×·32 6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·36 6 ×3 ×·36
6	5 ×2½ ×·26 5½×3 ×·34	5 ×3 ×·3 5 ×3 ×·3	5½×3 ×·28 5 ×3 ×·36	6 ×3 ×·28 5½×3 ×·32	6 ×3 ×·28 5½×3 ×·36	6 ×3 ×·34 6 ×3 ×·34	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·34
8	5 ×3 ×·32 5 ×3 ×·32	5½×3 ×·3 5½×3 ×·3	6 ×3 ×·28 5½×3 ×·32	6 ×3 ×·3 5½×3 ×·36	6 ×3 ×·36 6 ×3 ×·38	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·34	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·36
10	5½×3 ×·3 5½×3 ×·3	6 ×3 ×·28 5½×3 ×·36	6 ×3 ×·3 6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·34 6 ×3 ×·34	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·34	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·38	7 ×3 ×·33 7 ×3 ×·36
12	... ...	6 ×3 ×·32 6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·36 6 ×3 ×·36	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·34	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·38	7 ×3 ×·34 7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·38 7 ×3 ×·4
14	... ...	... ...	... ...	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·38	7 ×3 ×·34 7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·4 7 ×3 ×·4	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·38
16	... ...	... ...	... ...	... ...	7 ×3 ×·42 7 ×3 ×·42	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·38	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·42
18	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	8 ×3 ×·36 7½×3 ×·42	8 ×3½ ×·38 8 ×3½ ×·4
20 球山形材	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	8 ×3½ ×·43 8 ×3½ ×·44
22	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...
24	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...
26	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...
28	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...
30	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...

一、M及Kカ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、外板ニ取附クル縦邊ノ幅カ第二十四章K表ニ掲クル固著ニ要スルモノヨリモ大ナルトキハ該幅ヲ減スルコトヲ得

三、「イタリツク」ニテ示シタル寸法ハ1924年英國標準型トス

第七號表　其ノ三

球山形肋骨

寸法ハ吋トス

K	M 14	16	18	20	22·5	25	27·5
0	6 ×3 ×·28 6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·36 6 ×3 ×·36	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·34	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·38	7 ×3 ×·34 7 ×3 ×·38	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·38	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·4
1	6 ×3 ×·3 6 ×3 ×·32	6 ×3 ×·36 6 ×3 ×·36	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·36	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·4	7 ×3 ×·38 7 ×3 ×·4	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·38	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·42
2	6× 3 ×·34 6 ×3 ×·34	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·34	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·38	7 ×3 ×·34 7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·4 7 ×3 ×·42	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·4	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·44
3	6 ×3 ×·34 6 ×3 ×·34	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·34	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·38	7 ×3 ×·36 7 ×3 ×·36	8 ×3 ×·35 7 ×3 ×·42	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·42	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·44
4	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·34	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·38	7 ×3 ×·33 7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·38 7 ×3 ×·4	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·38	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·44	8 ×3 ×·38 8 ×3 ×·4
5	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·34	7 ×3 ×·33 6½×3 × 4	7 ×3 ×·36 7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·4 7 ×3 ×·4	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·4	8 ×3 ×·36 7½×3 ×·44	8 ×3 ×·4 8 ×3 ×·42
6	7 ×3 ×·33 6½×3 ×·36	7 ×3 ×·33 7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·38 7 ×3 ×·4	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·38	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·42	8 ×3 ×·4 8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·42 8 ×3 ×·46
8	7 ×3 ×·34 7 ×3 ×·36	7 ×3 ×·38 7 ×3 ×·4	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·38	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·42	8 ×3 ×·36 8 ×3 ×·4	9 ×3 ×·36 8 ×3 ×·44	9 ×3 ×·36 8½×3 ×·42
10	7 ×3 ×·36 7 ×3 ×·38	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·38	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·42	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·44	8 ×3½ ×·4 8 ×3½ ×·42	9 ×3½ ×·38 8½×3½ ×·42	9 ×3½ ×·38 8½×3½ ×·44
12	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·38	8 ×3½ ×·35 7½×3½ ×·4	8 ×3½ ×·35 7½×3½ ×·44	8 ×3½ ×·4 8 ×3½ ×·4	9 ×3½ ×·38 8½×3½ ×·42	9 ×3½ ×·38 8½×3½ ×·44	9 ×3½ ×·38 9 ×3½ ×·44
14	8 ×3 ×·35 7½×3 ×·4	8 ×3½ ×·35 8 ×3½ ×·4	8 ×3½ ×·42 8 ×3½ ×·44	9 ×3½ ×·38 8½×3½ ×·42	9 ×3½ ×·38 8½×3½ ×·44	9 ×3½ ×·38 9 ×3½ ×·44	9 ×3½ ×·42 9 ×3½ ×·44
16	8 ×3½ ×·36 8 ×3½ ×·4	8 ×3½ ×·4 8 ×3½ ×·42	9 ×3½ ×·38 8½×3½ ×·42	9 ×3½ ×·38 8½×3½ ×·44	9 ×3½ ×·38 9 ×3½ ×·44	9 ×3½ ×·42 9 ×3½ ×·46	9 ×3½ ×·46 9 ×3½ ×·5
18	8 ×3½ ×·42 8 ×3½ ×·42	9 ×3½ ×·38 8½×3½ ×·42	9 ×3½ ×·38 8½×3½ ×·44	9 ×3½ ×·38 9 ×3½ ×·44	9 ×3½ ×·42 9 ×3½ ×·48	10 ×3½ ×·4 9 ×3½ ×·5	10 ×3½ ×·4 9½×3½ ×·46
20	9 ×3½ ×·38 8½×3½ ×·42	9 ×3½ ×·38 8½×3½ ×·44	9 ×3½ ×·38 9 ×3½ ×·42	9 ×3½ ×·42 9 ×3½ ×·46	10 ×3½ ×·4 9½×3½ ×·46	10 ×3½ ×·4 9½×3½ ×·46	10 ×3½ ×·4 10 ×3½ ×·46
22	9 ×3½ ×·38 8½×3½ ×·46	9 ×3½ ×·38 9 ×3½ ×·42	9 ×3½ ×·44 9 ×3½ ×·46	10 ×3½ ×·4 9 ×3½ ×·5	10 ×3½ ×·4 9½×3½ ×·46	10 ×3½ ×·4 10 ×3½ ×·46	10 ×3½ ×·42 10 ×3½ ×·48
24	... ...	9× 3½ ×·44 9 ×3½ ×·48	10 ×3½ ×·4 9½×3½ ×·46	10 ×3½ ×·4 9½×3½ ×·46	10 ×3½ ×·4 10 ×3½ ×·46	10 ×3½ ×·41 10 ×3½ ×·48	11 ×3½ ×·42 10½×3½ ×·46
26	... ...	... ...	10 ×3½ ×·4 9½×3½ ×·48	10 ×3½ ×·4 10 ×3½ ×·46	10 ×3½ ×·44 10 ×3½ ×·5	11 ×3½ ×·42 10½×3½ ×·46	11 ×3½ ×·42 10½×3½ ×·5
28	... ...	... ...	... ...	10 ×3½ ×·46 10 ×3½ ×·5	11 ×3½ ×·42 10½×3½ ×·46	11 ×3½ ×·42 10½×3½ ×·52	11 ×3½ ×·44 11 ×3½ ×·48
30	... ...	... ...	... ...	... ...	11 ×3½ ×·42 10½×3½ ×·52	11 ×3½ ×·42 11 ×3½ ×·48	11 ×3½ ×·46 11 ×3½ ×·5

一、M及Kカ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、外板ニ取附クル縦邊ノ幅カ第二十四章K表ニ掲クル固著ニ要スルモノヨリモ大ナルトキハ該幅ヲ減スルコトヲ得

三、「イタリツク」ニテ示シタル寸法ハ1924年英國標準型トス

第七號表　其ノ四

球山形肋骨

寸法ハ吋トス

K	M 30	33	36	39	42	46	50
0	8 ×3 ×·35 8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·4 8 ×3 ×·4	9 ×3 ×·36 8½×3 ×·42	9 ×3 ×·36 9 ×3 ×·44	9 ×3½×·38 9 ×3½×·44	9 ×3½×·42 9½×3½×·46	10 ×3½×·4 9½×3½×·46
1	8 ×3 ×·36 8 ×3 ×·4	8 ×3 ×·42 8 ×3 ×·44	9 ×3 ×·36 8½×3 ×·44	9 ×3 ×·36 9 ×3 ×·44	9 ×3½×·38 9 ×3½×·44	10 ×3½×·4 9½×3½×·46	
2	8 ×3 ×·38 8 ×3 ×·42	8 ×3 ×·46 8½×3 ×·42	9 ×3 ×·36 8½×3 ×·46	9 ×3 ×·36 9 ×3 ×·44	9 ×3½×·4 9 ×3½×·46	10 ×3½×·4 9½×3½×·46	10 ×3½×·4 9½×3½×·5
3	8 ×3 ×·4 8 ×3 ×·44	9 ×3 ×·36 8½×3 ×·42	9 ×3 ×·36 8½×3 ×·46	9 ×3 ×·38 9 ×3 ×·46	9 ×3½×·42 9 ×3½×·48	10 ×3½×·4 9½×3½×·46	
4	8 ×3 ×·44 8 ×3 ×·46	9 ×3 ×·36 8½×3 ×·46	9 ×3 ×·36 9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·4 9 ×3 ×·48	9 ×3½×·44 9 ×3½×·5	10 ×3½×·4 9½×3½×·48	10 ×3½×·4 10 ×3½×·46
5	8 ×3 ×·46 8 ×3 ×·46	9 ×3 ×·36 8½×3 ×·46	9 ×3 ×·38 9 ×3 ×·44	9 ×3 ×·42 9 ×3 ×·48	10 ×3½×·4 9½×3½×·46	10 ×3½×·4 9½×3½×·5	
6	9 ×3 ×·36 8½×3 ×·42	9 ×3 ×·36 8½×3 ×·48	9 ×3 ×·4 9 ×3 ×·46	9 ×3½×·44 9 ×3½×·5	10 ×3½×·4 9½×3½×·46	10 ×3½×·4 10 ×3½×·46	10 ×3½×·42 10 ×3½×·5
8	9 ×3 ×·36 8½×3 ×·46	9 ×3½×·38 9 ×3½×·44	9 ×3½×·42 9 ×3½×·5	10 ×3½×·4 9½×3½×·46	10 ×3½×·4 9½×3½×·5	10 ×3½×·4 10 ×3½×·48	11 ×3½×·42 10½×3½×·46
10	9 ×3½×·38 9 ×3½×·44	9 ×3½×·42 9 ×3½×·46	10 ×3½×·4 9½×3½×·46	10 ×3½×·4 9½×3½×·48	10 ×3½×·4 10 ×3½×·46	10 ×3½×·46 10½×3½×·46	11 ×3½×·42 10½×3½×·5
12	9 ×3½×·42 9 ×3½×·46	10 ×3½×·4 9½×3½×·46	10 ×3½×·4 9½×3½×·48	10 ×3½×·4 10 ×3½×·46	10 ×3½×·44 10 ×3½×·5	11 ×3½×·42 10½×3½×·48	11 ×3½×·42 11 ×3½×·48
14	9 ×3½×·46 9 ×3½×·5	10 ×3½×·4 9½×3½×·48	10 ×3½×·4 10 ×3½×·46	10 ×3½×·42 10 ×3½×·5	11 ×3½×·42 10½×3½×·46	11 ×3½×·42 10½×3½×·52	11 ×3½×·42 11 ×3½×·5
16	10 ×3½×·4 9½×3½×·46	10 ×3½×·4 10 ×3½×·46	10 ×3½×·42 10 ×3½×·48	11 ×3½×·42 10½×3½×·46	11 ×3½×·42 10½×3½×·5	11 ×3½×·42 11 ×3½×·48	11 ×3½×·46 11½×3½×·48
18	10 ×3½×·4 10 ×3½×·46	10 ×3½×·42 10 ×3½×·48	11 ×3½×·42 10½×3½×·46	11 ×3½×·42 10½×3½×·5	11 ×3½×·42 11 ×3½×·48	11 ×3½×·46 11 ×3½×·52	12 ×3½×·42 11½×3½×·5
20	10 ×3½×·42 10 ×3½×·48	11 ×3½×·42 10½×3½×·46	11 ×3½×·42 10½×3½×·5	11 ×3½×·42 11 ×3½×·48	11 ×3½×·46 11 ×3½×·5	12 ×3½×·42 11½×3½×·48	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5
22	11 ×3½×·42 10½×3½×·46	11 ×3½×·42 10½×3½×·5	11 ×3½×·42 11 ×3½×·48	11 ×3½×·46 11 ×3½×·5	12 ×3½×·42 11½×3½×·48	12 ×3½×·42 11½×3½×·54	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5
24	11 ×3½×·42 10½×3½×·5	11 ×3½×·42 11 ×3½×·48	11 ×3½×·46 11 ×3½×·5	12 ×3½×·42 11½×3½×·48	12 ×3½×·42 11½×3½×·52	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5	12 ×3½×·44 12 ×3½×·52
26	11 ×3½×·42 11 ×3½×·48	11 ×3½×·46 11 ×3½×·5	12 ×3½×·42 11½×3½×·48	12 ×3½×·42 11½×3½×·52	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5	12 ×3½×·44 12 ×3½×·52	12 ×3½×·48 12 ×3½×·56
28	11 ×3½×·46 11 ×3½×·5	12 ×3½×·42 11½×3½×·48	12 ×3½×·42 11½×3½×·52	12 ×3½×·44 12 ×3½×·5	12 ×3½×·44 12 ×3½×·5	12 ×3½×·48 12 ×3½×·56	12 ×3½×·54
30	12 ×3½×·42 11½×3½×·48	12 ×3½×·42 11½×3½×·52	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5	12 ×3½×·46 12 ×3½×·52	12 ×3½×·48 12 ×3½×·56	12 ×3½×·52	12 ×3½×·56

一、M及Kカ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、外板ニ取附クル縦邊ノ幅カ第二十四章K表ニ掲クル固著ニ要スルモノヨリモ大ナルトキハ該幅ヲ減スルコトヲ得

三、「イタリツク」ニテ示シタル寸法ハ1924年英國標準型トス

第七號表　其ノ五

球山形肋骨

寸法ハ吋トス

K	M 55	60	65	70	75	80	85	90
0	10 ×3½×·4 10 ×3½×·46	11 ×3½×·42 10½×3½×·46	11 ×3½×·42 11 ×3½×·48	11 ×3½×·42 11 ×3½×·48	11 ×3½×·46 11½×3½×·48	12 ×3½×·42 11½×3½×·54	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5	12 ×3½×·44 12 ×3½×·54
2	10 ×3½×·42 10 ×3½×·5	11 ×3½×·42 10½×3½×·5	11 ×3½×·42 11 ×3½×·48	11 ×3½×·46 11½×3½×·48	12 ×3½×·42 11½×3½×·52	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5	12 ×3½×·42 12 ×3½×·52	12 ×3½×·48
4	11 ×3½×·42 10½×3½×·46	11 ×3½×·42 10½×3½×·52	11 ×3½×·42 11 ×3½×·5	12 ×3½×·42 11½×3½×·5	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5	12 ×3½×·46 12 ×3½×·56	12 ×3½×·52
6	11 ×3½×·42 10½×3½×·5	11 ×3½×·42 11 ×3½×·48	12 ×3½×·42 11½×3½×·48	12 ×3½×·42 11½×3½×·54	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5	12 ×3½×·44 12 ×3½×·54	12 ×3½×·5	12 ×3½×·54
8	11 ×3½×·42 11 ×3½×·48	11 ×3½×·44 11 ×3½×·5	12 ×3½×·42 11½×3½×·5	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5	12 ×3½×·44 12 ×3½×·52	12 ×3½×·48 12 ×3½×·58	12 ×3½×·54	12 ×3½×·58
10	11 ×3½×·42 11 ×3½×·48	12 ×3½×·42 11½×3½×·48	12 ×3½×·42 11½×3½×·54	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5	12 ×3½×·48 12 ×3½×·56	12 ×3½×·52	12 ×3½×·56	13½×4 ×·46
12	11 ×3½×·46 11 ×3½×·52	12 ×3½×·42 11½×3½×·52	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5	12 ×3½×·44 12 ×3½×·54	12 ×3½×·5	12 ×3½×·56	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46
14	12 ×3½×·42 11½×3½×·5	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5	12 ×3½×·44 12 ×3½×·52	12 ×3½×·48 12 ×3½×·58	12 ×3½×·54	12 ×3½×·58	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46
16	12 ×3½×·42 11½×3½×·54	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5	12 ×3½×·48 12 ×3½×·58	12 ×3½×·52	12 ×3½×·58	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46
18	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5	12 ×3½×·44 12 ×3½×·52	12 ×3½×·5	12 ×3½×·56	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46
20	12 ×3½×·42 12 ×3½×·5	12 ×3½×·48 12 ×3½×·56	12 ×3½×·54	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·48
22	12 ×3½×·48 12 ×3½×·54	12 ×3½×·52	12 ×3½×·58	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·48	13½×4 ×·52
24	12 ×3½×·5	12 ×3½×·56	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·52	13½×4 ×·56
26	12 ×3½×·54	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·5	13½×4 ×·56	13½×4 ×·6
28	12 ×3½×·58	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·48	13½×4 ×·54	13½×4 ×·6	
30	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·46	13½×4 ×·54	13½×4 ×·58		

一、M及Kカ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、外板ニ取附クル縦邊ノ幅カ第二十四章K表ニ掲クル固著ニ要スルモノヨリモ大ナルトキハ該幅ヲ減スルコトヲ得

三、「イタリツク」ニテ示シタル寸法ハ1924年英國標準型トス

第七號表　其ノ六

溝形肋骨

寸法ハ吋トス

K	M 14	16	18	20	22·5	25
0	… …	… …	… …	6×3 ×·28·38 6×3 ×·32·44	7×3 ×·3 ·42 6×3 ×·34·44	7×3 ×·3 ·42 6×3 ×·42·48
2	… …	… …	6×3 ×·28·38	6×3 ×·38·38 6×3 ×·32·44	7×3 ×·3 ·42 6×3 ×·42·48	6×3½×·28·48 6×3½×·38·48
4	… …	6×3 ×·28·38	6×3 ×·26·38	7×3 ×·3 ·42 6×3 ×·38·48	6×3½×·28·48 6×3½×·38 48·	6×3½×·38·48 6×3½×·48·48
6	6×3 ×·28·38	6×3 ×·32·38	7×3 ×·3 ·42	7×3 ×·3 ·42 6×3 ×·48·48	6×3½×·38·48 6×3½×·46·48	7×3½×·3 ·5 7×3½×·38·5
8	6×3 ×·3 ·38	7×3 ×·3 ·42	6×3½×·28·48 6×3½×·38·48	6×3½×·34·48 6×3½×·4 ·48	7×3½×·3 ·5 7×3½×·38·5	7×3½×·3 ·5 7×3½×·38·5
10	7×3 ×·3 ·42	6×3½×·26 ·38	6×3½×·34·48 6×3½×·42·48	7×3½×·3 ·5 7×3½×·38·5	7×3½×·3 ·5 7×3½×·38·5	7×3½×·38·5 7×3½×·44·5
12	6×3½×·3 ·48	6×3½×·34·48 6×3½×·40·48	7×3½×·3 ·5 7×3½×·38·5	7×3½×·3 ·5 7×3½×·38·5	7×3½×·36·5 7×3½×·42·5	8×3½×·32·52 8×3½×·38·52
14	6×3½×·36·48 6×3½×·38·48	7×3½×·3 ·5 7×3½×·38·5	7×3½×·3 ·5 7×3½×·38·5	7×3½×·36·5 7×3½×·4 ·5	8×3½×·32·52 8×3½×·38·52	8×3½×·32·52 8×3½×·38·52
16	7×3½×·3 ·5 6×3½×·48·48	7×3½×·3 ·5 7×3½×·38·5	7×3½×·36·5 7×3½×·4 ·5	8×3½×·32·52 7×3½×·5 ·5	8×3½×·32·52 8×3½×·38·52	8×3½×·4 ·52 8×3½×·42·52
18	7×3½×·32·5 7×3½×·38·5	7×3½×·38·5 7×3½×·42·5	8×3½×·32·52 8×3½×·38·52	8×3½×·32·52 8×3½×·38·52	8×3½×·4 ·52 8×3½×·42·52	9×3½×·36·54 8×4 ×·4 ·55
20	7×3½×·4 ·5 7×3½×·42·5	8×3½×·32·52 7×3½×·5 ·5	8×3½×·32·52 8×3½×·38·52	8×3½×·4 ·52 8×3½×·4 ·52	9×3½×·36·54 8×4 ×·4 ·55	9×3½×·36·54 8×4 ×·4 ·55
22	8×3½×·32·52 8×3½×·38·52	8×3½×·34·52 8×3½×·38·52	8×3½×·42·52 8×3½×·42·52	9×3½×·36·54 8×4 ×·4 ·55	9×3½×·36·54 8×4 ×·4 ·55	9×3½×·44·54 8×4 ×·52·55
24	8×3½×·34·52 8×3½×·38·52	8×3½×·44·52 8×3½×·44·52	9×3½×·36·54 8×4 ×·4 ·55	9×3½×·36·54 8×4 ×·4 ·55	9×3½×·44·54 8×4 ×·52·55	10×3½×·36·56 9×4 ×·42·58
26	9×3½×·36·54 8×3½×·42·52	9×3½×·36·54 8×4 ×·4 ·55	9×3½×·38·54 8×4 ×·44·55	9×3½×·44·54 8×4 ×·52·55	10×3½×·36·56 9×4 ×·42·58	10×3½×·38·56 9×4 ×·42·58
28	… … … …	9×3½×·4 ·54 8×4 ×·46·55	10×3½×·36·56 8×4 ×·54·55	10×3½×·36·56 9×4 ×·42·58	10×3½×·4 ·56 9×4 ×·42·58	10×3½×·46·56 9×4 ×·5 ·58
30	… … … …	… … … …	10×3½×·36·56 9×4 ×·42·58	10×3½×·4 ·56 9×4 ×·42·58	12×3½×·36·5 9×4 ×·5 ·58	12×3½×·36·5 10×4 ×·42·58

一、M及Kカ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ
二、本表ニ掲クル厚ノ中小ナルモノハ「ウエツブ」ノ厚、大ナルモノハ邊ノ厚トス
三、「イタリツク」ニテ示シタル寸法ハ1924年英國標準型トス

第七號表　其ノ七

溝形肋骨

寸法ハ吋トス

K	M 27·5	30	33	36	39
0	7×3 ×·32·42 7×3 ×·38·48	8×3 ×·32·44 7×3 ×·38·48	8×3 ×·32·44 8×3 ×·38·5	8×3 ×·4 ·44 8×3 ×·38·5	9×3 ×·36·44 9×3 ×·38·44
2	7×3½×·3 ·5 7×3½×·38·5	7×3½×·3 ·5 7×3½×·38·5	7×3½×·34·5 8×3½×·38·52	8×3½×·32·52 8×3½×·38·52	9×3 ×·36·44 8×3½×·38·52
4	7×3½×·3 ·5 7×3½×·38·5	7×3½×·3 ·5 7×3½×·38·5	8×3½×·32·52 8×3½×·38·52	8×3½×·32·52 8×3½×·38·52	9×3½×·36·54 9×3½×·38·5
6	7×3½×·3 ·5 7×3½×·38·5	7×3½×·4 5· 7×3½×·48·5	8×3½×·32·52 8×3½×·38·52	8×3½×·34·52 8×3½×·4 ·52	9×3½×·36·54 9×3½×·38·5
8	7×3½×·4 ·5 7×3½×·48·5	8×3½×·32·52 8×3½×·38·52	8×3½×·34·52 8×3½×·38·52	8×3½×·42·52 8×3½×·48·52	9×3½×·36·54 9×3½×·38·5
10	8×3½×·32·52 ·8×3½×·38·52	8×3½×·32·52 8×3½×·38·52	8×3½×·42·52 8×3½×·46·52	9×3½×·36·54 8×4 ×·4 ·55	9×3½×·36·54 8×4 ×·48·55
12	8×3½×·32·52 8×3½×·38·52	8×3½×·4 ·52 8×3½×·44·52	9×3½×·36·54 8×4 ×·4 ·55	9×3½×·36·54 8×4 ×·46·55	9×3½×·44·54 8×4 ×·55·55
14	8×5½×·4 ·52 8×3½×·42·52	9×3½×·36·54 8×4 ×·4 ·55	9×3½×·36·54 8×4 ×·44·55	9×3½×·44·54 8×4 ×·55·55	10×3½×·36·56 9×4 ×·42·58
16	9×3½×·36·54 8×3½×·5 ·52	9×3½×·36·54 8×4 ×·4 ·55	9×3½×·42·54 8×4 ×·52·55	10×3½×·36·56 9×4 ×·42·58	10×3½×·38·56 9×4 ×·42·58
18	9×3½×·36·54 8×4 ×·4 ·55	9×3½×·42·54 8×4 ×·52·55	10×3½×·36·56 9×4 ×·42·58	10×3½×·36·56 9×4 ×·42·58	10×3½×·44·56 9×4 ×·5 ·58
20	9×3½×·42·54 8×4 ×·52·55	10×3½×·36·56 9×4 ×·42·58	10×3½×·36·56 9×4 ×·42·58	10×3½×·44·56 9×4 ×·5 ·58	12×3½×·36·5 10×4 ×·42·58
22	10×3½×·36·56 9×4 ×·42·58	10×3½×·36·56 9×4 ×·42·58	10×3½×·44·56 9×4 ×·5 ·58	12×3½×·36·5 10×4 ×·42·58	12×3½×·36·5 10×4 ×·44·58
24	10×3½×·38·56 9×4 ×·42·58	10×3½×·44·56 9×4 ×·48·58	12×3½×·36·5 10×4 ×·42·58	12×3½×·36·5 10×4 ×·42·58	12×3½×·42·5 10×4 ×·5 ·58
26	10×3½×·46·56 9×4 ×·5 ·58	12×3½×·36·5 10×4 ×·42·58	12×3½×·36·5 10×4 ×·42·58	12×3½×·42·5 10×4 ×·5 ·58	12×3½×·4 ·6 10×4 ×·58·58
28	12×3½×·36·5 10×4 ×·42·58	12×3½×·36·5 10×4 ×·42·58	12×3½×·42·5 10×4 ×·5 ·58	12×3½×·4 ·6 10×4 ×·58·58	12×3½×·42·6 11×4 ×·46·6
30	12×3½×·38·5 10×4 ×·44·58	12×3½×·42·5 10×4 ×·5 58	12×3½×·4 ·6 10×4 ×·58·58	12×3½×·44·6 11×4 ×·46·6	12×3½×·5 ·6 11×4 ×·48·6

一、M及Kカ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ
二、本表ニ掲クル厚ノ中小ナルモノハ「ウエツブ」ノ厚、大ナルモノハ邊ノ厚トス
三、「イタリツク」ニテ示シタル寸法ハ1924年英國標準型トス

第七號表 其ノ八

溝形肋骨

寸法ハ吋トス

K	M 42	46	50	55	60
0	*9 × 3 × ·4 ·44* 9 × 3 × ·42 ·44	*8 × 3½ × ·42 ·52* 9 × 3½ × ·38 ·5	*9 × 3½ × ·36 ·54* 9 × 3½ × ·38 ·5	*9 × 3½ × ·44 ·54* 9 × 3½ × ·48 ·55	*10 × 3½ × ·36 ·56* 10 × 3½ × ·42 ·5
2	*9 × 3½ × ·36 ·54* 9 × 3½ × ·38 ·5	*9 × 3½ × ·36 ·54* 9 × 3½ × ·38 ·5	*9 × 3½ × ·38 ·54* 9 × 3½ × ·4 ·55	*10 × 3½ × ·36 ·56* 10 × 3½ × ·38 ·5	*10 × 3½ × ·4 ·56* 10 × 3½ × ·42 ·58
4	*9 × 3½ × ·36 ·54* 9 × 3½ × ·38 ·5	*9 × 3½ × ·36 ·54* 9 × 3½ × ·42 ·5	*9 × 3½ × ·44 ·54* 9 × 3½ × ·48 ·55	*10 × 3½ × ·36 ·56* 10 × 3½ × ·42 ·58	*10 × 3½ × ·46 ·56* 10 × 3½ × ·48 ·58
6	*9 × 3½ × ·36 ·54* 9 × 3½ × ·38 ·5	*9 × 3½ × ·4 ·54* 9 × 3½ × ·44 ·55	*10 × 3½ × ·36 ·56* 9 × 4 × ·42 ·58	*10 × 3½ × ·42 ·56* 9 × 4 × ·5 ·58	*12 × 3½ × ·36 ·5* 10 × 4 × ·42 ·58
8	*9 × 3½ × ·38 ·54* 9 × 3½ × ·4 ·55	*10 × 3½ × ·36 ·56* 9 × 4 × ·42 ·58	*10 × 3½ × ·36 ·56* 9 × 4 × ·44 ·58	*12 × 3½ × ·36 ·5* 10 × 4 × ·42 ·58	*12 × 3½ × ·36 ·5* 10 × 4 × ·46 ·58
10	*9 × 3½ × ·44 ·54* 8 × 4 × ·55 ·55	*10 × 3½ × ·36 ·56* 9 × 4 × ·42 ·58	*10 × 3½ × ·42 ·56* 9 × 4 × ·5 ·58	*12 × 3½ × ·36 ·5* 10 × 4 × ·42 ·58	*12 × 3½ × ·4 ·5* 10 × 4 × ·52 ·58
12	*10 × 3½ × ·36 ·56* 9 × 4 × ·42 ·58	*10 × 3½ × ·4 ·56* 9 × 4 × ·48 ·58	*12 × 3½ × ·36 ·5* 10 × 4 × ·42 ·58	*12 × 3½ × ·36 ·5* 10 × 4 × ·48 ·58	*12 × 3½ × ·44 ·5* 10 × 4 × ·58 ·58
14	*10 × 3½ × ·38 ·56* 9 × 4 × ·44 ·58	*10 × 3½ × ·46 ·56* 9 × 4 × ·54 ·58	*12 × 3½ × ·36 ·5* 10 × 4 × ·42 ·58	*12 × 3½ × ·42 ·5* 10 × 4 × ·54 ·58	*12 × 3½ × ·4 ·6* 11 × 4 × ·46 ·6
16	*10 × 3½ × ·44 ·56* 9 × 4 × ·52 ·58	*12 × 3½ × ·36 ·5* 10 × 4 × ·42 ·58	*12 × 3½ × ·38 ·5* 10 × 4 × ·5 ·58	*12 × 3½ × ·4 ·6* 11 × 4 × ·46 ·6	*12 × 3½ × ·44 ·6* 11 × 4 × ·48 ·6
18	*12 × 3½ × ·36 ·5* 10 × 4 × ·42 ·58	*12 × 3½ × ·36 ·5* 10 × 4 × ·46 ·58	*12 × 3½ × ·44 ·5* 10 × 4 × ·56 ·58	*12 × 3½ × ·42 ·6* 11 × 4 × ·46 ·6	*12 × 3½ × ·5 ·6* 11 × 4 × ·54 ·6
20	*12 × 3½ × ·36 ·5* 10 × 4 × ·44 ·58	*12 × 3½ × ·42 ·5* 10 × 4 × ·54 ·58	*12 × 3½ × ·4 ·6* 11 × 4 × ·46 ·6	*12 × 3½ × ·48 ·6* 11 × 4 × ·5 ·6	*12 × 4 × ·42 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62
22	*12 × 3½ × ·4 ·5* 10 × 4 × ·52 ·58	*12 × 3½ × ·4 ·6* 11 × 4 × ·46 ·6	*12 × 3½ × ·44 ·6* 11 × 4 × ·46 ·6	*12 × 4 × ·4 ·6* 11 × 4 × ·56 ·6	*12 × 4 × ·48 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62
24	*12 × 3½ × ·46 ·5* 10 × 4 × ·58 ·58	*12 × 3½ × ·42 ·6* 11 × 4 × ·46 ·6	*12 × 3½ × ·5 ·6* 11 × 4 × ·52 ·6	*12 × 4 × ·46 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·54 ·6* 12 × 4 × ·5 ·62
26	*12 × 3½ × ·42 ·6* 11 × 4 × ·46 ·6	*12 × 3½ × ·5 ·6* 11 × 4 × ·5 ·6	*12 × 4 × ·44 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·52 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·6 ·6* 12 × 4 × ·56 ·62
28	*12 × 3½ × ·48 ·6* 11 × 4 × ·48 ·5	*12 × 4 × ·42 ·6* 11 × 4 × ·58 ·6	*12 × 4 × ·5 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·58 ·6* 12 × 4 × ·54 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·48 ·62
30	*12 × 4 × ·42 ·6* 11 × 4 × ·56 ·6	*12 × 4 × ·48 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·56 ·6* 12 × 4 × ·5 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·52 ·62

一、 M 及 K カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ
二、 本表ニ掲クル厚ノ中小ナルモノハ「ウエツブ」ノ厚、大ナルモノハ邊ノ厚トス
三、「イタリツク」ニテ示シタル寸法ハ1924年英國標準型トス

第七號表 其ノ九

溝形肋骨

寸法ハ吋トス

K	M 65	70	75	80	85
0	*10 × 3½ × ·44 ·56* 10 × 3½ × ·46 ·58	*12 × 3½ × ·36 ·5* 11 × 3½ × ·42 ·58	*12 × 3½ × ·38 ·5* 12 × 3½ × ·4 ·5	*12 × 3½ × ·46 ·5* 12 × 3½ × ·46 ·5	*12 × 3½ × ·42 ·6* 12 × 3½ × ·46 ·6
2	*12 × 3½ × ·36 ·5* 10 × 3½ × ·52 ·58	*12 × 3½ × ·36 ·5* 11 × 3½ × ·42 ·58	*12 × 3½ × ·44 ·5* 12 × 3½ × ·44 ·5	*12 × 3½ × ·4 ·6* 11 × 4 × ·46 ·6	*12 × 3½ × ·46 ·6* 11 × 4 × ·54 ·6
4	*12 × 3½ × ·36 ·5* 10 × 4 × ·42 ·58	*12 × 3½ × ·4 ·5* 11 × 3½ × ·48 ·58	*12 × 3½ × ·4 ·6* 11 × 4 × ·46 ·6	*12 × 3½ × ·44 ·6* 11 × 4 × ·5 ·6	*12 × 3½ × ·52 ·6* 11 × 4 × ·6 ·6
6	*12 × 3½ × ·38 ·5* 10 × 4 × ·5 ·58	*12 × 3½ × ·46 ·5* 11 × 3½ × ·54 ·58	*12 × 3½ × ·42 ·6* 11 × 4 × ·46 ·6	*12 × 3½ × ·5 ·6* 11 × 4 × ·56 ·6	*12 × 4 × ·44 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62
8	*12 × 3½ × ·42 ·5* 10 × 4 × ·56 ·58	*12 × 3½ × ·4 ·6* 11 × 4 × ·46 ·60	*12 × 3½ × ·48 ·6* 11 × 4 × ·52 ·6	*12 × 4 × ·4 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·48 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62
10	*12 × 3½ × ·4 ·6* 11 × 4 × ·46 ·6	*12 × 3½ × ·44 ·6* 11 × 4 × ·48 ·6	*12 × 4 × ·4 ·6* 11 × 4 × ·58 ·6	*12 × 4 × ·46 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·54 ·6* 12 × 4 × ·52 ·62
12	*12 × 3½ × ·42 ·6* 11 × 4 × ·46 ·6	*12 × 3½ × ·5 ·6* 11 × 4 × ·54 ·6	*12 × 4 × ·44 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·52 ·6* 12 × 4 × ·5 ·62	*12 × 4 × ·6 ·6* 12 × 4 × ·6 ·62
14	*12 × 3½ × ·48 ·6* 11 × 4 × ·52 ·6	*12 × 4 × ·42 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·5 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·58 ·6* 12 × 4 × ·56 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·48 ·62
16	*12 × 4 × ·4 ·6* 11 × 4 × ·58 ·6	*12 × 4 × ·48 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·56 ·6* 12 × 4 × ·54 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·52 ·62
18	*12 × 4 × ·46 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·56 ·6* 12 × 4 × ·52 ·62	*12 × 4 × ·6 ·6* 12 × 4 × ·6 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·5 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·58 ·62
20	*12 × 4 × ·52 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·6 ·6* 12 × 4 × ·56 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·56 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·48 ·62
22	*12 × 4 × ·58 ·6* 12 × 4 × ·54 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·52 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·52 ·62
24	*15 × 4 × ·42 ·62* 12 × 4 × ·6 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·52 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·6 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·44 ·62* 14 × 4 × ·58 ·62
26	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·56 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·56 ·62	*15 × 4 × ·48 ·62* 15 × 4 × ·48 ·62
28	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·54 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·52 ·62	*15 × 4 × ·48 ·62* 15 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·54 ·62* 15 × 4 × ·52 ·62
30	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·6 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·5 ·62	*15 × 4 × ·48 ·62* 14 × 4 × ·6 ·62	*15 × 4 × ·52 ·62* 15 × 4 × ·5 ·62	*15 × 4 × ·58 ·62* 15 × 4 × ·56 ·62

一、 M 及 K カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ
二、 本表ニ掲クル厚ノ中小ナルモノハ「ウエツブ」ノ厚、大ナルモノハ邊ノ厚トス
三、「イタリツク」ニテ示シタル寸法ハ1924年英國標準型トス

第七號表　其ノ十

溝形肋骨

寸法ハ吋トス

K	M 90	95	100	106	112
0	*12 × 3½ × ·48 ·6* 12 × 3½ × ·52 ·6	*12 × 4 × ·44 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·5 ·6* 12 × 4 × ·5 ·62	*12 × 4 × ·58 ·6* 12 × 4 × ·58 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·5 ·62
2	*12 × 4 × ·4 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·48 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·56 ·6* 12 × 4 × ·56 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·54 ·62
4	*12 × 4 × ·46 ·6* 12 × 4 × ·48 ·62	*12 × 4 × ·54 ·6* 12 × 4 × ·52 ·62	*12 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·52 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·6 ·62
6	*12 × 4 × ·52 ·6* 12 × 4 × ·5 ·62	*12 × 4 × ·58 ·6* 12 × 4 × ·58 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·56 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·48 ·62
8	*12 × 4 × ·58 ·6* 12 × 4 × ·56 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·52 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·52 ·62
10	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·5 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·58 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·5 ·62	*15 × 4 × ·44 ·62* 14 × 4 × ·58 ·62
12	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·56 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·56 ·62	*15 × 4 × ·48 ·62* 15 × 4 × ·48 ·62
14	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·54 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·52 ·62	*15 × 4 × ·46 ·62* 15 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·52 ·62* 15 × 4 × ·52 ·62
16	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·6 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·5 ·62	*15 × 4 × ·44 ·62* 14 × 4 × ·58 ·62	*15 × 4 × ·5 ·62* 15 × 4 × ·5 ·62	*15 × 4 × ·56 ·62* 15 × 4 × ·56 ·62
18	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·56 ·62	*15 × 4 × ·48 ·62* 15 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·54 ·62* 15 × 4 × ·54 ·62	*15 × 4 × ·6 ·62* 15 × 4 × ·6 ·62
20	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·54 ·62	*15 × 4 × ·46 ·62* 15 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·52 ·62* 15 × 4 × ·5 ·62	*15 × 4 × ·58 ·62* 15 × 4 × ·58 ·62	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·48 ·65
22	*15 × 4 × ·46 ·62* 15 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·5 ·62* 15 × 4 × ·5 ·62	*15 × 4 × ·56 ·62* 15 × 4 × ·56 ·62	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·48 ·65	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·52 ·65
24	*15 × 4 × ·5 ·62* 15 × 4 × ·5 ·62	*15 × 4 × ·58 ·62* 15 × 4 × ·54 ·62	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·48 ·65	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·5 ·65	*17 × 4 × ·44 ·68* 16 × 4 × ·58 ·65
26	*15 × 4 × ·54 ·62* 15 × 4 × ·54 ·62	*15 × 4 × ·6 ·62* 15 × 4 × ·6 ·62	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·48 ·65	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·56 ·65	*17 × 4 × ·46 ·68* 17 × 4 × ·48 ·68
28	*15 × 4 × ·6 ·62* 15 × 4 × ·6 ·62	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·48 ·65	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·54 ·65	*17 × 4 × ·46 ·68* 16 × 4 × ·62 ·65	*17 × 4 × ·5 ·68* 17 × 4 × ·5 ·68
30	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·48 ·65	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·52 ·65	*17 × 4 × ·44 ·68* 16 × 4 × ·58 ·65	*17 × 4 × ·5 ·68* 17 × 4 × ·48 ·68	*17 × 4 × ·54 ·68* 17 × 4 × ·56 ·68

一、M 及 K カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ掲クル厚ノ中小トルモノハ「ウエツブ」ノ厚、大ナルモノハ邊ノ厚トス

三、「イタリツク」ニテ示シタル寸法ハ1924年英國標準型トス

第七號表　其ノ十一

溝形肋骨

寸法ハ吋トス

K	M. 118	124	130	137	145	155
0	*15 × 4 × ·42 ·62* 13 × 4 × ·58 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·56 ·62	*15 × 4 × ·48 ·62* 15 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·56 ·62* 15 × 4 × ·56 ·62	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·5 ·65
2	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·54 ·62	*15 × 4 × ·46 ·62* 15 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·52 ·62* 15 × 4 × ·52 ·62	*15 × 4 × ·6 ·62* 16 × 4 × ·48 ·65	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·54 ·65
4	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·5 ·62	*15 × 4 × ·44 ·62* 14 × 4 × ·60 ·62	*15 × 4 × ·5 ·62* 15 × 4 × ·5 ·62	*15 × 4 × ·56 ·62* 15 × 4 × ·56 ·62	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·48 ·65	*17 × 4 × ·44 ·68* 16 × 4 × ·58 ·65
6	*15 × 4 × ·42 ·62* 14 × 4 × ·56 ·62	*15 × 4 × ·48 ·62* 15 × 4 × ·48 ·62	*15 × 4 × ·54 ·62* 15 × 4 × ·54 ·62	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·48 ·65	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·52 ·65	*17 × 4 × ·46 ·68* 17 × 4 × ·48 ·68
8	*15 × 4 × ·46 ·62* 14 × 4 × ·6 ·62	*15 × 4 × ·52 ·62* 15 × 4 × ·52 ·62	*15 × 4 × ·58 ·62* 15 × 4 × ·58 ·62	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·48 ·65	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·56 ·65	*17 × 4 × ·5 ·68* 17 × 4 × ·48 ·68
10	*15 × 4 × ·5 ·62* 15 × 4 × ·5 ·62	*15 × 4 × ·56 ·62* 15 × 4 × ·56 ·62	*17 × 4 × ·42 ·62* 16 × 4 × ·48 ·65	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·52 ·65	*17 × 4 × ·46 ·48* 17 × 4 × ·48 ·68	*17 × 4 × ·54 ·68* 17 × 4 × ·54 ·68
12	*15 × 4 × ·54 ·62* 15 × 4 × ·54 ·62	*15 × 4 × ·6 ·62* 15 × 4 × ·6 ·62	*17 × 4 × ·42 ·62* 16 × 4 × ·5 ·65	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·56 ·65	*17 × 4 × ·48 ·68* 17 × 4 × ·48 ·68	*17 × 4 × ·56 ·68* 17 × 4 × ·58 ·68
14	*15 × 4 × ·58 ·62* 15 × 4 × ·58 ·62	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·48 ·65	*17 × 4 × ·42 ·62* 16 × 4 × ·54 ·65	*17 × 4 × ·46 ·68* 17 × 4 × ·48 ·68	*17 × 4 × ·52 ·68* 17 × 4 × ·52 ·68	
16	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·48 ·65	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·52 ·65	*17 × 4 × ·44 ·68* 16 × 4 × ·6 ·65	*17 × 4 × ·5 ·68* 17 × 4 × ·48 ·68	*17 × 4 × ·56 ·68* 17 × 4 × ·58 ·68	
18	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·5 ·65	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·56 ·65	*17 × 4 × ·48 ·68* 17 × 4 × ·48 ·68	*17 × 4 × ·54 ·68* 17 × 4 × ·54 ·68	17 × 4 × ·6 ·68	
20	*17 × 4 × ·42 ·68* 16 × 4 × ·56 ·65	*17 × 4 × ·46 ·68* 17 × 4 × ·48 ·68	*17 × 4 × ·5 ·68* 17 × 4 × ·52 ·68	*17 × 4 × ·56 ·68* 17 × 4 × ·6 ·68		
22	*17 × 4 × ·44 ·68* 16 × 4 × ·6 ·65	*17 × 4 × ·5 ·68* 17 × 4 × ·5 ·68	*17 × 4 × ·54 ·68* 17 × 4 × ·56 ·68			
24	*17 × 4 × ·48 ·68* 17 × 4 × ·48 ·68	*17 × 4 × ·54 ·68* 17 × 4 × ·54 ·68	*17 × 4 × ·58 ·68* 17 × 4 × ·6 ·68			
26	*17 × 4 × ·52 ·68* 17 × 4 × ·52 ·68	*17 × 4 × ·56 ·68* 17 × 4 × ·6 ·68				
28	*17 × 4 × ·56 ·68* 17 × 4 × ·58 ·68					
30						

一、M 及 K カ本表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ寸法ヲ定ムヘシ

二、本表ニ掲クル厚ノ中小トルモノハ「ウエツブ」ノ厚、大ナルモノハ邊ノ厚トス

三、「イタリツク」ニテ示シタル寸法ハ1924年英國標準型トス